



M-Print® PRO

取扱説明書

バージョン 2025-01

コンテンツ

はじめに	1
M-Print® PROについて	1
本書について	1
表記について	2
定義	2
インストールの注意	2
一般的な操作	3
はじめに	3
プログラムの起動と終了	3
ユーザーインターフェイス	4
サポートされるファイルの種類	5
よく使用される機能	6
要素の編集	6
レイヤーの 編集	28
事前定義されたテキストシーケンス	33
自動番号付け	35
昇順と降順の番号付け	44
色の設定	47
コンテンツの同期	48
注文、注文ウィザード	49
フィルター機能	50
ライセンス版	52
複数挿入	53
改行の挿入	53
Excelの編集	54
多層レベル端末	55
スケール	56
連続ストリップ	64
文書の保護	72
フォントサイズの調整	75
マーカー長の調整	76
文字列の調整	77
フォントサイズを調整する	78
テキストフィールドに入力	80
参照データファイル	81
グループフィールド	84
ページをコピーする	85
ユーザーインターフェイス	87

はじめに.....	87
メニューバー.....	90
「ファイル」メニュー.....	90
「編集」メニュー.....	91
「表示」メニュー.....	94
「挿入」メニュー.....	97
「図形」メニュー.....	100
「書式」メニュー.....	101
「その他」メニュー.....	102
「ウィンドウ」メニュー.....	104
「ヘルプ」メニュー.....	104
Shortcut keys	105
ツールバー	106
標準	106
レイアウト	108
テキストの書式設定.....	109
枠線と塗りつぶし	111
要素	112
ドッキングバー表示.....	114
THM MMP	115
「プロジェクトエクスプローラ」 ウィンドウ.....	116
コンテキストメニュー	117
「プロパティ」 ウィンドウ	119
マーカーのプロパティ	120
プロパティの表示	121
プロパティの調整	122
要素の選択	131
ワークスペース	132
ワークスペースのコンテキストメニュー	132
レイヤー	133
「レイヤー」 ウィンドウ	134
レイヤーのプロパティ	135
「データグリッド」 ウィンドウ.....	136
データグリッドの幅を指定する.....	136
データグリッドのコンテキストメニュー	137
データグリッドの行の高さと列の幅	137
情報ページ	138
一般	138
PrintJet ADVANCED/CONNECTの設定	139
PrintJet MINI settings	140
THM/TwinMarkの設定	141

ファーストステップガイド	143
はじめに	143
ステップ1: プログラムの起動	143
ステップ2: マーカータイプの選択	143
ステップ3: マーカーにキャプションを入れる	144
ステップ4: ファイルの保存	145
ステップ5: マーカータイプを印刷する	146

ステップ6: ファイルを閉じる	146
プロジェクトの管理	147
プロジェクトの構造	147
プロジェクト名の変更	149
プロジェクトへのマーカータイプの追加	150
サブプロジェクトの追加	151
マーカータイプをサブプロジェクトに割り当てる	153
マーカータイプの削除	154
サブプロジェクトの削除	155
プロジェクトを閉じる	156
製品カタログ	157
はじめに	157
「製品カタログ」ウィンドウを開く	158
新しい製品カテゴリーの作成	160
製品の追加	161
製品の削除	162
あるカテゴリーからすべての製品を削除する	162
製品カテゴリーの削除	162
製品の検索	163
製品名の変更	164
テンプレート	165
テンプレートの保存	165
カテゴリーのテンプレートを整理する	166
製品カタログのリセット	169
製品カタログの更新	170
「オプション」ダイアログ	173
はじめに	173
環境	174
一般	174
表示	177
言語設定	178
起動オプション	179
インポート	180
ディレクトリ	182
管理	183
メニュー管理	184
更新	185
色の設定	186
フィールド	187
基本設定	188
セキュリティ	189
置換	191
テキストの置換	191
画像設定	192
ロギング	193

要素のデフォルト設定	193
フォント	194
要素	195
出力デバイス	196
割り当て	196
印刷情報を保存する	196
プロッター	198
一般	198
マルチカード用位置決めフレーム	199
SF 4-6用位置決めフレーム	200
ペン書き	200
PrintJet MINI	201
一般	201
管理	202
PrintJet CONNECT	203
一般	203
管理	206
PJC プリンターグループ	207
PrintJet ADVANCED	208
一般	208
管理	210
PJA プリンターグループ	211
PrintJet PRO	212
一般	212
クリーニング	213
現在の設定	213
THMプリンター	214
一般	214
拡張	215
管理	216
THM プリンターグループ	217
別の印刷	218
サポート	219
一般	219
他のファイルタイプを開く	221
他のファイルタイプを開く	221
コマンドラインの起動	225
はじめに	225
実行可能ファイルの呼び出しパラメータ	225
ファイルを開くか、または印刷する	225
ファイルのインポートまたは印刷	225
コンバーターの呼び出しパラメータ	226
QLSコンバーターのパラメータ	226
TNVコンバーターのパラメータ	226
ファイルのインポート	229

はじめに	229
手動インポート	230
インポートの開始	230
ステップ1: 開始ページ	230
ステップ2: フィルターとインポート方法	231
ステップ3: プロジェクトとバリアントの選択	232
ステップ4/5: ファイル形式とフィールド区切り記号の選択	237
ステップ6: オプション	243
ステップ7: フィールドマッピング	244
ステップ8: 保存と終了	258
自動インポート	259
バッチインポート	261
バッチの作成/追加	262
バッチの変更	262
VKインポート	263
VKインポートフィルター	263
VKインポート先	263
VK割り当て	264
VKフィールドマッピング	270
テンプレートでのVKインポート	271
Excel®高速インポート	272
Excel®高速インポートの準備	272
Excel®高速インポートの実行	276
コンバーター	279
QLSコンバーター	279
TNVコンバーター	280
インポートウィザードの設定	283
インポートファイルの見出しを表示する	284

印刷	285
はじめに	285
印刷メニューの呼び出し	286
マーカータイプへのプリンターの割り当て	289
プリンター補正	290
材料別スリップの補正	292
マーカータイプにプリンターを設定する	294
印刷媒体にプリンターを設定する	295
プリンタオフセットの調整	297
印刷位置の設定	306
印刷ジョブの設定	308
例:	309
高速印刷	311
直接印刷	311
状態モニター	312
状態モニターの設定	313
状態モニターの印刷ジョブ	314
情報	315
プリンターエクスプローラ	316
プリンターの追加	317

プリンターのテスト	321
プリンターのプロパティ	321
切り取りマークの配置	322
サブプロジェクトを印刷する	323
印刷モード	324
プリントモード - 正常	324
プリントモード - プロットモード	324
LPC印刷	325
LPC: オンラインモード	325
LPC: スタンドアロンモード	325
プロッターの操作	327
はじめに	327
プロットモード	327
プロットモードの起動オプション	328
印刷/プロット	329
ペンとインレーの選択	329
マーカータイプの変更	330
印字位置の調整	331
マーカータイプへのプロッターの割り当て	332
プロッターに合わせてマーカータイプを調整する	333
割り当てたプリンターの調整	335
シンボルエクスプローラ/プロッターシンボルエディタ	336
プロッターシンボルの編集/新規作成	337
「校正」ダイアログ	337
マルチカード用位置決めフレーム	338
SF4-6 位置決めフレーム	339
ネットワーク版	341
はじめに	341
Setup	342
フォルダーの共有	347
クライアント側で行われる作業	349
クライアントコンピューターのセットアップ	349
設定をクライアントに送信する	350

はじめに

M-Print® PROについて

このプログラムはラベル類（マルチカード用紙、折り込み、ラベルなど）にキャプションを付け、印刷するために使用します。

印刷できる素材は次のとおりです。

- マルチカード用紙
- しおり
- ページラベル
- ロールラベル（連續ラベル）
- 熱収縮チューブ
- メタリカード
- マルチマーク素材

このプログラムはローカルコンピューターにインストールすることも、ネットワーク版をインストールしてネットワークに接続して使用することもできます（「ネットワーク版」の章の「[Setup](#)」のセクションを参照）。

本書について

本書は、使用されるMicrosoft Windowsオペレーティングシステムの実験経験ある方を対象としています。



Windowsについての基本知識のない方はWindowsのユーザーズマニュアルを参照してください。

表記について

本書では次の表記が使用されます。

- 太字** プログラムの重要な要素を示します。ボタン、メニュー項目、ツールバー、名称などは太字で表記されます。
- 「・」 ウィンドウ名および他の章を参照する場合はカギ括弧で囲みます。
- ・」 下位のメニュー項目が続く場合に、メニュー項目同士をつなぐ記号です（例：「表示」>「ズーム」）。
- この記号で続く手順は、書かれている順番で実行する必要があります。

本書で使用されるアイコン



この情報はM-Print® PROにとって非常に重要であることを示します。



このアイコンは役立つ補足情報であることを示します。

定義

M-Print® PROソフトウェアで使用される用語の特別な定義について、以下に説明します。

マーカー

マーカーは、電気/電子的要素（端子、導体、システム、デバイスなど）の識別や装置の説明書きに使用されます。

マーカータイプ

マーカーには複数の種類（MultiCard DEK 5/3.5など）があります。

インストールの注意



このプログラムをインストールするには、インストール先コンピュータに対する相応の権限が必要です。

一般的な操作

はじめに

この章ではプログラムの起動と終了方法について説明します。

また、プログラムの構造とユーザーインターフェイスのレイアウトの概要についても説明します。

プログラムの起動と終了

プログラムの起動



コンピュータの作業領域にあるアイコンをダブルクリックします。

プログラムの終了

メニューバーからメニュー項目の「ファイル」>「終了」を選択します。

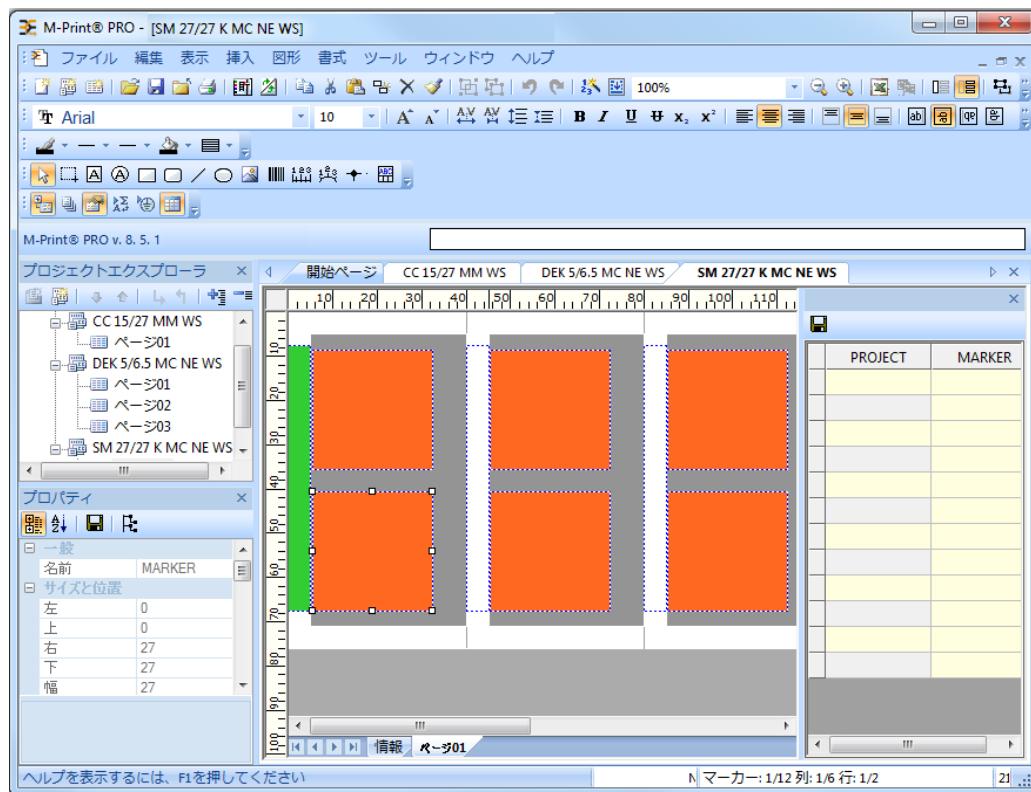
まだプロジェクトが開いている場合は、そのプロジェクトを保存するためのダイアログボックスが表示されます。

ユーザーインターフェイス

ユーザーインターフェイスでマークを編集できます。

インターフェイスはプログラムを起動すると自動的に表示されます。このインターフェイスにはマークの編集に必要なすべての要素が含まれています。

このユーザーインターフェイスは設定に応じて様々な要素で構成されます。



詳細については「[ユーザーインターフェイス](#)」の章を参照してください。

サポートされるファイルの種類

ファイルを開く場合、サポートされるファイルの種類は次のとおりです。

- M-Print® PRO ファイル (*.mpc)
- M-Print® PRO 注文ファイル (*.mpo, *.mpo2)
- M-Print® PRO テンプレート (*.mpt)
- M-Print ドキュメント (*.abp, *.gdc)
- M-Label ドキュメント (*.mld)
- M-Comm ドキュメント (*.tmf)
- RailDesigner エクスポートファイル (*.rde)
- TXX/TXY ファイル (*.txx; *.txy)
- Microsoft® Excel® ワークシート (*.xls)
- XMT ファイル (*.xmt, *.txt)
- M-Print® PRO インポートスクリプト (*.mis) （[「Excel®高速インポート」の章を参照](#)）

よく使用される機能

このセクションではよく使用される機能について、例を使用しながら説明します。

要素の編集

要素はメニュー項目の「挿入」またはツールバーの「要素」を選択して作成します（「ツールバー」の章を参照）。

1つ以上の要素を編集するには、まずその要素を選択する必要があります（「要素の選択」の章を参照）。

「[「プロパティ」ウィンドウ](#)」の章も参照してください。

要素の挿入またはその後のサイズ変更の際には、要素の対称性を保持することも、変更することもできます（「要素の対称性」の章を参照）。

テキストフィールドの追加



新規テキストフィールドの作成

ツールバーのこのアイコンをクリックするか、メニュー項目の「挿入」>「テキストフィールド」を選択します。

テキストを入力する場所にマウスを移動します。



丸い新規テキストフィールドの作成

通常のテキストフィールドと同じ機能を持ちます。メニューから「挿入」>「丸いテキストフィールド」を選択します。

プロパティ「アンカーポイント」を使用して、テキストの開始角度を決めます。



新規グループフィールドの作成

通常のテキストフィールドと同じ機能を持ちます。メニューから「挿入」>「グループフィールド」を選択します。 「[グループフィールド](#)」を参照してください。



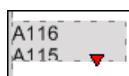
マウスポインターがこのようになら、テキストフィールドを作成できます。

左マウスボタンを押したままにします。左マウスボタンを押したままマウスをドラッグしてテキストフィールドの枠を作成し、マウスボタンから指を離します。編集フィールドが開き、テキストを入力できます。



テキストを入力できるのは入力フィールドだけです。

このマウスポインターが表示されている場合、入力はできません。



テキストの挿入後にテキストフィールドに赤い三角形が表示された場合は、テキストがこのフィールドに収まらないことを示しています。この場合、一部のテキストが表示、印刷されません。その際にはテキストを短くするか、またはプログラムで自動的にフィールドに合わせるようにする必要があります（「[書式](#)」メニューの章の「フォントサイズの調整」を参照）。



テキストの挿入後にテキストフィールドにオレンジ色の三角形が表示された場合は、テキストフィールドの幅が狭すぎため1行のテキストが複数行で表示されることを示しています。次の方法で調整できます。

- マーカー長の調整
「一般的な操作」の章の「[マーカー長の調整](#)」セクションを参照。
- 文字列の調整
「一般的な操作」の章の「[文字列の調整](#)」セクションを参照。

図形の挿入



四角形/正方形の作成

このアイコンをクリックするか、メニューバーから「挿入」>「四角形」を選択します。左マウスボタンを押したままドラッグして四角形を作成します。

プロパティ「丸めたX」および「丸めたY」を設定すると、通常の四角形丸角の丸い四角形になります。



角丸四角形/角丸正方形の作成

このアイコンをクリックするか、メニューから「挿入」>「角丸四角形」を選択します。左マウスボタンを押したままドラッグして、角の丸い四角形を作成します。

角の丸い四角形は、プロパティ「丸めたX」と「丸めたY」を設定することによってのみ、作成できます。これらのプロパティの値を「0」に設定すると、通常の四角形が表示されます。



線を描く

ツールバーのこのアイコンをクリックするか、メニューから「追加」>「線」を選択します。左マウスボタンを押したまま線を描きます。



円/楕円を描く

このアイコンをクリックするか、メニューから「挿入」>「楕円」を選択します。左マウスボタンを押したままドラッグして楕円を作成します。



正確なサイズと位置は「プロパティ」ウィンドウで設定できます（「[\[プロパティ\] ウィンドウ](#)」のセクションを参照）。

画像の挿入

このプログラムは、BMP、EMF、GIF、ICO、JPG、PNG、WMF、およびTIFFの各画像形式をサポートしています。



画像の挿入

このアイコンをクリックするか、メニューから「挿入」>「画像」を選択します。

左マウスボタンを押したままドラッグして枠を作成します。選択フィールドが表示されるので、挿入するファイルを選択し、「開く」ボタンをクリックします。選択した画像が挿入されます。

「プロパティ」ウィンドウで、この画像を元のサイズのまま挿入するか、枠に合わせてサイズ調整するかを選択できます。

画像はフィールドご埋め込まれるわけではありません。フィールドごとにこの画像へのリンクが挿入されます。画像のパスは「プロパティ」ウィンドウに表示されます（「「プロパティ」ウィンドウ」のセクションを参照）。

バーコードの挿入

このプログラムは次の種類のバーコードをサポートしています。

- コード39
- コード128
- インダストリアル2 of 5
- インターリープ2 of 5
- EAN13 (チェックディジット有り/なし)
- EAN8 (チェックディジット有り/なし)
- EAN128
- UPC-A (チェックディジット有り/なし)
- UPC-E (チェックディジット有り/なし)
- QRコード
- データマトリックス
- GS1 DataMatrix
- MicroPDF417



バーコードの挿入

メニュー→からメニュー「挿入」>「バーコード」を選択します。

バーコードを選択するためのドロップダウンメニューが表示されます。

マウスをドラッグして領域を描き、マウスボタンから指を離します。選択したバーコードが挿入されます。

「プロパティ」ウィンドウではコードを数値形式またはアルファベットで入力できます（「「プロパティ」ウィンドウ」のセクションを参照）。



一部のバーコード (EAN8など) では内部チェックディジットが計算されます。これらのチェックディジットは手動で入力することも、バーコード値によりインポートすることもできません。

チェックディジットが転送、入力される場合は、別の種類のバーコードを選択する必要があります（「EAN8チェックディジット付き」など）。



端末装置を有効にする前に、バーコードを検出できるかを必ず確認してください。

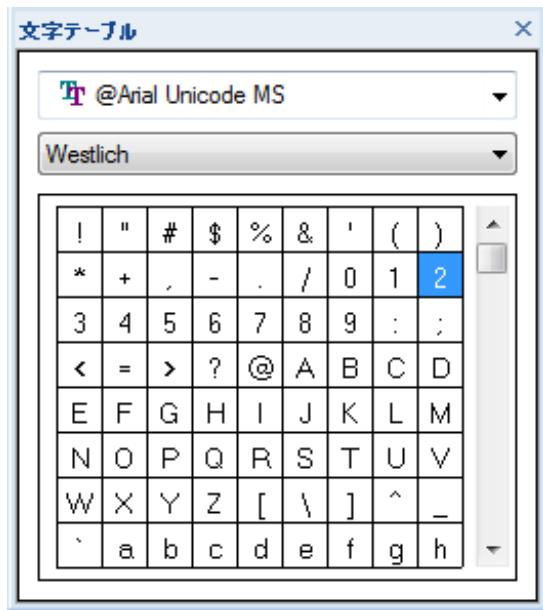


バージョン9.2以降では、更新版のバーコードライブラリが使用できます。旧版のライブラリでバーコードを表示するには、バーコード設定で「バーコードライブラリバージョン」を使用を選択します。要素のデフォルト設定を参照してください。

特殊文字の入力

文字テーブルでフォントを選択すると、そのフォントで使用可能なすべての文字および特殊文字が表示されます。

文字テーブルを開くには、メニューから「表示」>「文字テーブル」>「フォント」を選択します。



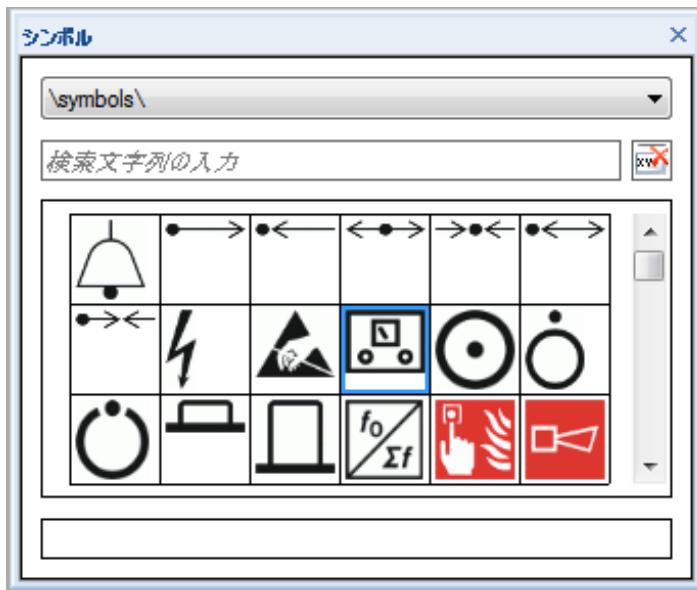
- 上部の選択矢印でフォントを選択し、2番目の矢印で言語を選択します。
- 文字を挿入する場所にカーソルを置きます。
- 挿入する文字をダブルクリックします。選択されたテキストフィールドに文字が挿入されます。

このウィンドウからコンテキストメニューを使用して文字をコピーし、挿入することもできます。

- コピーする文字を選択し、右マウスボタンをクリックして、「文字のコピー」をクリックします。
- 文字を挿入する場所にカーソルを置き（オンラインエディター）、右マウスボタンをクリックしてコンテキストメニューの「挿入」を選択します。

シンボルの挿入

シンボලエクスプローラでシンボルを選択し、挿入できます。
「シンボル」ウィンドウを開くには、メニューバーからメニュー「表示」>「シンボル」を選択します。



シンボルの挿入

- 挿入するシンボルをクリックします。
- シンボルを挿入するフィールドにマウスを置きます。
- 左マウスボタンを押したままドラッグして四角形を作成します。シンボルがそこに挿入されます。
- シンボルのサイズは変更できます。シンボルを1回クリックしてから四角形の角をドラッグして拡大または縮小します。

他の方法

- シンボルを挿入するフィールドを選択します。
- 挿入するシンボルをダブルクリックします。



シンボルの外観は「サイズ」プロパティを使用して調整できます（「プロパティの調整」の章の「動作」のセクションを参照）。

シンボルのディレクトリ

ドロップダウンフィールドにはシンボルのデフォルトのディレクトリが事前に設定されています。このパスを変更するには、「オプション」ダイアログの章のセクション「ディレクトリ」を参照してください。

シンボルのディレクトリの検索 フィルター処理

シンボルファイルを検索したり、フィルター処理するには キーワードを入力します。

次のオプションがあります。

キーワード	結果
	検索フィールドを空のままにすると、選択したディレクトリの内容がすべて表示されます。
Symbol00?	疑問符 (?) は1文字のワイルドカード文字を表します。 この結果、例えば「Symbol001.bmp」と「Symbol002.bmp」ファイルが検出されます。
Symbol*	アスタリスク (*) は任意の数のワイルドカード文字を表します。 この結果、例えば「Symbol010.bmp」と「Symbol020.bmp」ファイルが検出されます。

検索フィールドをリセットするには  をクリックします。

スケールの挿入

スケールはそのままで、または丸めて（角丸）挿入できます。



新規スケールの作成

ツールバーのこのアイコンをクリックするか、メニューから「挿入」>「スケール」または「角丸スケール」を選択します。

マウスをドラッグして領域を描き、マウスボタンから指を離します。

スケールの基本的なデータを設定するためのダイアログボックスが開きます。

- スケールの種類を選択し、値、間隔、グリッドを設定します。
- スケールのグリッドは開始値、終了値、およびグリッドの間隔によって異なります。

例：

開始値が「0」、終了値が「8」、グリッドの間隔が「2」の場合、目盛りは次のようにになります。0、2、4、6、8

例2：

開始値が「1」、終了値が「100」、グリッドの間隔が「20」の場合、目盛りは次のようにになります。1、21、41、61、81

この場合、終了値の100は表示されません。

- 目盛りの間隔（グリッド線の間隔補助グリッド線の間隔）は常に直の範囲に連動します。

例

値の範囲（開始値/終了値）から50で、グリッド線の間隔が10の場合

6つのグリッドが表示されます（0、10、20、30、40、50）。

追加でグリッドの間隔10を選択すると、それぞれのグリッド間に10の補助グリッド線が刻まれます。

設定ダイアログボックス



スケールの種類

グリッドの外観。次の選択肢があります。

線形： 値の範囲のパターンは直線的です。

対数： 値の範囲のパターンは正方形、つまり、対数スケールが表示されます。

カスタマイズ：

値の範囲のパターンは基準点により定義されます。基準点と基準点との間のパターンは線形です（「[基準点](#)」の章を参照）。

開始値

スケールの始まる値

終了値

スケールの終了する値

グリッド線の間隔

グリッド線とグリッド線の間の間隔（値の範囲で測定）

補助グリッド線の間隔

グリッド線とグリッド線の間の間隔（値の範囲で測定）

開始角度（角丸スケールのみ）

角丸スケールが始まる角度（「[角丸スケール](#)」の章も参照）。

終点の角度 (角丸スケールのみ)

角丸スケールが終了する角度（「[角丸スケール](#)」の章も参照）。

間隔

次のグリッド線との目盛りの間隔（開始値からの）

例

開始値が「0」、終了値が「8」、グリッド線の間隔が「2」の場合、目盛りは次のようにになります。0、2、4、6、8

整列 (角丸スケールのみ)

キャプションの表示方法を指定します。次の選択肢があります。

水平： キャプションは水平に表示されます。

接線： キャプションは接線方向（円方向）で表示されます。

どちらの整列方法でもキャプションは180度回転できます。

スケールの長さとスケールの半径

線形スケールの場合は、挿入するスケール要素の長さ。

角丸スケールの場合はスケール要素の内半径。

値は、この要素をマウスでドラッグしたときに事前設定されます。

スケールの高さ

スケールの高さはグリッド線の高さに相当します。

値は、この要素をマウスでドラッグしたときに事前設定されます。

補助グリッド線は、常にグリッド線の高さの半分です。

フォントサイズ

キャプションのフォントサイズです。

値は、この要素をマウスでドラッグしたときに事前設定されます。



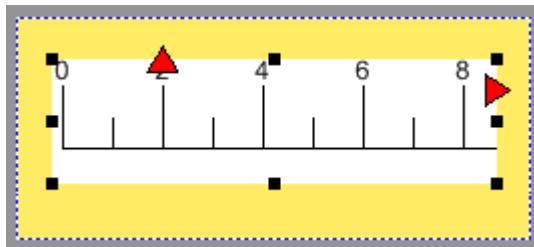
キャプションの正確なサイズと位置は「プロパティ」ウィンドウで設定できます（「[「プロパティ」](#) [「ウィンドウ」](#)」のセクションを参照）。



詳しい情報と例については、「[スケール](#)」の章を参照してください。

表示のヒント

スケールの表示に赤の三角が表示された場合は、選択したスケールの値がスケール要素のサイズに合っていません。その場合は、示された方向にマウスで要素を拡大する必要があります。



要素をグリッドに揃える

要素をグリッド線に揃えるかどうかを指定するには、メニュー「表示」>「グリッド」>「グリッドへ配置」を選択します。このためにはグリッドが表示されている必要があります（メニュー「表示」>「グリッド」>「表示」）。

要素の選択



要素の選択

このアイコンをクリックした後に左マウスボタンでクリックすると、要素を選択できます。



複数要素の選択

選択する要素が左右または上下に隣り合っている場合は、ドラッグして枠を作るという1つの動作でこれらを選択できます。

このアイコンをクリックして枠を強調表示し、要素を選択します。左マウスボタンを押したままにします。マウスをドラッグして、選択する要素の周りに枠を描きます。

要素の移動

プロジェクトレイヤーやマーカーレイヤー上の要素は、定義されたプロジェクト領域内やマーカー領域内のみ、移動できます。

- 左マウスボタンをクリックして、移動する要素を選択します。マウスポインターを要素上に移動すると、ポインターの形が以下のようになります、要素を移動することができます。



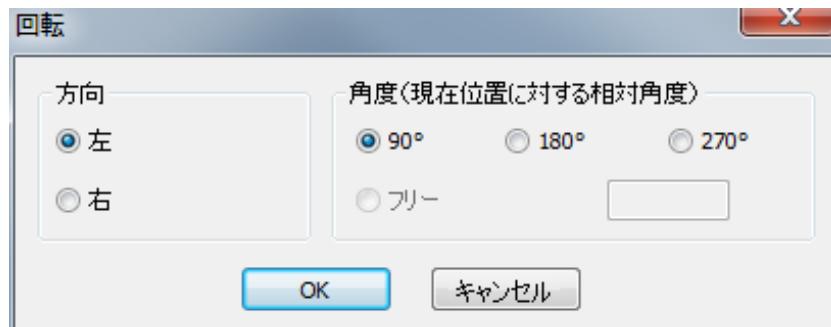
マウスボタンを押したまま、要素を希望の位置まで移動させます。

要素を移動する別の方法として、「プロパティ」ウィンドウの設定を定義できます（「[「プロパティ」ウィンドウ](#)」セクションの「サイズと位置」を参照）。この方法では正確な値を入力できます。

要素の回転

- 回転する要素（テキスト、図形、画像、バーコード）をクリックします。
- メニュー「図形」>「回転...」を選択します。

次のウィンドウが表示されます。



回転の内容を入力してから「OK」をクリックして確定します。

要素の回転時は、必要に応じてマーカー領域のサイズに合うように調整されます。

例

次の画像が回転する前の要素を示しています。



回転後は次のようにになります。



要素のコピーと貼り付け

コピーと貼り付け（コピー貼り付け）の際には、ドキュメント固有のプロパティのみをコピー、貼り付けすることができます。

プロパティすべてをコピー、貼り付けられるのは、コピー元と貼り付け先が同じ要素タイプである場合だけです（テキストからテキストに、画像から画像になど）。

- コピーする要素（または複数の要素）をクリックします。
- メニューで「編集」>「コピー」を選択します。
- 貼り付け先の要素をクリックします。
- 内容を貼り付けるには、メニューの「編集」>「貼り付け」を選択します。要素を貼り付けるには「編集」>「要素の貼り付け」を選択します。

 一部の要素は別の要素に貼り付けできません。

要素の切り取りと貼り付け

- 切り取る要素を選択します。
- メニュー項目の「編集」>「切り取り」を選択します。
- 貼り付け先の要素をクリックします。
- 内容を貼り付けるには、メニューの「編集」>「貼り付け」を選択します。要素を貼り付けるには「編集」>「要素の貼り付け」を選択します。

 一部の要素は別の要素に貼り付けできません（「要素のコピーと貼り付け」のセクションを参照）。

要素の複製

- 複製する要素を選択します。
- メニュー「編集」>「複製」を選択します。
- 複製された要素は元の要素と少しずれた位置に表示されます。

要素の削除

- 削除する要素を選択します。
- メニュー「編集」>「削除」を選択します。
- 「削除」のサブメニューで、次のオプションを選択できます。

フィールドの内容	要素の内容のみが削除されます。
このフィールド	フィールド全体が削除されます。
選択したマーカー	選択した要素を持つマーカー全体が、確認プロンプトが表示されることなく削除されます。
このページ	現在表示されているページが削除されます。
ページ...	複数のページを削除するためのダイアログが開きます。



メニュー項目を使用できない（グレー表示されている）場合、選択された状況ではその機能を使用できません。

要素のロック

テキストフィールド、イメージフィールド、バーコード、および図形要素はロックできます。

ただし、テキストフィールドではロックされても入力や書式設定を行うことができます。

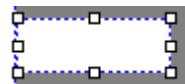
特に、次のプロパティをロックできます。

- サイズと位置
 - 枠線と塗りつぶし
 - フィールドプロパティ
 - 方向とタブの順序
- ロックする要素を選択します。



選択した要素をロックするには、ツールバーのこのアイコンをクリックします。

ロックされた要素の例



正方形要素の作成

正方形要素の作成については、「[要素の対称性](#)」の章を参照してください。

要素の対称性

要素の対称性を使用して要素のサイズ（縦横比）を維持したり、同じ値に設定する（正方形）ことができます。

様々なオプションを使用できます。

Shiftキーを押しながら挿入（正方形を維持）

Shiftキーを押しながら要素を挿入すると、正方形が保たれます。

ただし、次の場合は例外となります。

- 線：水平または垂直に挿入されます。
- 丸（テキストフィールド）：常に円形です。
- スケール

Shift+Altキーを押しながらドラッグ（正方形に設定）

Shift+Altキーを押しながら、既存の要素をそれらの要素の角までドラッグすると、正方形に変わります。

ただし、次の場合は例外となります。

- 線：水平または垂直に変更されます。
- スケール

Shift+Ctrlキーを押しながらドラッグ（縦横比を維持）

Shift+Ctrlキーを押しながら、既存の要素をそれらの要素の角までドラッグすると、サイズの割合が維持されます。縦横比は変更されません。

ただし、次の場合は例外となります。

- 線：線の斜度が維持されます。
- スケール

要素の順番を変更する

複数の要素が重なって配置されている場合、ツールバーの「レイアウト」を使用してそれらの要素の順番を変更できます。現在のレイヤーの選択された要素に、次の設定が適用されます。



要素は1つ前面のレイヤーに配置されます。



要素は1つ背面のレイヤーに配置されます。



要素は最前面に配置されます。



要素は最背面に配置されます。

- 移動させる要素を選択して、該当するアイコンをクリックします。

この機能はメニューからも実行できます。メニュー「図形」を選択してから「移動先」を選択します。

要素のサイズ変更

- サイズを変更する要素をクリックします。



- 要素の角をドラッグして、要素を拡大または縮小します。

「プロパティ」ウィンドウで、「サイズと位置」に正確なサイズを指定できます。

[「プロパティ」ウィンドウ](#)のセクションを参照してください。

同じ高さに設定する

- 高さを調整する要素を選択し、次のアイコンをクリックします。
- 高さを調整するには、メニュー「**图形**」>「**同じ高さ**」をクリックします。

同じ幅に設定する

- 幅を調整する要素を選択し、次のアイコンをクリックします。
- 幅を調整するには、メニュー「**图形**」>「**同じ幅**」をクリックします。

画像をファイルに保存

プログラムファイルのすべての画像をファイルに埋め込む（例えば、ファイル転送のために）場合は、メニュー「**ファイル**」>「**画像を埋め込み、名前を付けて保存…**」を選択し、ファイルを別名で保存します。

ファイル内のすべてのファイルが統合され、埋め込まれます。
ファイルに埋め込まれた画像を再度外部に保存する方法については、「[ファイルから画像を抽出する](#)」の章を参照してください。

ファイルから画像を抽出する

画像はプログラムファイルに統合できます（「[コンテンツ](#)」のセクションを参照）。画像の「タイプ」プロパティは値「埋め込み済み」に設定されます。

後からこれらの画像をファイルから抽出するには、次の手順を実行します。

- 埋め込まれた画像を右マウスボタンでクリックします。
- 表示されたコンテキストメニューから「**画像として保存…**」を選択します。
- パスと画像名を選択して「**保存**」をクリックします。

グループ化

マーカーの複数の（2つ以上）要素をグループ化することができます。

- グループ化する要素を選択し、メニューから「編集」>「グループ化」を選択します。

複数のグループをさらにグループ化することもできます。

一部のプロパティは、変更するとグループ全体に適用されます（線の太さ、塗りつぶしの色など）。あるグループの要素を最初にクリックすると、そのグループが選択されます。さらにある要素をクリックすると、グループ内のその要素が選択され、そのプロパティ（テキストなど）を変更できます。

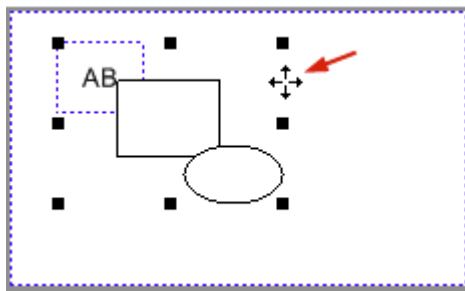
グループ化を解除しても、その中に含まれているグループは維持されます。

グループ化できるのは同じフィールドタイプの要素だけです（「[フィールド](#)」の章を参照）。

あるグループ内の選択された要素は、グループから削除できます。

マウスでグループを移動させる

グループは、そのグループの最も外側の境界でのみマウスを使って移動できます。移動の際には、マウスポインターの形が変わります。



既存のグループの概要

既存のグループの概要はオブジェクトの選択で表示されます。この表示を使ってグループを選択することもできます（「[要素の選択](#)」の章を参照）。

テキストの書式設定

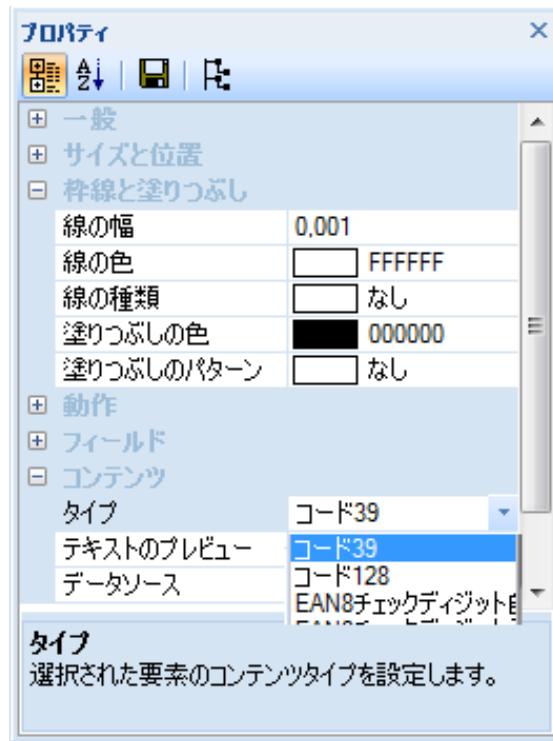
テキストの書式設定と線の設定はツールバーの「[テキストの書式設定](#)」または「[プロパティ](#)」ウィンドウを使用して行うことができます。

テキストの整列

テキストを整列させるには、そのテキストを選択し、ツールバーの「[テキストの書式設定](#)」で該当するボタンを選択します。

バーコードタイプの変更

「プロパティ」ウィンドウの「コンテンツ」でバーコードの種類を選択できます（「「プロパティ」ウィンドウ」の章の「[コンテンツ](#)」のセクションも参照）。



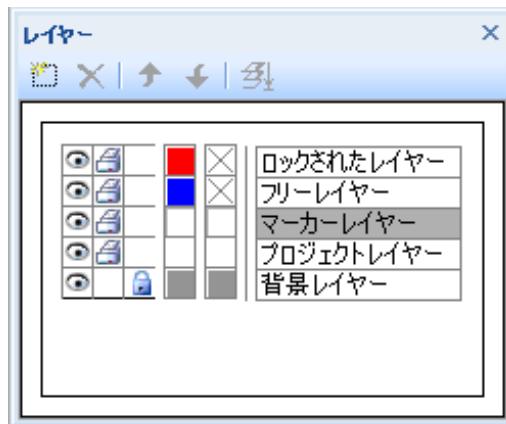
- 「タイプ」フィールドで、変更するバーコードのタイプを選択します。
- 「テキストのプレビュー」フィールドに、バーコードの種類に応じて数字またはアルファベットで入力できます。
- 多くのバーコードではさらにプロパティを選択できます（サイズやエラー補正値のECCレベルなど）。

レイヤーの編集

あるマーカータイプのページは複数のレイヤーで構成されます。

各レイヤーの編集は「レイヤー」ウィンドウを使用して行います。詳細については、「[「プロパティ」ウィンドウ](#)」のセクションを参照してください。

- レイヤーの表示と非表示を切り替えるには、メニュー「表示」>「レイヤー」を選択します。
- レイヤー名（「マーカーレイヤー」など）をダブルクリックすると、選択したレイヤーの「レイヤープロパティ」ダイアログボックスが開きます。



レイヤー名の変更

レイヤーの名前は「レイヤープロパティ」ダイアログボックスを使用して変更できます（「レイヤーの編集」の章を参照）。

- 「レイヤー名」フィールドに新しい名前を入力し、「OK」をクリックして入力を確定します。

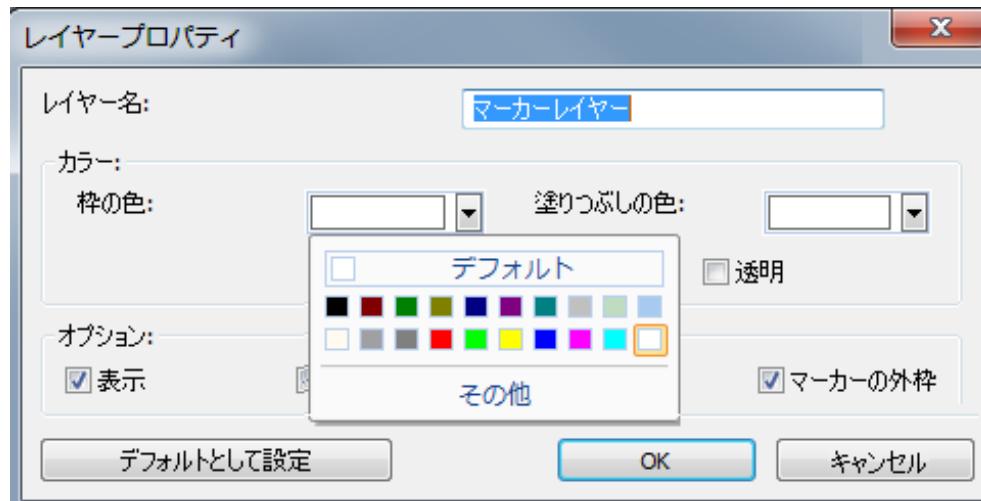


この該当ファイルに変更が適用されます。

レイヤーの色の変更

「レイヤープロパティ」ウィンドウで、レイヤーの色を変更できます。変更するレイヤーの名前をダブルクリックして選択します（「レイヤーの編集」の章を参照）。

- 該当するフィールドの矢印をクリックして、レイヤーの枠の色と塗りつぶしの色を変更できます。表示されるドロップダウンメニューで色を選択できます。



- 「その他」ボタンをクリックすると、より多くの色オプションが表示されます。

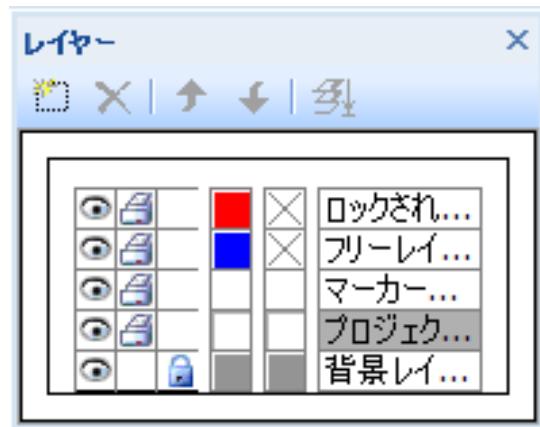
ここで標準カラーを選択するか、カスタマイズしたカラーを作成できます。

レイヤーの非表示

- あるレイヤーを無効にして非表示にするには、目の形のアイコンをクリックします。



このアイコンが表示されていないすべてのレイヤーは非表示になります。



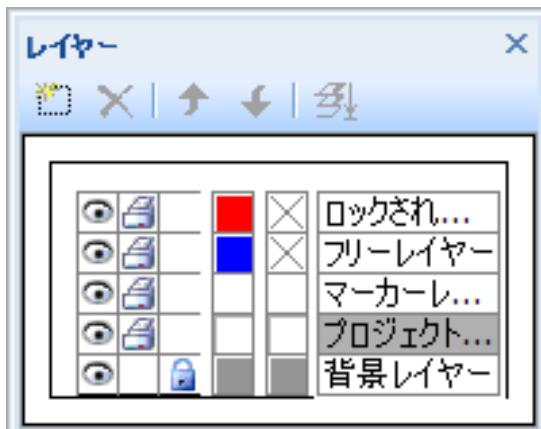
ボックスをもう一度クリックすると、レイヤーが再表示されます。

印刷しないレイヤー

- あるレイヤーを印刷しない場合は、プリンターアイコンをクリックします。



このアイコンが表示されていないすべてのレイヤーは印刷されません。



フリー層の追加

他のレイヤーとは異なり、フリー層は複数できます。

- 「レイヤー」ウィンドウで次のアイコンをクリックすると、新しいフリー層が追加されます。



アイコンをもう一度クリックすると、別のフリー層が作成されます。

フリー層の削除

- 「レイヤー」ウィンドウで、削除するフリー層をクリックします。次のアイコンをクリックします。



i 1つのフリー層だけが常に存在しなければなりませんが、その他のすべてのフリー層は削除できます。

フリーレイヤーを別の場所に移動する

複数のフリーレイヤーを作成した場合、各レイヤーの前後関係を入れ替えることができます。つまり、フリーレイヤーを重ねる順序を変更できます。

「レイヤー」ウィンドウでは次のアイコンを使用できます。



レイヤーの位置を1つ上に移動します。



レイヤーの位置を1つ下に移動します。

- 別々の場所に移動させるフリーレイヤーを選択し、該当するボタンをクリックします。

複数のフリーレイヤーを1つにする

次のアイコンをクリックすると、すべてのフリーレイヤーが1つになります。



1つにするレイヤーを個別に選択することはできません。必ず、すべてのフリーレイヤーが1つのレイヤーになります。

1つにしたレイヤーを元の複数のレイヤーに戻すことはできません。

レイヤーのロック

個々のレイヤーをロックして、そのレイヤーの要素を編集できないようにすることができます。ロックすると、テキストも変更できなくなります。

- ロックするレイヤーをクリックします。
- 「レイヤー」ウィンドウで、3番目の列をクリックします。

次のアイコンが表示されます。



レイヤーがロックされ、もう編集できなくなります。

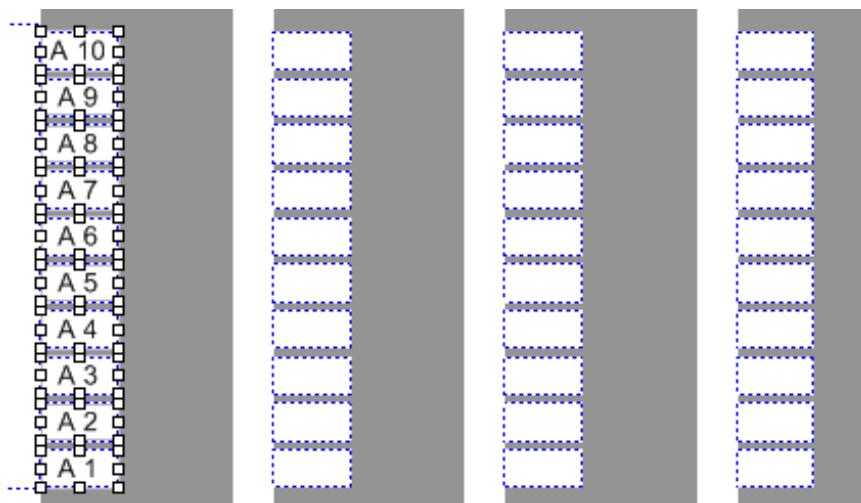
もう一度クリックすると、ロックが削除されます。

事前定義されたテキストシーケンス

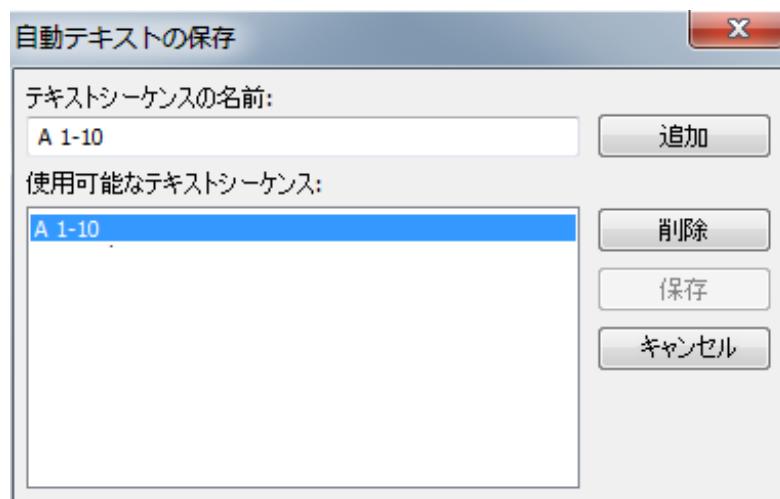
事前定義テキストシーケンスの定義

テキストシーケンスを定義するには、次の手順を実行します。

- 任意のマーカータイプを開き、保存するテキスト（例えば A 1 から A 10）をテキスト要素に挿入します。



- テキストシーケンスとして保存するテキストを選択します。
- メニューから「その他」>「事前定義されたテキストシーケンス...」を選択します。
- テキストシーケンスに分かりやすい名前を付けます。



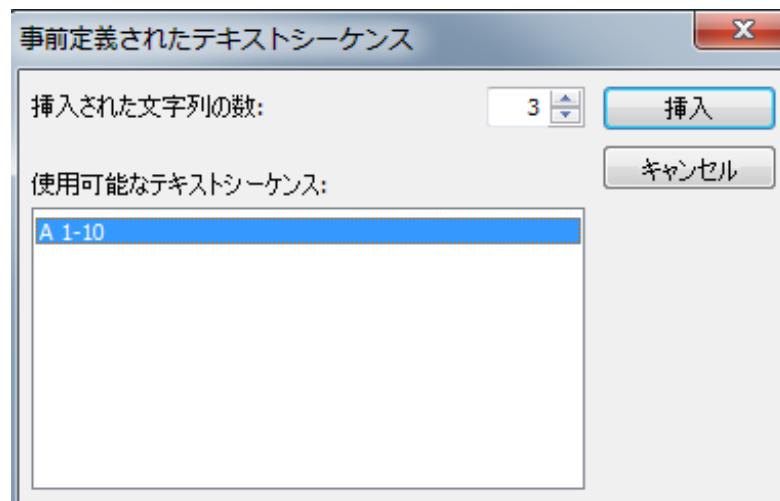
- まず「追加」をクリックしてから「保存」をクリックします。

事前定義されたテキストシーケンスを挿入する方法については、「事前定義されたテキストシーケンスの挿入」のセクションを参照してください。

事前定義されたテキストシーケンスの挿入

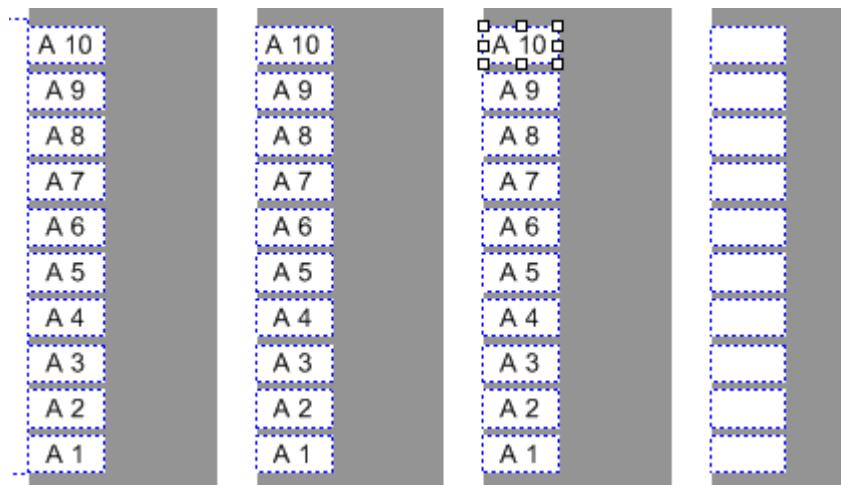
事前定義されたテキストシーケンス（「事前定義テキストシーケンスの定義」を参照）を挿入するには、次の手順を実行します。

- 任意のマーカータイプを開き、事前定義されたテキストシーケンスを挿入する要素を選択します。
- メニューから「追加 > 「事前定義されたテキストシーケンス...」を開きます。
- 使用するシーケンスと挿入回数を選択します。



- 「挿入」をクリックします。

この場合は、事前定義されたテキストシーケンスが3回、挿入されました。



自動番号付け

はじめに

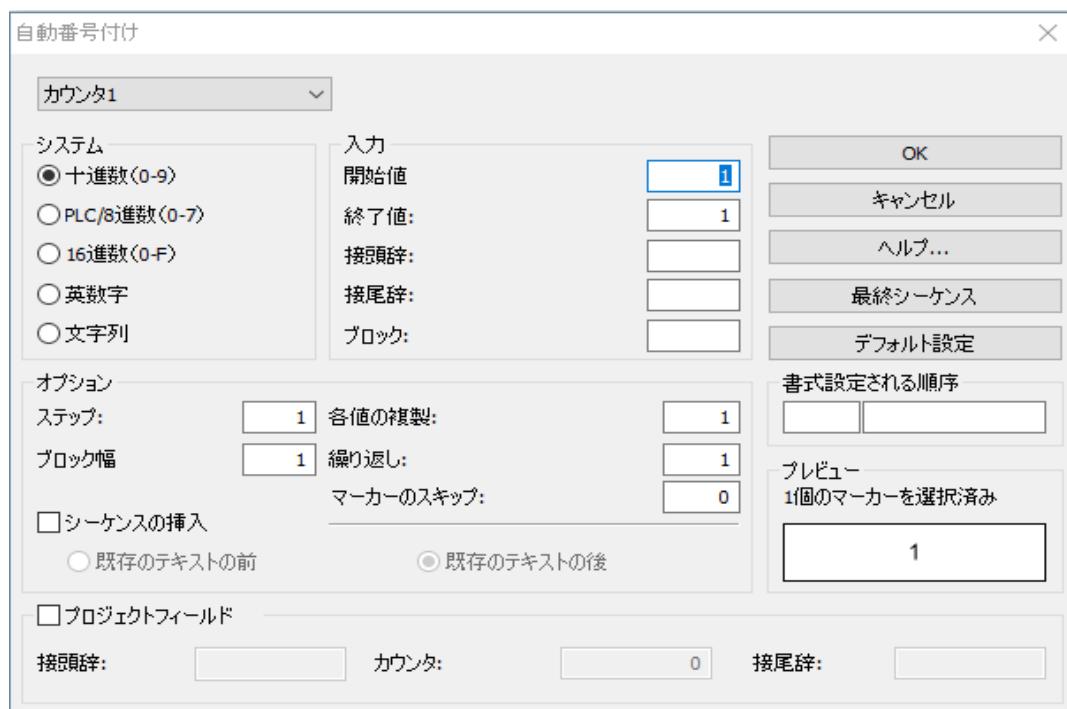
「自動番号付け」機能を使用して、マーカータイプに連続番号を付けることができます。

i 自動入力で入力できるのは、ドキュメント固有のフィールドだけです（「[\[「プロパティ」ウィンドウ\]](#)」の章を参照）。

- キャプションを入れるフィールドまたは領域を選択します。
- メニューから「**挿入**」>「**自動番号付け...**」を選択します。

自動番号付けをするためのウィンドウが開きます。

「自動番号付け」ウィンドウ



このウィンドウでは次のボタンを使用できます。

OK	「OK」ボタンで、入力内容を確定します。
Abbrechen	「キャンセル」ボタンで処理を取り消します。
ヘルプ	「ヘルプ」ボタンでヘルプを表示します。
最終シーケンス	「最終シーケンス」ボタンで最後に使用した文字列を読み込みます。
デフォルト設定	「デフォルト設定」ボタンで、事前定義されたデフォルト値にリセットします。

ウィンドウの「システム」セクションで、番号付けの表記法を指定します。

十進法

十進法を使用します。0から9までの10個の数字のあと、10、11、12、というように数えます。

PLC/8進数

このオプションではPLC固有のキャッシュ形式が設定されます。PLCのキャッシュ形式は通常、2つのカウンタがあり、その間がピリオドで区切られます（例：4.0）。

カウンタY1には0から7の8進数が入り、ブロックカウンタX1にはブロックステップ幅と関連した「ブロック」フィールドの開始値が入ります。「初期値」フィールドには通常、1文字が入り（「入力（Input）」の場合は「I」など）、接尾字も同様に選択できます（例2を参照）。

16進法

この表記法は16進法に基づき、0から9までの数字とA、B、C、D、E、Fの文字が使用されます。

例

0、1、....9、A、B、C、D、E、F、10、11、....、18、19、1A、1B、1C、1D、1E、1F、20、...29、2A、...2F、30、...など

英数字

このオプションでは3つの番号順を使用できます。aからzまで、AからZまで、または0から9までです。

番号付けの例：bからm（1文字のみ可能、つまり、AAからZZは使用不可）

文字列

テキストフィールドには常に同じ言葉が入ります。例：「SB」文字列：「1234」または「ABCD」または「1a2Bd3」

「**入力**」セクションで、該当する値を入力します。

開始値と終了値

番号は昇順または降順で付けることができます。

開始値と終了値に自動的に入力される値は、選択されたフィールドの数に応じて異なります。

接頭辞

1つ以上の英数字を、カウンタ値の前に付けることができます（『Leitung』、『L』、『2004』など）。

接尾辞

1つ以上の英数字を、カウンタ値の後に付けることができます（『links』、『X』など）。

ロック

このプログラムでは接頭辞と開始値の間に挿入されるロックを、追加のカウンタとして認識します。

「**オプション**」セクションでは次の項目を選択できます。

ステップ

開始値から増加させる、または減少させる値（増減の幅）を指定します。

例：

開始値が「1」、終了値が「20」、ステップ幅が「3」の場合、数字は次の順序になります。1、4、7、10、13、16、19

開始値が「8」、終了値が「2」、ステップが「2」の場合、次の文字列になります。8、6、4、2

開始値が「A」、終了値が「K」、ステップが「2」の場合、次の文字列になります。

A、C、E、G、I、K

ロックのステップ幅

ロックを増加させるための値を指定します。例えば、ロックが「0」でロックのステップ幅が「2」とします。例
0、2、4、6...

各値の複製

ここで、各値を何回複製するかを指定します。

このフィールドに値「2」を入力すると、1から5の番号付けの場合は次のような数字列になります。1、1、2、2、3、3、4、4、5、5

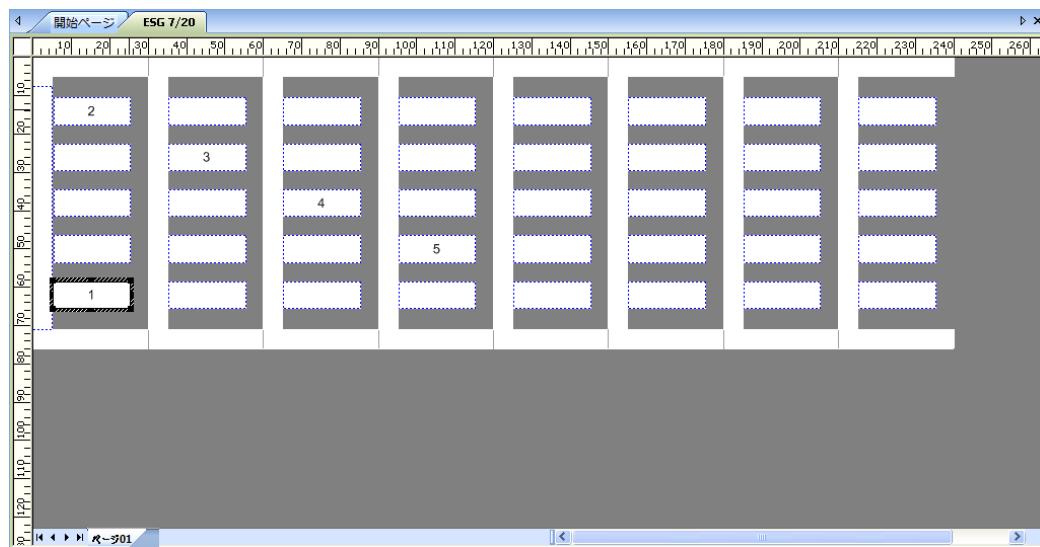
繰り返し

ここで必要な文字列（開始値と終了値の間の値）の回数を指定します。

マーカーのスキップ

ここで、キャプションの入ったフィールドをいくつスキップするかを指定します。

例 開始値 = 1、終了値 = 5、スキップ数 = 3



シーケンスの挿入

この機能を有効または無効にするには、チェックボックスをクリックします。

キャプションを入れるフィールドに既にテキストが含まれていなければ、どこにテキストを挿入するかを指定できます。該当するオプションボタンを選択します。

既存のテキストの前

既存のテキストの後

この機能を選択しない（有効にしない）場合、マーカーのすべての内容が上書きされます。

プロジェクトフィールド

この機能を有効または無効にするには、チェックボックスをクリックします。

このオプションを使用すると、プロジェクトフィールドが自動的に番号付けされます。テキストフィールド「番号」には開始値を入力できます（「番号」フィールドが削除されている場合は、自動番号付できません）。また、「接頭辞」や「接尾辞」も指定できます。

書式設定される順序

左のフィールドココはブロックカウンタの書式設定を指定し、右のフィールドココは開始値と終了値を定義する番号付カナの書式設定を指定します。

次の書式設定はブロックカウンタと番号付カナのみ適用されます。ブロックの書式設定は「ブロック」フィールドにエントリがある場合にのみ使用されます。

#.00	数値または小数点以下2桁の数字になります。1から3の番号順では次の書式になります。 1.00、2.00、3.00など
\$#.00	数値の前に定数（この場合はドル記号）が付きます。
#,###.00	1000から2000の番号順は次のようにになります。1,000.00、1,001.00、1,002.00など
0%	番号順1から5は100%、200%、...500%...のように設定されます（パーセント）。

プレビュー

キャプションが入った最初のフィールドが表示されます。

入力値の自動認識

「自動番号付け」ウィンドウに適切なデフォルト値を設定するために、自動入力機能は最初に選択されたフィールドのテキストを認識しようとします。

例えば、テキストフィールドに「A4.0X」と入力されている場合、「A」が範囲始、「X」が範囲終、「4」がブロックカウンタ、「0」が開始値であると認識します。

終端マークの追加フィールド

マルチマーク終端マーク（ピッチストリップ）を追加する場合には、詳細ダイアログが表示されます。

ダイアログではマークのキャプションを「手動」で付けるか「自動」的に付けるかを選択できます。
キャプションを自動的に付ける場合は、ダイアログの下部にフィールド内容のプレビューが表示されます。

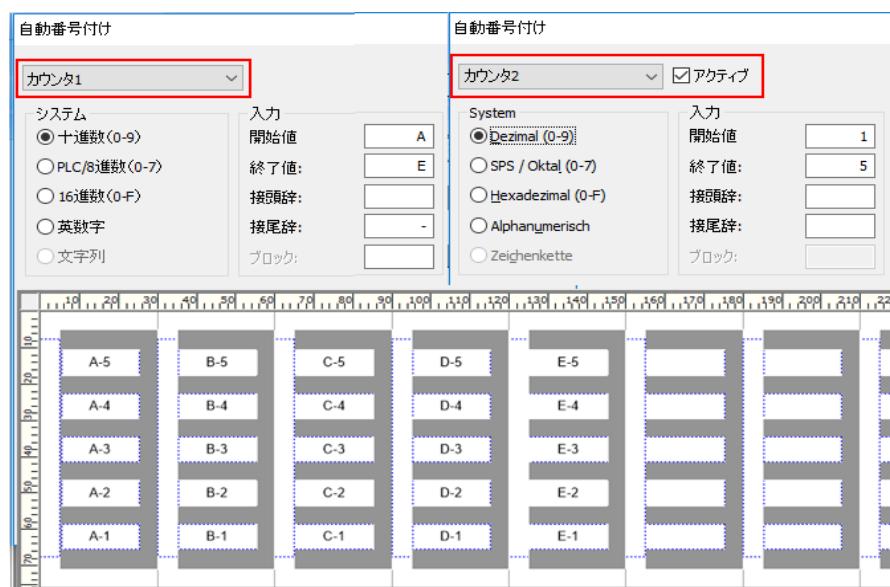


カウンタ1およびカウンタ2

カウンタは2つあります。カウンタ1ではすべての機能を利用できます。カウンタ2はカウンタ1のサブカウンタです。

エイリアスでは、カウンタ1に有効な値が入力されている場合にのみカウンタ2に切り替えることができます。
「アクティブ」チェックボックスを選択すると、カウンタ2が適用されます。

例



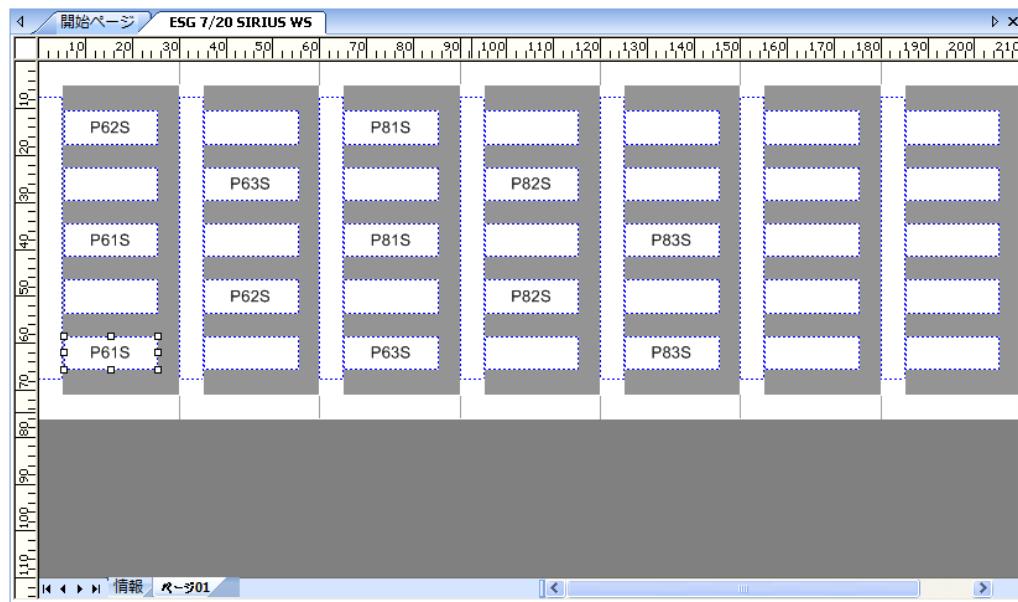
例

マルチカードに次のようなキャプションを付けます。

開始値は「1」、終了値は「3」になります。値の前には「P」から始まるブロックを置きます。それぞれの番号付け（ブロックと開始値）の前に接頭辞「P」を、後ろに接尾辞「S」を入れます。フィールドは1つスキップします。つまり、キャプションの入ったフィールド間に1つのフリーフィールドができます。各フィールドは2回反復させます。さらに、ブロックのエンタリーは「0」で始まり、2つずつ増加させます。つまり、「0, 2, 4, 6」となります。



結果：



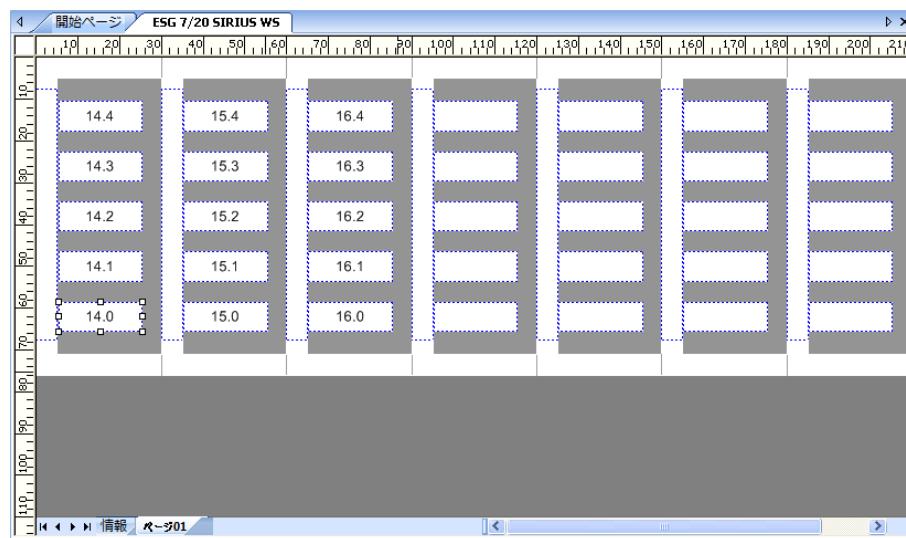
例2

PLCのキャプション形式

リレー4、5、6のキャプション付けます。これらのリレーにはそれぞれ5つの入力 (I) があり、それに「0」から4の番号を付けます。番号付けは「I4.0」から「I4.4」で始まり、次に「I5.0」から「I5.4」そして最後に「I6.0」から「I6.4」で終了します。



結果:



昇順と降順の番号付け

自動番号付けの代わりに、カウンタの値を小から大へ、または大から小へ並べ替える（昇順または降順でソートする）機能を使うこともできます。

2つのオプションがあります。

- 2つのテキストフィールドを選択することにより、数値を自動認識（「数値の自動認識」を参照）。
- デフォルト値に続けて番号付けていく（「デフォルト値に続けて番号付ける」を参照）。



1つのテキストの数値のみを考慮するパターン認識があります。

例 「A-10x」は 昇順で番号付けることにより、「A-11x」になります。



数値に付いたマイナス記号はテキスト文字として解釈され、考慮されません。



「昇順で番号付ける」機能と「降順で番号付ける」機能では、常に次のテキストフィールドに入力されます。
マーカーに多数のテキストフィールドがある場合は、順番に入力されます。

この機能のステップ幅オプションを使用して設定できます（「[基本設定](#)」の章を参照）。

数値の自動振る

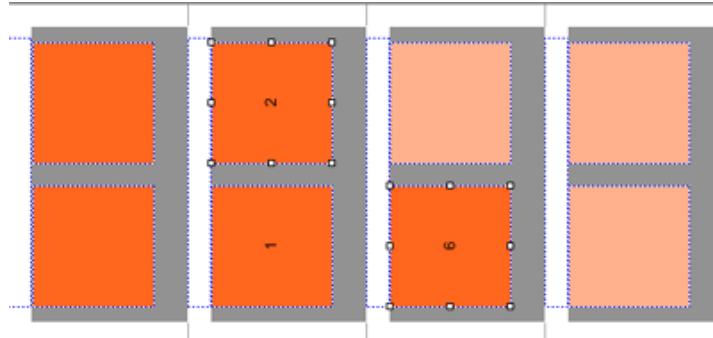
数値が入った2つのテキストフィールドを選択した場合、両方のフィールド間の差異が値として使用されます。

次の手順を実行します。

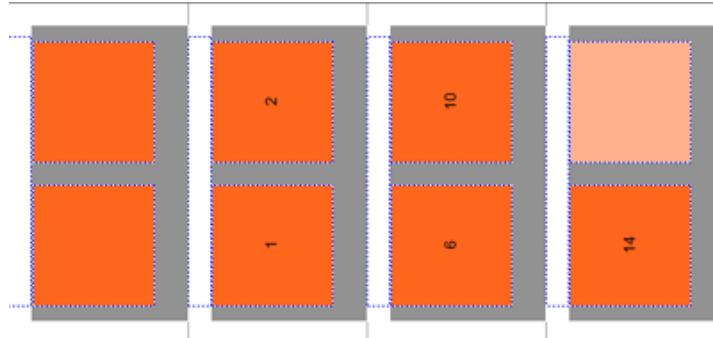
- 数値が入った少なくとも2つのテキストフィールドを選択します。
- メニューから「追加」>「昇順で番号付け」または「追加」>「降順で番号付け」を選択します。

例

テキストフィールドの選択



昇順で2回、番号を振る



デフォルト値で統一して番号付ける

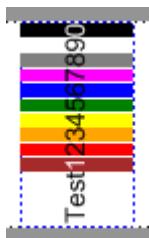
数値の入ったテキストフィールドを1つだけ選択した場合は、事前設定された値を使って昇順または降順で番号付けします。それぞれのステップ幅はオプションダイアログで設定できます（「[基本設定](#)」の章を参照）。

次の手順を実行します。

- 数値の入ったテキストフィールドを1つ選択します。
- メニューから「追加」>「昇順で番号付け」または「追加」>「降順で番号付け」を選択します。

色の設定

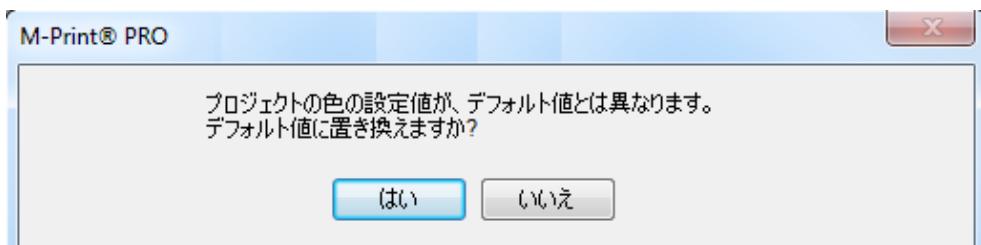
色の設定は0から9の数字を使用します。



背景色とフォントの色はオプションメニューで設定します（「オプションダイアログ」の章の「色の設定」のセクションを参照）。

- i** 色の設定は1行のテキストでのみ使用できます。
- i** 色の設定は要素全体に適用されます（テキストの一部をカット適用できません）。
- i** 色の設定はプロジェクトファイル（*.mpcなど）に保存されます。
つまり、別々のファイルで様々な色の設定を行うことができます。

プログラムで設定した色の設定がプロジェクトの色の設定と異なる場合は、メッセージが表示されます。



- プログラムで定義された色の設定を使用する場合は、「はい」を選択します。
- プロジェクトで定義された色の設定を使用する場合は、「いいえ」を選択します。

コンテンツの同期

テキスト要素別のテキスト要素（いわゆるデータソース）とリンクさせることができます。

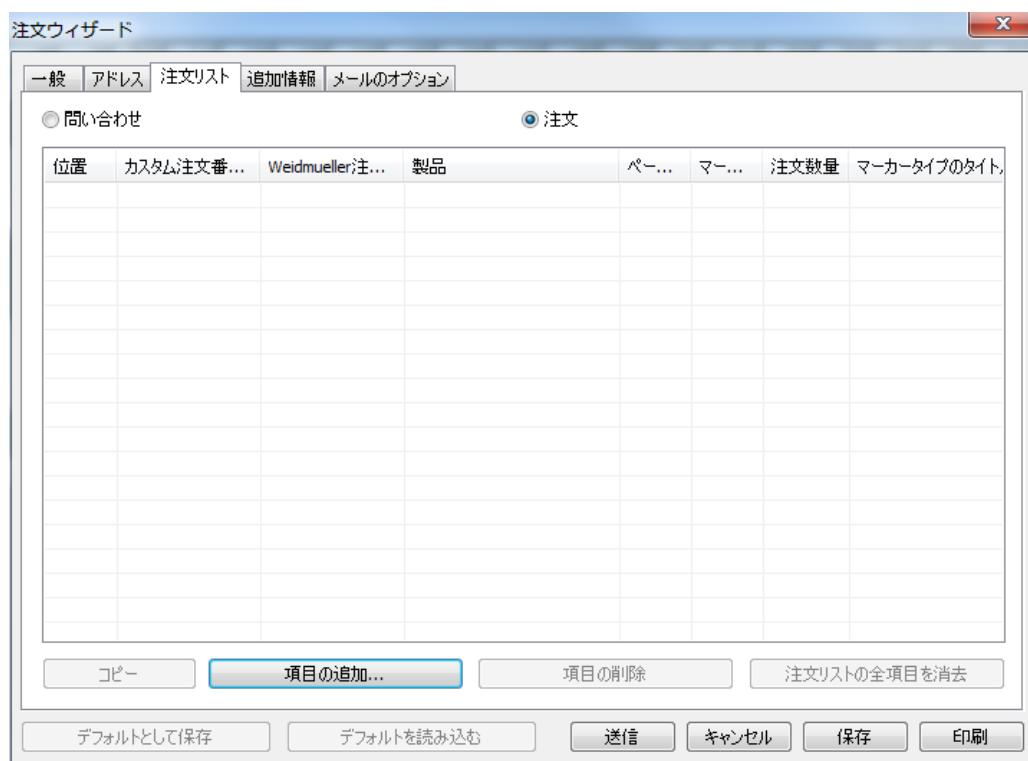
次の手順を実行します。

- データソースを割り当てるテキスト要素（「テキストフィールド」など）をクリックします。
- 「プロパティ」ダイアログを開きます（「[\[プロパティ\] ウィンドウ](#)」の章を参照）。
- 「データソース」フィールドにデータソースのフィールド名（「テキストフィールド」など）を入力します。
- メニューから「編集」>「[コンテンツの同期](#)」を選択します。

テキストフィールド1のコンテンツがテキストフィールド2に転送されます。

注文、注文ウィザード

注文ウィザードを使用して、現在開いているプロジェクトからマーカータイプをメールで注文できます。



注文ウィザードを呼び出すには、メニューから「ツール」>「注文」を選択します。

- メニューから「ツール」>「注文...」を選択します。
- タブで設定を行います。

デフォルトとして保存

アクティブなタブの設定がデフォルトとして保存されます。



注文時に配送先として指定できるのは、日本国内（発注者の居住国）の住所だけです。

フィルター機能

フィールド内のフィルター処理

フィルターを使用して、特定のテキストを含む要素を表示できます。

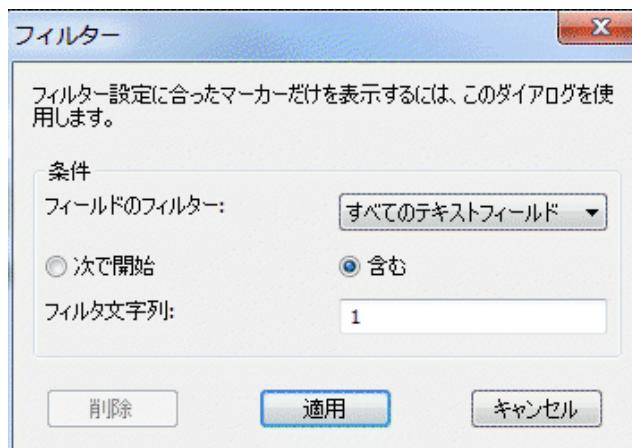
フィルターダイアログを呼び出すには、メニューから「表示」>「フィルター」>「フィルター...」を選択します。

例

フィルター処理前:

5	10	15	20	25	30
4	9	14	19	24	29
3	8	13	18	23	28
2	7	12	17	22	27
1	6	11	16	21	26

フィルターを設定:



結果:

13	18				
12	17				
11	16				
10	15	21			
1	14	19			

オーバーフローフィルター

メニューから「表示」>「フィルター」>「オーバーフローフィルター」を選択すると、フィルター処理により、テキストがオーバーフローしているフィールドが表示されます。これらのフィールドには赤の矢印が付いています。

オーバーフローフィルターはメニューの「書式」>「フォントサイズの調整...」により呼び出します（「一般的な操作」の章の「フォントサイズの調整」セクションを参照）。

これらのフィールドに対してフォントサイズを小さくしたり、短くすることができます。



オーバーフローフィルターは連続トリップと連続削除チューブには適用できません。代わりに「マーク一長の調整」オプションを適用できます（「一般的な操作」の章の「マーク一長の調整」セクションを参照）。

フィルターの削除

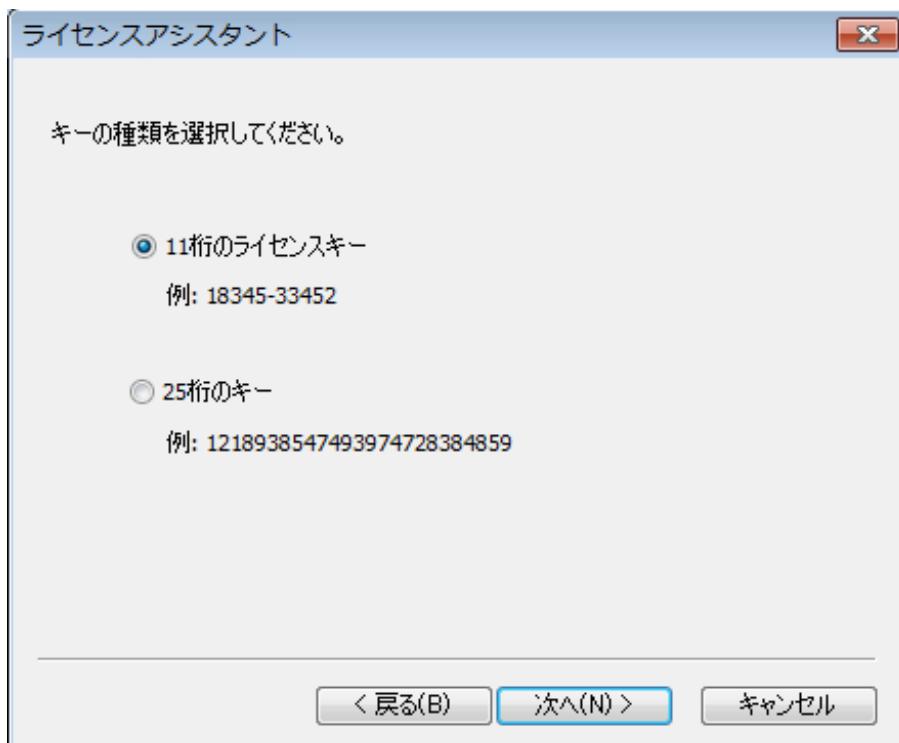
メニューから「表示」>「フィルター」>「フィルターの削除」を選択して、フィルター処理（オーバーフローフィルターなど）を取り消すことができます。

ライセンス版

ライセンス版では、ソフトウェアキーにより、プログラムに対する無制限の使用権限があります。

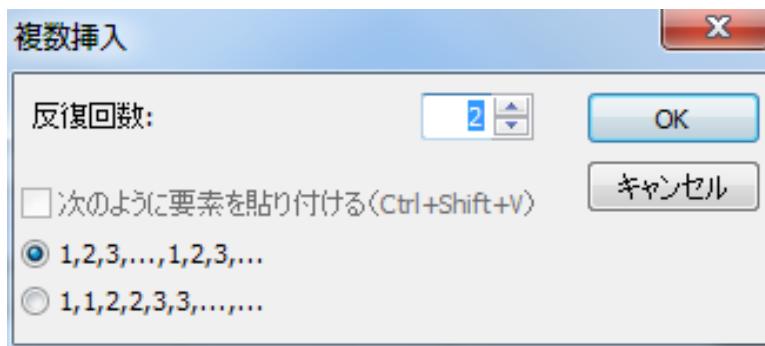
ライセンス版を使用するには、メニューから「ヘルプ」>「ライセンスキー...」を選択します。

まず、お持ちのライセンスキーを選択し、以降は画面の指示に従います。



複数挿入

複数のテキストフィールド、バーコードフィールド、およびイメージフィールドを、クリップボードから貼り付けることができます。

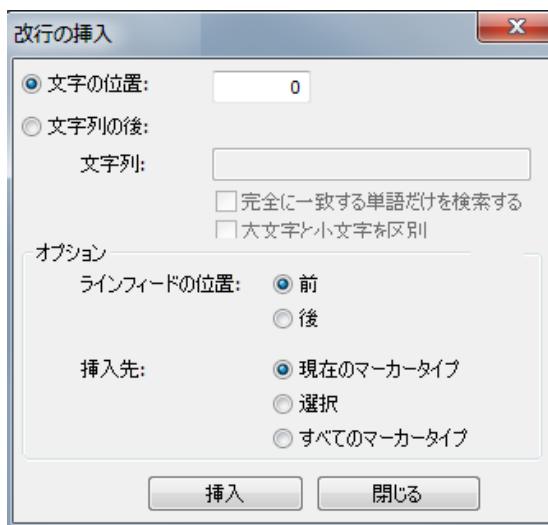


複数フィールドを挿入するには、「編集」>「複数挿入...」を選択します。

改行の挿入

この機能を使用してテキストフィールドの内容に後から改行を挿入することができます。

メニューから「編集」>「改行の挿入...」を選択します。



Excelの編集

既存のテキストフィールドの内容はExcelで編集することもできます。
メニューから「編集」>「Excelの編集を開始する」を選択します。

これで、Excelでテキストの内容と、サポートされているすべての書式を編集できるようになります。

内容をアプリケーションに転送するには、Excelを終了するか、または、プログラムのメニューから「編集」>「Excelの編集を終了する」を選択します。



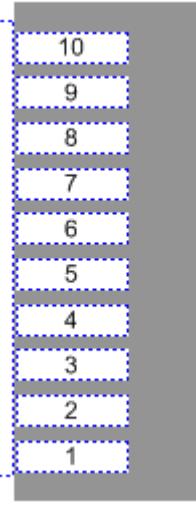
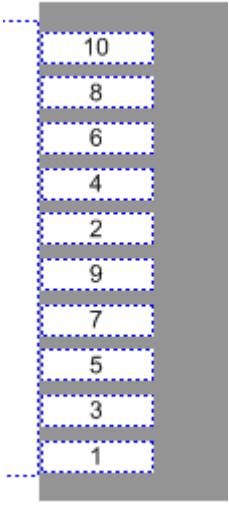
後で挿入したフィールド（テキスト、バーコード）を連続素材で使用できるようにさらに編集するには、
フィールドのプロパティで「塗りつぶしの順序」プロパティを設定する必要があります（「インターフェイス」の章の「サイズと位置」のセクションを参照）。

多層レベル端末

この機能を使用して、事前定義したステップ幅で選択したデータを再度並び替えることができます。
メニューから「編集」>「多層レベル端末」を選択します。

どのマーカーも選択されていない場合、すべてのマーカーを使用して並べ替えられます。

例

デフォルト値:	多層レベル端末選択2 = 2層端末	多層レベル端末選択3 = 3層端末
	並べ替え: 1、3、5、7、9 次々: 2、4、6、8、	並べ替え: 1、4、7、10 次々: 2、5、8 次々: 3、6、9
		

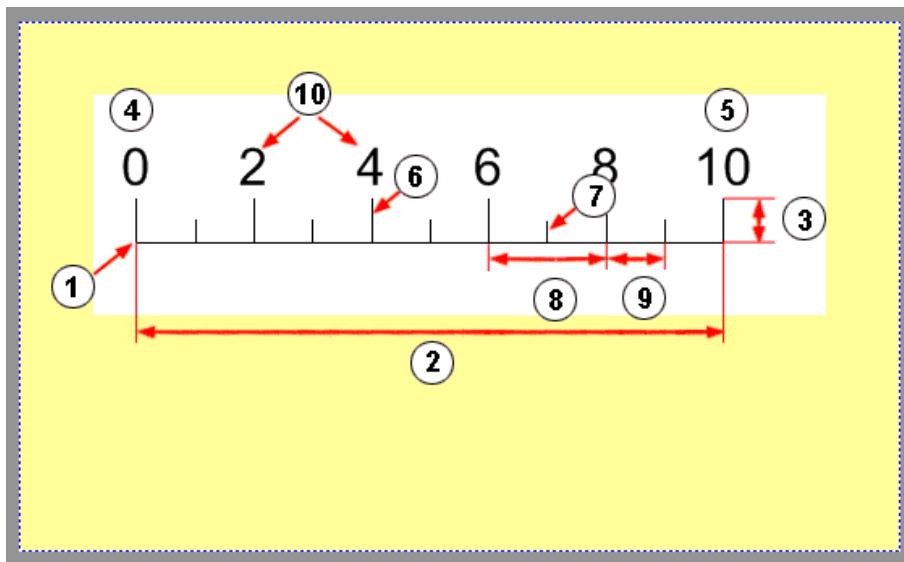
スケール

スケールおよび角丸スケールを新しい要素として挿入できます（「[スケールの挿入](#)」の章を参照）。

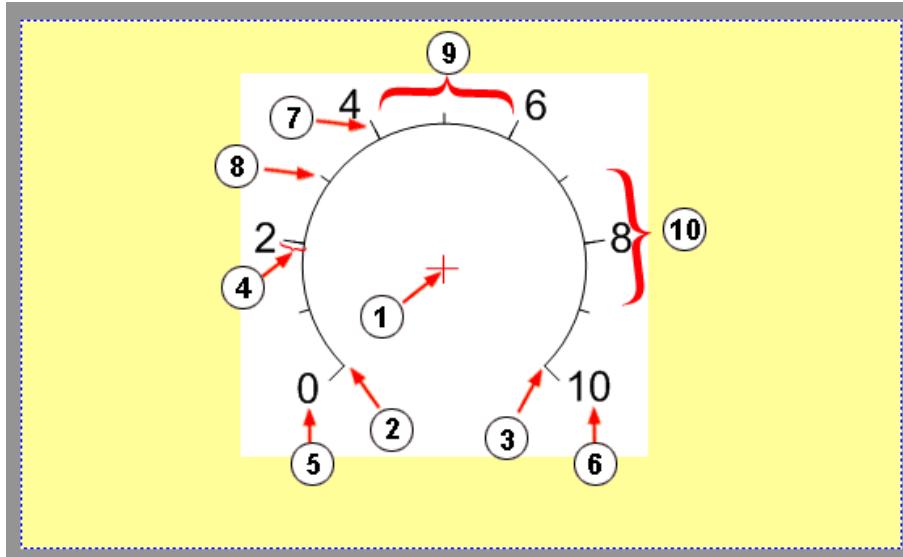
スケールの値の範囲は、開始値と終了値で決まります。目盛りの間隔（グリッド線の間隔/補助グリッド線の間隔）は常に値の範囲に関連します。

スケールのプロパティ

スケールは次のプロパティにより、特徴付けられます。



- 1 スケール原点（スケール原点の上、スケール原点の左）
- 2 スケールの長さ
- 3 スケールの高さ
スケールの高さはグリッド線の高さに相当します。
- 4 開始値（スケールの値の範囲より、開始値と終了値で決まります。）
- 5 終了値
- 6 グリッド線
- 7 補助グリッド線
- 8 グリッド線の間隔（大目盛り）
- 9 補助グリッド線の間隔（小目盛り）
- 10 キャッシュの間隔

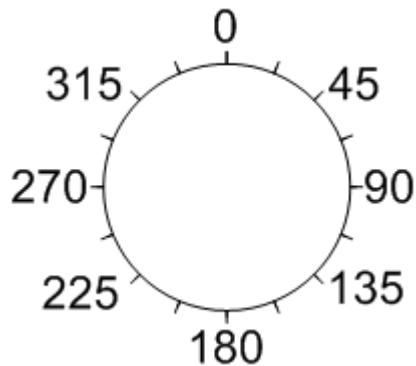


- 1 スケール原点（スケール中央の左、スケール中央の上）
- 2 開始角度（[角丸スケール](#)の章も参照）
- 3 終点の角度
- 4 スケールの高さ
スケールの高さはグリッド線の高さに相当します。
- 5 開始値（スケールの値の範囲より、開始値と終了値で決まります。）
- 6 終了値
- 7 グリッド線
- 8 補助グリッド線
- 9 グリッド線の間隔（大目盛り）
- 10 補助グリッド線の間隔（小目盛り）
- 11 キャプションの間隔

プロパティの詳細については、「スケールの挿入」のセクションを参照してください。

角丸スケール

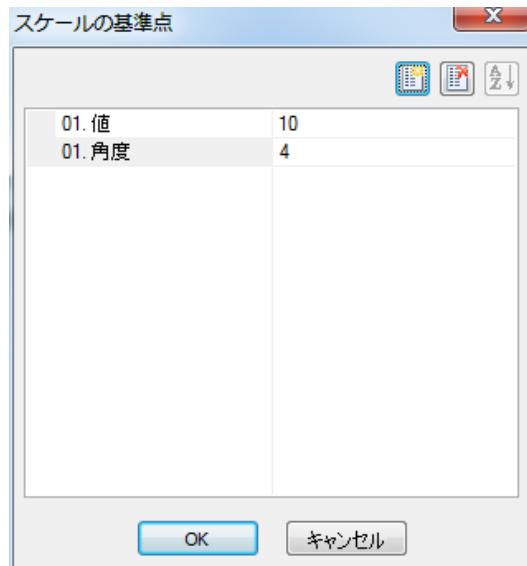
角丸スケールでは円弧が基線となります。
スケールは円弧ごとに時計方向に目盛りが付きます。原点は頂点です。



接線キャプションにより、スケールのキャプションは基線に対して接線方向に付きます（「[スケールの例](#)」セクションの「例」を参照）。

基準点

スケールの値のパターーンは基準点によっても定義できます。
基準点により、スケールの任意の値の正確な位置を示すことができます。
基準点と基準点の間の値のパターーンは線形(直線的)です。



基準点の追加

ダイアログで新しい基準点を追加します。



基準点の削除

選択した基準点を削除します。

間隔

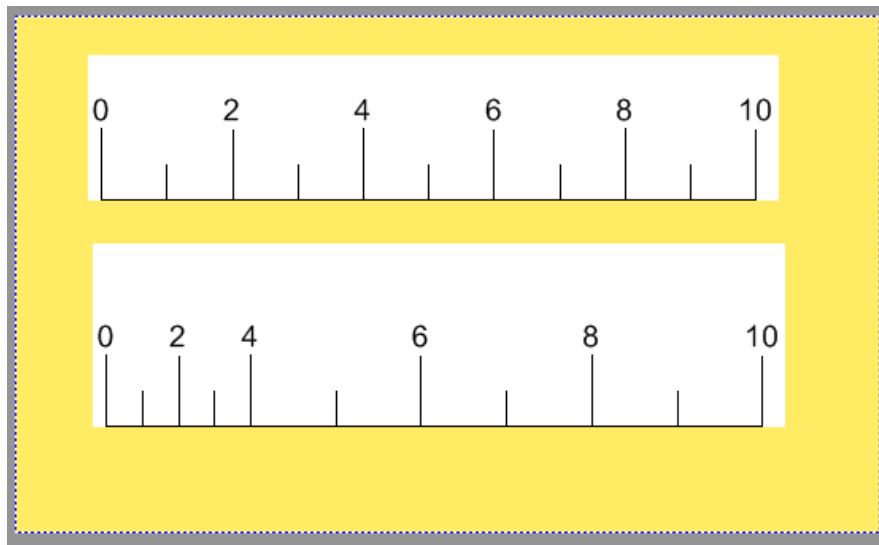
スケール開始値から基準点までの距離

値

基準点のキャプションの値。キャプションの値が表示されるか非表示となるかは、スケールで選択したキャプションの間隔によって決まります。

線形スケールでは、この値は要素の表示領域にある必要があります。角丸スケールでは、この値は開始角度と終点の角度の間にあります。

例



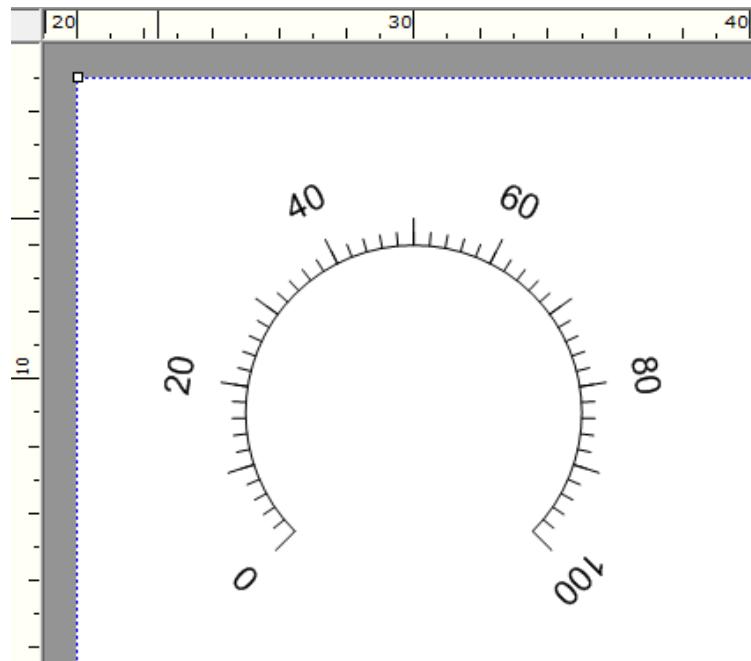
上のスケールには基準点が含まれていません。

下のスケールでは、値が「4」の基準点が距離「10 mm」で定義されています。

選択するキャプションの間隔が「2」の場合、基準点にもキャプションが付き、基準点の前後の範囲もしくは線形に分割されます。

スケールの例

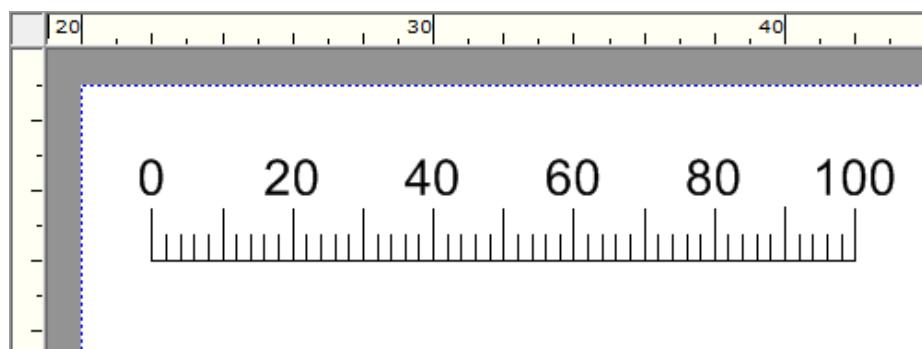
例 :



図は、次のプロパティを持つ円形スケールを示しています。

スケールの半径	5 mm
開始角度	225° (または-135°)
終点の角度	135
スケール中央の左	10 mm
スケール中央の上	10 mm
スケールの高さ	0.8 mm
キャプションの向き	接線
開始値	0
終了値	100
値分布	線形
グリッド線	10
補助グリッド線	2
キャプションの間隔	20
フォントサイズ	3

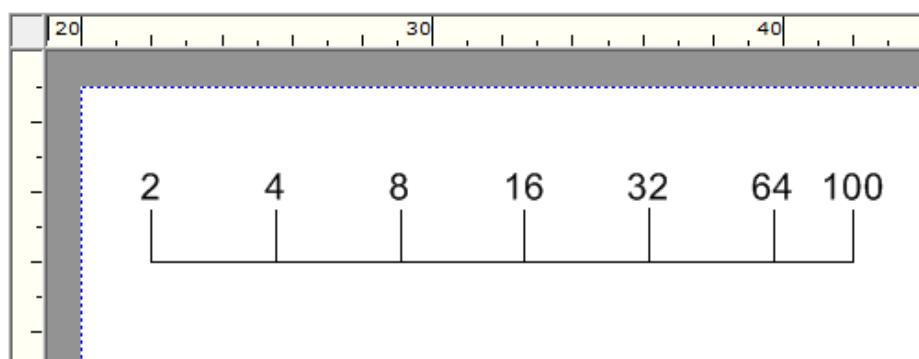
例 :



図は 繪形の値 パートンと次のプロパティを持つスケールを示しています。

スケールの長さ	20 mm
スケール原点の左	2 mm
スケール原点の上	5 mm
スケールの高さ	1.5 mm
開始値	0
終了値	100
値分布	継続
グリッド線	10
補助グリッド線	2
キャプションの間隔	20
フォントサイズ	4

例 :



図は 対数の値 パターンと次のプロパティを持つスケールを示しています。

スケールの長さ	20 mm
スケール原点の左	2 mm
スケール原点の上	5 mm
スケールの高さ	1.5 mm
開始値	2
終了値	100
値分布	対数
グリッド線	自動
補助グリッド線	自動
キャブションの間隔	自動
対数スケールの基數	2
フォントサイズ	3

連続ストリップ

連続ストリップとは、ロールラベル、つまり印刷可能な連続素材です。

他のマーカータイプとは異なり、連続ストリップではユーザーがレイアウトの外観を決めます。

連続ストリップを追加するには、製品カタログから該当するマークを選択します。

開くマークに応じて、基本ダイアログか、詳細ダイアログが開きます。



マーカーに応じて次の領域を表示できます。

挿入先のストリップ番号:

マーカーを作成する連続ストリップの番号（「一般的な操作」の章の「[複数のストリップを持つ連続素材](#)」のセクションを参照）。

1つのストリップしかない連続ラベルでは、このフィールドは選択できません。

要素の数/各要素の長さ

要素の数に各要素の長さを掛けると、要素の長さの合計が出来ます。

エンドプレート

エンドプレートで1つまたは複数の端子を終端するための距離が考慮されます。

マーカー長

マーカー長が動的な場合は、選択した値でマーカーが作成されます。テキストを入力した後（キーボード入力、インポートなど）、マーカー長は動的にフィールドの内容に合わせて調整されます（縮小/拡大）。

マーカー長が固定の場合は、選択した値でマーカーが作成されます。

マーカーの長さは要素とエンドプレートを足した合計の長さで指定します。

注意：このオプションの場合、後からマーカーを変更することはできません。ただし、マーカー長は後で調整することができます（「一般的な操作」の章の「[マーカー長の調整](#)」セクションを参照）。

すべてのストリップで同じレイアウト(Y)

多くのストリップを持つ連続ラベルの場合に、選択したレイアウトをすべてのストリップに適用します。[「複数のストリップを持つ連続素材」](#)の章を参照してください。

裏面の印字

裏面を印刷するための選択です。

注意：このオプションの場合、後からマーカーを変更することはできません。

注意：一部のオプションはある条件でのみ選択可能です。

キャプションの行数

マーカー当たりのキャプションの行数

ストリップの高さには制限があるため、通常、1行から3行が使用されます。すべての行の合計の高さが、ストリップの高さより大きくなることはできません。

キャプションの行が同じ高さ

キャプションの行の高さは自動的に計算されます。

行...

マーカー上の行

フィールド

その行に表示されるフィールドの数（テキストフィールドなど）。

高さ

行の高さ。

すべての行の合計の高さが、ストリップの高さより大きくなることはできません。

要素の種類

次の選択肢があります。

テキスト要素 : 行は、キャプションが入る複数のテキスト要素で構成されます。
コネクタ要素 : グラフィックコネクタ要素

挿入位置

新規挿入するマーカーはストリップの最後、または現在の位置の前または後に追加できます。

挿入

選択した設定をマーカーとして挿入します。ダイアログが開いている間は、さらにマーカーを挿入できます。

コネクタ

このプロパティウィンドウで調整できるグラフィックコネクタには次のものがあります。



タイプ: 開始

タイプ: コネクター

タイプ: Tコネクター

タイプ: 終了

複数のテキストフィールドを持つ動画素材

後で挿入したフィールド（テキスト、バーコード）を動画素材で使用できるようにさらに編集するには、フィールドのプロパティで「塗りつぶしの順序」プロパティを設定する必要があります（「インターフェイスについて」の章の「動作」のセクションを参照）。

テンプレートを使用

既に作成した動画素材に対して「テンプレートを使用」チェックボックスをオンにすると、既存のレイアウトに対応するテンプレートがあれば、製品カタログからそのテンプレートを追加できます。
ダイアログを表示するには、メニュー「挿入」>「マーカー」の順に選択します。



別のテンプレートを追加すると、技術的な理由により、すべての要素が單一フィールドに変更されます。
この後、コピーしたデータのインポートや貼り付けはできなくなります。

複数のストリップを持つ連続素材

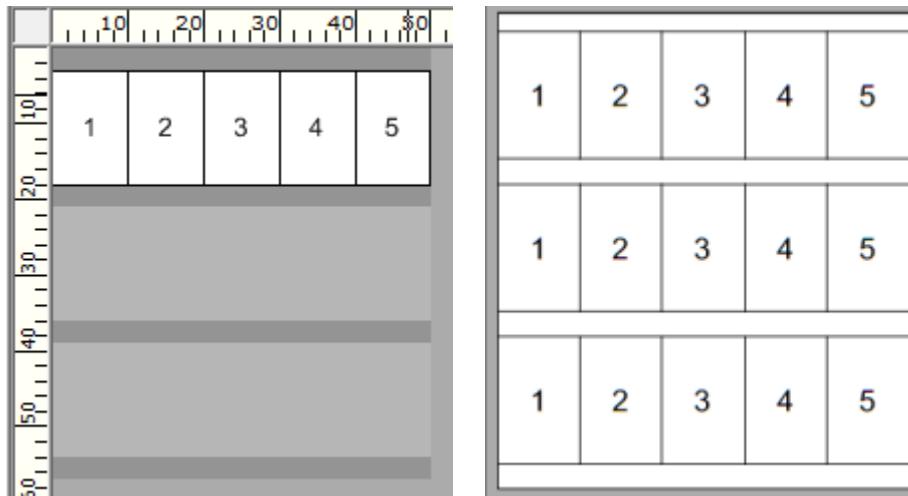
複数のストリップを持つ連続素材では、要素を他のストリップとは無関係に各ストリップごと作成し、キャプションを付けることができます。

次のオプションがあります。

- 最初のストリップのみキャプションを付ける
- 2つ以上のストリップにキャプションを付ける
- 2つ以上のストリップにキャプションを付ける すべてのストリップが同じレイアウト

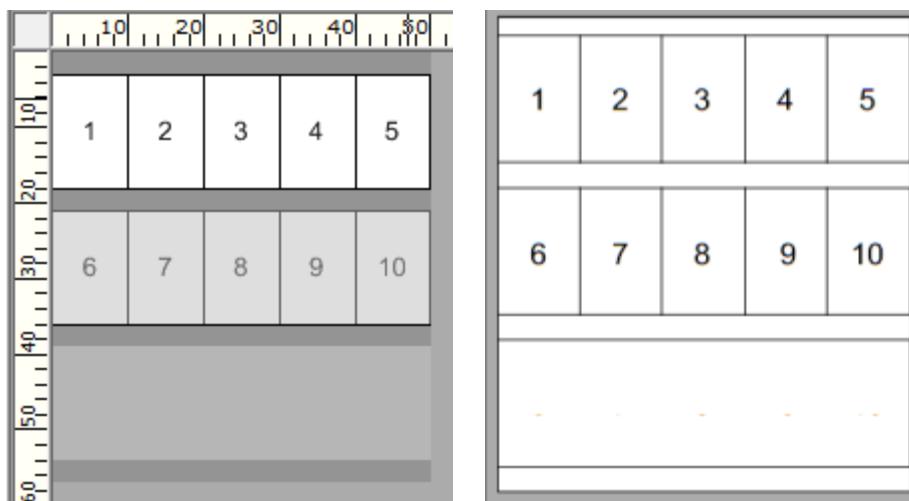
最初のストリップのみキャプションを付ける

最初のストリップのみにキャプションを付ける場合は、その他のすべてのストリップはコピーとして、最初のストリップの内容が印刷されます。

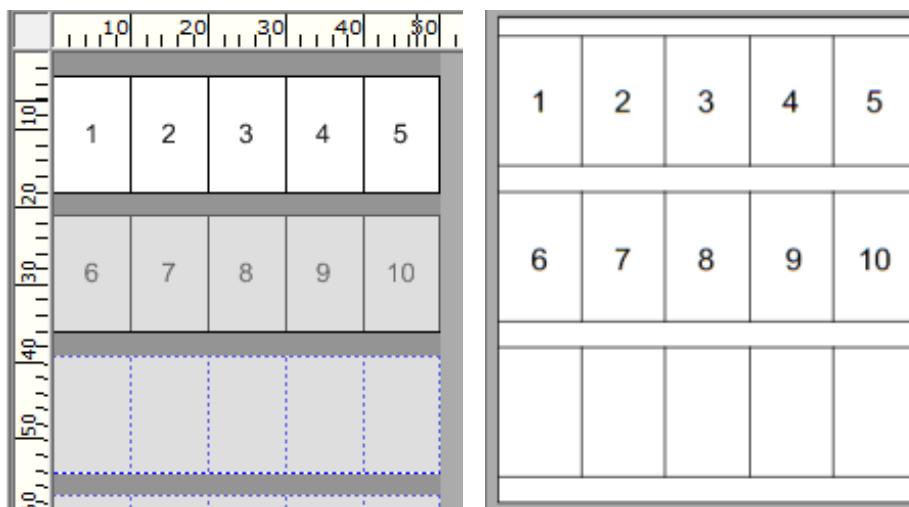


2つ以上のストリップにキャプションを付ける

2つ以上のストリップにキャプションを付ける場合は、すべてのストリップがデスクトップに表示されているように印刷されます。



すべてのストリップが同じレイアウト



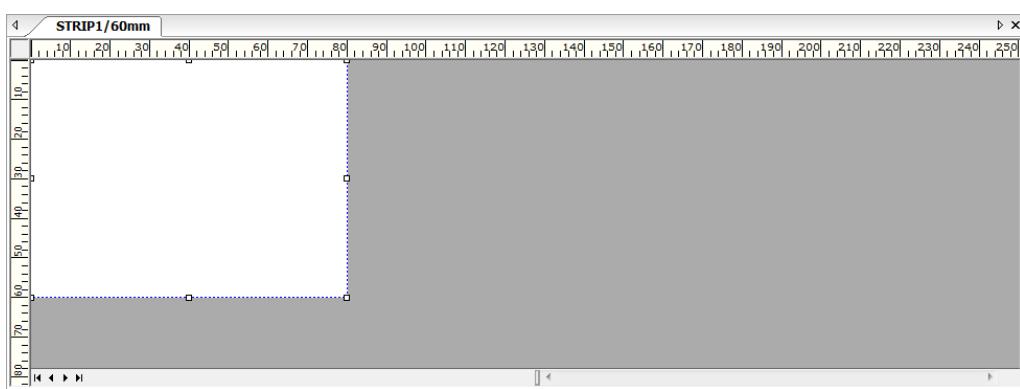
連続ストリップの例

この例では様々なマーカー設定のある連続ストリップを挿入します。

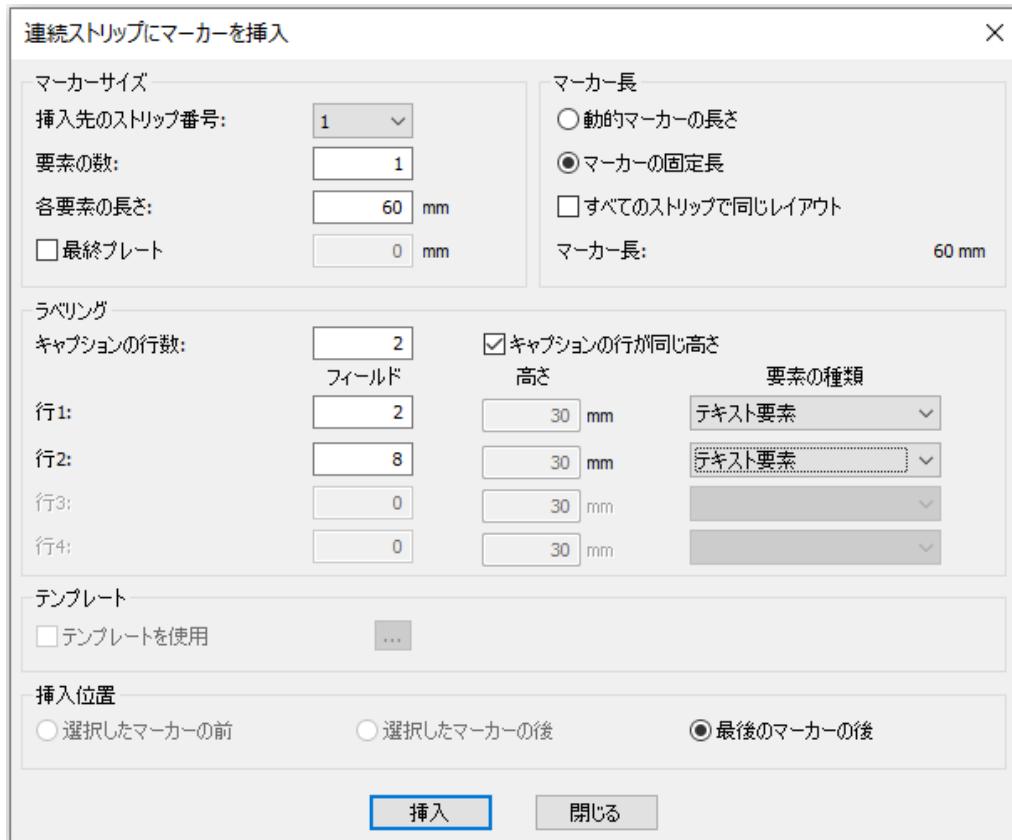
設定1 :



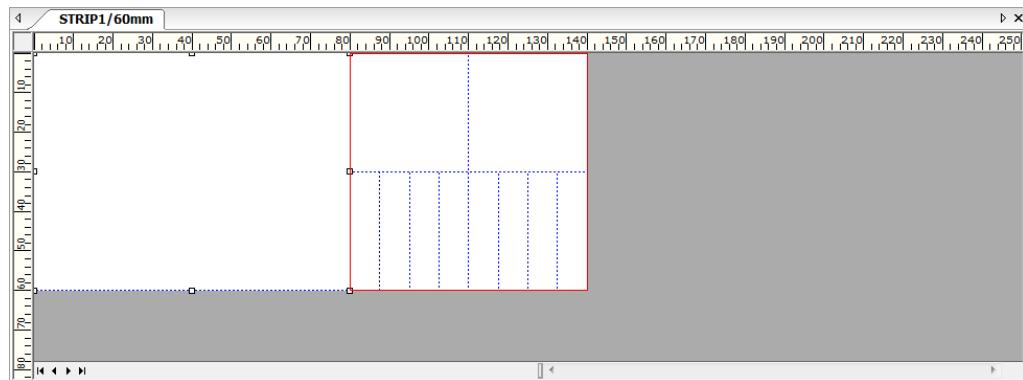
結果1 :



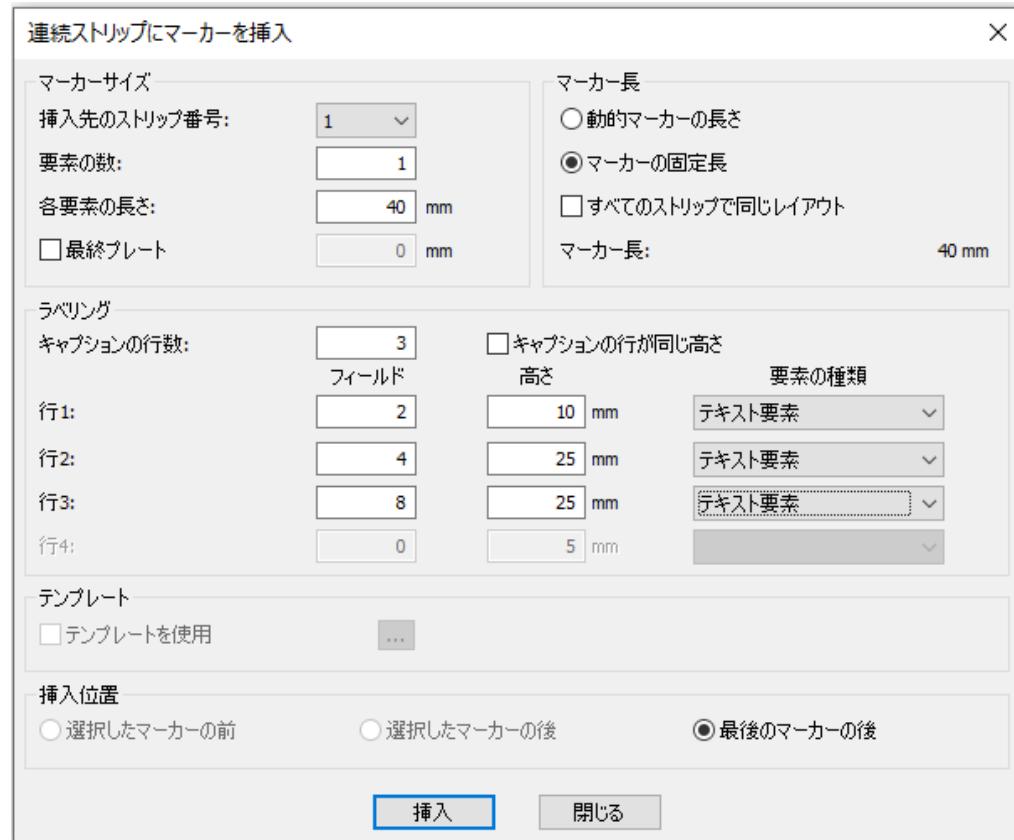
設定2 :



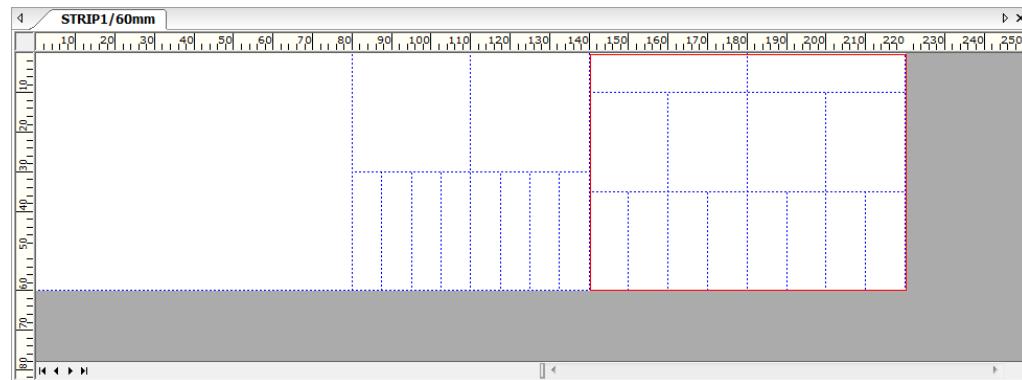
結果2 :



設定3 :



結果3 :



文書の保護

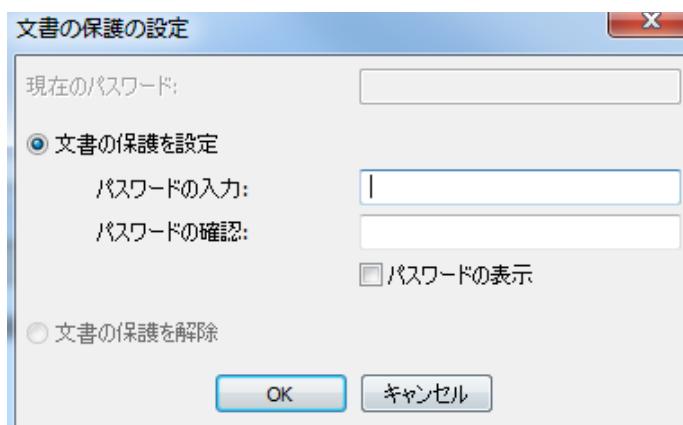
文書の保護を使用して、プログラムファイルのレイアウトが変更されないようにすることができます。これにより、書式の場合のように、コンテンツのみを変更できます。

次のような文書の保護のプロパティに気をつけてください。

- 文書の保護は、「ロック」プロパティを設定したすべての要素に適用されます（「インターフェイスについて」の章の「[動作](#)」のセクションを参照）。
- 特に、「ロック」、「印刷可」、「読み取り専用」プロパティの要素を保護します。
- 要素を削除、移動、および追加から保護します。

文書の保護の設定

メニューの「ツール」>「文書の保護の設定...」で、次の項目をはじめとする幾つかの設定が可能です。



現在のパスワード

パスワードの変更時または文書の保護を解除する際には、現在のパスワードを入力する必要があります。

文書の保護を設定

文書の保護を設定するために、新しいパスワードを定義します。
前のパスワードは上書きされます。

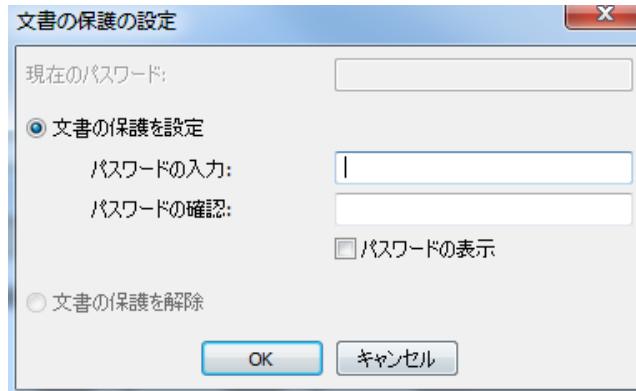
文書の保護を解除

設定されている文書の保護を解除します。現在のパスワードを入力する必要があります。

文書の保護を有効にする

文書の保護を有効にするには、次の手順を実行します。

- プロジェクトファイルを作成し、保護しなければならないすべてのフィールドの「ロック」プロパティを「はい」に設定します（「インターフェイスについて」の章の「動作」のセクションを参照）。
- メニュー「ツール」>「文書の保護の設定...」を選択するか、またはアイコンをクリックします。
- まだパスワードを割り当てていなかった場合は、文書の保護の設定のダイアログが開きます。



- 新しいパスワードを入力し、「OK」をクリックします。

これで文書の保護が有効になりました。

文書の保護が有効であることは次のように表示されます。

- ツールバーの有効のアイコン
- バージョン番号の後（「[ユーザーインターフェイス](#)」の章を参照）。

文書の保護を無効にする

文書の保護を無効にするには、次の手順を実行します。

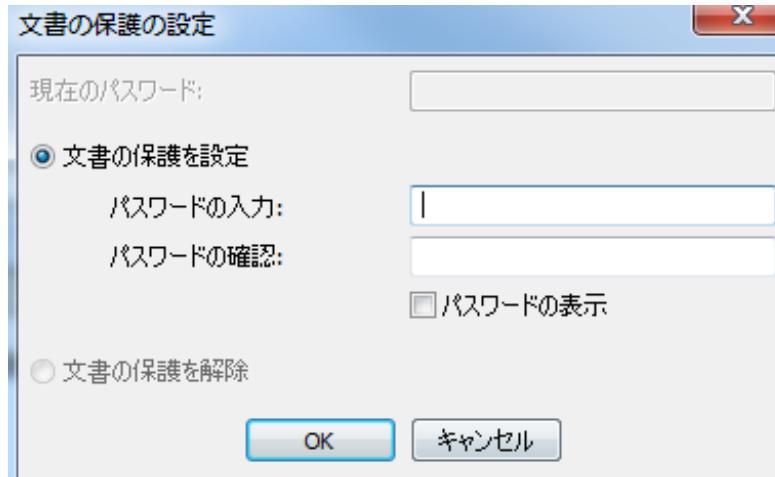
- 保護されているプロジェクトファイルを開きます。
- メニューから「その他」>「文書の保護の設定...」を選択するか、またはアイコンをクリックします。
- ダイアログボックスが開き、パスワードを求められます。

パスワードを入力すると、文書の保護はプロジェクトファイルを終了するまで無効になります。

文書の保護を解除

文書の保護を解除するには、次の手順を実行します。

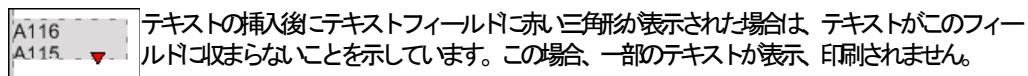
- 保護されているプロジェクトファイルを開きます。
- メニューから「その他」>「文書の保護の設定...」を選択するか、またはアイコンをクリックします。
- 文書の保護を設定するためのダイアログが開きます。



- 現在のパスワードを入力し、「文書の保護を解除」を選択してから「OK」をクリックします。

これで文書の保護が解除されました。

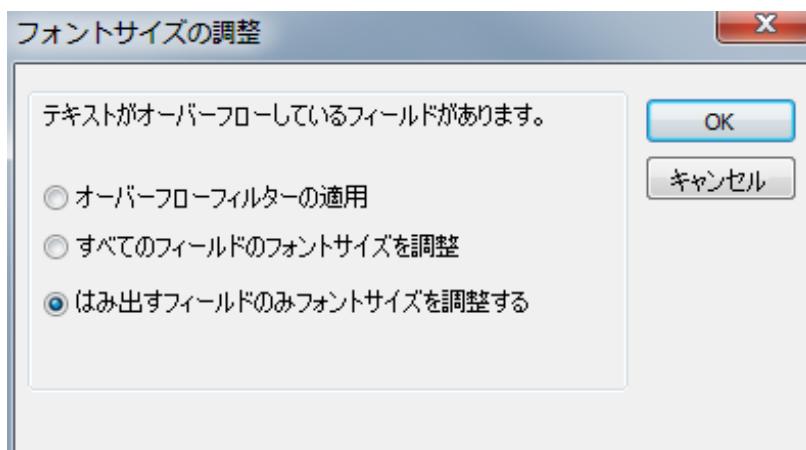
フォントサイズの調整



はみ出したテキストフィールドのフォントサイズを自動的に調整できます。

オーバーフローフィルターは、メニューの「書式」>「フォントサイズの調整..」を使用して呼び出すか、またはプログラムを使用して、インポートの後または印刷の前に自動的に行うことができます。

このダイアログは、はみ出したテキストフィールドがある場合にのみ表示されます。



オーバーフローフィルターの適用

テキストがはみ出しているフィールドのみが表示されます（「一般的な操作」の章の「[オーバーフローフィルター](#)」および「[フィルターの削除](#)」のセクションを参照）。

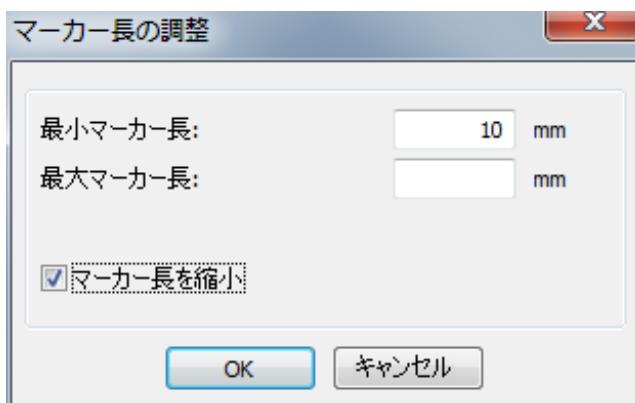
オーバーフローフィルターは連続トリップと連続収縮チュープに適用できません。

マーカー長の調整

メニューの「書式」>「マーカー長の調整..」を選択すると、マーカー長を調整するためのダイアログが開きます。

このオプションでは選択したマーカーについて、次のことができます。

- コンテンツが1行で表示されるように、マーカーを自動的に拡大します。
- フィールドの幅を最適利用できるよう、マーカーを自動的に縮小します。



最小マーカー長

マーカーを拡大できる最小の長さ（テキストフィールドに入っている文字数が少ない場合も）。

「マーカーの幅を縮小」と組み合わせて使うと、幅が広すぎるマーカーが縮小されます。

フィールドに「0」が入力されるか、またはフィールドが空の場合には考慮されません。

最大マーカー長

マーカーを拡大できる最大の長さ。

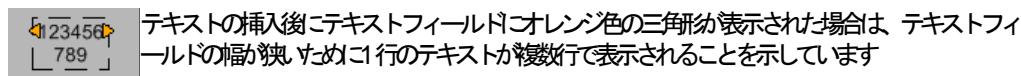
フィールドに「0」が入力されるか、またはフィールドが空の場合には考慮されません。

マーカー長を縮小

(1行の) テキストよりも長いマーカーを自動的に縮小します。その後にテキストがフィールドに完全に入力されます。ただし、マーカーは最小マーカー長よりも縮小されることはありません。

マーカー長は連續ストリップと連續熱収縮チューブでのみ調整できます。

文字列の調整



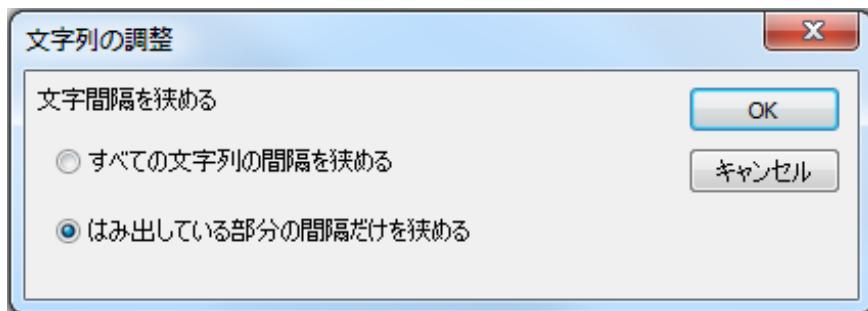
次の方で調整できます。

- マーカー長の調整
「一般的な操作」の章の「[マーカー長の調整](#)」セクションを参照。
- 文字列の調整

メニューの「書式」>「文字列の調整..」を選択すると、文字列を自動調整するためのダイアログが開きます。

このオプションではコンテンツが1行で表示されるように、

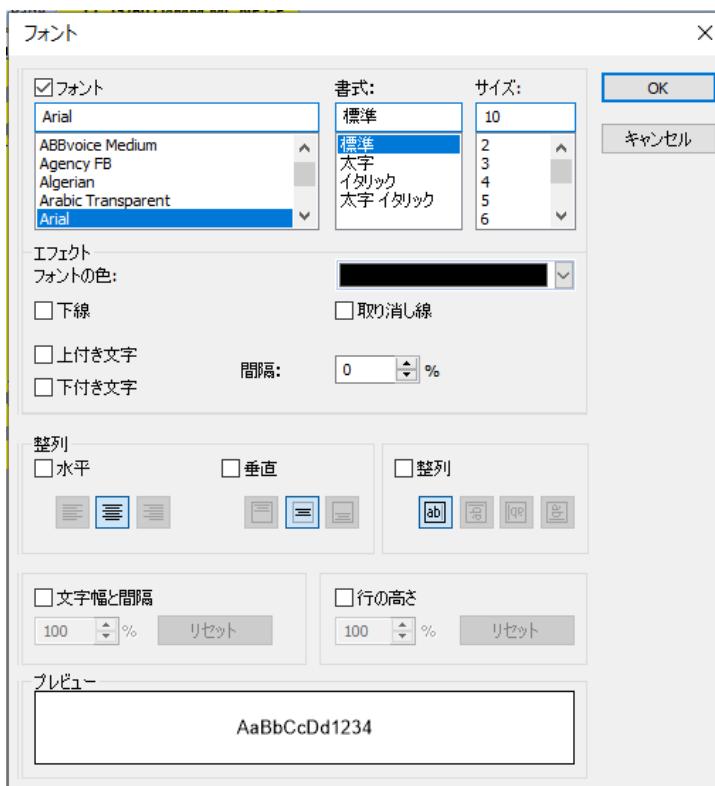
- 選択した文字列の間隔を動的に縮小します。



調整した文字間隔はダイアログ「フォントサイズを調整する」で戻すことができます。「一般的な操作」の章の「[フォントサイズを調整する](#)」セクションを参照してください。

フォントサイズを調整する

メニューの「書式」>「フォント」を選択すると、フォントサイズと文字間隔を調整するためのダイアログが開きます。



上付き文字/下付き文字

上付き文字や下付き文字の間隔は、「スペース」フィールドでさらに変更できます。

文字間隔

選択したテキストの文字間隔を設定する。

文字間隔は次の方法でも変更できます。

- 文字間隔の拡大/フォントサイズを狭める
[「インターフェイスについて」の章の「テキストの書式設定」](#)を参照してください。
- 文字列の調整。
[「一般的な操作」の章の「文字列の調整」](#)セクションを参照。

「リセット」ボタンをクリックすると、選択したすべてのテキストの文字間隔が100%に設定されます。

行の高さ

選択したテキストフィールドの行の高さを設定する

行の高さは次の方法でも変更できます。

- 行の高さを拡大/縮小
「インターフェイスについて」の章の「[テキストの書式設定](#)」を参照してください。

「リセット」ボタンをクリックすると、選択したすべてのテキストフィールドの行の高さが100%に設定されます。

テキストフィールドに入力

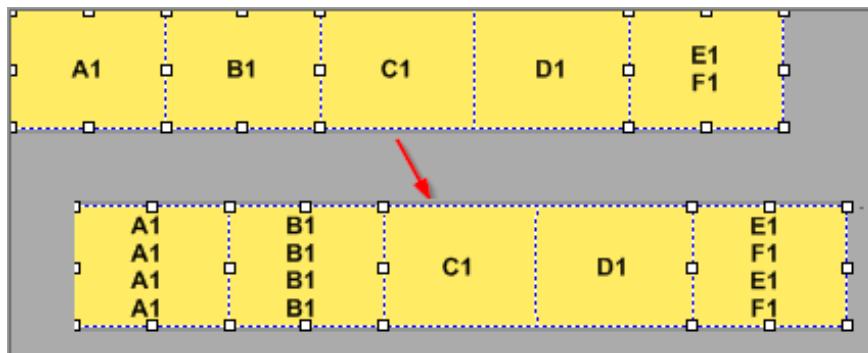
あるテキストフィールドにある既存の行を、そのテキストフィールドが読み出さないで埋まるまで、複製します。

手動入力

この機能は次のメニュー項目で呼び出します。 「挿入」 > 「テキストフィールドに入力」。

選択したテキストフィールドのみが入力されます。

例



自動入力

プロパティ「テキストフィールドに入力」で、フィールドの自動入力を設定できます。

[「プロパティの調整」](#)を参照してください。

各種のアクションが実施されるなかで、テキストフィールドは自動的に入力されます。

例

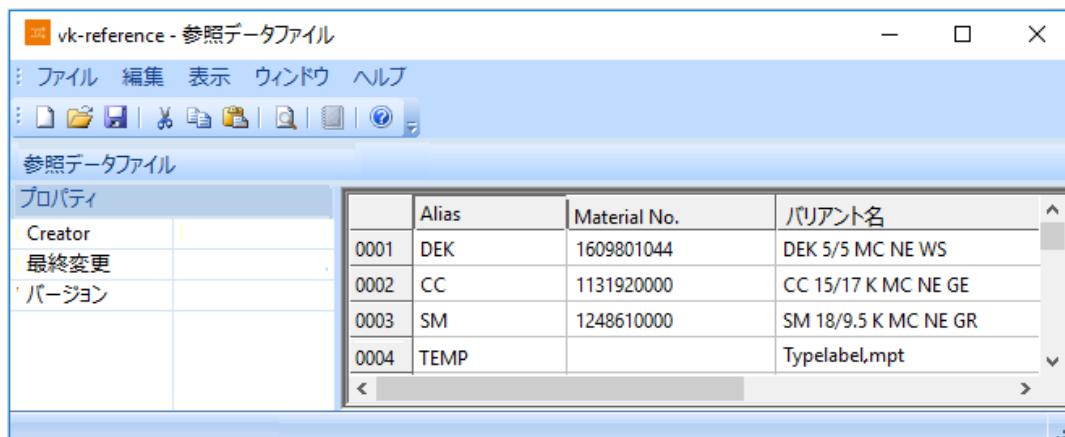
- インポートの後
- コピー/置換の後
- その他

参照データファイル

mpr ファイル

インポート用の参照ファイル (*.mpr) はvk フィルターで使用されます。『[VKインポート](#)』を参照してください。

メニュー「その他」>「参照ファイルエディタ」を選択して、参照ファイルエディタを開きます。



参照ファイル (*.mpr) を開いて編集することも、ファイルを新規作成することもできます。

Alias (エイリアス)

エイリアスは、インポート時の素材の割り当て先を参照するのに使われます。『[参照列](#)』を参照してください。

「*」記号は、文字がない場合を含む、任意の数の文字を表すプレースホルダーとして使えます。
例：「DEK*」で、参照列に含まれるすべてのDEK項目を検索します。

マーカー番号/バリアント名

ここでは、ファイルを手動で登録するか、または製品カタログから選択することができます。

それぞれのフィールドをダブルクリックすると、その製品カタログが開きます。『[製品カタログ](#)』を参照してください。



テンプレート (*.mpt) を選択する際には、素材番号は保存されずに、ファイル名だけが保存されます。

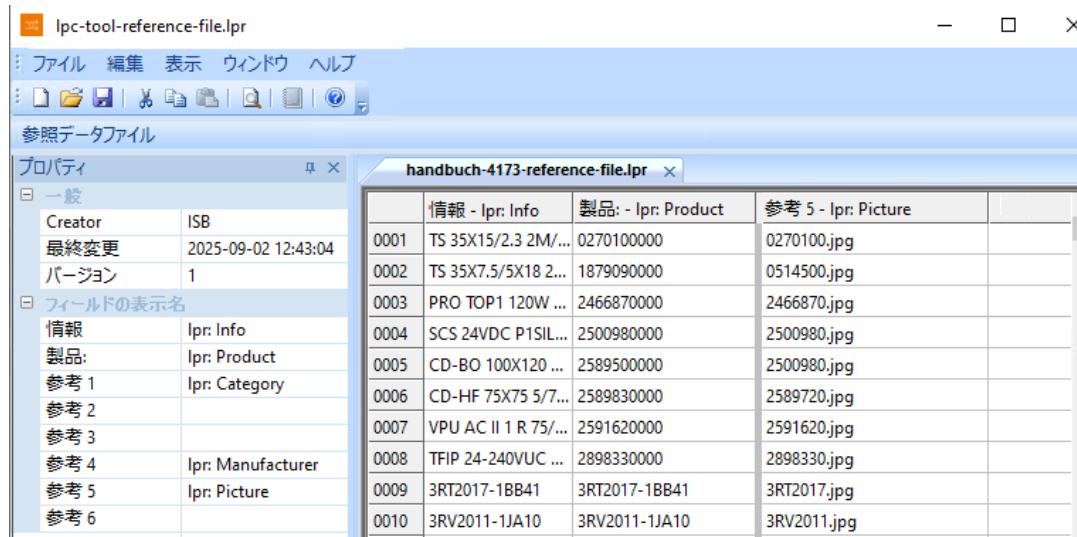
Ipr ファイル

参照ファイル (*.lpr) は、LPC-Tool の拡張マーカープロパティをインポートするために使用されます。を参照してください。『[拡張マーカープロパティの設定: LPC](#)』

LPC-Tool では以下の情報フィールドを使用できます。

- 情報
- 製品
- 参照 1 から 参照 6

メニュー「その他」>「参照ファイルエディタ」を選択して、参照ファイルエディタを開きます。



参照ファイル (*.lpr) を開いて編集することも、ファイルを新規に作成することもできます。

製品

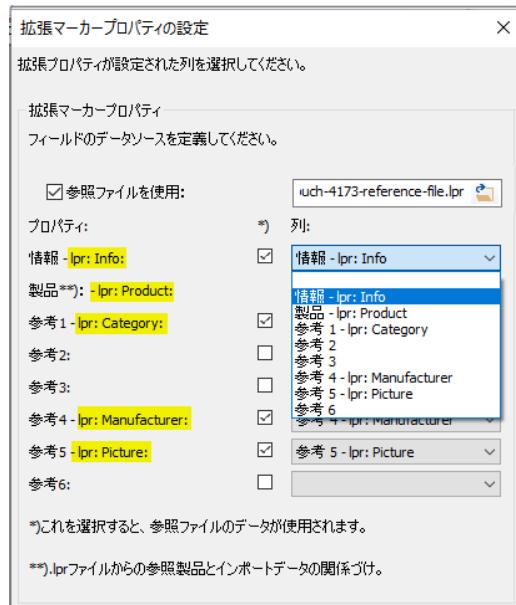
「製品」列は、インポート時にインポート列の割り当て先を参照するのに使われます。を参照してください。『[拡張マーカープロパティの設定: LPC](#)』

フィールドの表示名

プロパティウィンドウのフィールドの表示名によって、列見出しにエイリアスを入力できます。

このエイリアスは次の場面で表示されます。

- ファイルのインポートウィザード
を参照してください。『[拡張マーカープロパティの設定: LPC](#)』



- **LPC-Tool**
LPC-Toolのマニュアルを参照してください。



グループフィールド

グループフィールド（グループマーカー）は、多くのマーカーをセットアップできるテキストフィールドです。

この機能は次の素材で使用できます：MultiCard (selected), MultiMark Terminal Marker (Pitched Strip)

	10	20	30	40	50	60	70
	G 01				G 02		
1	2	3	4	5	6	7	8

選択したマーカーに対するグループフィールド

選択したマーカーに対するグループフィールドを追加します。

この機能は次のメニュー項目で呼び出します。[挿入] > [選択したマーカーに対するグループフィールド]

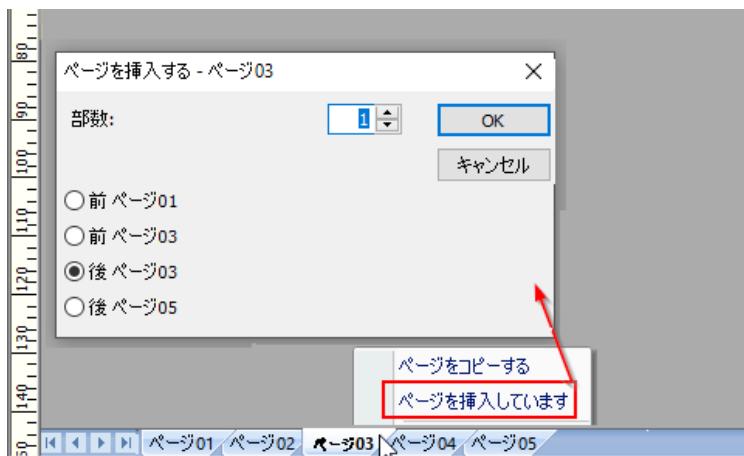
例

	10	20	30	40	50	60	70
1	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	
1	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	

図解説：上部の操作画面では、マーカー番号 2, 3, 4, 5 の範囲が赤枠で囲まれています。下部の結果画面では、この範囲が G01 と名づけられた新しいグループに変換されています。同様に、マーカー番号 8, 9 の範囲が G02 に、マーカー番号 12 の範囲が G03 にそれぞれ変換されています。

ページをコピーする

ページのタブを右クリックしてください。
次のコンテキストメニューが開きます:



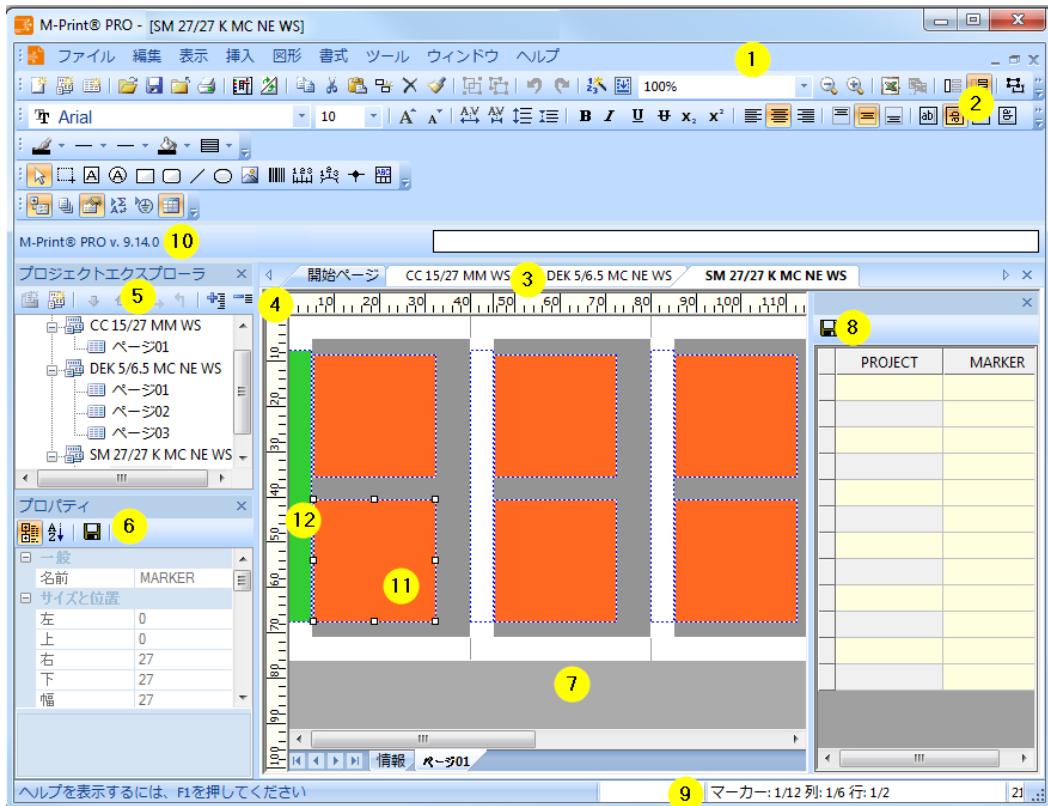
ページをコピーする
選択したページがコピーされます。

ページを挿入する...
コピーされたページの挿入位置とコピー回数を選択してください。

ユーザーインターフェイス

はじめに

このユーザーインターフェイスは設定に応じて様々な要素で構成されます。



1 メニューバー

メニューバーを使用して、プログラムの重要な機能にアクセスできます。
それぞれのメニュー項目を有効または無効にできます。

2 ツールバー

ツールバーのアイコンを使用して、重要なコマンドを実行できます。
ツールバーは移動したりドッキングすることができます。

3 タブ

タブはツールバーの下に配置されます。
タブをクリックすると、該当するマーカータイプが最前面に配置されます。

- 4 ルーラー
 - ワークスペースの上端と左端にはルーラーがあります。これらのルーラーを使用して、位置や距離の値を測定できます。
- 5 プロジェクトエクスプローラ
規定では、プロジェクトエクスプローラはユーザーインターフェイスの左の部分に表示されます。
プロジェクトエクスプローラは階層構造になっており、プロジェクトの管理に使用されます（「[「プロジェクトエクスプローラ」ウィンドウ](#)」のセクションを参照）。
- 6 「プロパティ」ウィンドウ
「プロパティ」ウィンドウでは様々な要素（テキストフィールド、画像、バーコードなど）のプロパティを表示したり、変更することができます（詳細については、「[「プロパティ」ウィンドウ](#)」の章を参照）。
- 7 ワークスペース
ユーザーインターフェイスの右の部分にはワークスペースがあります。
ここで現在選択されているマーカータイプを表示し、編集することができます。
- 8 データグリッド
データグリッドでは、マーカー要素「テキストフィールド」および「バーコード」のコンテンツを表形式で表示し、編集することができます。
(「[「データグリッド」ウィンドウ](#)」の章を参照。)
- 9 ステータスバー
ステータスバーはユーザーインターフェイスの下部にあります。
次のものが表示されます。
 - アクティブなレイヤー（マーカーレイヤー、フリーレイヤーなど）
 - 使用可能なマーカー数、アクティブなレイヤーの列数と行数
 - X方向とY方向のカーソルの位置と長さの単位（mmなど）
 - CAP、NUM、SCRL機能のステータス
アクティブな機能は黒で表示されます。
- 10 バージョン番号
現在のプログラムのバージョンが表示されます。

11 マーカー領域

そのマーカータイプの印刷可能な領域。

デフォルトで、各マーカー領域（「マーカー」）には文書固有のテキスト要素があります（「[フィールド](#)」のセクションを参照）。

マーカー領域はマーカーレイヤーに配置されます。

12 プロジェクトレイヤー

デフォルトで、プロジェクトレイヤーにはプロジェクトマーカーと呼ばれる文書固有のテキスト要素があります。

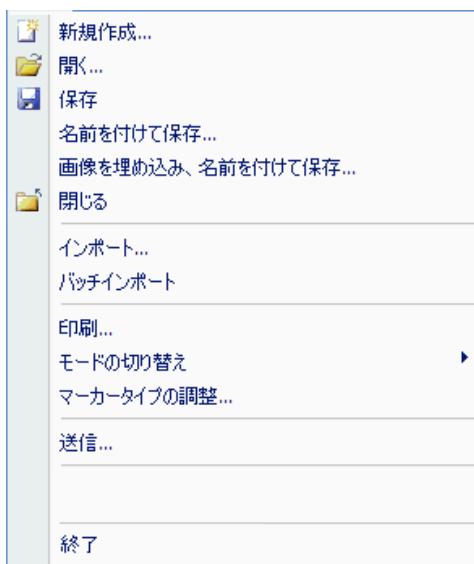
要素

テキストフィールド、図形（線、四角形、楕円、スケール）、画像（イメージ）、バーコードは、「要素」と呼ばれます。

メニューバー

このセクションでは各メニューの重要な機能について説明します。

「ファイル」メニュー



新規作成

このメニュー項目を使用して新しいファイルを作成します。

開く

既存のファイルを開きます。ファイル名の指定は「オプション」ダイアログで設定できます（「「オプション」ダイアログ」の章の「[環境](#)」および「一般」セクションを参照）。

保存

編集したファイルを保存します。

名前を付けて保存...

このメニュー項目を使用して、ファイルに新しい名前を指定してファイルを保存します。

画像を埋め込み、名前を付けて保存

プログラムファイルで使用できる画像を埋め込み、ファイルに新しい名前を指定して保存します。

閉じる

ファイルを閉じます。

インポート...

このメニュー項目を使用して、他の形式からデータを取り込みます。

バッチインポート

スクリプトを使用して外部データをインポートできます。

印刷...

このメニュー項目により、マーカータイプの印刷用ダイアログウィンドウが表示されます。

モードの切り替え

プリントモードに切り替えます。「プリントモード」を参照してください。

マーカータイプの調整..

このメニュー項目を使用してマーカータイプを調整します（「[プリントオフセットの調整](#)」のセクションを参照）。

送信..

このメニュー項目を使用して、既存のプロジェクトをメールで送信できます。

最近使用したファイル

この領域には最近開いたファイルが表示されます。

終了

このメニュー項目でプログラムを終了します。

「編集」メニュー



元に戻す

最後の編集手順を元に戻します。

やり直し

元に戻した手順をもう一度行います。基本的な機能に対するやり直しは、再度元に戻すことができません。

切り取り

このメニュー項目により、選択した1つ以上の要素を切り取ります。

コピー

このメニュー項目により、選択した1つ以上の要素をコピーします。

貼り付け

このメニュー項目により、クリップボードの内容を選択したフィールドに入力します。

要素の貼り付け

このメニュー項目により、コピーした要素を選択したフィールドに貼り付けます（シンボルなど）

テキストだけを貼り付ける

クリップボードのテキスト部分のみ貼り付けられます（ターゲット要素にテキストを表示できる場合）。要素のオーバージョン設定が変更されません。

複数挿入

このメニュー項目を使用すると、コピーした要素を複数回挿入できます（「[複数挿入](#)」のセクションを参照）。

複製

このメニュー項目により、選択した要素を複製し、選択した要素から少しずらして配置します。

マーカーの複製

選択したマーカーをすべての要素とともに複製し、以下のマーカーに挿入します。

グループ化

選択した要素（またはグループ）をまとめて、1つの新しいグループにします（「[グループ化](#)」のセクションを参照）。

グループ解除

選択したグループのグループ化を解除します。

Excelの編集を開始する

このメニュー項目により、Excelの編集が始まります（「[Excelの編集](#)」のセクションを参照）。

Excelの編集を終了する

このメニュー項目により、Excelの編集が終了します。

検索

検索ダイアログを呼び出します。入力された検索基準に対して現在のマーカーが検索されます。

複数行の検索が可能です。現在のレイヤーでのみ実行できます。

置換

検索/置換ダイアログを呼び出します。

入力された検索基準に対して現在のマーカーが検索されます。

複数行の検索と置換が可能です。現在のレイヤーでのみ実行できます。

改行の挿入

改行を挿入するためのダイアログが開きます（「[改行の挿入](#)」のセクションを参照）。

コンテンツの同期

データソースが存在するすべてのフィールドを同期します（「[コンテンツの同期](#)」のセクションを参照）。

選択

このメニュー項目で、要素を選択するための様々なオプションを使用できます（例：すべてのフィールド（現在のページ）、または、すべてのフィールド（すべてのページ））。

削除

このメニュー項目で、要素を削除するための様々なオプションを使用できます（テキストフィールド、四角、ページ、空のマーク、マーカーの複数など）。

マーカータイプの変更

このメニュー項目でマーカータイプを変更できます。

内容は継承されます（可削除の場合）。

マーカータイプの削除

このメニュー項目でマーカータイプを削除できます。

書式のコピー/貼り付け

これにより、書式、フォント、色などをコピーし、他の要素に貼り付けてできます。

マーカーを並べ替える

マーカーを並べ替えるためのダイアログが開きます。ここで、様々なソート基準でマーカーを並べ替えることができます。

マーカーを反転する

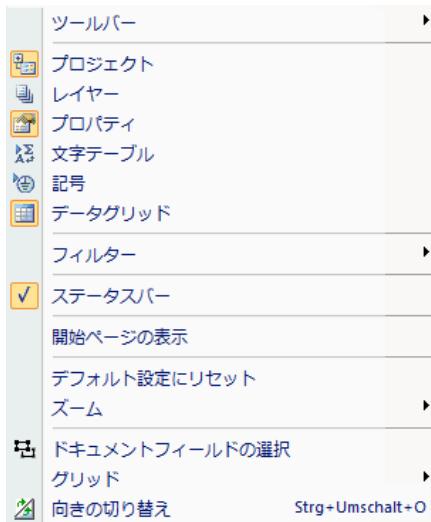
この機能を使用すると、選択したマーカーの順番を反転することができます。

多層レベル端末

「多層レベル端末」ダイアログが開きます。

この機能を使用して、事前定義したステップ幅で選択したデータを再度並べ替えることができます（「[多層レベル端末](#)」の章を参照）。

【表示】メニュー



ツールバー

このメニュー項目には次のサブメニューがあります。

デフォルト

デフォルトのツールバーは無効にすることができます。

レイアウト

要素の位置を決めます（回転、整列など）。

テキストの書式設定

フォント、フォントサイズ、色など、テキストを書式設定するための機能が含まれます。

枠線と塗りつぶし

テキスト要素の書式を設定するための機能が含まれます

（線の太さや塗りつぶしの色など）。

要素

テキストフィールド、画像、バーコードなど、挿入できるすべての要素を挿入するための選択フィールドです。

ダッキングバー表示

このサブメニューにより開くウィンドウで、「プロパティ」や「レイヤー」など様々な編集ウィンドウを表示することができます。また、プロジェクトエクスプローラの表示と非表示を切り替えることができます。

THM MMP

切り取りマークによる設定ができます。次の章を参照してください。「THM MMP」

ヘッダー行

これにより、プログラムの名前とバージョンが表示されるタイトルバーの表示と非表示を切り替えることができます。

カスタマイズ..

このメニュー項目によりダイアログウィンドウが表示され、ツールバーのアイコンを画面に表示させる方法を指定したり、新しいツールバーを作成することができます。

プロジェクト

プロジェクトエクスプローラの表示と非表示を切り替えます。

レイヤー

「レイヤー」ウィンドウの表示と非表示を切り替えます。

プロパティ

「プロパティ」ウィンドウの表示と非表示を切り替えます。

文字テープル

「文字テープル」ウィンドウの表示と非表示を切り替えます。

シンボル

「シンボル」ウィンドウの表示と非表示を切り替えます。

データグリッド

データグリッドの表示と非表示を切り替えます。

この表はデータの入力に使用されます。データは同時にマーカーに表示されます（「[「データグリッド」ウィンドウ](#)」の章を参照）。

フィルター

ここでは、指定した基準に従って現在のマーカーをフィルター処理し、フィルター処理した結果のみが表示されるようにします（「[「フィルター機能」](#)の章を参照）。

ステータスバー

ステータスバーの表示と非表示を切り替えます。

開始ページの表示

ワークスペースでの開始ページの表示と非表示を切り替えます。

デフォルト設定リセット

変更したすべての設定をもう一度デフォルト設定に戻します。

ズーム

このメニュー項目には次のサブメニューがあります。

最大化

描画領域の表示を最大化します

最小化

描画領域の表示を最小化します

元のサイズに戻す

描画領域の表示サイズを元に戻します。

ドキュメントフィールドの選択

マーカーを選択する際に、すべてのマーカーが選択されます。

グリッド

このメニュー項目には次のサブメニューがあります。

表示

このメニュー項目により、マーカー上にグリッド線を配置できます。

要素をグリッド線ごとに整列させることができます。

[「要素をグリッドに揃える」の章を参照](#)

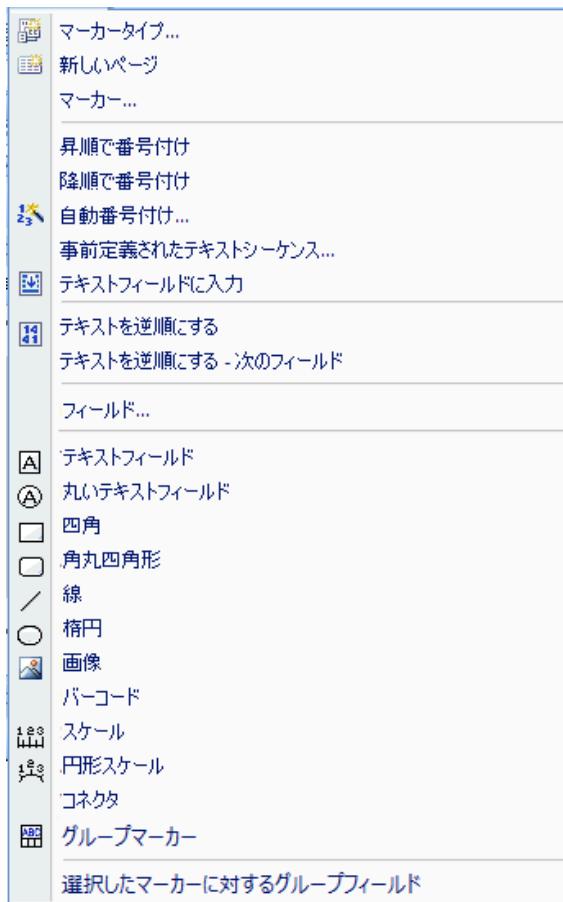
グリッドへ配置

これにより、要素をグリッド線に配置するかどうかを指定します。

向きの切り替え

回転表示ではすべての要素が90度回転して表示されます。要素（バーコードやテキスト）は回転した表示のままWYSIWYGモードで編集できます。

挿入」メニュー



マークータイプ...

このコンテキストメニュー項目を使用して、新しいマークータイプを挿入できます。マークータイプを選択するため、製品カタログが表示されます。

新しいページ

現在のマークータイプに新しいページを挿入します。

マークー...

マークータイプに選択可能な数のマークーを追加します。

連続ストリップの挿入については、「[連続ストリップ](#)」の章を参照してください。

昇順で番号付け

マークー/テキスト要素の数値を増やして次のマークー/テキスト要素を挿入します。



ターゲットのテキストフィールドの以前の内容は、これにより上書きされます。

降順で番号付け

マーカー/テキスト要素の数値を減らして次のマーカー/テキスト要素に挿入します。

i ターゲットのテキストフィールドの以前の内容は、これにより上書きされます。

i 降順で番号付けるのは、正数値のみです。

自動番号付け...

このメニュー項目を使用すると、マーカーに自動的に番号を付けることができます（「[自動番号付け](#)」の章を参照）。

事前定義されたテキストシーケンス...

事前定義されたテキストシーケンスを挿入します。「[事前定義されたテキストシーケンスの挿入](#)」の章を参照してください。

i 事前定義されたテキストシーケンスは、テキスト要素でのみ可能です。

テキストフィールドに入力

あるテキストフィールドにある既存の行を、そのテキストフィールドが読み出されないで埋まるまで、複製します。「[テキストフィールドに入力](#)」の章を参照してください。

テキストを逆順にする

マーキングされたテキストの文字が逆順になります。選択可能な区切り文字によって、テキストの順番を変えることもできます。」「[テキストの置換](#)」を参照してください。

ショートカット: Alt+Shift+T

例 ABCD -> DCBA

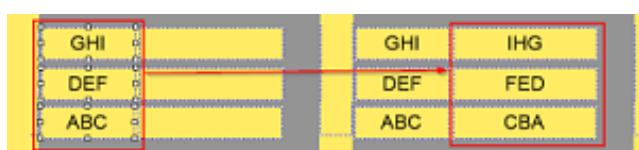
テキストを逆順にする- 次のフィールド

マーキングされたテキストの文字が逆順が選択され、それぞれ次のフィールドに挿入されます。

選択可能な区切り文字によって、テキストの順番を変えることもできます。「[テキストの置換](#)」を参照してください。

ショートカット: Alt+Shift+R

例



フィールド

ここでフィールドの各種機能を挿入できます（システムの日付やページ番号など）。

テキストフィールド

テキストフィールドを1つ追加します。

丸いテキストフィールド

丸いテキストフィールドを1つ追加します。

四角

四角を1つ追加します。

角丸四角形

角が丸い四角を1つ追加します。

線

線を1本追加します。

楕円

楕円を1つ追加します。

画像

画像を1つ追加します。

バーコード

このメニュー項目を選択すると、さらにサブメニューが開き、表示するタイプのバーコード（コード39、インダストリアル2 of 5、EAN13など）を追加できます（「[バーコードの挿入](#)」のセクションを参照）。

スケール

スケールを1つ追加します（「[スケールの挿入](#)」のセクションを参照）。

角丸スケール

丸いスケールを1つ追加します（「[スケールの挿入](#)」のセクションを参照）。

コネクタ

様々なコネクタを挿入します。「[連続ストリップ](#)」の章を参照してください。

グループフィールド

グループフィールドを1つ追加します。「[グループフィールド](#)」を参照してください。

選択したマーカーに対するグループフィールド

選択したマーカーに対するグループフィールドを追加します。「[グループフィールド](#)」を参照してください。

【図形】メニュー

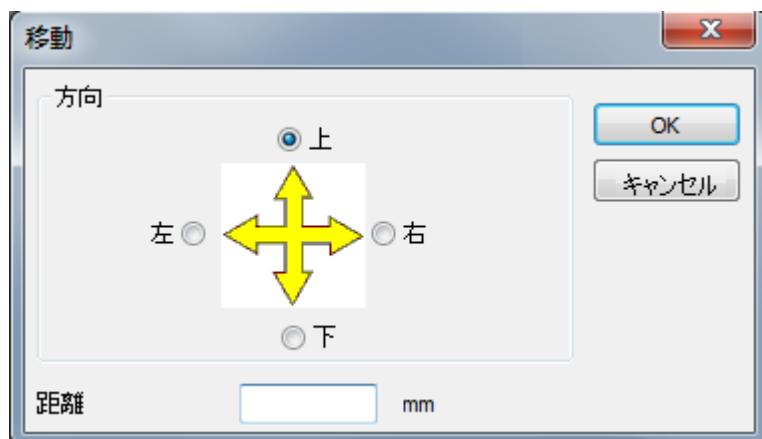


このメニューを使用して、要素の整列、回転、移動をしたり、幅と高さを調整することができます。

図形の移動

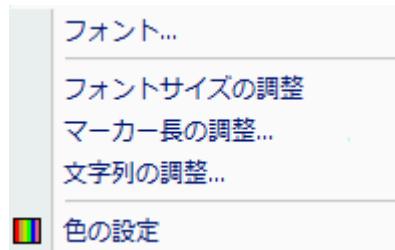
- メニューから「図形」>「移動...」を選択します。

次のウィンドウが表示されます。



- 要素を移動する方向を、該当するオプションボタンをクリックして選択します。
- この要素を何ミリ（インチ、μm、cm）移動するかを指定します。
表示される単位は、「オプション」ウィンドウで行った設定によって決まります。
- 「OK」をクリックして、入力した値を確定します。

【書式】メニュー



フォント

このメニュー項目を選択するとウインドウが開き、そこでフォントやフォントサイズなどを設定できます。「一般的な操作」の章の「[フォントサイズを調整する](#)」セクションを参照してください。

フォントサイズの調整

はじめ出しているテキストフィールドのフォントサイズを自動的に調整できます（「一般的な操作」の章の「[フォントサイズの調整](#)」セクションを参照）。

このダイアログが表示されない場合は、条件が満たされていないか、ダイアログの表示が選択されていないかのどちらかです（「「オプション」ダイアログ」の章の「[環境](#)」セクションと「全般」セクションを参照）。

マーカー長の調整

マーカー長は（連続トリップと連続収縮チューブの場合）自動的に調整することができます（「一般的な操作」の章の「[マーカー長の調整](#)」セクションを参照）。

文字列の調整

文字列の文字間隔を自動的に縮小できます。「一般的な操作」の章の「[文字列の調整](#)」セクションを参照。

色の設定

選択したテキストフィールドの色の設定を有効にします（「[色の設定](#)」の章を参照）。

「その他」メニュー



製品カタログ...

例えば、既存のプロジェクトに新しいマーカータイプを追加するには「製品カタログ」ウィンドウを開きます。

事前定義されたテキストシーケンス...

このメニュー項目を使用してテキストシーケンスを定義できます。その後このテキストシーケンスを「追加」>「事前定義されたテキストシーケンス」を使用して追加できます
(「[事前定義テキストシーケンスの定義](#)」の章も参照)。

事前定義されたテキストシーケンスは、テキスト要素でのみ可能です。

素材リスト...

プロジェクトエクスプローラから全素材のリストを開きます。

「「プロジェクトエクスプローラ」ウィンドウ」を参照してください。

当該リストは保存したり、クリップボードにコピーしたり、また印刷することもできます。

注文...

注文ウィザードを使用して、現在開いているプロジェクトからマーカータイプをメールで注文できます(「注文、注文ウィザード」の章を参照)。

プロッターシンボルエディタ...

このメニュー項目を使用してプロッターシンボルエディタを呼び出します(「[シンボルエクスプローラ/プロッターシンボルエディタ](#)」のセクションを参照)。

レイアウト

「レイアウト」メニューは朝刊用ライセンスがある場合にのみ使用できます。

ライセンスについては、プログラムの制作会社に問い合わせるか、または、ユーザーマニュアルを参照してください。

参照データファイル...

参照ファイル.mprから作成し、カスタマイズする。「[参照データファイル](#)」を参照してください。

ファイルフォーマットコンバータ...

古いフォーマットと新しいフォーマットの間でファイルを変換します。

以下のバージョンを使用できます：

	ZIP パスワード	AES	SHA-Hash	
V 9.2以下のバージョン		X	X	最大セキュリティレベル
V 9.0		X		標準セキュリティレベル
古いバージョン	X			最小セキュリティレベル

-  プログラムファイルを開く、および保存するためのセキュリティレベルを調整できます。「[セキュリティ](#)」を参照してください。

終端マーカーコンバーター...

終端マーカーを使用して、プロジェクトを現在のデザインから変換します。

文書の保護...

文書の保護を有効または無効にします。文書の保護のためのパスワードが設定されていない場合は、設定ダイアログが開きます（「[文書の保護](#)」の章を参照）。

文書の保護の設定...

文書の保護の設定ダイアログを使用して、新しいパスワードを設定したり、文書の保護を解除することができます（「[文書の保護の設定](#)」の章を参照）。

プリンターの管理

- [プリンターエクスプローラ...](#)

設置されている場合は、次のプリンターのプリンターエクスプローラが開きます。「[プリンターエクスプローラ](#)」の章を参照してください。

- [状態モニター...](#)

設置されている場合は、次のプリンターの状態モニターが開きます。「[状態モニター](#)」の章を参照してください。

- [プリンター補正の適用...](#)

このメニュー項目を使用して、プリンターの補正を適用します（「[プリンター補正](#)」セクションを参照）。

- [材枠剥りスリップの補正...](#)

このメニュー項目を使用して、材枠剥りスリップを補正します。

- [校正...](#)

選択したマーカータイプに合わせてプリンターを調整します（「[プリンタオフセットの調整](#)」の章を参照）。

オプション

このメニュー項目を選択すると「オプション」ウィンドウが開きます。ここで、長さの単位の設定、グリッド線の色の指定など、様々なユーザー設定を行うことができます（「[「オプション」ダイアログ](#)」の章を参照）。

「ウィンドウ」メニュー



重ねて表示

このメニュー項目を選択すると、開いているマーカータイプおよび開始ページがカスクード表示されます。

タイル

このメニュー項目では、開いているマーカータイプと開始ページがワークスペース内で並べて配置されます。

アイコンの整列

このメニュー項目を使って、すべてのウィンドウをアイコンのサイズに縮小表示できます。

すべて閉じる

このメニュー項目を選択すると、すべてのマーカータイプが閉じます。ファイルをまだ保存していない場合は、ここでメッセージボックスが表示されます。

「ヘルプ」メニュー



ヘルプトピック

このメニュー項目を使用して、オンラインヘルプにアクセスします。

プログラムのWebサイト

このメニュー項目を選択すると、プログラムのWebサイトが規定のブラウザで開きます。

更新の確認..

ソフトウェアの最新の更新版をインターネットで検索します。

モジュールの追加..

特定のプログラム機能のアクティベーションには、ソフトウェアキー、ライセンスキー、モジュールキーのいずれかを使います。

バージョン情報..

ご使用のサードパーティ製ソフトウェアのバージョン番号と情報を表示。

Shortcut keys

Function	Shortcut keys
インポート	Shift+Alt+I
バッチインポート	Shift+Alt+G
印刷	Ctrl+P
元に戻す	Ctrl+Z
やり直し	Ctrl+Y
切り取り	Ctrl+X
コピー	Ctrl+C
貼り付け	Ctrl+V
テキストだけを貼り付ける	Ctrl+Shift+Alt+V
要素の貼り付け	Ctrl+V
複数挿入	Ctrl+M
複製	Ctrl+D
マーカーの複製	Ctrl+Shift+Alt+D
グループ化	Ctrl+G
グループ解除	Ctrl+Shift+G
Excelの編集を開始する	F5
Excel®の編集を終了する	Ctrl+F5
検索	Ctrl+F
置換	Ctrl+H
改行の挿入	Ctrl+Shift+F
同期コンテンツ	Ctrl+Shift+Y
マーカーを反転する	Ctrl+F9
向きの切り替え	Ctrl+Shift+O
挿入 - マーカー	Ctrl+I
昇順で番号付け	Shift+F8
降順で番号付け	Shift+F7
自動番号付け	F8
事前定義されたテキストシーケンスの挿入	F9
テキストを逆順にする	Umsch+Alt+T
テキストを逆順にする - 次のフィールド	Shift+Alt+R
左に回転	Ctrl+L
右に回転	Ctrl+R
System Information	F12
改行	Ctrl+Enter

ツールバー

この章ではツールバーの最も重要な要素について説明します。
保存や書式といった、多くの標準的なアイコンについて詳しい説明は省略します。

標準

「標準」ツールバーは常に表示されます。



アイコンの説明



ファイルを閉じる

開いているプロジェクトを閉じます。場合によっては保存を確認するためのプロンプトが表示されます。



印刷モード

プリントモードに切り替えます。「プリントモード」を参照してください。



向きの切り替え

ワークスペースでの表示の横と縦を切り替えます。
連続ストリップでは切り替えることができません。



複製

選択した要素を複製します。



グループ化

選択した要素（またはグループ）をまとめて、1つの新しいグループにします（「グループ化」のセクションを参照）。



グループ解除

選択したグループのグループ化を解除します。



自動番号付け

自動的に番号付けをするためのダイアログが開きます（「自動番号付け」の章を参照）。



テキストフィールドに入力

あるテキストフィールドにある既存の行を、そのテキストフィールドが読み出さないで埋まるまで複製します。「[テキストフィールドに入力](#)」の章を参照してください。



テキストを逆順にする

マーキングされたテキストの文字が逆順になります。

ショートカット: Alt+Shift+R

例 ABCD -> DCBA



Excelの編集を開始する終了する

テキストフィールドとバーコードフィールドの内容は、Excelで編集することもできます（「[Excelの編集](#)」の章を参照）。

-  **アクティブなレイヤー間の切り替え**
プロジェクトレイヤーとマーカーレイヤーを切り替えます。
切り替えは自動的に行うことができます（「オプション」ダイアログの章の「[表示](#)」セクションを参照）。
-  **ドキュメントフィールド選択の表示または非表示**
ある要素（テキストや画像など）をクリックすると、それに関連付けられた要素が別のマーカーでマーク付けされます（フィールドが1つの場合は適用されません）。
「表示」の例

「非表示」の例

-  **要素のロック**
選択した要素の書式が変更されないようにロックします。内容（テキストなど）の調整はできます（「[要素のロック](#)」の章を参照）。
-  **マーカーの並べ替え**
マーカーを並べ替えるためのダイアログが開きます。
-  **コンテンツの同期**
要素を、保存されたデータソースと同期します（[コンテンツの同期](#)」の章を参照）。
-  **注文**
注文ウィザードのダイアログが開きます（「[注文、注文ウィザード](#)」の章を参照）。
-  **文書の保護**
開いているファイルのレイアウトが変更されないように保護します。または文書の保護を解除します（「[文書の保護](#)」の章を参照）。
-  **サポート**
TeamViewerの連動を可能にします。

レイアウト

「レイアウト」ツールバーの表示と非表示は、メニュー項目の「表示」>「ツールバー」>「レイアウト」で切り替えます。



アイコンを使用して、選択した要素に対して次の操作を行うことができます。

- 重ねて表示
- 整列
- 回転
- サイズの調整

テキストの書式設定

「テキストの書式設定」ツールバーの表示と非表示は、メニュー項目の「表示」>「ツールバー」>「テキストの書式設定」で切り替えます。



アイコンの説明



フォントの選択

選択したテキストまたはテキスト要素のフォントを選択します。



フォントサイズの選択

選択したテキストまたはテキスト要素のフォントサイズを選択します。



フォントサイズを大きくする

選択したテキストまたはテキスト要素のフォントサイズを大きくします。

アイコンを1回クリックするごとに、フォントサイズが1ずつ大きくなります。



フォントサイズを小さくする

選択したテキストまたはテキスト要素のフォントサイズを小さくします。

アイコンを1回クリックするごとに、フォントサイズが1ずつ小さくなります。



文字間隔の拡大/フォントサイズを狭める

選択したテキスト要素の文字間隔が広がる、または、狭まります。文字間隔を動的に調整する方法もあります。「一般的な操作」の章の「[文字列の調整](#)」セクションを参照。



行の高さを拡大/縮小

選択したテキスト要素の行の高さを大きくします、または、小さします。



太字

選択したテキストまたはテキスト要素を太字にします。



斜体

選択したテキストまたはテキスト要素を斜体にします。



下線

選択したテキストまたはテキスト要素の内容に下線付けます。



取り消し線

選択したテキストまたはテキスト要素の内容に取り消し線付けます。



下付き文字

選択したテキストまたはテキスト要素の内容を下付き文字にします。「一般的な操作」の章の「[オントサイズを調整する](#)」セクションを参照してください。



上付き文字

選択したテキストまたはテキスト要素の内容を上付き文字にします。「一般的な操作」の章の「[オントサイズを調整する](#)」セクションを参照してください。



左揃え



中央揃え



右揃え



上揃え



上下中央揃え



下揃え



テキストの向きを 0° に設定



テキストの向きを 90° に設定



テキストの向きを 180° に設定



テキストの向きを 270° に設定



テキストの色の変更

選択したテキストまたはテキスト要素の内容のテキストの色を選択します。



色の設定

選択したテキスト要素に定義した色の設定を適用します（「[色の設定](#)」の章を参照）。

枠線と塗りつぶし

画面にツールバーが表示されていない場合は、メニュー項目から「表示」>「ツールバー」>「テキストの書式設定」を選択します。



「プロパティ」ウィンドウを使用しても、色と塗りつぶしのパターンを変更できます（「枠線と塗りつぶし」のセクションを参照）。

アイコンの説明



線の色

新たな線を描く場合、その線は選択した色で表示されます。

既存の線の色を変更する場合は、それらの線を事前に選択してから色を選択する必要があります。



線の太さ

新たな線を描く場合、その線は選択した太さで表示されます。

既存の線では、その線を選択してから、線の太さを変更することができます。



線の種類

新たな線を描く場合、その線は選択した線の種類で描画されます。

既存の線では、その線を選択してから、線の種類を変更することができます。



塗りつぶしの色

選択した要素の塗りつぶしの色を変更します。



塗りつぶしのパターン

選択した要素の塗りつぶしパターンを変更します。

要素

「要素」ツールバーの表示と非表示は、メニュー項目の「表示」>「ツールバー」>「要素」で切り替えます。



アイコンの説明



選択

要素を選択するための選択ツールです。

CtrlキーとShiftキーの組み合わせで使用することもできます。



領域の選択

(「要素の選択」の章を参照)



テキストフィールド

マーカーでマウスをドラッグしてテキストフィールドを作成します。



丸テキストフィールド

マーカーでマウスをドラッグして丸テキストフィールドを作成します。



四角形正方形の作成

マーカーでマウスをドラッグして四角形を作成します。



角丸四角形正方形の作成

マーカーでマウスをドラッグして角が丸い四角形を作成します。



線を描く

マーカーでマウスをドラッグして線を描きます。



円楕円を描く

マーカーでマウスをドラッグして楕円を作成します。



画像の挿入

マーカーで枠をマウスでドラッグして画像を選択します。

このプログラムは、BMP、EMF、GIF、ICO、JPG、PNG、WMF、およびTIFFの各画像形式をサポートしています。



バーコードの挿入

マーカーでマウスでドラッグしてバーコードフィールドを作成します。
このプログラムは次の種類のバーコードをサポートしています。

- コード39
- コード128
- インダストリアル2 of 5
- インターリーブド2 of 5
- EAN13
- EAN8
- EAN128
- UPC-A
- UPC-E
- QRコード
- データマトリックス
- MicroPDF417

「プロパティ」ウィンドウで、バーコードのタイプを調整できます（「[コンテンツ](#)」のセクションを参照）。



マーカーでマウスをドラッグして綫形スケールを作成します。詳細な設定を行うためのダイアログ
ウィンドウが開きます（「[スケールの挿入](#)」の章を参照）。



マーカーでマウスをドラッグして角丸スケールを作成します。詳細な設定を行うためのダイアログ
ウィンドウが開きます（「[スケールの挿入](#)」の章を参照）。



マーカーでマウスをドラッグしてコネクタ要素を作成します。「プロパティ」ウィンドウでコネク
タのタイプを調整できます。



グループフィールド

マウスで繊維素材のマーカーをテキストフィールドにドラッグします。
[「グループフィールド」を参照してください。](#)



要素の正確なサイズと位置は「プロパティ」ウィンドウ（「[「プロパティ」ウィンドウ](#)」の章を参照）で設定できます。



要素の挿入に関する詳細な説明については、[「よく使用される機能」](#)
の章を参照してください。

ドッキングバー表示

「ドッキングバー表示」ツールバーの表示と非表示は、メニュー項目の「表示」>「ツールバー」>「ドッキングバー表示」で切り替えます。



アイコンの説明



プロジェクトエクスプローラの表示または非表示

「[「プロジェクトエクスプローラ」ウィンドウ](#)」の章も参照してください。



レイヤーの表示または非表示

「[レイヤーの編集](#)」の章も参照してください。



プロパティの表示または非表示

「[「プロパティ」ウィンドウ](#)」の章も参照してください。



文字テーブルの表示または非表示

「[特殊文字の入力](#)」の章も参照してください。



アイコンの表示または非表示

「[「シンボルエクスプローラ/プロッターシンボルエディタ](#)」の章も参照してください。



データグリッドの表示または非表示

「[「データグリッド」ウィンドウ](#)」の章も参照してください。

THM MMP

「THM MMP」ツールバーの表示と非表示は、メニュー項目の「表示」>「ツールバー」>「THM MMP」で切り替えます。



アイコンの説明



切り取りマーク前

切り取りマークを選択フィールドの前に配置します（「印刷」の章の「[切り取りマークの配置](#)」のセクションを参照）。



切り取りマーク後ろ

切り取りマークを選択フィールドの後ろに配置します（「印刷」の章の「[切り取りマークの配置](#)」のセクションを参照）。



すべての切り取りマークを削除

すべての切り取りマークが削除されます（「印刷」の章の「[切り取りマークの配置](#)」のセクションを参照）。



切り取りコマンドの送信

割り当てられたプリンターに切り取りコマンドを即時に送信します（THM MMP, THM MultiMark, THM MultiMark Plus, THM MultiMark Twin, THM Plus Mのみ）。



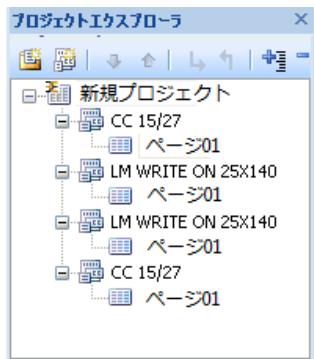
この機能は次のプリンターでのみ使用できます。THM MMP, THM MultiMark, THM MultiMark Plus, THM MultiMark Twin, THM Plus M

「プロジェクトエクスプローラ」ウィンドウ

- このウィンドウを表示、または非表示にするには、メニューバーのメニュー項目「表示」>「プロジェクト」を選択します。

プロジェクトが開いている場合は、そのプロジェクト、およびそのプロジェクトに関連付けられたサブプロジェクトがプロジェクトエクスプローラに表示されます。各サブプロジェクトに対して個々のマーカータイプが表示されます。マーカータイプの下に、そのマーカータイプに関連したページがあります。

左マウスボタンで「+」アイコンをクリックすると、プロジェクトエクスプローラの下層構造が展開され、詳細表示されます。また、「-」アイコンをクリックすると、下層構造が折り畳まれて、全体像が見やすくなります。



キーボードのテンキーで「*」を押すと、すべての下層構造が一度に開きます。

アイコンの説明



新規サブプロジェクトの挿入

[「サブプロジェクトの追加」の章も参照。](#)



新規マーカータイプの挿入

[「マーカータイプをサブプロジェクトに割り当てる」の章も参照。](#)



マーカータイプまたはサブプロジェクトを移動する

選択した要素を同じレイヤーに移動します



マーカータイプまたはサブプロジェクトを移動する

選択した要素をすべてのレイヤーと階層構造の間に移動します



展開/縮小

選択した要素の下のすべての階層構造を表示、または非表示にします。

コンテキストメニュー

プロジェクトエクスプローラーであるオブジェクトをクリックし、右マウスボタンを押します。

これにより、コンテキストメニューが開きます。

コンテキストメニューにはそのオブジェクトに関する機能が表示されます。つまり、黒で表示された機能を使用できます。



コピー

このコンテキストメニューを使用して、選択したマーカータイプまたはサブプロジェクトをコピーできます。

挿入

コピーしたマーカータイプまたはサブプロジェクトを挿入するプロジェクトまたはサブプロジェクトを選択します。

新規プロジェクト

このコンテキストメニュー項目を使用して、新しいプロジェクトを作成できます。

新規マーカータイプの挿入

このコンテキストメニュー項目を使用して、新しいマーカータイプを挿入できます。新しく作成したマーカータイプを挿入すると、プロジェクトエクスプローラーに表示されます。

新規サブプロジェクトの挿入

このコンテキストメニュー項目を使用して、あるサブプロジェクトを既存のプロジェクトまたはサブプロジェクトの下に挿入します。

印刷..

このメニュー項目により、マーカータイプの印刷用ダイアログウィンドウが表示されます。

フィルターの削除

[「フィルター機能」を参照してください。](#)

ページのコピー/ページの挿入..

現在のページをコピーします。ページの挿入時に、コピーの場所と枚数を選択できます。[「ページをコピーする」](#)を参照してください。

ページを移動..

選択ダイアログで現在のページを移動します。

このページを削除

削除するページを選択します。

ページの削除

削除するページは選択ダイアログで選択できます。

マーカータイプの削除

このコンテキストメニュー項目を選択すると、選択したマーカータイプが削除されます。削除されたマーカータイプはプロジェクトエクスプローラに表示されなくなります。

サブプロジェクトの削除

このコンテキストメニュー項目を選択すると、選択したサブプロジェクトが削除されます。削除されたサブプロジェクトはプロジェクトエクスプローラに表示されなくなります。

マーカータイプの変更..

このメニュー項目でマーカータイプを変更できます。

注文リストに追加

このコンテキストメニュー項目を選択すると、選択した品目が注文リストに追加されます（[「注文、注文ウィザード」](#)のセクションを参照）。

表示

ここで、様々なビューを切り替えることができます（「「表示」メニュー」のセクションを参照）。

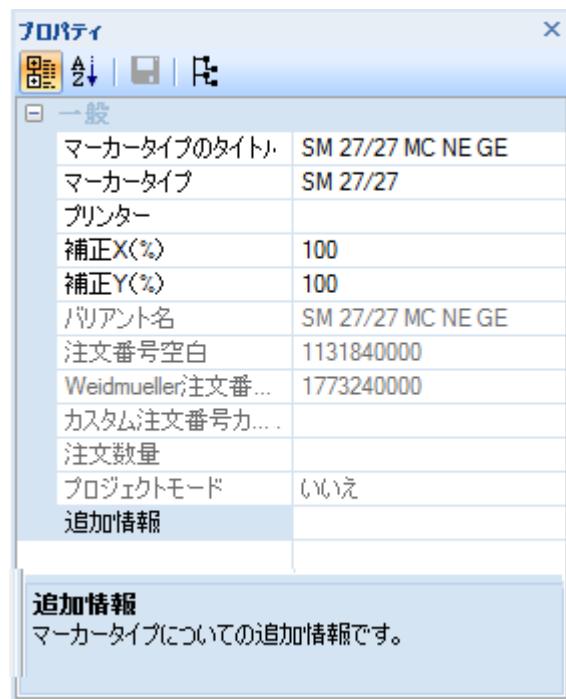
ファイルを開じる

現在のプロジェクトを開じます。プロジェクトが保存されていない場合は、確認メッセージが表示されます。

「プロパティ」ウィンドウ

様々な要素（テキストフィールド、画像、バーコード、スケールなど）のプロパティは、「プロパティ」ウィンドウに表示されます。

- 「プロパティ」ウィンドウの表示と非表示を切り替えるには、メニュー「表示」>「プロパティ」を選択します。



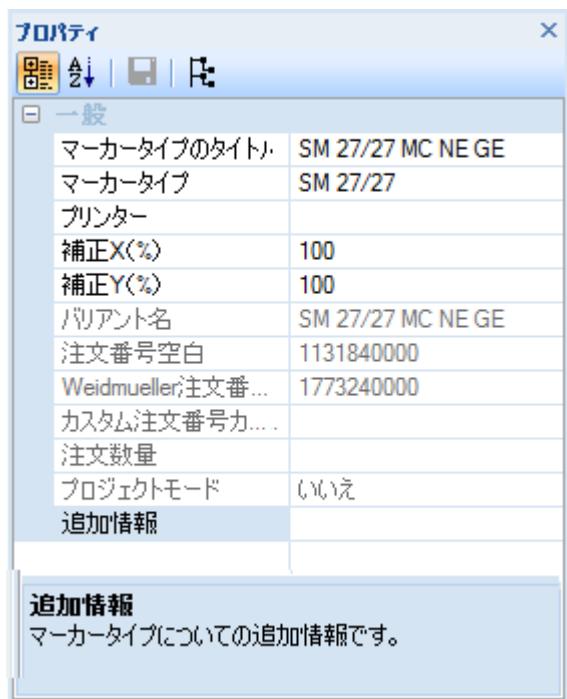
「プロパティ」ウィンドウの表示方法は、アイコンボタンで選択します。

- プロパティをカテゴリーごとに並べ替えて表示します。
- プロパティをアルファベット順に並べ替えて表示します。
- 定義されたプロパティは選択したオブジェクトのデフォルトとして保存されます。
「ロック」されたフィールドのプロパティはデフォルトとして設定できません。デフォルトとして設定するには、まずロックを解除してください（「動作」のセクションを参照）。
- すべてのレイヤーとレイヤー上の要素が一覧表示されます。

詳細については、「[マーカーのプロパティ](#)」の章を参照してください。

マーカーのプロパティ

プロジェクトエクスプローラでマーカー名をクリックすると、そのマーカーのプロパティが表示されます。



マーカータイプのタイトル - そのマーカータイプのタイトル
ル - この名前は変更できます。

マーカータイプ 選択したマーカータイプ。
ここで他のマーカーを選択すると、コンテンツの適用が試行されます（「[「編集」メニュー](#)」も参照）。

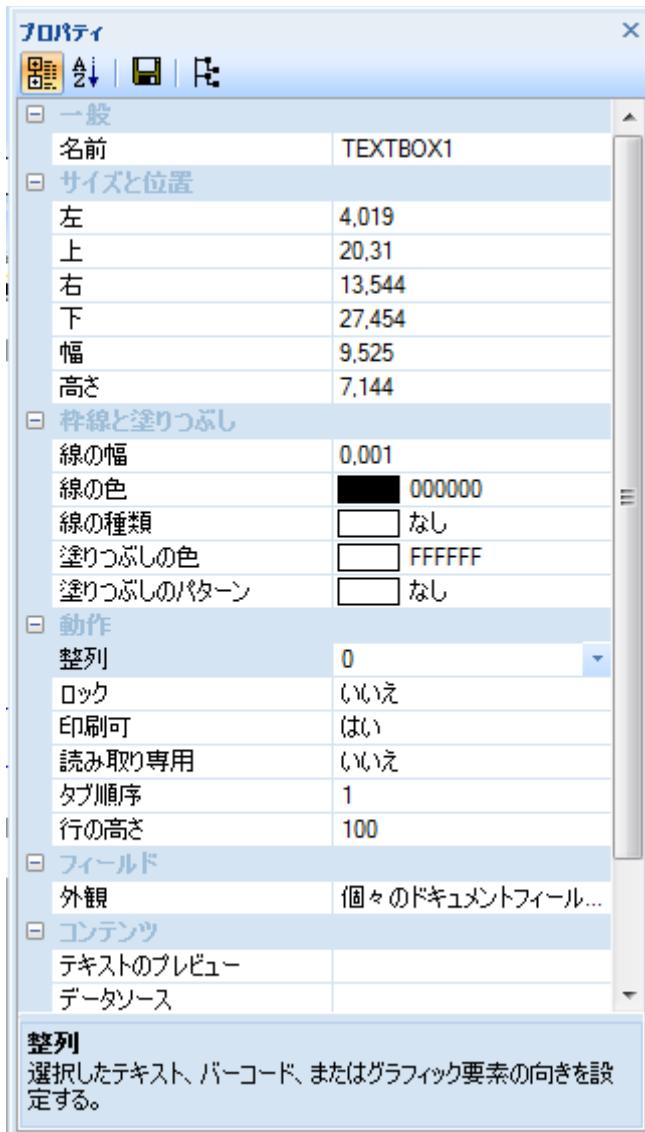
プリンター そのマーカータイプに割り当てられたプリンター（「[マーカータイプへのプリンターの割り当て](#)」の章を参照）。

補正 保存されたプリンター補正です。

プロジェクトモード プロジェクトモードが選択されているかどうかの表示です。（「[「オプション」ダイアログ](#)」の章を参照）。

プロパティの表示

- 「プロパティ」ウィンドウを表示するには、メニュー「表示」>「プロパティ」を選択します。
- プロパティを変更する要素をクリックします。



選択した要素ごとに、「プロパティ」ウィンドウには様々なプロパティが表示されます。

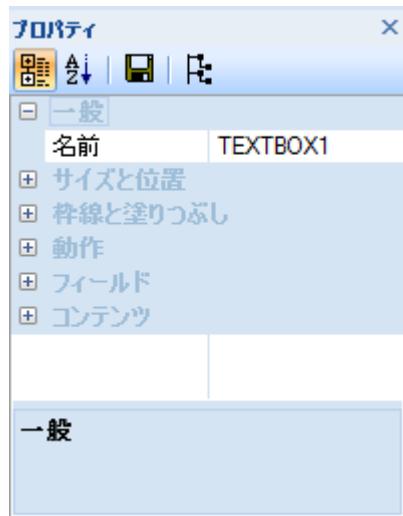
ロックされた（グレー表示された）プロパティは、選択したオブジェクトを挿入したり、ロックすることできません。ロックを解除するには、「ロック」プロパティを「いいえ」に設定してください（「動作」のセクションを参照）。

プロパティの調整

「プロパティ」ウィンドウは次のカテゴリーに分かれており、以下にその詳細を説明します。

- 一般
- サイズと位置
- 框線と塗りつぶし
- 動作
- フィールド
- コンテンツ

一般

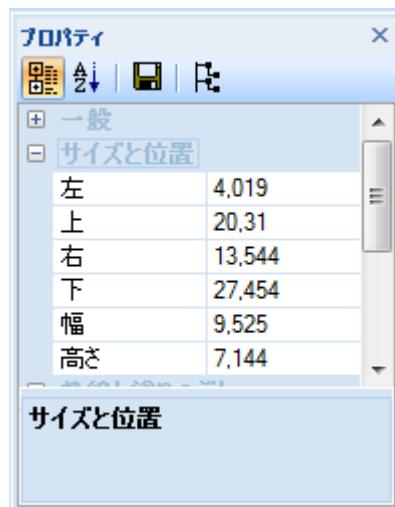


- 名前**
- 選択した要素の名称です。
 - この名前は変更できます。
 - この名前はファイルのインポート時に列のマッピングでも使用されます（「[ステップ7：フィールドマッピング](#)」を参照）。
 - この名前はデータグリッドの列ヘッダーにも表示されます。



この名前は特殊文字やスペース文字を含むことができません。

サイズと位置

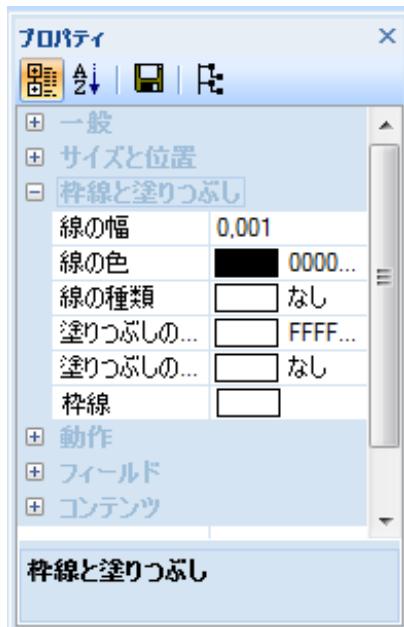


ここで、要素の大きさと位置を指定できます。

- サイズは原点、つまりマルチカードラベルの左上隅から測ります。
- 長さの単位は「オプション」ダイアログで指定します（「[「オプション」ダイアログ](#)」の章を参照）。

要素を移動するための他の方法については、「[要素の移動](#)」のセクションを参照してください。

枠線と塗りつぶし



このカテゴリーでは選択したオブジェクトの線の太さ、色、パターン、および線の種類を指定できます。次の要素の場合は 枠線(左、右、上、下)を個別に表示できます。テキストフィールド、四角、画像バーコードの場合、パディングを余分に設定できます。

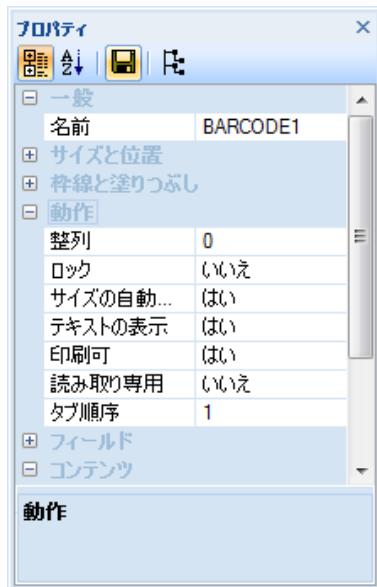
色の設定では、色の値を直接、入力することもできます。

色の値は次のように指定します: RRGGBB (赤、緑、青)
16進数で入力します。

例 「FF0000」は赤です。

塗りつぶしの色 FF0000

動作



- | | |
|----------|--|
| 整列 | - 90°刻みの要素の向き
- テキストフィールド、画像、およびバーコードにのみ適用されます。
- ドキュメント固有のプロパティです。 |
| ロック | - 要素のロック
- ロックされた要素はもう変更できません。
- 例外：テキストフィールドの内容は変更できます。
- ロックされたフィールドのプロパティはデフォルトとして設定できません。
- ロックに、さらに文書の保護を適用することができます（「 文書の保護 」の章を参照）。 |
| サイズの自動調整 | - 内容がバーコードまたは画像フィールドのサイズに合わせて調整するか、または元のサイズで表示します。
- 例を参照。
- 画像およびバーコードにのみ適用されます。 |
| テキストの表示 | - バーコードフィールドのプレーンテキストを表示または非表示にします。
- バーコードにのみ適用されます。 |
| 印刷可 | - プロジェクトによって要素を印刷できるか、できないかを示します。 |
| 読み取り専用 | - 内容が変更できないようにロックします。
- テキストフィールド、画像、およびバーコードにのみ適用されます。 |
| タブ順序 | - Tab/Enterキーでフィールドが選択される順序です。
- 入力できる値は「1」～「x」です。
- 同じタブ順序のフィールドは、作成された順序で選択されます。 |

行の高さ	「フォントサイズを調整する」を参照してください。
文字幅と間隔	「フォントサイズを調整する」を参照してください。
塗りつぶしの順序	後で助言されたフィールド（テキスト、バーコード）は、固有の値を使用して、連続素材でさらに編集できるようにすることができます（インポート、データグリッド、Excelでの編集など）。
変更したフォント	バーコードのテキスト部分に、変更したフォントを使用します。 この機能は、「バーコードライブラリバージョン1を使用する」設定と併用できません。 「フォントサイズを調整する」を参照してください。

例

バーコード	
サイズの自動調整 ： はい	 バーコードフィールドが縦に圧縮されます。これにより、数字の間隔が狭まります。
サイズの自動調整 ： いいえ	 数字の間隔は元のままですが、一部の内容は表示されません。

画像	
サイズの自動調整 ： なし	 画像は元のサイズで表示されます。
サイズの自動調整 ： 比例	 画像は画像フィールドのサイズに合うように調整され、その際に縦横の比率が変わります。
サイズの自動調整 ： 四角	 画像は画像フィールドのサイズに合うように調整されます。縦横の比率は維持されます。

フィールド

「フィールド」カテゴリーではフィールドの種類を指定できます。



次のフィールドタイプを選択できます。

- 单一フィールド - 単一フィールドは他のフィールドとの関連はありません。
- 各单一フィールドごとに固有の書式と固有の内容があります。
- 单一フィールドに変更を加えた場合、その変更はこのフィールドにのみ適用されます。
- 单一フィールドの反対はドキュメントフィールドです。

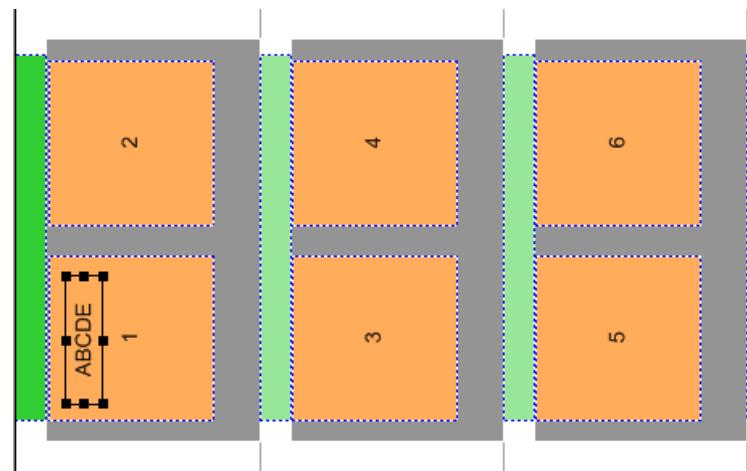
- 同じドキュメントフィールド - 各マーカー領域に存在します。
- 各マーカー領域に同じ位置と書式プロパティがあります。

- 個々のドキュメントフィールド - 各マーカー領域に存在します。
- 各マーカー領域に同じ位置と書式プロパティを持つフィールドです。

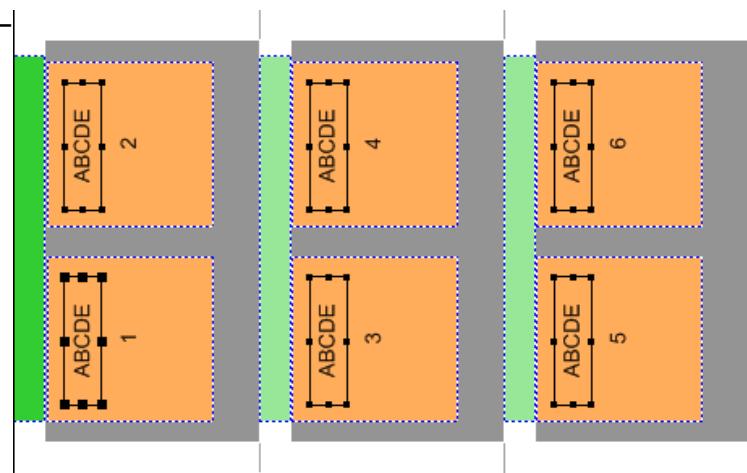
ただし、各マーカー領域ごとに別の（異なる）テキスト/テキストの書式を含むことができます。

例

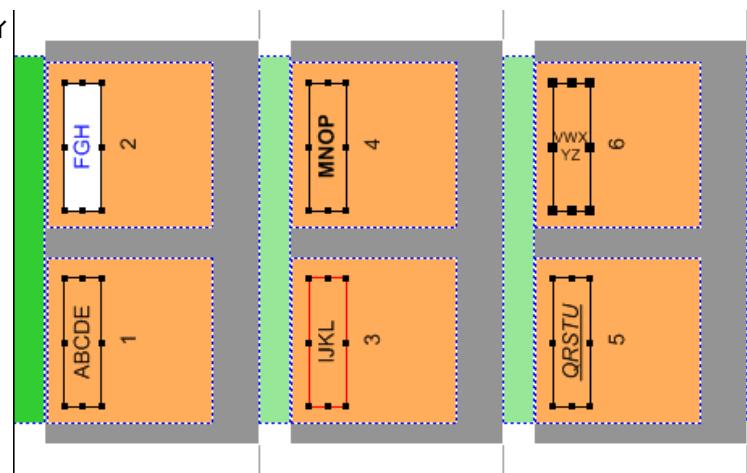
单一フィールド



同じドキュメントフィールド

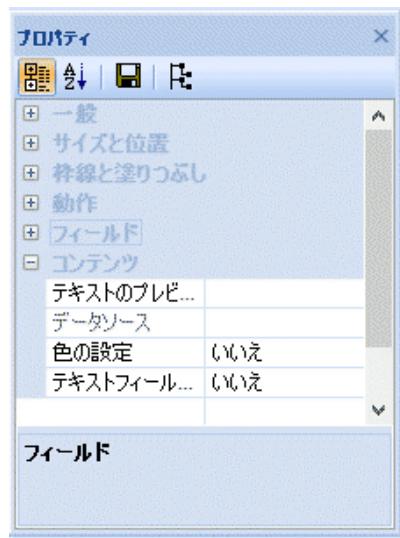


個々のドキュメントフィールド



コンテンツ

個々の要素の内容です。



テキストのプレビュー - 要素のテキストコンテンツです。

- テキストフィールドとバーコードにのみ適用されます。

データソース

- データソースとして同期に使用される要素の名前です（「[コンテンツの同期](#)」の章を参照）。
- テキストフィールドとバーコードにのみ適用されます。

色の設定

保存された色の設定が入力された値に適用されます（「色の設定」を参照）。
- テキストフィールドにのみ適用されます。

タイプ

- 画像の場合：その画像の挿入方法
- パス：画像は基準として画像ファイルに追加されます。
- 埋め込み済み：画像はプロジェクトに埋め込まれます。
- 「[画像をファイルに保存](#)」および「[ファイルから画像を抽出する](#)」の章も参照してください。
- バーコードの場合：選択されたバーコードタイプ
(コード39、コード128、インダストリアル2 of 5、インターリーブド2 of 5、EAN13など)
- 画像とバーコードにのみ適用されます。

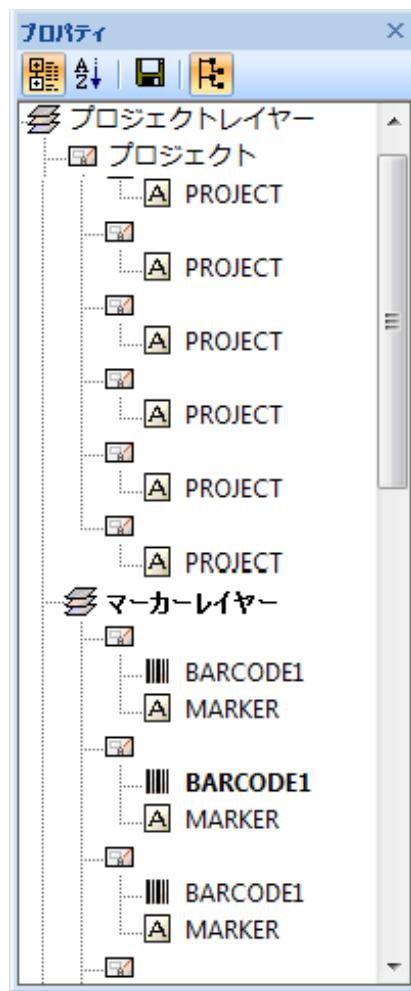
ファイル	タイプが「パス」の画像を挿入する場合は、「ファイル」を使って画像を選択します。 - 画像のみ適用されます。
アンカーポイント	- テキストを開始する角度を指定します。「0」は開始地点「上」（12時）に相当します。 - 丸テキストフィールドにのみ適用されます。
スケールの値	スケールのプロパティに関する説明については、「 スケールのプロパティ 」の章を参照してください。
テキストフィールドに入力	インポートされると、テキストフィールドに自動的に入力されます。「 テキストフィールドに入力 」の章を参照してください。

要素の選択



「プロパティ」ウィンドウのこのアイコンをクリックして、目的の要素を選択します。

すべてのレイヤーとレイヤー上の要素が一覧表示されます。



例

この図は、プロジェクトレイヤーと8つのプロジェクト領域を持つページを示しています。また、1つのバーコードと1つのテキストフィールドがあるマーカー領域を持つ、マーカーレイヤーも表示されています。

ここで、例えばバーコードをクリックすると、ワークスペースのマーカー領域でこのバーコードがアクティブになり、編集できるようになります。

この選択方法は複数のレイヤーに存在する要素を選択するのに便利です。

ワークスペース

アプリケーションの起動後には、デフォルトでワークスペースに開始ページが表示されます（メニュー「表示」>「開始ページの表示」）。

プロジェクトタイプやマーカータイプを開くと、それがワークスペースに表示されます。

ワークスペースのコンテキストメニュー

ワークスペースでマウスを右クリックします。
次のコンテキストメニューが開きます。



新しいページの挿入

ワークスペースにあるマーカータイプに新しいページが追加されます。

マーカータイプの挿入

このコンテキストメニュー項目を使用して、新しいマーカーを挿入できます。製品カタログが表示され、挿入するマーカータイプやテンプレートをそこから選択できます。

マーカータイプの変更

製品カタログから選択することにより、表示されているマーカータイプを変更します。内容は（可能な場合）保持されます。

このページを削除

削除するページを選択します。

レイヤーの選択

別のレイヤー（フリーレイヤー、プロジェクトレイヤーなど）に切り替えます。

表示

ここで、様々なドッキングバー表示を切り替えることができます（「[「表示」メニュー](#)」のセクションを参照）。

レイヤープロパティ

このコンテキストメニュー項目を使用して、レイヤーのプロパティ（色、ロックなど）を調整できます。

レイヤー

あるマーカータイプのページは次のレイヤーで構成されます。

- ロックレイヤー
- フリーレイヤー
- マーカーレイヤー
- プロジェクトレイヤー
- 背景レイヤー

1ページは基本的~~5つ~~または~~4つ~~のレイヤーで構成されます。マルチカード1ページには合計5つのレイヤーが含まれます。他のすべてのマーカータイプ（ラベル、クレジットカード形式など）にはプロジェクトレイヤーを除く他の4つのレイヤーが含まれます。

背景レイヤー

背景レイヤーは視覚的なサポートを提供します。色を変更したり要素（テキストと図）を追加することができます。このレイヤーのすべての領域を使用できます。背景レイヤーは常に最背面のレイヤーで、通常は印刷したりロックすることはありません。背景レイヤーは標準レイヤーであり、削除できません。

プロジェクトレイヤー

プロジェクトレイヤーでは、「レイアウト」で指定した領域にテキストや図を追加することができます。プロジェクトレイヤーは常に2番目のレイヤーです。このレイヤーは通常、印刷されますが、ロックはされません。このレイヤーは削除できません。

マーカーレイヤー

マーカーレイヤーは3番目のレイヤーです。このレイヤーではマルチカード用紙またはラベルの実際のキャプションを入れます。「レイアウト」で指定した領域に、任意の数のテキスト、図形（線、四角など）、画像、バーコードを配置できます。マーカーレイヤーは通常、印刷されます。このレイヤーは削除できません。

フリーレイヤー

フリーレイヤーはページの合計サイズに相当します。ここで、テキストと図を任意の場所に配置できます。フリーレイヤーは必ずロックレイヤーの下にあります。他のレイヤーとは異なり、複製することができます、追加されたフリーレイヤーを削除することができます。また、フリーレイヤー同士を移動することもできます。さらに、すべてのフリーレイヤーを1つのフリーレイヤーに統合することもできます。1つ以上のフリーレイヤーが必ず必要です。このレイヤーは削除できません。フリーレイヤーは印刷できます。

ロックレイヤー

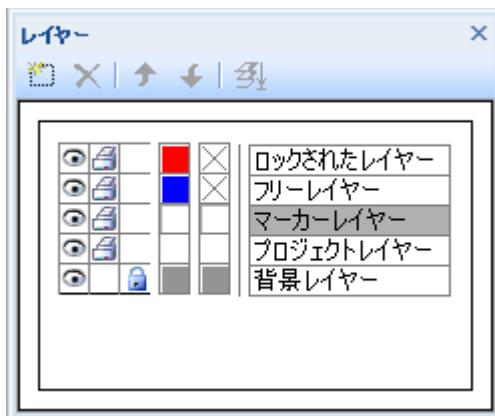
ロックレイヤーでは他のレイヤーに要素(四角、線、楕円、スケール)をオーバーラップして配置することにより、他のレイヤーの内容を非表示にし、印刷できないようにします。このレイヤーは常に最前面のレイヤーです。ロックレイヤーは削除できません。

例えばドリル穴やLEDの位置に対応する円をロックレイヤーに配置すると、この領域を印刷しないようにできます。

「レイヤー」ウィンドウ

このウィンドウにはあるマーカータイプのすべてのレイヤーが表示されます（「レイヤーの編集」の章も参照）。

- 「レイヤー」ウィンドウの表示と非表示を切り替えるには、メニュー「表示」>「レイヤー」を選択します。



「レイヤー」ウィンドウには次のツールバーがあります。



アイコンボタンはフリーレイヤーでのみ使用できます。



新しいフリー層を追加するには、このアイコンをクリックします。



このアイコンを使用して、選択したレイヤーを削除できます。



このアイコンをクリックすると、選択したレイヤーを1つ前面のレイヤーに移動することができます。



このアイコンをクリックすると、選択したフリー層を1つ背面のレイヤーに移動することができます。



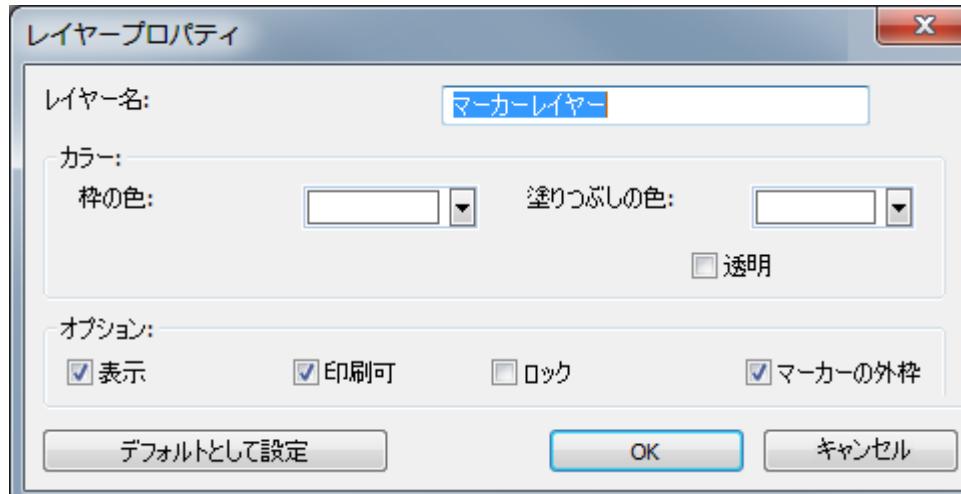
このアイコンをクリックすると、すべてのフリー層が1つのレイヤーになります。この手順は元に戻すことができません。

- 編集するレイヤーをクリックしてから、該当するアイコンをクリックします。

レイヤーのプロパティ

レイヤーのプロパティは「レイヤープロパティ」ウィンドウで変更できます。

「レイヤー」ウィンドウであるレイヤーの名前をダブルクリックすると、「レイヤープロパティ」ウィンドウが開きます。



ここで、選択したレイヤーの名前、枠の色および塗りつぶしの色を変更できます。

さらに、レイヤーを表示するか非表示にするか、およびレイヤーを印刷するかしないかを設定できます。また、レイヤーをロックするか、または編集できるようにするかも指定できます。

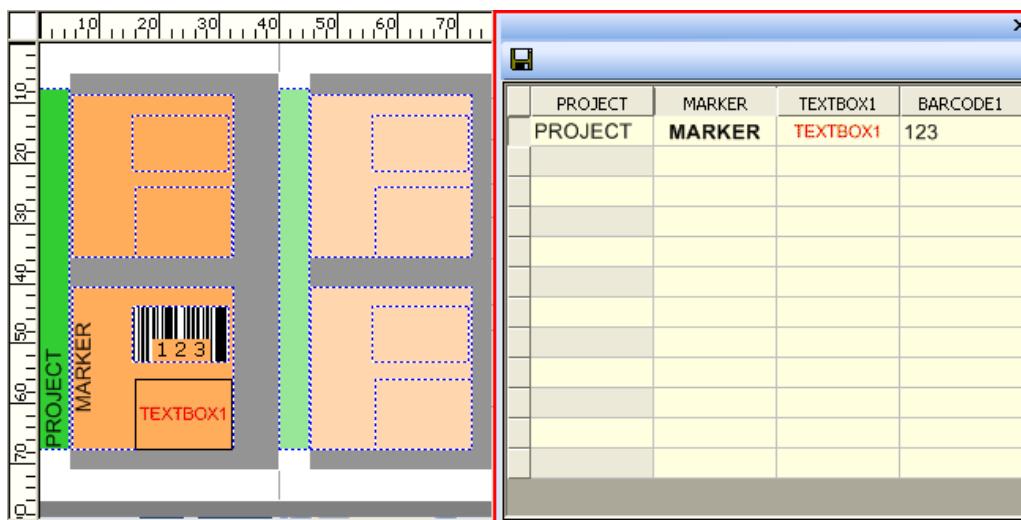
希望の設定を行ってから「OK」をクリックします。

 「デフォルトとして設定」ボタンを使用すると、指定した設定が保存され、新しいマーカータイプを開くときにデフォルトとして使用できます。

「データグリッド」ウィンドウ

「データグリッド」ウィンドウの表示と非表示を切り替えるには、メニュー「表示」>「データグリッド」を選択します。

データグリッドにはテキストフィールドとバーコードフィールドの内容が表示され、その内容の編集（挿入、編集、コピー貼り付け）ができます。



後で挿入したフィールド（テキスト、バーコード）を連携素材で使用できるようにさらに編集するには、フィールドのプロパティで「塗りつぶしの順序」プロパティを設定する必要があります（「インターフェイス」の章の[「サイズと位置」](#)のセクションを参照）。

データグリッドの幅を指定する

データグリッドの幅を指定するには、様々な方法があります。



次のものに対して、現在の幅をデフォルトとして設定します。

- 表示されるマーカータイプ
- プログラム全体

プロジェクトの保存

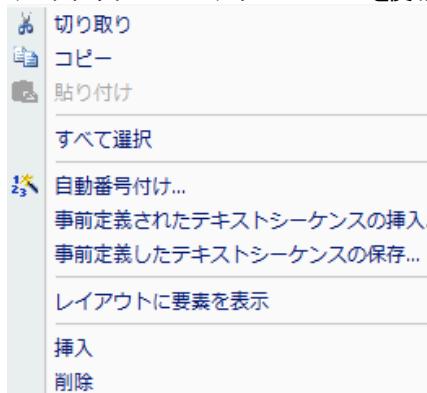
プロジェクトファイルを保存すると同時に、開いているマーカータイプの各グリッドの幅がプロジェクトファイルに保存されます。

そのプロジェクトファイルを開くと、これらのグリッドの幅を再度使用できます。

また、選択した列の幅と行の高さも保存されます。

データグリッドのコンテキストメニュー

データグリッドのコンテキストメニューを使用して、様々な一般的プログラム機能を呼び出すことができます。



 データグリッドのフィールドをワークスペースに表示して選択するには、フィールドをマウスで右クリックしてコンテキストメニューの「レイアウトに要素を表示」を選択します。

データグリッドの行の高さと列の幅

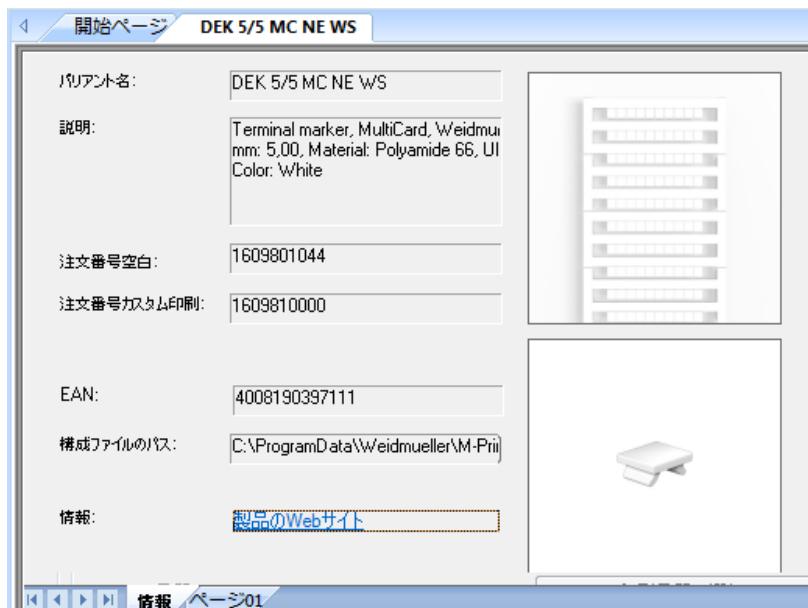
行の高さと列の幅を、テーブルのコンテンツの幅と高さに合わせて最適化できます。
最適な値を設定するには、該当する行または列を選択し、列の間または行のヘッダーをダブルクリックします。

選択した列の幅と行の高さを保存することもできます（「[データグリッドの幅を指定する](#)」を参照）。

情報ページ

マーカータイプについて、追加の情報ページが表示されます。

情報ページが表示されない場合は、「オプション」ダイアログを使用して表示することができます（「オプション」ダイアログの章の「環境」セクションを参照）。



一般

製品について次の領域を表示できます。

製品のレイアウト

マーカータイプの寸法です。

構成ファイルのパス

マーカータイプの構成ファイル (*.mcf) を開くには ボタンをクリックします。

並べ替え順序

並べ替え順序をN順にするかW順にするかを指定します。
基本設定は製品ファイルにより指定されます。

PrintJet ADVANCED/CONNECTの設定

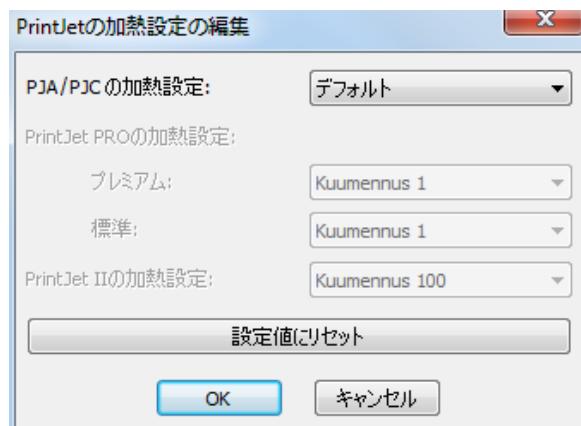
PrintJetプリンターが割り当てられている場合は（「[マーカータイプへのプリンターの割り当て](#)」を参照）、ここにプリンターの加熱設定や印刷品質が表示されます。この時点で、製品バリエントの値も設定できます。

一般的なPrintJet

ADVANCED/CONNECTの印刷品質も「オプション」ダイアログを使用して設定できます（「[PrintJet ADVANCED](#)」、「[PrintJet CONNECT](#)」を参照）。

PrintJetの加熱設定の選択..

PrintJetプリンターの加熱設定を調整するには、このボタンをクリックします。



PrintJet ADVANCED/CONNECT

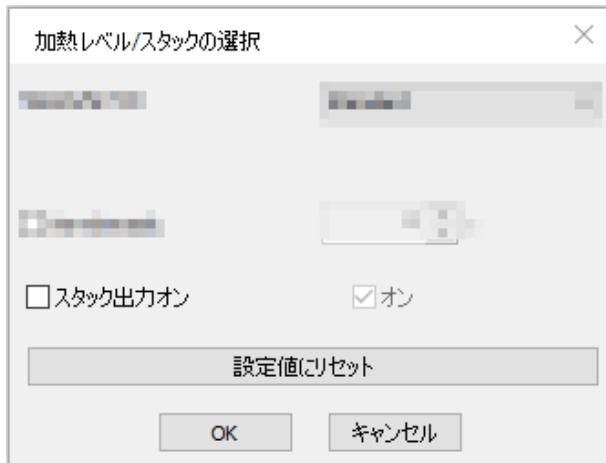
の加熱設定を微調整するには、次のように「PJ/A/PJCの加熱設定」ドロップダウンフィールドを選択します。

--	非常に少ない加熱
-	より少ない加熱
Standard	デフォルト値
+	より多い加熱
++	非常に多い加熱

「「オプション」ダイアログの章の「[PrintJet ADVANCED](#)」、「[PrintJet CONNECT](#)」セクションと「全般」セクションも参照してください。

スタックの選択..

次のプリンターのスタック出力を調整するには、このボタンをクリックします： PrintJet CONNECT



スタック出力オン

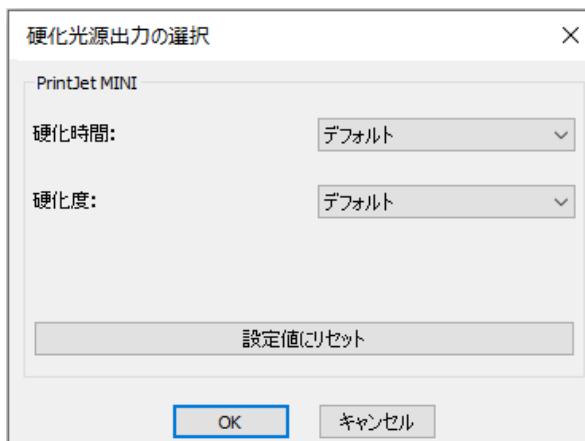
チェックボックスが選択されていません：
構成ファイルの設定が適用されます。

チェックボックスが選択されています：
スタック出力はオンまたはオフにできます。

PrintJet MINI settings

硬化光源出力の選択..

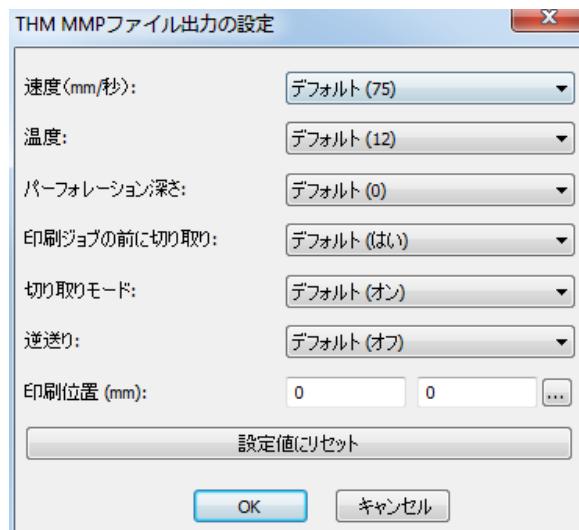
以下の設定を行うには、このボタンをクリックしてください。: 硬化時間, 硬化度



「「オプション」ダイアログの章の『[PrintJet
MINI](#)』セクションと「全般」セクションも参照してください。

THM/TwinMarkの設定

THMプリンターが連續素材に割り当てられている場合は（「[マーカータイプへのプリンターの割り当て](#)」を参照）、その素材に対する様々なパラメータを調整できます。



リスト項目「デフォルト」では、「オプション」ダイアログまたは構成ファイルの印刷設定が使用されます。デフォルト値は括弧内に表示されます。選択された他のすべての値は、THMプリンターの一般的な印刷設定に優先します（「「オプション」ダイアログ」の章の [THMプリンター](#) のセクションを参照）。

次のプリンターでは、連續素材で印刷位置を変更できます。THM MMP, THM MultiMark, THM MultiMark Plus, THM MultiMark LPC, THM MultiMark Twin, THM Plus M。 [「印刷位置の設定」](#) の章を参照してください。

ファーストステップガイド

はじめに

この章は Windowsに関する詳しい知識を有する読者を対象としています。

以下に、プロ仕様のキャプションをマーカータイプに入れるための簡単なやり方を段階的に説明します。

ステップ1: プログラムの起動

- デスクトップのプログラムアイコンをダブルクリックします。

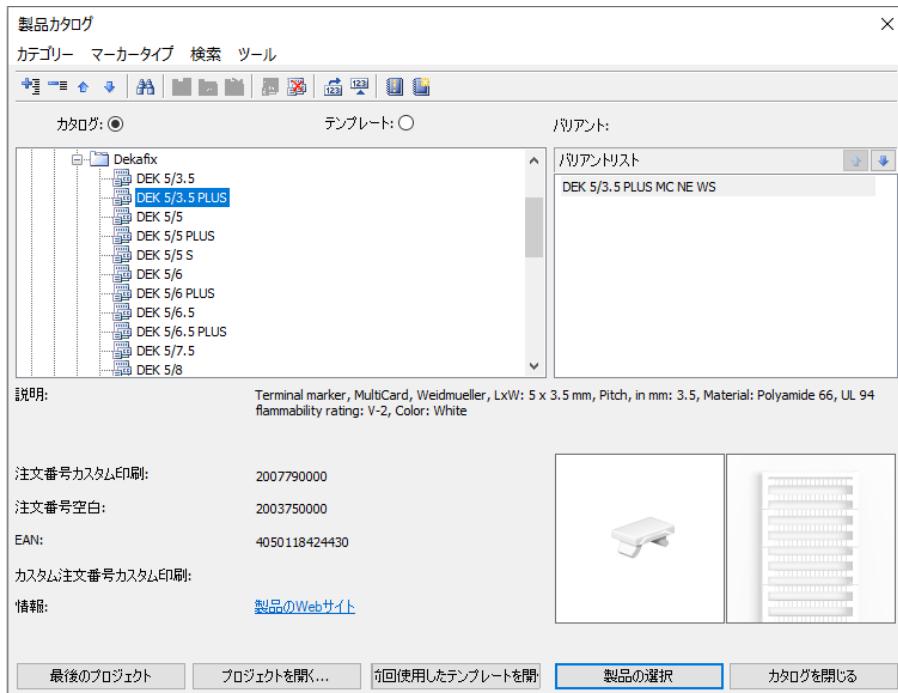


または

- 「スタート」>「プログラム」>「Weidmüller」>「M-Print® PRO」を選択して、M-Print® PROを起動します。

ステップ2: マーカータイプの選択

アプリケーションを起動すると、「製品カタログ」ウィンドウが表示されます。



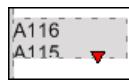
- 「カタログ」の左ペインで、使用するマーカータイプをクリックし、右ペインで「バリエント」をクリックして選択してから、「製品の選択」ボタンをクリックします。マーカータイプが開きます。

ステップ3: マーカーにキャプションを入れる

- 左マウスボタンをクリックして、テキストを追加するマーカーを選択します。



- 次のマーカーに移動するには Enterキーを押すか、または目的のマーカーをクリックします。

 テキストの挿入後にテキストフィールドに赤い三角形が表示された場合は、テキストがこのフィールドに収まらないことを示しています。この場合、一部のテキストが表示・印刷されません。その際はテキストを短くするか、またはプログラムで自動的にフィールドに合わせるようにする必要があります（「書式」メニューの章の「フォントサイズの調整」を参照）。

 テキストの挿入後にテキストフィールドにオレンジ色の三角形が表示された場合は、テキストフィールドの幅が狭いために1行のテキストが複数行で表示されることを示しています。次のように調整できます。

- マーカー長の調整
「一般的な操作」の章の「マーカー長の調整」セクションを参照。
- 文字列の調整
「一般的な操作」の章の「文字列の調整」セクションを参照

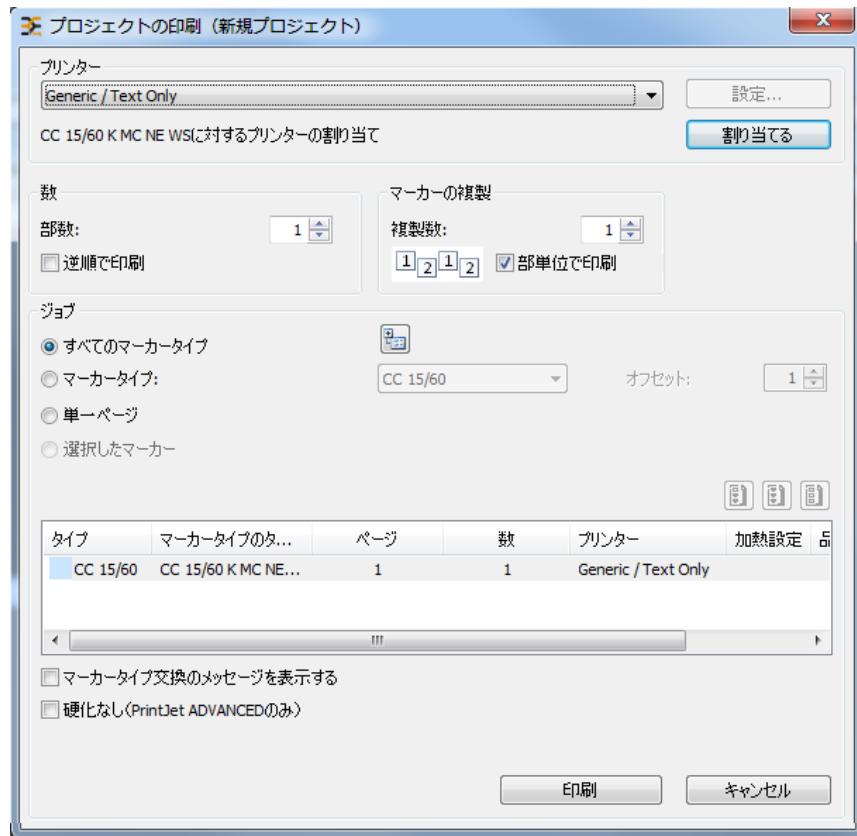
ステップ4: ファイルの保存

すべての入力が終了したら、ファイルを保存します。

- メニューからメニュー項目「ファイル」> 「保存」を選択します。
- 次のウィンドウでファイル名を入力し、「保存」ボタンをクリックします。

ステップ5: マーカータイプを印刷する

- メニューバーからメニュー項目「ファイル」>「印刷..」を選択します。
- プリンターリストからプリンターを選択して「割り当てる」をクリックします。
- 次のウィンドウでプリンターの種類を選択します（プリンター/プロッター）。
- 次のダイアログで製品のすべてのバリエントに出力デバイスを割り当てるかどうかを指定できます。選択したバリエントにのみ割り当てる場合は「いいえ」を選択します。
- リストからマーカータイプを選択し、「印刷」ボタンをクリックします（「印刷」ボタンをクリックすると通常使うプリンターで印刷されます）。



i 印刷するマーカータイプ、または印刷するすべてのマーカータイプの印刷時にどのプリンターも割り当てられていない場合、「印刷」ボタンをクリックすると通常使うプリンターで印刷されます。

💡 正しい位置に印刷されなかつた場合は、プリンターを校正する必要があります（「[マーカータイプにプリンターを設定する](#)」の章を参照）。

ステップ6: ファイルを閉じる

- メニューバーからメニュー項目「ファイル」>「閉じる」を選択します。

プロジェクトの管理

プロジェクトの構造

1つのプロジェクト（1）は、1つ以上のサブプロジェクト（2）で構成できます。次の章を参照してください。「プロジェクトエクスプローラ」

これらのサブプロジェクトには任意の数のマルチカードまたはラベルを含めることができます。

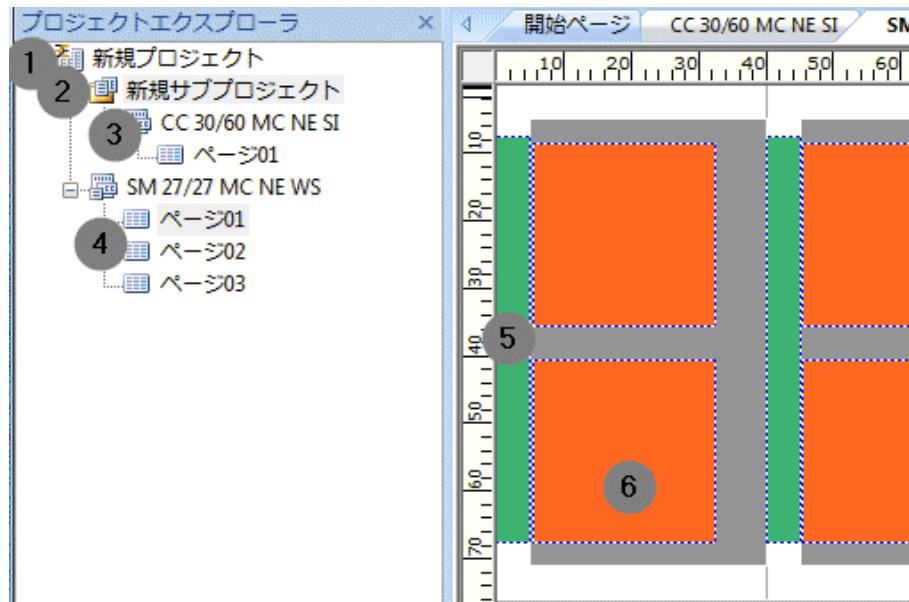
あるマーカータイプは複数のページ（4）で構成でき、テキスト、バーコード、画像、図形要素（線、四角形など）などの様々な要素を含むことができます。すべての画像とバーコードは専用のフォルダーに保存されます。

1枚のマルチカードは種類に応じて、指定した数のマーカー領域（6）とプロジェクト領域（5）で構成され、これらの領域は水平（行）/垂直（バー）に配置されます。

マーカー領域は実際のキャプションを入れる領域です。マーカー領域はマーカーレイヤーにあります。

プロジェクト領域はマーカーをプロジェクトに割り当てるために使用されます。プロジェクト領域はプロジェクトレイヤーにあります。

1つのプロジェクトは複数のマーカータイプを持つことができます（3）。



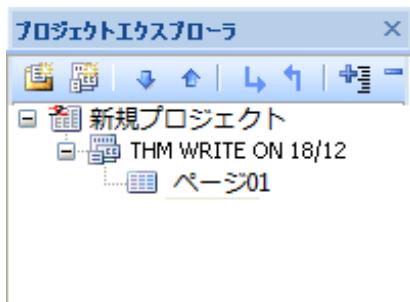
i 現在開いているファイルまたは最後に開いたファイルが、開始ページの「開く」オプションでリストの先頭に表示されます。



プロジェクト名の変更

新しいマーカータイプを開くと、1つのプロジェクトカテゴリーが自動的に作成され、デフォルトで「新規プロジェクト」という名前が付きます。

プロジェクトエクスプローラが表示されていない場合は、「[「表示」メニュー](#)」の章を参照してください。



このプロジェクト名を変更する場合は、次の手順を実行します。

- 「新規プロジェクト」カテゴリーをクリックします。

 ツールバーのこのアイコンをクリックします。
「プロパティ」ツールバーが表示されていない場合は、「[「表示」メニュー](#)」の章を参照してください。

「プロパティ」ウィンドウが開きます。



- 「新規プロジェクト」フィールド内でクリックし、使用したいプロジェクト名を入力して上書きします。

プロジェクトへのマーカータイプの追加

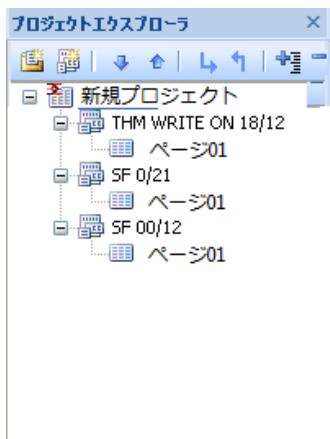
1つのプロジェクトに複数のマーカータイプを割り当てることができます。

- プロジェクトエクスプローラで右マウスボタンをクリックします（「[\[プロジェクトエクスプローラ\] ウィンドウ](#)」を参照）。

次のコンテキストメニューが表示されます。



- コンテキストメニュー項目「**新規マーカータイプの挿入**」を選択します。表示されるダイアログの指示に従うと、マーカータイプがプロジェクトエクスプローラに追加されます。



サブプロジェクトの追加

プロジェクトのマーカータイプの管理を容易にするために、これらのマーカータイプをサブプロジェクトに割り当てることができます。

サブプロジェクトを追加するには 次の手順を実行します。

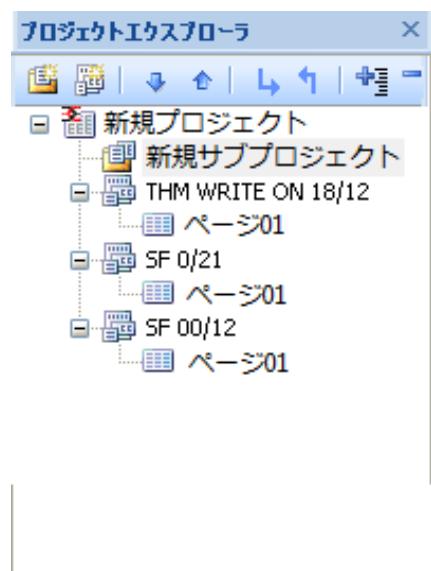
- 一番上にあるメインプロジェクトをクリックし、右マウスボタンをクリックします。

次のコンテキストメニューが表示されます。



- コンテキストメニュー項目「新規サブプロジェクトの挿入」を選択します。

サブプロジェクトがメインプロジェクトの下に配置されます。



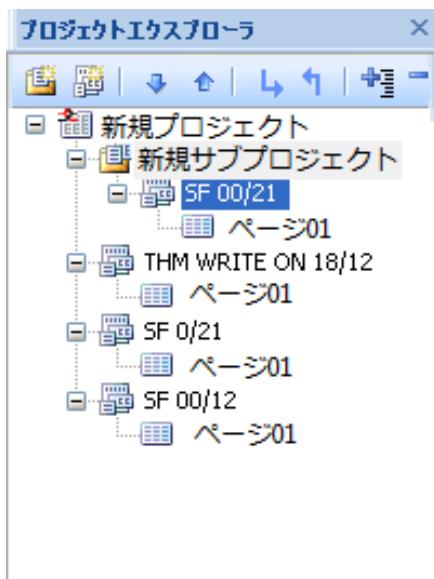
マーカータイプをサブプロジェクトに割り当てる

- サブプロジェクトをクリックし、コンテキストメニューを使用して新しいマーカータイプを追加します（「[プロジェクトへのマーカータイプの追加](#)」のセクションも参照）。

既に存在するマーカータイプをサブプロジェクトに割り当てる場合は、次の手順を実行します。

- 移動するマーカータイプを左マウスボタンでクリックし、ボタンを押したままにします。
- 左マウスボタンを押し下しながら、そのマーカータイプをサブプロジェクトにドラッグして移動します。

これで、そのマーカータイプはサブプロジェクト下に表示されるようになります。



マーカータイプの削除

- 削除するマーカータイプをクリックし、右マウスボタンをクリックします。



- コンテキストメニューで「マーカータイプの削除」を選択します。

サブプロジェクトの削除

- 削除するサブプロジェクトをクリックし、右マウスボタンをクリックします。



- コンテキストメニューで「サブプロジェクトの削除」を選択します。



これにより、そのサブプロジェクトとその下に所属するすべてのマーカータイプが削除されます。

プロジェクトを閉じる

- プロジェクトエクスプローラでマウスを右クリックします。



- コンテキストメニューで「ファイルを閉じる」を選択します。

i ファイルをまだ保存していない場合は、ここで確認を求めるメッセージが表示されます。

製品カタログ

はじめに

製品カタログには、アプリケーションで使用できるすべての製品が、そのバリアントと共に含まれています。

プログラムを起動すると、「製品カタログ」ウィンドウが自動的に開きます。このウィンドウでは次の操作ができます。

- マーカータイプを選択する
- 最後に編集したプロジェクトを開く
- 特定のプロジェクトを開く

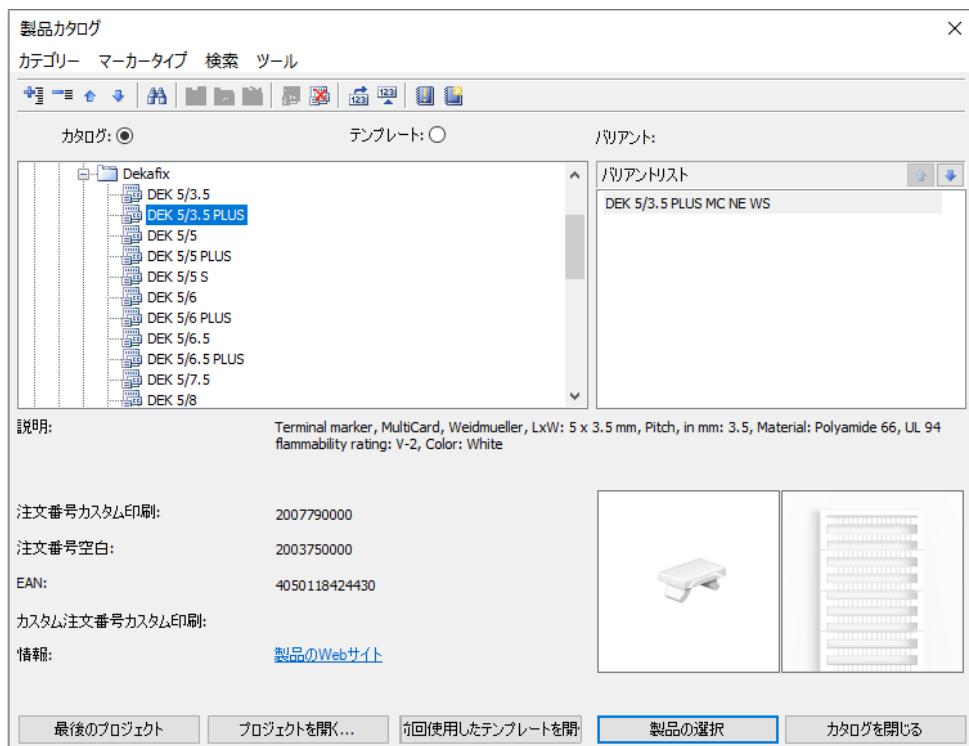
「製品カタログ」ウィンドウは製品の編成にも使用されます。

例えば、頻繁に使用する製品を、自分で定義した製品カテゴリーに保存できます。そのためには新しいカテゴリーを作成し、該当する製品をそこに追加します。

この章ではカタログの操作方法、製品の検索方法、および製品とカテゴリーを削除する方法について説明します。

「製品カタログ」ウィンドウを開く

- メニュー項目から「その他 > 「製品カタログ」を選択して、製品カタログを開きます。



情報が定義されている場合は、選択したパリヤントの説明と素材番号がウィンドウの左下の部分に表示されます。ウィンドウの右下の部分には、選択したパリヤントの写真が表示されます。

i 写真をダブルクリックするとウィンドウが開き、そこには製品の拡大写真が表示されます。

i 製品写真是、実物とは若干異なる場合があります。

[製品のWebサイト](#) をクリックすると、インターネットにある製品のデータシートが表示されます。このリンクは、データシートがある場合にのみ表示されます。

このウィンドウには次のボタンがあります。

最後のプロジェクト

このボタンをクリックすると、最後に編集したプロジェクトが開きます。
このボタンは、プログラムの起動後のみ、使用できます。

プロジェクトを開く…

特定のプロジェクトを開きます（「[プロジェクトの構造](#)」の章を参照）。
このボタンは、プログラムの起動後のみ、使用できます。

前回使用したテンプレートを開く

前回開いたテンプレートを開きます。
このボタンは、プログラムの起動後のみ、使用できます。

製品の選択

このボタンを使用して、特定の製品を選択できます。

カタログを閉じる

製品カタログを閉じます。

新しい製品カテゴリーの作成

自分専用の製品カテゴリーを作成し、そこに、よく利用するすべてのマーカーを保存することができます。次の手順を実行します。

- 製品カタログを開きます（「その他」>「製品カタログ」）。
- 新しいカテゴリーを追加するには、一番上のレベル（「カタログ」をクリックします。
サブカテゴリーを作成するには、該当するカテゴリーをクリックします。その下にサブカテゴリーが追加されます。
- メニュー項目から「カテゴリー」>「新規作成」を選択します。

これにより、新しいカテゴリーが作成されます。



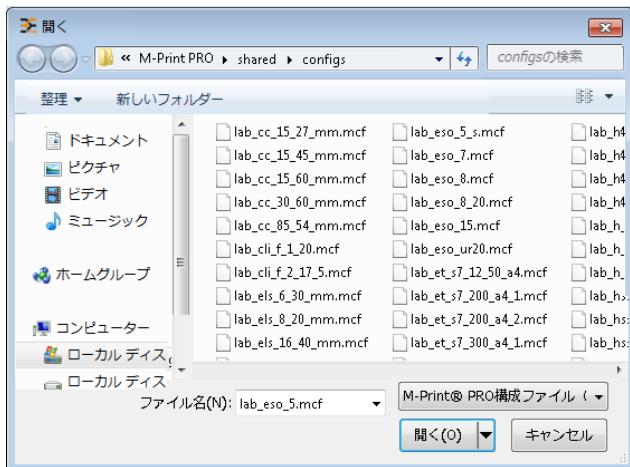
- カテゴリーに付ける名前を入力します。

これで、必要な製品をカテゴリーに追加できるようになります（[「製品の追加」](#)のセクションを参照）。

製品の追加

- メニューから「その他」>「製品カタログ」を選択して、製品カタログを開きます。
 - 製品を追加するカテゴリーをクリックします。
 - メニュー項目から「マーカータイプ」>「追加」を選択します。

次のウィンドウが表示されます。



ここには、アプリケーションで使用でき、専用のフォルダーに保存されたすべての製品が表示されます。

- 必要な製品をクリックし、「開く」ボタンをクリックします。
選択した製品がカテゴリーに追加されます。
 - 「カタログを閉じる」ボタンをクリックして、製品カタログを終了します。



カタログは自動的に保存されます。

製品の削除

- 削除する製品をクリックして選択します。
- 「製品カタログ」ウィンドウのメニューバーで、メニュー項目「マーカータイプ」> 「削除」をクリックします。
- 確認プロンプトが表示された後で、製品カタログから削除されます。



製品はカタログからのみ、削除されています。

アプリケーションフォルダーから削除されるわけではありませんが、いつでもまた追加できます。

あるカテゴリーからすべての製品を削除する

- すべての製品を削除するカテゴリーをクリックします。
- メニュー項目から「カテゴリー」> 「クリア」を選択します。
- 確認プロンプトが表示された後、カテゴリーがクリアされます。



製品はこのカテゴリーからのみ、削除されています。

アプリケーションフォルダーから削除されるわけではありませんが、いつでもまた追加できます。

製品カテゴリーの削除

- カテゴリーをクリックし、メニュー項目から「カテゴリー」> 「削除」を選択します。
- 確認プロンプトが表示された後、カテゴリーが削除されます。

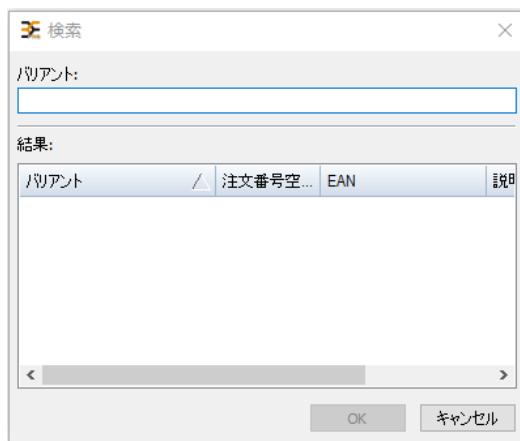
製品の検索

新しいマーカータイプを選択したしが、正確な製品名や素材番号がわからない場合には、製品検索を使用できます。

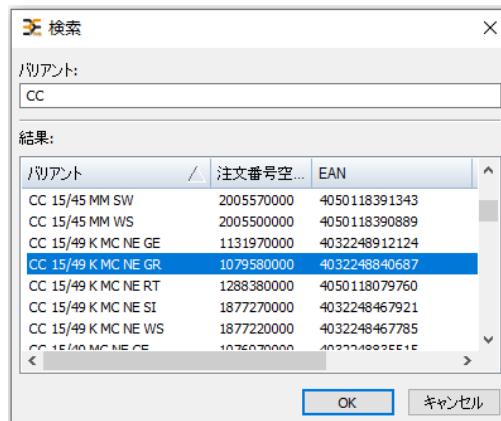
この検索を使用して、製品をカタログに追加することはできません（詳細については「[製品の追加](#)」を参照）。

- メニューから「ツール」>「製品カタログ」を選択して、製品カタログを開きます。
- メニュー項目「検索」を選択します。

製品検索を行うためのウィンドウが表示されます。



- 「バリエント」フィールドに製品名を入力します。
少なくとも2文字以上を入力すると、その検索文字を含むすべての製品が検索結果のリストに表示されます。



- 目的の製品をクリックして選択し、「OK」をクリックして選択を確定します。

製品名の変更

カタログの製品に別の名前（社内で使用するための名前など）を付けるために、製品のタイトル名およびまたはバリアント名を変更することができます。

変更されたバリアント名は、例えば次の場所に表示されます。

- プロパティ（「[マーカーのプロパティ](#)」の章の「全般」セクションを参照）
- 印刷ダイアログ（「[印刷メニューの呼び出し](#)」の章を参照）

名前を変更するには次の手順を実行します。

- メニューから「ツール」>「製品カタログ」を選択して、製品カタログを開きます。
- マーカータイプを選択します。
- タイトルまたはバリアント名を選択し、F2キーを押します。
- 別の名前を入力し、Enterキーで入力を確定します。
- 確認プロンプトが表示された後、名前が変更されます。

テンプレート

テンプレートは調整され、保存されたマーカータイプです。

テンプレートは（マーカータイプ同様）プロジェクトテンプレートとして保存でき、また、マーカータイプと同じように多くの領域で利用できます（インポートなど）。

あるマーカータイプご、例えはさらに要素（テキストフィールド、画像およびバーコードフィールドなど）を追加でき、その設定をテンプレートファイル.mptとして保存できます。

次のようなテンプレートファイルのプロパティに気をつけてください。

- テンプレートは「1つの」マーカータイプのみ構成されます
- テンプレートには「1」ページのみが含まれます

テンプレートの保存

- マーカータイプを開き、設定を行います。
- メニュー項目から「ファイル」>「名前を付けて保存...」を選択します。
- ファイルタイプとして「M-Print® PROテンプレート (*.mpt)」を選択します。
- 定義されているテンプレート用デフォルトディレクトリにファイルを保存すると（「オプション」の章の「ディレクトリ」セクションを参照）、ファイルは自動的に製品カタログに表示されます。



テンプレートにさらに要素を設定する場合は、次の点に注意する必要があります。

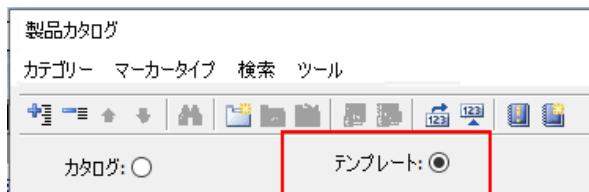
- できるだけ、ドキュメント固有のフィールドまたはドキュメントフィールドを使用します（「プロパティ」ウインドウ」の章を参照）。
- 要素の個々のプロパティ（色、強調表示など）を調整する場合は、それをデフォルトとして設定します（「デフォルトとして設定」）。

カテゴリーのテンプレートを整理する

使用可能なカテゴリー テンプレートを適用できます。これによって、よく使用するテンプレートを整理します。

次の手順を実行します。

- メニュー項目から「その他」>「製品カタログ」を選択して、製品カタログを開きます。
- 範囲テンプレートを選択してください。

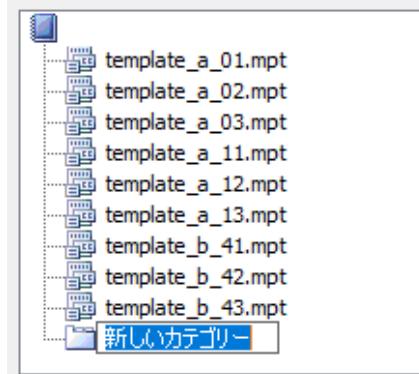


オプションが表示されない場合は、デフォルトディレクトリにテンプレートを保存します。
「テンプレートの保存」を参照してください。

新しい製品カテゴリーの作成

- 新しいカテゴリーを創始するには、一番上のレベル（をクリックします。
サブカテゴリーを作成するには、該当するカテゴリーをクリックします。その下にサブカテゴリーが追加されます。
- メニュー項目から「カテゴリー」>「新規作成」を選択します。

これにより、新しいカテゴリーが作成されます。

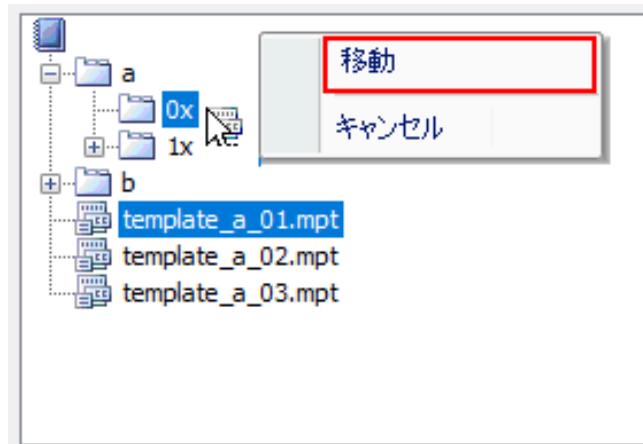


- カテゴリーに付ける名前を入力します。

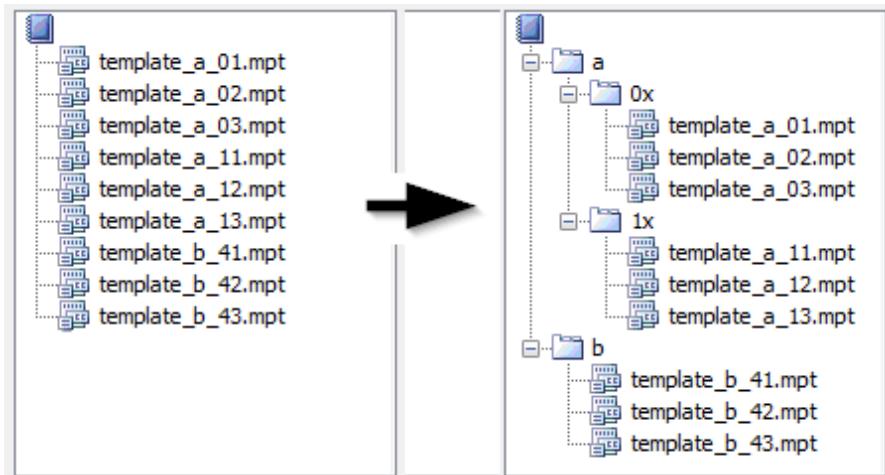
これで、目的のテンプレートをカテゴリーに割り当てられます。
「カテゴリーのテンプレートを移動する」を参照してください。

カテゴリーのテンプレートを移動する

- マウスを右クリックしてテンプレートを選択し、目的のカテゴリーにドロップします（ドラッグアンドドロップ）。
- 表示されているダイアログで「移動」を選択します。



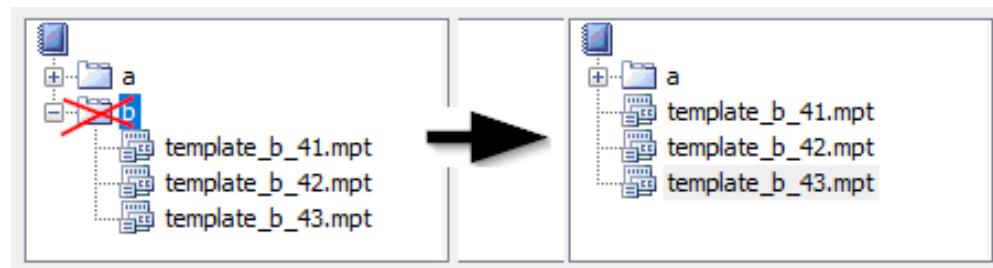
例



製品カテゴリーの削除

- カテゴリーをクリックし、メニュー項目から「カテゴリー」>「削除」を選択します。
- 確認プロンプトが表示された後、カテゴリーが削除されます。

 カテゴリーを削除してもその中のテンプレートは削除されず、一番上のカテゴリーに再表示されます。



製品カタログのリセット

誤って製品カタログから構成を削除したり、新しいカタログファイル (*.mca) をインポートした場合は、製品カタログをリセットできます。

その際には、「お気に入り」フォルダーを除くすべてのフォルダーが、工場出荷時の状態にリセットされます。「お気に入り」フォルダーの内容とテンプレートはそのまま維持されます。

- メニューから「ツール」>「製品カタログ」を選択して、製品カタログを開きます。
- メニュー項目から「その他」>「カタログのリセット」を選択します。
- 確認プロンプトで操作を確定します。

製品カタログの更新

新しい構成ファイルまたは改訂された構成ファイルで、製品カタログを更新することができます。次の手順を実行します。

- メニューから「その他 > 「製品カタログ...」を選択して、製品カタログを開きます。
- メニュー項目から「その他 > 「製品の追加/更新...」を選択します。

構成ファイルを検索するためのウィンドウが表示されます。



次の手順を実行します。

1 検索先フォルダー

新しい構成ファイルが保存されている検索先フォルダーを選択します。

2 今すぐ検索

構成ファイルを検索するには、選択したディレクトリで「今すぐ検索」をクリックします。

3 検出されたファイル

検索の実行により検出されたファイルの数が表示されます。

4 更新するファイル

新しいファイルまたは最近のファイルの数が表示されます。

5 製品の選択

必要な構成を選択します。

6 選択されたファイル数

ビューごとに選択されたファイル数が表示されます。

7 適用

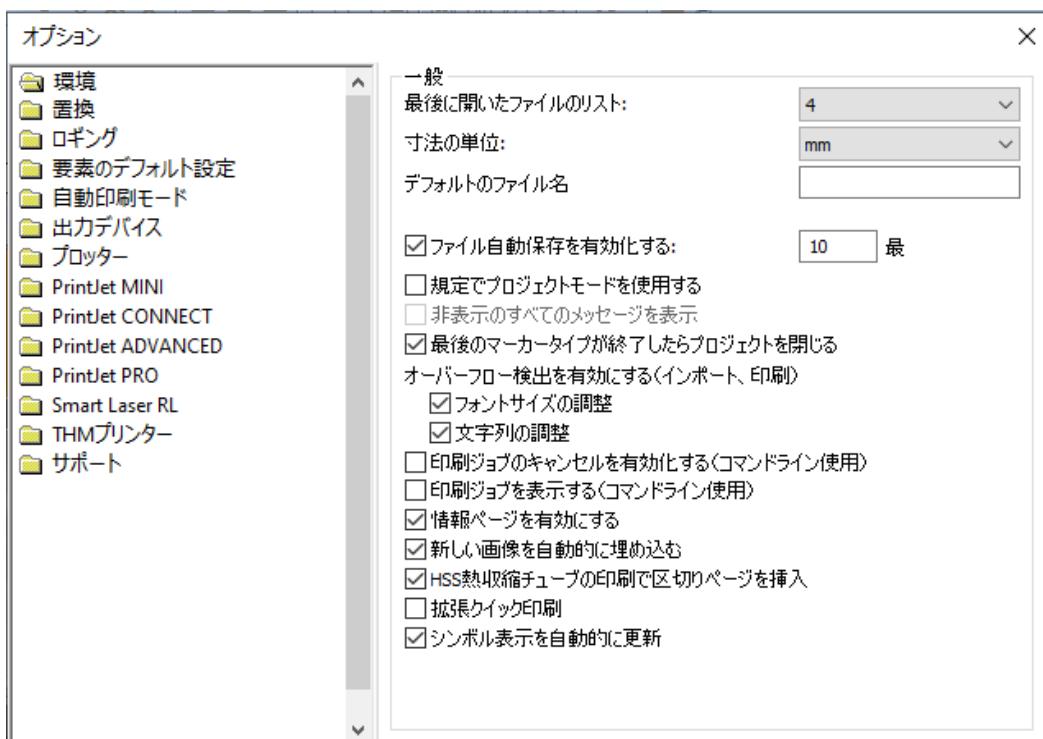
選択した構成を、製品カタログにコピーするには、「適用」をクリックします。

「オプション」ダイアログ

はじめに

この章では「オプション」ダイアログで設定される基本的な設定について説明します。

- 「オプション」ダイアログを開くには、メニュー「ツール」>「オプション」を選択します。



環境

環境設定では表示と一般的な基本設定を定義します。

一般

一般	
最後に開いたファイルのリスト:	4
寸法の単位:	mm
デフォルトのファイル名	<input type="text"/>
<input checked="" type="checkbox"/> ファイル自動保存を有効化する: <input type="text"/> 10 最	
<input type="checkbox"/> 規定でプロジェクトモードを使用する	
<input type="checkbox"/> 非表示のすべてのメッセージを表示	
<input checked="" type="checkbox"/> 最後のマーカータイプが終了したらプロジェクトを閉じる	
オーバーフロー検出を有効にする(インポート、印刷)	
<input checked="" type="checkbox"/> フォントサイズの調整	
<input checked="" type="checkbox"/> 文字列の調整	
<input type="checkbox"/> 印刷ジョブのキャンセルを有効化する(コマンドライン使用)	
<input type="checkbox"/> 印刷ジョブを表示する(コマンドライン使用)	
<input checked="" type="checkbox"/> 情報ページを有効にする	
<input checked="" type="checkbox"/> 新しい画像を自動的に埋め込む	
<input checked="" type="checkbox"/> HSS熱収縮チューブの印刷で区切りページを挿入	
<input type="checkbox"/> 拡張クリック印刷	
<input checked="" type="checkbox"/> シンボル表示を自動的に更新	

最後に開いたファイルのリスト

最後に開いたプロジェクトファイルのリストが、「ファイル」メニューと開始ページに表示されます。

寸法の単位

プログラム全体で使用される寸法の単位(インチ、mm、cm、μm)を、ここで指定します。

デフォルトのファイル名

「保存」または「名前を付けて保存」機能を使用するときにデフォルトで表示されるファイル名です。

ファイル自動保存を有効化する

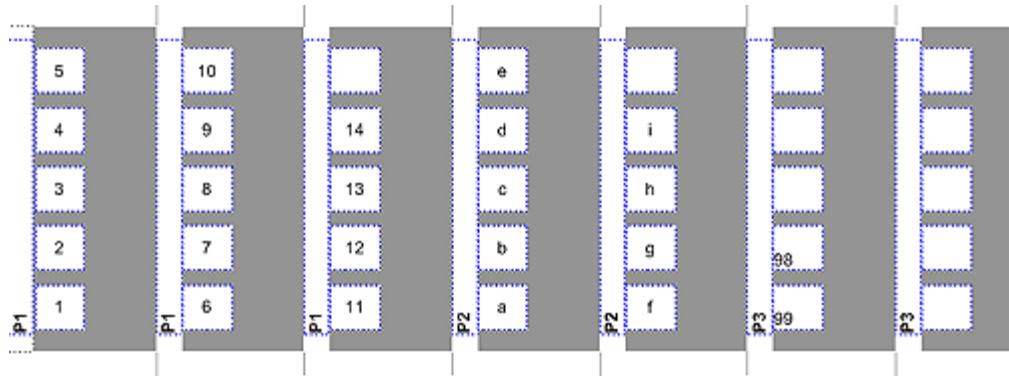
選択した時間間隔でファイルが自動保存されます。

規定でプロジェクトモードを使用する

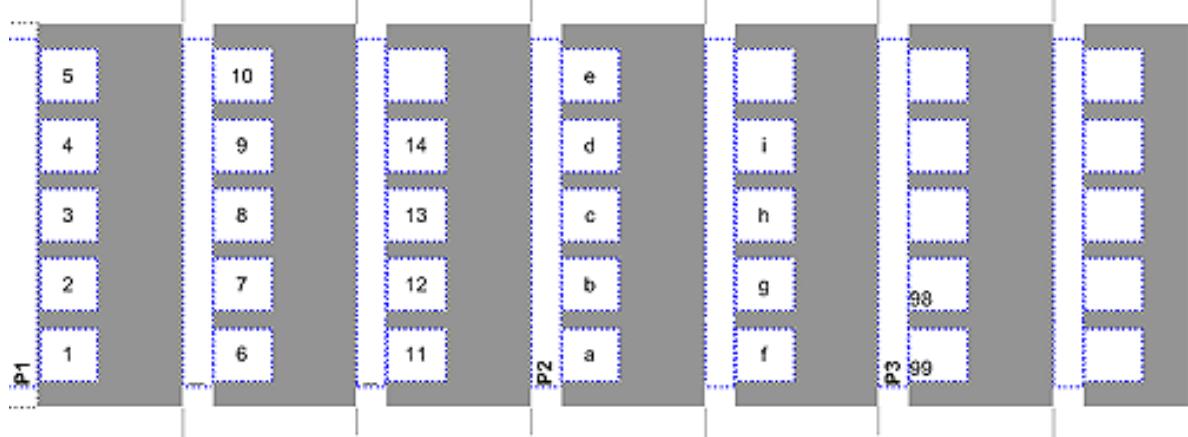
プロジェクトモードはプロジェクトレイヤーを持つマーカータイプでのみ使用できます。

プロジェクトモードでは、同じキャプションの付いたプロジェクトマーカーがある場合、最初のものだけにキャプションが付きます。

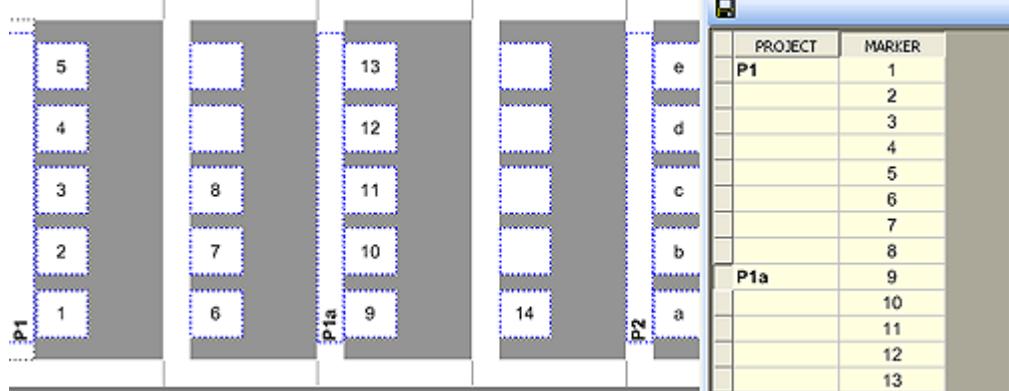
プロジェクトモード: いいえ



プロジェクトモード：はい



あるマーカーで、(例えはデータグリッドを使って)別のプロジェクトマーカキャプション(「P1a」など)を挿入した場合、新しいプロジェクトマーカキャプションが表示される。



非表示のすべてのメッセージを表示

多くのダイアログでは「今後、このメッセージを表示しない」または「今後、このダイアログを表示しない」チェックボックスを使用して、非表示にできます。

- すべてのダイアログを再表示するには、このチェックボックスにチェックマークを付け、**適用**をクリックします。

最後のマーカータイプが終了したらプロジェクトを閉じる

チェックマークが付いている場合、最後のタブが閉じた（「[インターフェイス](#)」を参照）後にプロジェクトが閉じます。そうでない場合、プロジェクトツリーを使用してタブをもう一度開くことができます。

オーバーフロー検出を有効にする（インポート、印刷）

チェックマークが付いている場合、インポートの後または印刷の前にフィールドのすべての文字や図形が表示されているかどうかが自動的に検査されます。

一部表示されていない文字や図形がある場合、フィールドご次のようなマークが表示されます（「[文字列の調整](#)」、「[フォントサイズの調整](#)」も参照）。



印刷ジョブのキャンセルを有効化する（コマンドライン使用）

チェックマークが付いている場合、あるファイルを印刷する際に、ダイアログでコマンドライン（「[コマンドラインの起動](#)」を参照）を使用して印刷ジョブをキャンセルできます。

印刷ジョブを表示する（コマンドライン使用）

チェックマークが付いている場合、あるファイルを印刷する際に、コマンドライン（「[コマンドラインの起動](#)」を参照）を使用して印刷ジョブを表示できます。

情報ページを有効にする

ページ番号の横に、マーカータイプのレイアウトに関する情報ページが追加で表示されます。

新しい画像を自動的に埋め込む

新しい画像エレメントを挿入する際に、その画像を自動的に埋め込み、リンクパスを張りません。

プログラムファイルを複数開いた場合はすべてのソース画像が自動的に使用できるようになります。

埋め込まれた画像を後でファイルから削除し、保存する方法については、「[ファイルから画像を抽出する](#)」の章を参照してください。

HSS熱収縮チューブの印刷で区切りページを挿入

HSS熱収縮チューブへの印刷ジョブが複数ある場合に、区切りページ（空白のページ）を自動的に挿入します。

拡張クイック印刷

チェックマークを入れると、クイック印刷時にコピー部数を選択できます。「[高速印刷](#)」を参照してください。

表示



グリッドのオプション

グリッドの設定（「[\[表示\] メニュー](#)」の章を参照）。

プロジェクトの最初のプロジェクトマーカーのみを表示

プロジェクトマーカーの内容が同じである場合、最初のマーカーだけを表示します。

開始時にデータグリッドを表示

プログラムの起動時に常にデータグリッドを表示します。

オブジェクトが選択されたときに自動的にレイヤーを選択する

チェックマークが付いている場合、マウスをクリックするとプロジェクトレイヤーとマーカーレイヤーが自動的に切り替わります。

チェックマークが付いていない場合は、標準ツールバーを使用して切り替える必要があります（「[ツールバー](#)」の章を参照）。

オーバーフローと改行を表示

内容が完全に表示されていないフィールドや自動改行が含まれているフィールドは、次のように表示されます（「[ステップ3: プロジェクトとバリエントの選択](#)」）：



印刷設定の変更を有効化する

印刷ダイアログの「設定...」ボタンを選択できるようにするかどうかを定義します（「[印刷](#)」の章の「[印刷メニューの呼び出し](#)」セクションを参照）。

言語設定

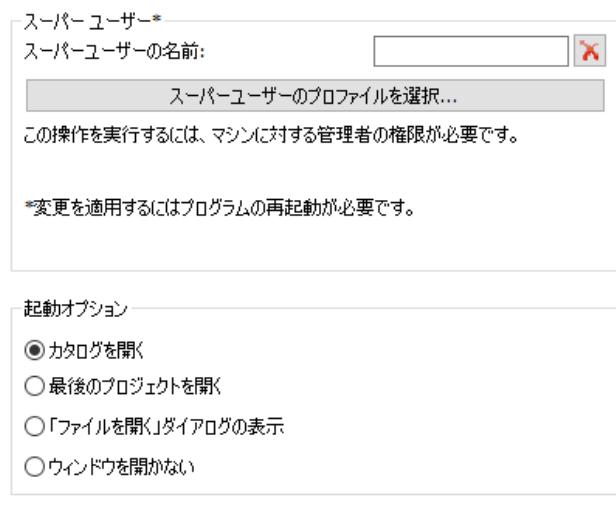
言語設定の切り替え

MUIセットアップ (MUI : 多言語ユーザーインターフェイス) をインストールすると、選択フィールドで別の表示言語を選択できます。



選択フィールドでどの言語も選択できない場合は、このセットアップを使用して新たな言語パッケージをインストールする必要があります。

起動オプション



スーパーユーザー

セットアップ中に Windows の「スーパーユーザー」フィールドにユーザーのログイン名を入力できます。このユーザーが行うすべてのプログラム設定（パス設定、プリンターの校正など）は、ログインしている他のすべてのユーザーの共通設定として適用されます。

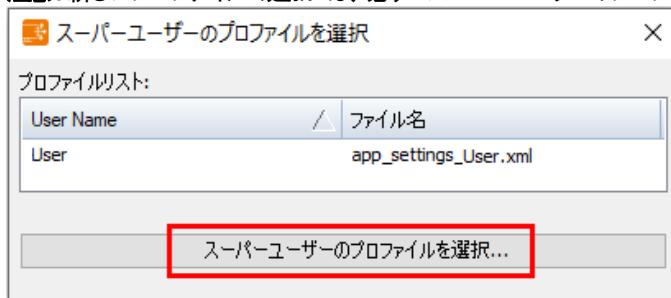
他の全ユーザーの個別プログラム設定：

- 言語設定
を参照してください。 [「言語設定」](#)

ボタンを使って別のスーパーユーザーを選択できます。

注意：この操作を実行するには、マシンに対する管理者の権限が必要です。このプロセスはプログラムの再起動時に各ユーザーに対して実行されます。

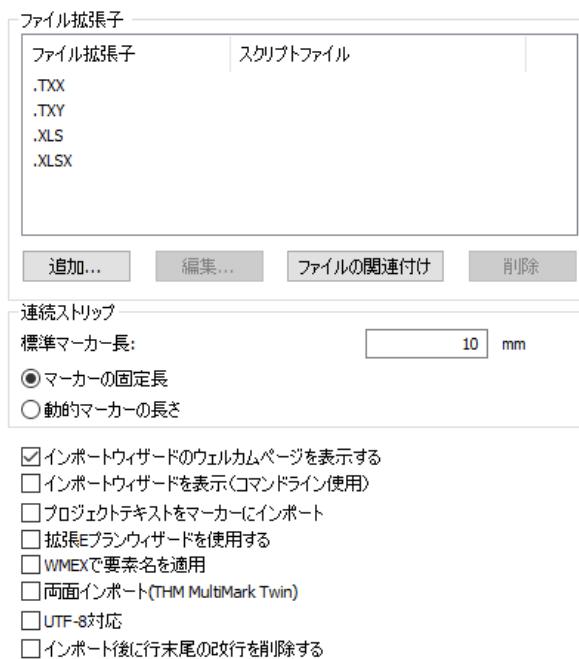
注意：新しいプロファイルの追加には、必ず「スーパーユーザーのプロファイルを選択」ボタンを使用します。



起動オプション

ここで、プログラムを起動した後の動作を指定します。

インポート



ファイル拡張子

ここで、様々なファイル拡張子をスクリプトファイルと関連付けることができます。

このプログラムで（例えばコマンドラインを使って）ファイルを開くときによ、スクリプトファイルが自動的に実行されます。

ファイルの関連付け

ファイルはマウスでダブルクリックするとプログラムによって自動的に開くことができます。このようにするためにには、ファイル拡張子（「.xls」など）をリストに追加し、「ファイルの関連付け」ボタンをクリックする必要があります。リストにあるすべてのファイル拡張子がプログラムに登録されます。

連続ストリップ

連続ストリップを選択するためにカタログを開いたときにダイアログが別途表示されるので、そこで詳細を設定します。「[連続ストリップ](#)」を参照してください。

インポートで連続ストリップを選択する場合には、このダイアログは表示されません。その代わりに、ここに表示された数値が標準としてインポートに適用されます。「[ステップ3: プロジェクトとバリエントの選択](#)」を参照してください。

インポートウィザードのウェルカムページを表示する

XMLでインポートウィザードを表示

XMLファイルはインポートするか、またはコマンドラインを使用して開くことができます（「[コマンドラインの起動](#)」の章を参照）。チェックマークが付いている場合、コマンドラインを使用してファイルを開く際にインポートウィザードが表示されます。チェックマークが付いていない場合は、インポートウィザードが表示されません（「[ファイルのインポート](#)」の章を参照）。

プロジェクトテキストをマーカーにインポート

チェックマークが付いている場合、プロジェクトレイヤーに挿入されているテキストが、代わりにマーカー領域に挿入されます。

拡張Eプランウィザードを使用する

チェックマークが付いている場合、WExファイルのインポート時にインポートウィザードに区切り文字の付いたページも表示されます。WExファイルでは区切り文字がデフォルトで設定されており、変更することはできません。

WMEXで要素名を適用

このチェックマークをオンにすると、*.wmex ファイルを開くときに要素名が使用されます。

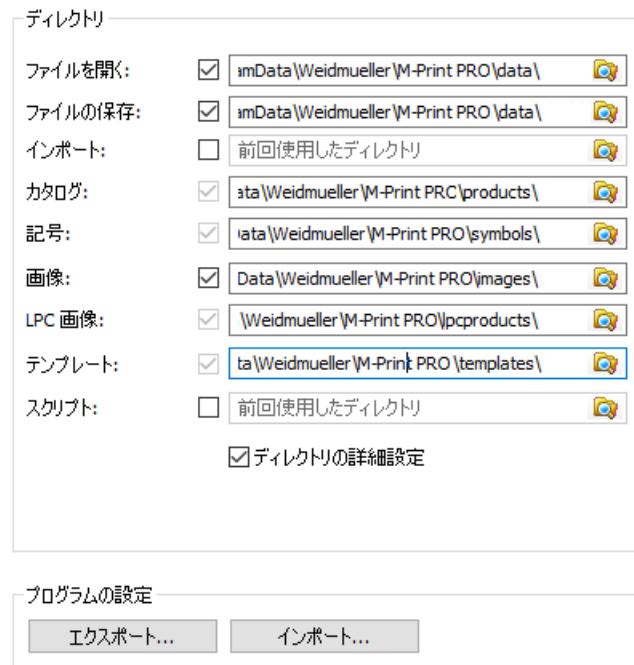
両面インポート(THM MultiMark Twin)

このチェックボックスにチェックを入れると、インポート時に両面をインポートできます。

UTF-8対応

特殊文字が正しく表示されない場合は、変更した文字コードを使用。

ディレクトリ



ディレクトリ

表示される領域は事前に設定されており、保存ディレクトリが参照されます。

「LPC 画像」ディレクトリはLPCスタンダードモードでのみ使用可能です。を参照してください。『[LPC印刷](#)』

ディレクトリの詳細設定

チェックマークを入れると、デフォルトパスを選択できます。選択が行われないと、その範囲で前回使用したパスが使用されます。

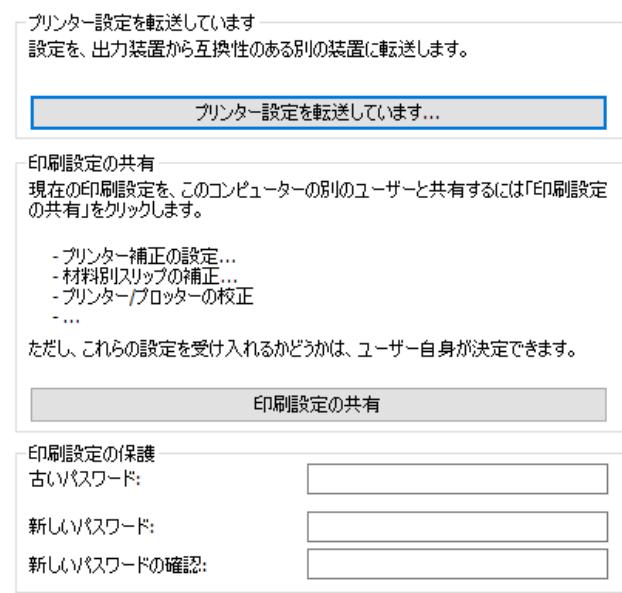
プログラムの設定

変更されたプログラムの設定を保存（エクスポート）したり読み込む（インポート）ことができます。
例えば、社内設定を一度調整し、別のコンピュータに読み込むことができます。

保存できるプログラム設定は次のものがあります。

- [更新](#)
- [複数時のグリッドオフセット](#)（「[表示](#)」を参照）
- [自動番号付け](#)（ダイアログの最後の値）
- [インポート](#)
- [インポートウィザード](#)（ダイアログの最後の値）
- [マーカータイプに割り当てられたプリンター](#)（「[マーカータイプへのプリンターの割り当て](#)」を参照）
- [プリンターグループ](#)
- [マーカータイプに合わせて調整したデフォルト値](#)
- [調整した印刷設定](#)（プリンターチューニング、材枠別スリップ、マーカータイプの設定など）

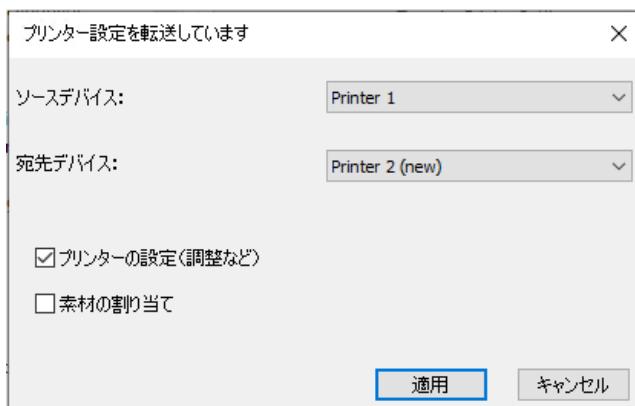
管理



プリンター設定を転送しています

設定を、出力装置から互換性のある別の装置に転送します。

プリンターを切り替える場合に、素材の割り当てを持ち越すことができます。『[マーカータイプへのプリンターの割り当て](#)』を参照してください。



印刷設定の共有

ダイアログの説明文を参照してください。

印刷設定の保護

調整したプリンター設定が誤って変更されないように、設定内容をパスワードで保護することができます。プリンターの設定値を変更しようとすると、パスワードが要求されます。

インストールの後、パスワードは設定されていません。

メニュー管理

個々のメニュー項目を非表示にしたり、パスワードで保護することができます。

メニュー管理*

メニュー項目	状態
ファイル->新規作成	使用可能
ファイル->開く	使用可能
ファイル->保存	使用可能
ファイル->別名で保存	使用可能
ファイル->画像を埋め込み、別名で...	使用可能
ファイル->閉じる	使用可能
ファイル->インポート	使用可能
ファイル->バックインポート	使用可能
ファイル->印刷	使用可能
ファイル->プロットモードの切り替え	使用可能
ファイル->マーカータイプの調整	使用可能

*変更を適用するにはプログラムの再起動が必要です。



すべて使用可能設定

すべてのメニュー項目が表示され、呼び出すことができます。



すべて保護設定

すべてのメニュー項目は表示されますが、メニューを呼び出すにはまず、パスワードを入力する必要があります。



すべて使用不可設定

すべてのメニュー項目が非表示となり、呼び出すことができません。



パスワードの設定

パスワードを設定または変更するためのダイアログが開きます。
インストールの後、パスワードは設定されていません。

注意

個々のメニュー項目にパスワードを設定する場合は、メニュー項目「設定」>「オプション」にもパスワードを設定して、許可なくパスワードのリセットができないようにする必要があります。

パスワードのリセット



をクリックし、現在のパスワードを入力し、新しいパスワードのフィールドを空のままにします。「OK」をクリックして入力を確定します。

状態

使用可能： メニュー項目は表示されます。

使用不可： メニュー項目は表示されません。

保護：

メニュー項目は表示されますが、まず、メニューを開くには、まずパスワードを入力する必要があります。

更新

更新設定の定義

更新の確認

更新を自動的にチェックしない
 プログラム起動時に毎回、更新を確認する
 すべての更新の確認:
1 日数

更新の確認...

色の設定

行0から9までの色の設定の定義（「[色の設定](#)」も参照）。

カラーコード	背景	フォント	
0	<input type="color" value="#000000"/>	<input type="color" value="#FFFFFF"/>	<input type="button" value="リセット"/>
1	<input type="color" value="#A52A2A"/>	<input type="color" value="#FFFFFF"/>	
2	<input type="color" value="#FF0000"/>	<input type="color" value="#000000"/>	
3	<input type="color" value="#FFFF00"/>	<input type="color" value="#000000"/>	
4	<input type="color" value="#FFFF00"/>	<input type="color" value="#000000"/>	
5	<input type="color" value="#008000"/>	<input type="color" value="#000000"/>	
6	<input type="color" value="#0000CD"/>	<input type="color" value="#000000"/>	
7	<input type="color" value="#FF00FF"/>	<input type="color" value="#000000"/>	
8	<input type="color" value="#808080"/>	<input type="color" value="#000000"/>	
9	<input type="color" value="#FFFFFF"/>	<input type="color" value="#000000"/>	

フィールド

様々なフィールド設定（カレンダー週など）の定義。

カレンダー週の設定

年: 第1週: ISO 8601

接頭辞: 週の表示形式: 接尾辞:

WW / YY

連続番号

自動ページ番号付けを有効にする（マルチカードのみ）

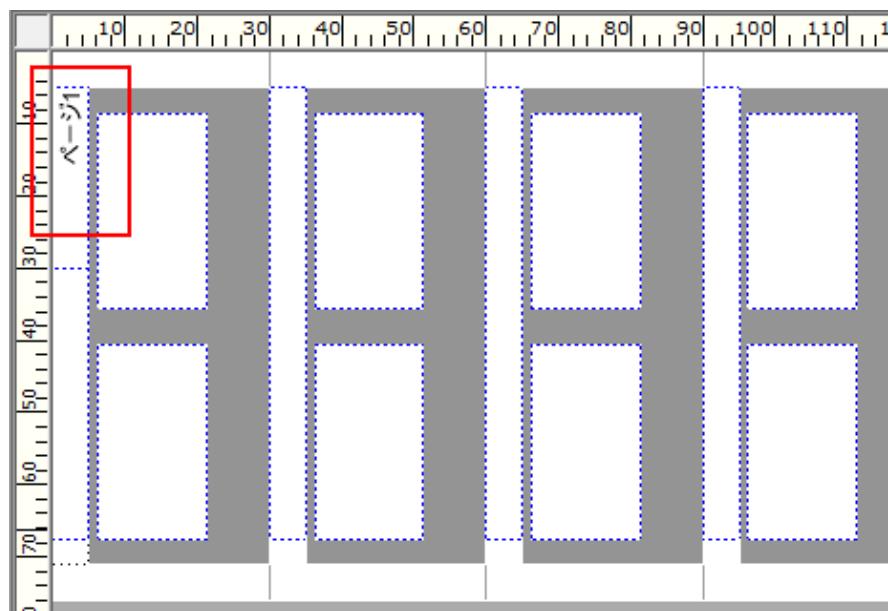
書式: ページ### ページ###/####

位置: 最初のプロジェクト名称 それぞれのプロジェクト名称

自動ページ番号付けを有効にする（マルチカードのみ）

新しく追加される素材の場合は、フリーレイヤーにページ番号が挿入されます。これはマルチカードの場合のみです。

例



基本設定

様々な基本設定の定義。

複製	
オフセットX:	2 mm
オフセットY:	2 mm
昇順で番号付け/降順で番号付け	
昇順で番号付け:	1
降順で番号付け	1

複製

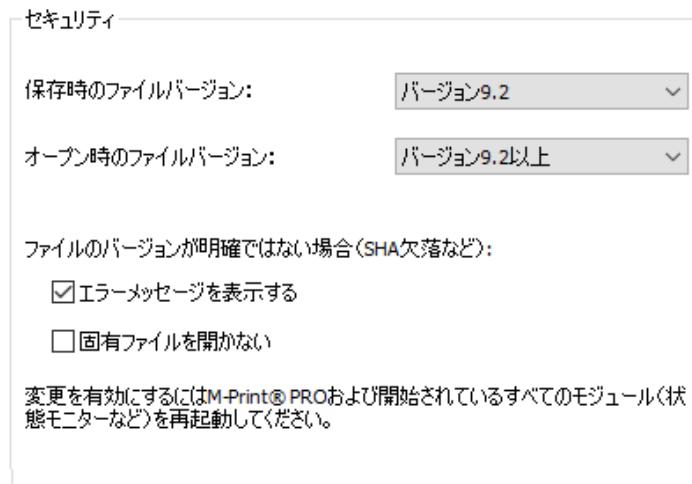
複製したオブジェクトの移動幅（「[「編集」メニュー](#)」の章を参照）。

昇順で番号付け/降順で番号付け

昇順で番号付けまたは降順で番号付けるためのデフォルト値を設定します（「[昇順と降順の番号付け](#)」の章を参照）。

セキュリティ

プログラムファイルを開く、および保存するためのセキュリティレベルを調整できます。



保存時のファイルバージョン:

- バージョン9.2 – 最大セキュリティレベル
ファイルは次のように保存されます:
 - AES暗号方式を使用,
 - SHAハッシュを使用このファイルはV 9.0よりも低いバージョンのプログラムで開くことができません。
- バージョン9.0 – 標準セキュリティレベル
ファイルは次のように保存されます:
 - AES暗号方式を使用このファイルはV 9.0よりも低いバージョンのプログラムで開くことができません。
- 古いバージョン – 最小セキュリティレベル
ファイルは次のように保存されます:
 - パスワードをかけ ZIP形式

オープン時のファイルバージョン:

- バージョン9.2以上 – 最高セキュリティレベル
ファイルは次のバージョンのプログラムで開くことができます:
 - バージョン9.2
 - 以上のバージョン
- バージョン9.0以上 – 標準セキュリティレベル
ファイルは次のバージョンのプログラムで開くことができます:
 - バージョン9.0, 9.2
 - 以上のバージョン
- すべてのファイル - 最小セキュリティレベル
すべてのファイルが開かれます。



プログラムファイルは様々なページ間で変換できます。「[「その他」メニュー](#)」を参照してください。

エラーメッセージを表示する

破損したファイルを開こうとすると、エラーメッセージが表示されます（古いファイルや、SHAなしで、または誤ったSHAで操作されたファイルなど）。

固有ファイルを開かない

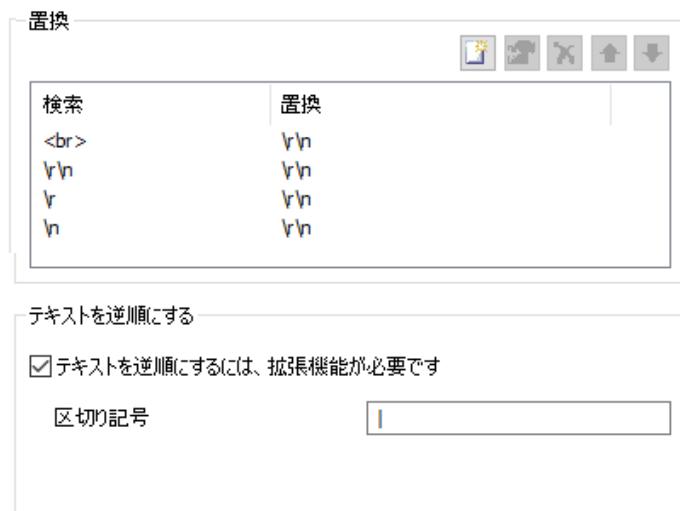
不明なファイルも開くことはできます（例えば「ソースがわかっている場合」）。

注意

セキュリティ設定を変更するには、「管理者」としてソフトウェアを起動する必要があります。次のディレクトリに対するアクセス権限（読み取り/書き込み権限）を持っている必要があります：「ProgramFiles\misc」

置換

テキストの置換



置換

クリップボードからテキストを挿入するかデータをインポートすると、このリストに定義されている文字が置き換えられます。データのインポートの最後の段階で、このリストで定義された文字が置き換えられます。「置換」の文字列に「\r\n」を入れると、インポート後の実データでは改行(CRLF)になります。

テキストを逆順にする

テキスト文字列を逆順にする拡張機能を有効にします。選択可能な区切り文字によって、テキストの順番が変更されます。「[「挿入」メニュー](#)」を参照してください。
最初に見つかった区切り文字でのみ、テキストの位置が入れ替わります。

例 区切り記号 " | "



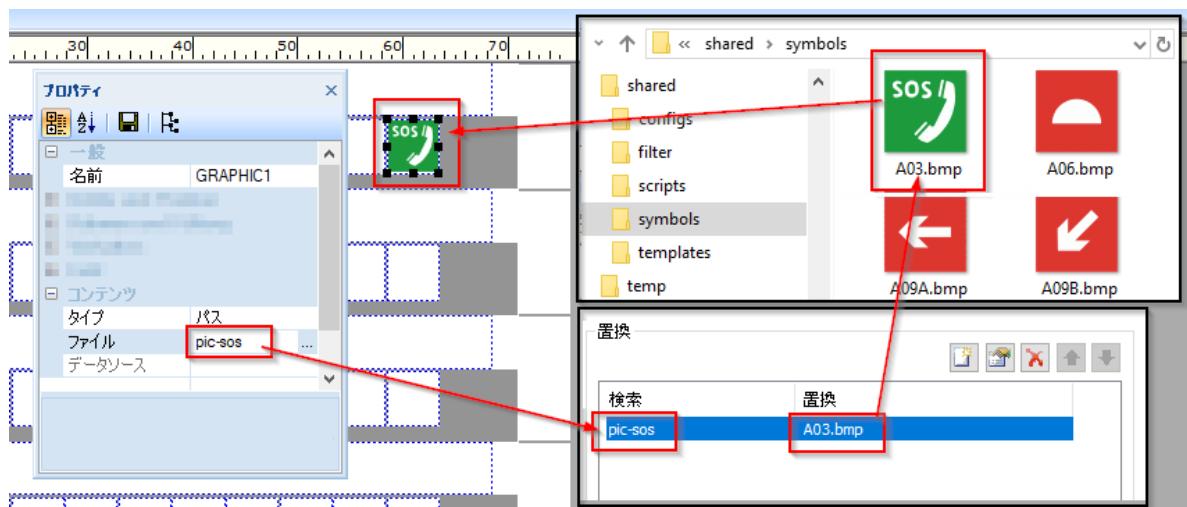
画像置換



置き換えた画像を埋め込む

画像を置き換えた場合は、画像オブジェクトの画像パスが挿入されます。画像記号のデフォルトディレクトリ（「ディレクトリ」を参照）にある場合は、そのファイル名が使用されます。

例



ロギング

このモジュールのロギングを有効にする

ログファイル:



ロギングレベル:

エラー



期間:

5 日付



変更を有効にするにはM-Print® PROを再起動してください。

以下のモジュールについて、ロギング機能を設定できます。

- M-Print® PRO
- 状態モニター
- 状態モニタサービス
- LPC-Tool

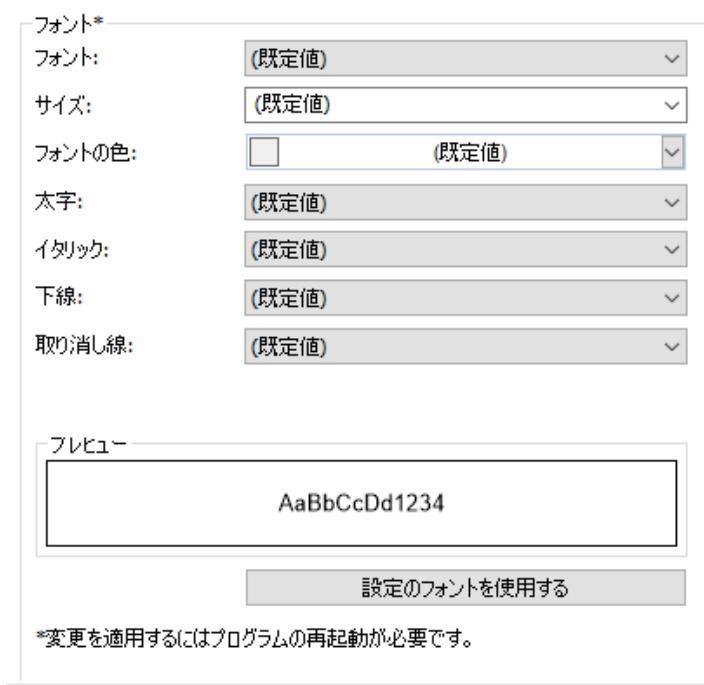
期間

ファイルサイズを最小限にするために、古い日付のファイルがログファイルから削除されます。

要素のデフォルト設定

要素（テキストフィールド、四角形、画像、バーコードなど）を作成するための一部のプロパティは、要素のデフォルト設定を使用して定義できます。これらの設定はローカルコンピュータに保存できます。

フォント



フォント:

新しいマーカータイプをプロジェクトに追加するときにお気に入りのフォントとして使用するフォントを、ここで選択します。こうすると、構成ファイルに保存されているフォントは使用されません。この設定は、プログラムの再起動後で適用されます。

設定のフォントを使用する

「フォント」で選択したフォント設定をリセットします。以降お追加したマーカータイプの各フォントが使用されます。この設定は、プログラムの再起動後で適用されます。

要素

多様な要素（テキストフィールド、四角形、画像、バーコードなど）で、デフォルトのプロパティを変更できる様々なプロパティがあります。通常は、線の太さや線や塗りつぶしのプロパティなどです。

プロパティ	値
□ 枠線と塗りつぶし	
線の幅	0,001
線の色	#000000
線の種類	なし
塗りつぶしの色	FFFFFF
塗りつぶしのパターン	なし
□ 動作	
整列	0
行の高さ	100
□ コンテンツ	
色の設定	いいえ

リセット

デフォルトプロパティを変更して適用すると、その後追加されるすべての新しい要素に適用されます。再起動する必要はありません。

リセット

選択した要素のデフォルトプロパティを、工場出荷時の状態にリセットします。

バーコードでは、マーカの種類を変更すると内側の余白を自動的に調整できる場合があります。

マーカの種類を変えて余白を自動的に調整する

最小の余白: mm



工場出荷時の要素のデフォルトプロパティは、製品カタログの製品ファイルに記載されています。こうした製品の値は、このダイアログに表示されている値と異なっている場合があります。このオプションダイアログを使用して値を変更し、保存した場合にのみ、要素の表示でこれらの値が優先されます。

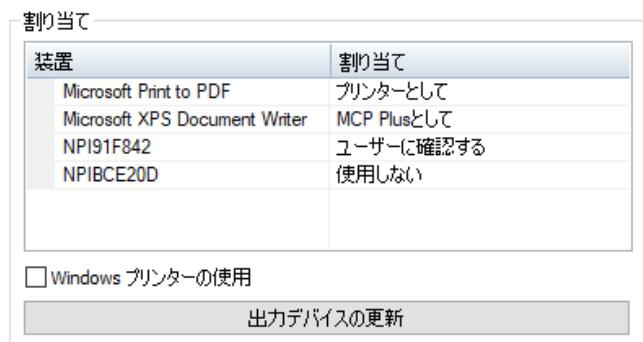
出力デバイス

通常、プリンターやプロッターはそれぞれマーカータイプに割り当てる必要があります。

割り当て

表示されるリストで、接続されたプリンターをどう扱うかのタイプに割り当てます。

- プリンターとして
印刷ダイアログで「割り当てる」が選択された場合に、デバイスは常にプリンターとして割り当てられます。
- プロッターとして
印刷ダイアログで「割り当てる」が選択された場合に、デバイスは常にプロッターとして割り当てられます。
- ユーザーに確認する
このデバイスを割り当てる場合は毎回、「プリンターの割り当て」ダイアログが表示されます。
- 使用しない



印刷情報を保存する

ファイル:



印刷後にファイルを開く

変更を有効にするには状態モニターを再起動してください。

Windows プリンターの使用

このオプションを使用すると、リストにあるオペレーティングシステムのすべてのシステムプリンターが表示され、印刷ダイアログで指定できます。このオプションを使用しない場合には、リスト内に内部で利用できるプリンターだけが表示されます。

印刷情報を保存する

印刷ログを保存するにはこのオプションを有効にします。印刷するたびにログファイルが記録されます。

状態モニターでもこのログファイルを表示できます。[「状態モニターの印刷ジョブ」](#)を参照してください。

例

Position	Order No.	Blank Variant Name	Marker Type Title	Page Count	Number Of Markers	Custom Order No. Custom Print	Weidmueller Order No. Custom Print	Output Device	Output Date
1	1131920000	CC 15/17 K MC NE GE	CC 15/17 K MC NE GE	1	16		1876600000		08.12.2021 13:50
1	1131920000	CC 15/17 K MC NE GE	CC 15/17 K MC NE GE	1	16		1876600000		08.12.2021 13:51
1	1131920000	CC 15/17 K MC NE GE	CC 15/17 K MC NE GE	1	16		1876600000	1	08.12.2021 13:50
1	1131920000	CC 15/17 K MC NE GE	CC 15/17 K MC NE GE	1	16		1876600000	1	08.12.2021 13:51
1	1876590000	CC 15/17 K MC NE	WS 12/5 PLUS MC NE	1	120		1927520000	1	08.12.2021 14:03
2	1266120000	CC DIA 30/3.5 MC NE	WS 12/5 PLUS MC NE	1	120		1927520000	1	08.12.2021 14:03
3	1856700000	ESG 10/17 MC NE WS	WS 12/5 PLUS MC NE	1	120		1927520000	1	08.12.2021 14:03
4	1877590000	SM 22/22 K MC NE SI	WS 12/5 PLUS MC NE	1	120		1927520000	1	08.12.2021 14:03
5	1323750000	SM DIA 60-22 K MC	WS 12/5 PLUS MC NE	1	120		1927520000	1	08.12.2021 14:03
6	1016030000	DMC 12/27 MC NE	WS 12/5 PLUS MC NE	1	120		1927520000	1	08.12.2021 14:03
7	1609801044	DEK 5/5 MC NE WS	WS 12/5 PLUS MC NE	1	120		1927520000	1	08.12.2021 14:03
8	1046340000	DEK 5/6.5 PLUS MC	WS 12/5 PLUS MC NE	1	120		1927520000	1	08.12.2021 14:03
9	1609880000	WS 15/5 MC NE WS	WS 12/5 PLUS MC NE	1	120		1927520000	1	08.12.2021 14:03
10	1927510000	WS 12/5 PLUS MC NE	WS 12/5 PLUS MC NE	1	120		1927520000	1	08.12.2021 14:03

プロッター

接続されているプロッターの設定です。

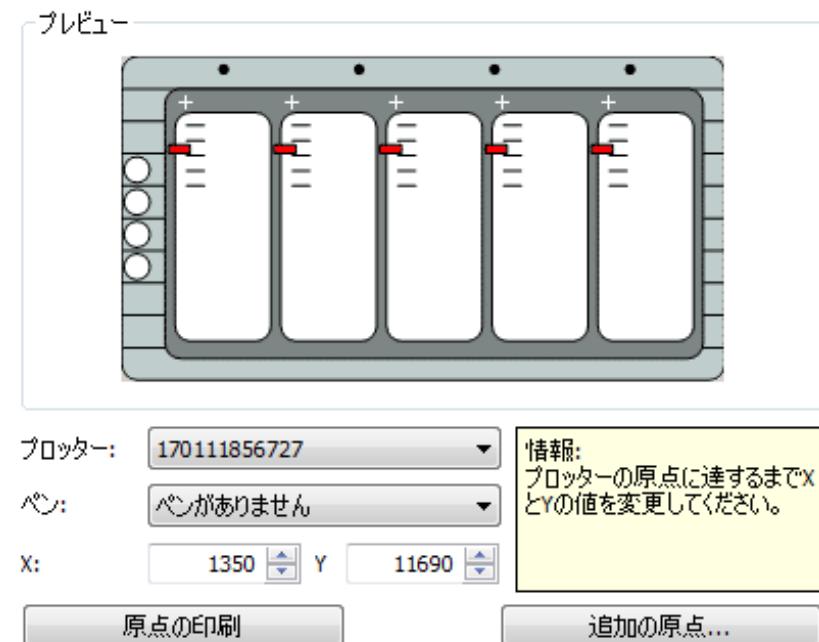
一般

プロットモードおよびプロッターのスピードの一覧設定です。

一般
<input checked="" type="checkbox"/> プロットモードで起動
<input checked="" type="radio"/> 毎回
<input type="radio"/> 最後のモードがプロットモードだった場合
プロッターのスピード:
デフォルト

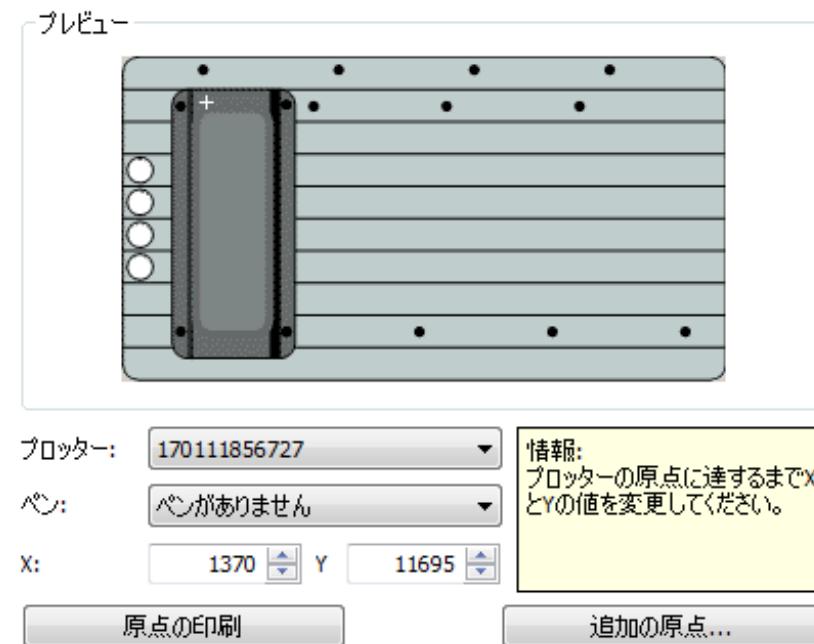
マルチカード用位置決めフレーム

マルチカード用のプロッターの設定です。



SF 4-6用位置決めフレーム

サイズ4-6のSlimFix用位置決めフレームのプロッター設定です。



ペン書き

プロッターペンのオプションです。

テスト印字位置の設定

- ペンを使用しない
- プロッターの標準位置
- カスタマイズした位置(マルチカードのみ)/プロッターのラベル標準位置

線1 X1: 16 mm Y1: 73 mm
X2: 26 mm Y2: 73 mm

線2 X1: 16 mm Y1: 74 mm
X2: 26 mm Y2: 74 mm

線3 X1: 16 mm Y1: 75 mm
X2: 26 mm Y2: 75 mm

PrintJet MINI

一般

選択したPrintJet MINIの印刷オプションを設定します。

硬化光源出力:

硬化光源出力は設定可能(情報ページ)

一般的な注意:

PrintJet MINI の印刷品質は次の方で設定できます。

1. 製品ファイルを使用する（「[製品の追加](#)」を参照）
製品に同梱された製品ファイル (*.mcf) を使用して基本設定を行います
2. この方法で設定するためには、「[加熱調整可能\(情報ページ\)](#)」のチェックマークを付け、「オプション」ダイアログの設定を適用します。
任意の製品を開き、それがPrintJet MINI プリンターを割り当てます（「[印刷](#)」の章の「[マーカータイプへのプリンターの割り当て](#)」のセクションを参照）。
情報ページで切り替えます（「[インターフェイスについて](#)」の章の「[情報ページ](#)」のセクションを参照）。

管理

PrintJet MINIの管理



リモートアクセス

接続されているPrintJet MINIプリンターを選択し、「リモートデスクトップ接続を開く...」をクリックすると、プリンターのコンピュータに接続されます。

サポートファイル

サポートファイルには、インストールしたプログラムのバージョンに関する情報が含まれています。この情報は問題が発生した場合にサポートチームに役立ちます。

接続されているPrintJet

MINIプリンターを選択し、「サポートファイルの作成...」をクリックすると、サポートファイルが作成されます。

プリンターソフトウェアの更新

プリンターソフトウェアを更新するには、「プリンターの更新を開始する」ボタンをクリックします。

PrintJet CONNECT

一般

選択したPrintJet CONNECTの印刷オプションを設定します。

プリンターの選択: PJC

印刷品質

Weidmueller PrintJet CONNECTのプリンタードライバに必要なすべての設定は、自動的に行われます。

印刷品質の選択...

自動測定

プリンターでの自動測定
 最初のマーカーだけを調整
 すべてのマーカーを調整する

個々の設定をリセット

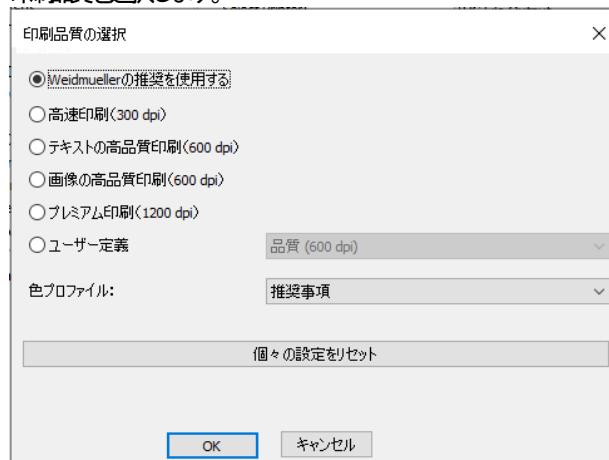
加熱レベル/スタック

加熱レベル/スタック調整可能(情報ページ)

個々の設定をリセット

印刷品質の選択

PrintJet CONNECTの印刷品質を調整するには、「オプション」ダイアログの「印刷品質の選択...」ボタンをクリックし、使用する印刷品質を選択します。



ユーザー定義

互換性のために、古いファームウェアバージョンのプリンターでも以前の設定を選択できるようになっています。

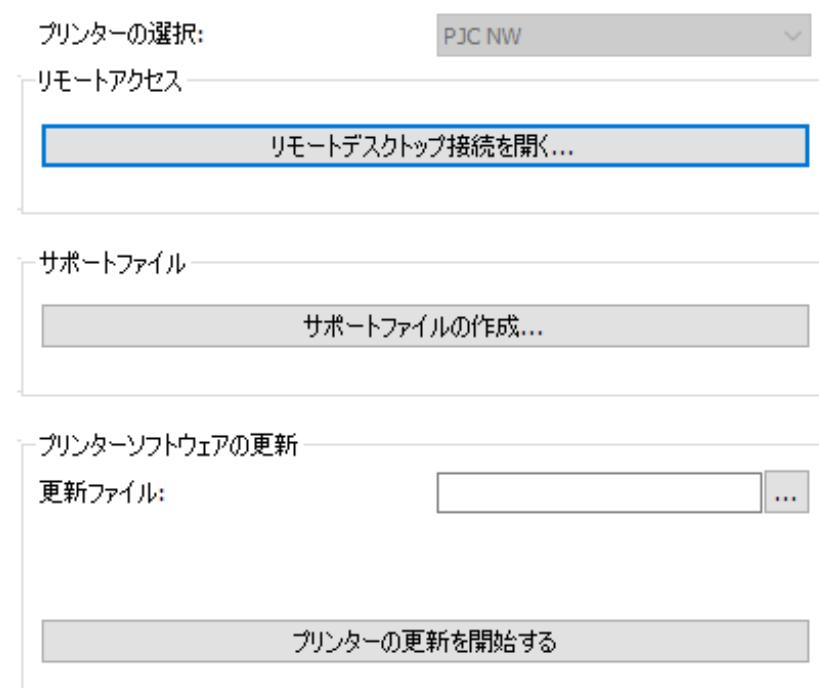
一般的な注意:

PrintJet CONNECT の印刷品質は次の方法で設定できます。

3. 製品ファイルを使用する（「[製品の追加](#)」を参照）
製品に同梱された製品ファイル (*.mcf) を使用して基本設定を行います
4. 「オプション」ダイアログで設定する（「[PrintJet CONNECT](#)」を参照）
一般的に、この設定はすべての製品に適用され、製品ファイルの設定を上書きします。
5. 情報ページで設定する（「インターフェイスについて」の章の「[情報ページ](#)」のセクションを参照）
この設定は一つの製品バリエントに適用され、製品ファイルの設定および「オプション」ダイアログの設定を上書きします。
。
6. この方法で設定するためには、「[加刷調整可能 \(情報ページ\)](#)」のチェックマークを付け、「オプション」ダイアログの設定を適用します。
任意の製品を開き、それにPrintJet CONNECT プリンターを割り当てます（「印刷」の章の「[マーカータイプへのプリンターの割り当て](#)」のセクションを参照）。
情報ページで切り替えます（「インターフェイスについて」の章の「[情報ページ](#)」のセクションを参照）。

管理

PrintJet CONNECTの管理



リモートアクセス

接続されているPrintJet CONNECTプリンターを選択し、「リモートデスクトップ接続を開く...」をクリックすると、プリンターのコンピュータに接続されます。

サポートファイル

サポートファイルには、インストールしたプログラムのバージョンに関する情報が含まれています。この情報は問題が発生した場合にサポートチームに役立ちます。

接続されているPrintJet CONNECTプリンターを選択し、「サポートファイルの作成...」をクリックすると、サポートファイルが作成されます。

プリンターソフトウェアの更新

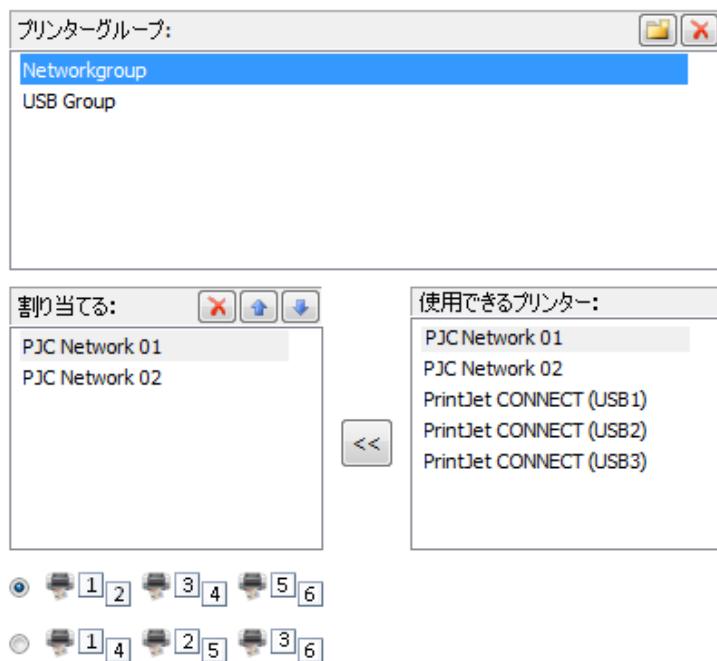
プリンターソフトウェアを更新するには、「プリンターの更新を開始する」ボタンをクリックします。

PJC プリンターグループ

使用可能なプリンターを1つのプリンターグループにまとめることができます。
次のプリンターが対応しています。PrintJet CONNECT

これらのプリンターグループはプリンターダイアログで、一つの素材ごとに割り当てることができます。「[マーカータイプへのプリンターの割り当て](#)」を参照してください。

印刷ジョブを実行するときに、それぞれの印刷ページは選択したオプションに応じて、プリンターグループで使用可能なプリンターに割り当てられます。



印刷グループの印刷オプション

逐次印刷:

素材ごとの印刷ページ数をプリンターの数で割ったものがそれら複数プリンターに割り当てられます。(1-2; 3-4; 5-6)

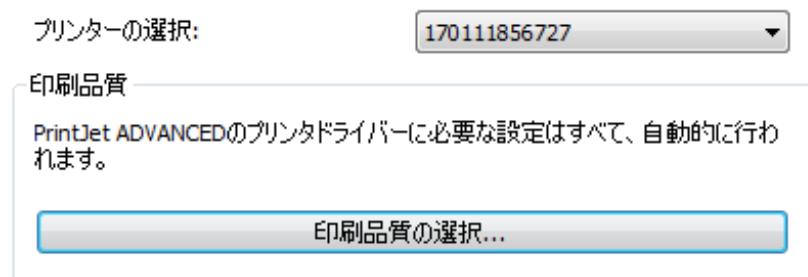
並行印刷:

1つの素材の複数の印刷ページが、プリンターグループのうち次の各プリンターで行われます。(1; 2; 3) (4; 5; 6)

PrintJet ADVANCED

一般

選択したPrintJet ADVANCEDの印刷オプションを設定します。



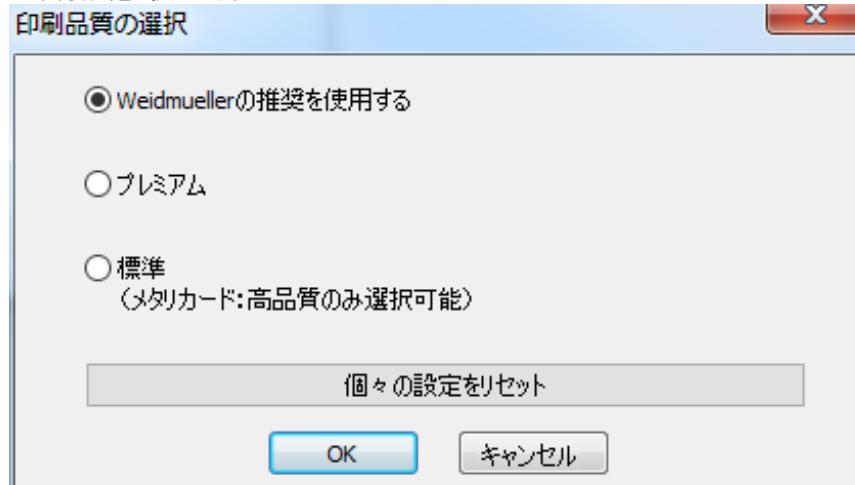
加熱調整可能(情報ページ)

印刷出力時に状態モニターを表示

印刷品質の選択

PrintJet

ADVANCEDの印刷品質を調整するには、「オプション」ダイアログの「印刷品質の選択...」ボタンをクリックし、使用する印刷品質を選択します。



一般的な注意:

PrintJet ADVANCEDの印刷品質は次の方法で設定できます。

1. 製品ファイルを使用する（「[製品の追加](#)」を参照）
製品に同梱された製品ファイル (*.mcf) を使用して基本設定を行います
2. 「オプション」ダイアログで設定する（「[PrintJet ADVANCED](#)」を参照）
一般的に、この設定はすべての製品に適用され、製品ファイルの設定を上書きします。
3. 情報ページで設定する（「インターフェイスについて」の章の「[情報ページ](#)」のセクションを参照）
この設定は一つの製品バリエントに適用され、製品ファイルの設定および「オプション」ダイアログの設定を上書きします。
 - 調整可能な初期設定を使用する。
4. この方法で設定するためには、「[初期設定可能 \(情報ページ\)](#)」のチェックマークを付け、「オプション」ダイアログの設定を適用します。
任意の製品を開き、それにPrintJet ADVANCEDプリンターを割り当てます（「[印刷](#)」の章の「[マーカータイプへのプリンターの割り当て](#)」のセクションを参照）。
情報ページで切り替えます（「インターフェイスについて」の章の「[情報ページ](#)」のセクションを参照）。

管理



リモートアクセス

接続されているPrintJet
ADVANCED プリンターを選択し、「リモートデスクトップ接続を開く...」をクリックすると、プリンターのコンピュータ
に接続されます。

サポートファイル

サポートファイルには、インストールしたプログラムのバージョンに関する情報が含まれています。この情報は問題が発生した
場合にサポートチームに役立ちます。
接続されているPrintJet
ADVANCED プリンターを選択し、「サポートファイルの作成...」をクリックすると、サポートファイルが作成されます。

プリンターソフトウェアの更新

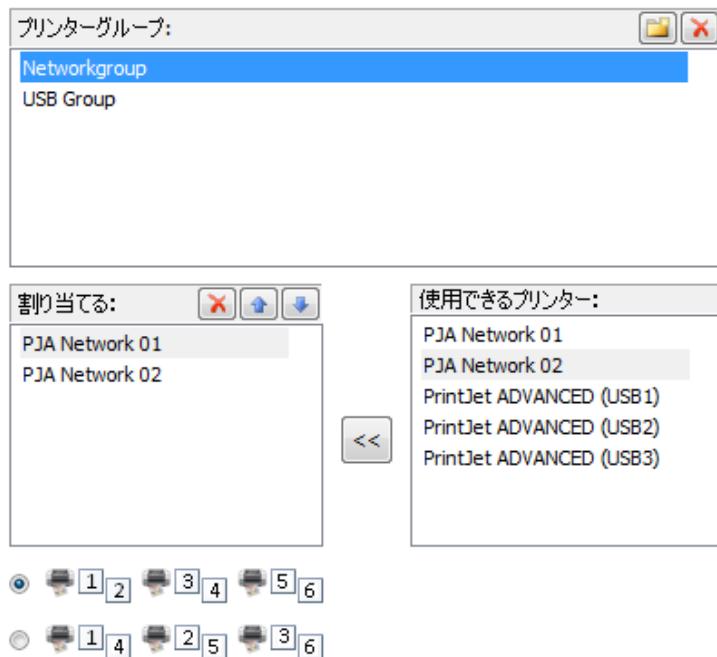
プリンターソフトウェアを更新するには、「プリンターの更新を開始する」ボタンをクリックします。

PJA プリンターグループ

使用可能なプリンターを1つのプリンターグループにまとめることができます。
次のプリンターが対応しています。PrintJet ADVANCED

これらのプリンターグループはプリンターダイアログで、一つの素材ごとに割り当てることができます。「[マーカータイプへのプリンターの割り当て](#)」を参照してください。

印刷ジョブを実行するときに、それぞれの印刷ページは選択したオプションに応じて、プリンターグループで使用可能なプリンターに割り当てられます。



印刷グループの印刷オプション

逐次印刷:

素材ごとの印刷ページ数をプリンターの数で割ったものがそれら複数プリンターに割り当てられます。(1-2; 3-4; 5-6)

並列印刷:

1つの素材の複数の印刷ページが、プリンターグループのうち次の各プリンターで行われます。(1; 2; 3) (4; 5; 6)

PrintJet PRO

一般

PrintJet PROの印刷オプションを設定します（PrintJet PROのマニュアルも参照）。

一般

プリンターの選択:

GelSprinter GX 3000/3050N

プリンタードライバーのプロパティ

PRINTJET PROのプリンタードライバーに必要な設定はすべて、自動的に行われます。

プリンタードライバー設定の実行

プリンタードライバーのすべての設定はデフォルト設定にリセットされます。

プリンタードライバー設定のリセット

クリーニング

PrintJet PROのクリーニングプロセスを開始します。

クリーニング

プリンターの選択: GelSprinter GX 3000/3050N

クリーニング方法1: ヘッドのクリーニング
発色が悪くなったらヘッドをクリーニングします。

プリントヘッド1(M, Y) プリントヘッド2(K, C)

ヘッドクリーニングの実行

クリーニング方法2: 完全クリーニング
ヘッドの完全クリーニング。普通のクリーニングよりも多くのインクを消費します。

プリントヘッド1(M, Y) プリントヘッド2(K, C)

ヘッドクリーニングの実行



完全クリーニングはヘッドクリーニングよりも多くのインクを消費します。

現在の設定

現在のプリンターの設定が表示されます。

現在の設定

プリンターの選択: GelSprinter GX 3000/3050N

印刷モード

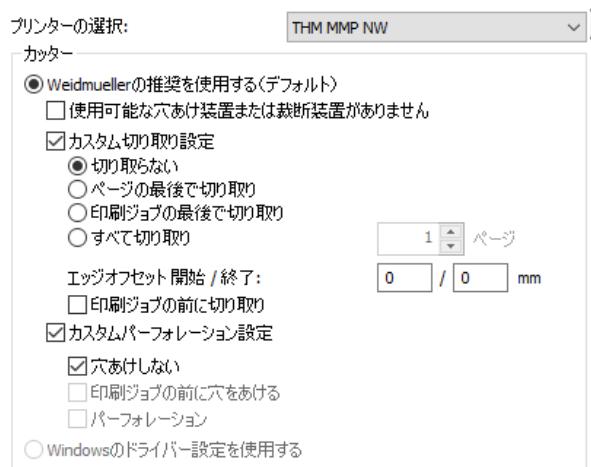
黒のインクのスロット:

印刷品質:

THM プリンター

一般

選択したプリンターの印刷オプションを設定します。次のプリンターが対応しています。THM Plus S, THM TwinMark, THM MMP, THM MultiMark, THM MultiMark Plus, THM MultiMark LPC, THM MultiMark Twin, THM Plus M



Weidmüllerの推奨を使用する (デフォルト)

使用される素材に対して製造元が設定したデフォルト設定 (カッティング、パーフォレーション、向き、印刷スピード、センサータイプなど) が使用されます。

選択可能なオプションは、個々の機能でのみ製造元のデフォルト設定を上書きします。

Windowsのドライバー設定を使用する

プリンタードライバーの設定が使用されます (THM MMP, THM MultiMark, THM MultiMark Plus, THM MultiMark LPC, THM MultiMark Twin, THM Plus M では使用できません)。



一部のパラメータを素材の情報ページで自分で設定できます (「インターフェイスについて」の章の「[情報ページ](#)」のセクションを参照)。

拡張

THM プリンターの拡張設定です。

プリンターの選択: THM MMP NW

*.bmp 形式の画像
 最大長で印刷する
 最後に空白マークを印刷する

印刷する黒のしきい値



画像を*.bmp形式で送信する

画像を.png形式ではなく、*.bmpでプリンターに送信します。

最大長で印刷する

マーカーを個別にではなく、まとめてプリンターに送信できます。

-  まとめたマーカーの間にカッティングやペーフォレーションを入れることができます。

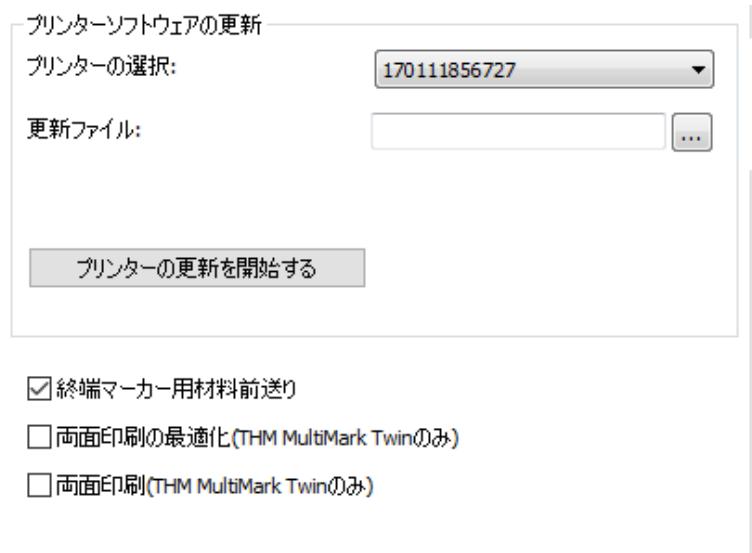
最後に空白マークを印刷する一部の連續素材では、空のマーカーは最後に送信されません。このオプションは、空のマーカーをプリンターに送信する場合に選択します。

印刷する黒のしきい値どの値の色から黒として認識し、印刷するか、その基準となる値を指定します。

- 標準: 128
- 閾値を大きくすると、より明度の高い色調が黒として印刷されます。

管理

THM プリンターの管理



プリンターソフトウェアの更新

プリンターのソフトウェア（ファームウェアなど）を更新するには、次の手順を実行します。

- プリンターを選択します。
- 更新ファイルを選択します。
- 「プリンターの更新を開始する」ボタンをクリックします。

THM プリントグループ

使用可能なプリンターを1つのプリントグループにまとめることができます。

次のプリンターが対応しています。THM MultiMark Plus, THM MultiMark, THM MMP, THM MultiMark LPC

これらのプリントグループはプリンターダイアログで、一つの素材に割り当てることができます。「[マーカータイプへのプリンターの割り当て](#)」を参照してください。

印刷ジョブを実行するときに、それぞれの印刷ページは選択したオプションに応じて、プリントグループで使用可能なプリンターに割り当てられます。



印刷グループの印刷オプション

逐次印刷:

素材ごとの印刷ページ数をプリンターの数で割ったものがそれら複数プリンターに割り当てられます。(1-2; 3-4; 5-6)

別の印刷

別のプリンターに素材を割り当て。
LPC-Toolの印刷ファイル作成に使用します。を参照してください。[[LPC印刷](#)]

次のプリンターが対応しています。THM MultiMark Plus, THM MultiMark, THM MMP, THM MultiMark
LPC

別の印刷を使用

製品	別のデバイス
ESG-LP 6/17 MM WS	THM MultiMark

サポート

一般



TeamViewer

TeamViewerの起動を可能にします。

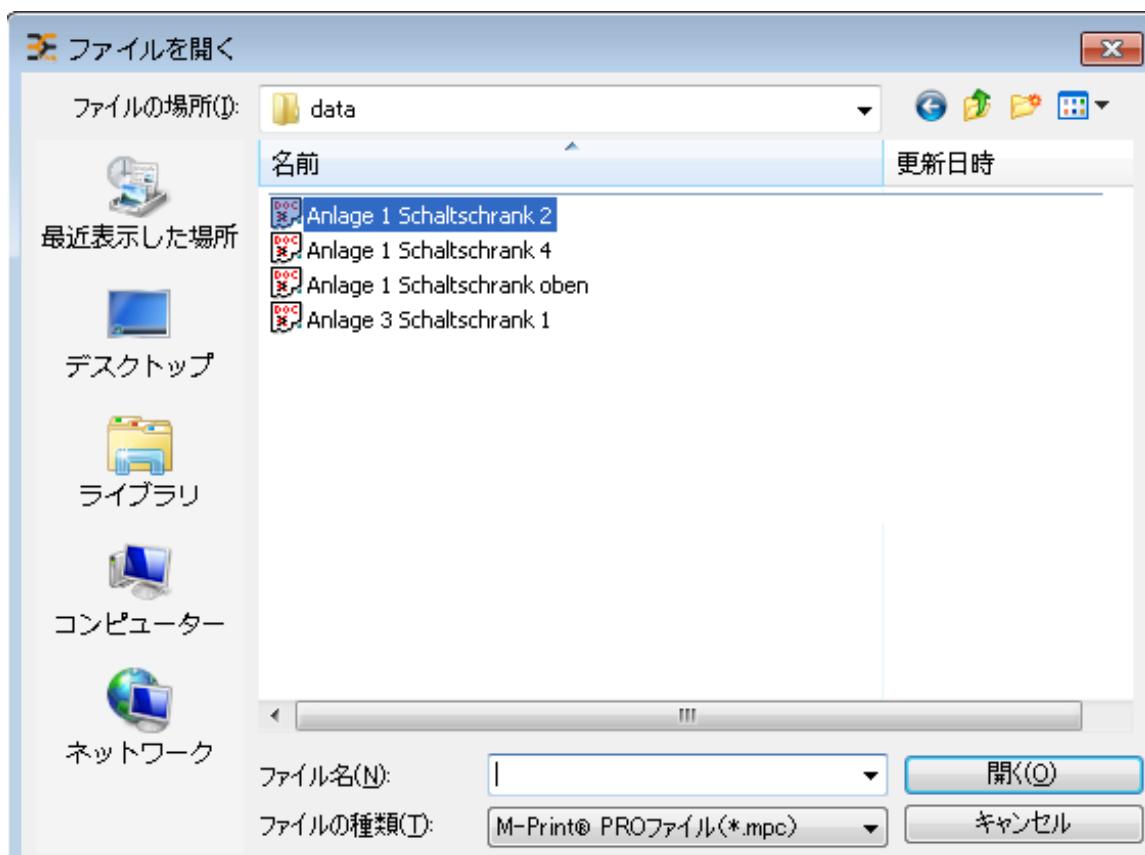
他のファイルタイプを開く

他のファイルタイプを開く

この章では、このプログラムで作成されたファイル以外の既存のファイル（他のファイルタイプ）を開く方法について説明します。

- メニュー項目の「ファイル」>「開く」を選択します。

「開く」ウィンドウが表示され、既存のすべてのファイルがリストされます。



次のファイルタイプのいずれかを選択します。

*.abp	M-Print ドキュメント
*.gdc	M-Print ドキュメント
*.mld	M-Label ドキュメント
*.mpc	プロジェクトファイル (コンテンツファイル)
*.mpo	注文ファイル
*.mpt	テンプレート
*.rde	Raildesigner エクスポートファイル
*.tmf	M-Comm ドキュメント
*.wmex	Weidmueller エクスポートファイル
*.txx	
*.txy	
.xls、.xlsx	Microsoft® Excel® ワークシート

*.xmt ファイルの複数選択が可能
*.txt ファイルの複数選択が可能

選択したファイルタイプのすべてのファイルがリストされます。

- 開くファイルを選択し、「開く」ボタンをクリックします。

マーカータイプがカタログに見つからなかった場合は、画面ご次のメッセージが表示されます。

要求されたマーカータイプは使用できません。
カタログから製品を選択してください。

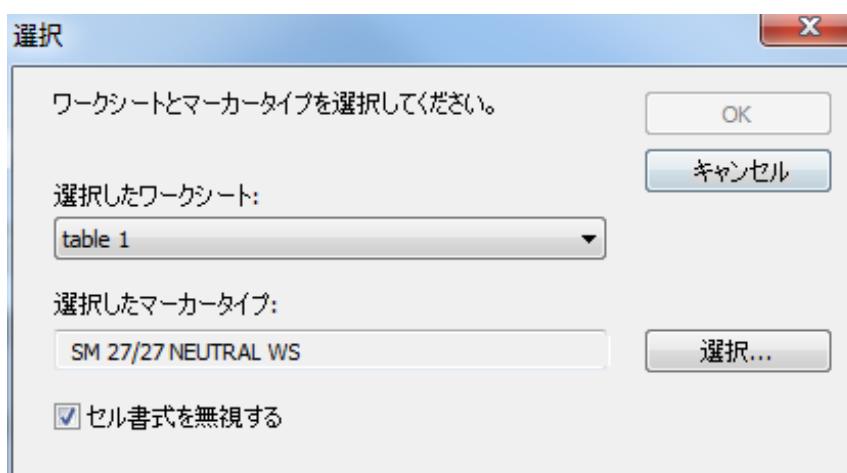
- ここでマーカータイプを選択してから「OK」をクリックします。

データがマーカーに追加されます。

i サポートされていないファイルタイプが複数選択時に使用された場合、選択の最初のファイルだけが開きます。

Excel ファイル

Excel ファイルを開くときにはもう1つのダイアログボックスが表示されます。



ここで、開くワークシート、マーカータイプ、セルの書式の適用（プログラムでサポートされている場合）を選択できます。

i Excel ファイルのデータは、2行目以降が表示されます。
Excel ファイルを表示するもう1つの方法としてインポートがあります（「[Excel のインポート](#)」の章を参照）。

コマンドラインの起動

はじめに

プログラムはコマンドライン（コマンドプロンプト）を使用して起動することもできます。

プログラムファイルの後に続けて呼び出しパラメータ「/?」を入力します。

実行可能ファイルの呼び出しパラメータ

ファイルを開くか、または印刷する

```
MPrintPRO.exe [-p]  
"" ファイル (*.gdc|*.mld|*.mpc|*.mpo|*.mpo2|*.mpt|*.rde|*.wmex|*.tmf|*.txx|*.txy|*.bis) ""
```



印刷パラメータ [-p]

「p」を使用すると、プログラムを開いた後にダイアログを使用して印刷ジョブをキャンセルできます。ダイアログが表示されない場合は、「印刷ジョブのキャンセルを有効化する（コマンドライン使用）」オプションを確認します（「[\[オプション\]ダイアログ](#)」の章を参照）。そうでないと、プログラムウィンドウはもう表示されません。

ファイルのインポートまたは印刷

```
MPrintPRO.exe "ファイル名" [-p] [-ImportFilter:"スクリプトファイル名 (*.mis)"]  
[-MatNo:素材番号] [-Fallback:素材番号]
```

```
MPrintPRO.exe "ファイル名" [-p] [-ImportFilter:CSV | WTXT | WE | VK | XML]  
[-MatNo:素材番号] [-Fallback:素材番号]
```



印刷パラメータ [-p]

「p」を使用すると、プログラムを開いた後にダイアログを使用して印刷ジョブをキャンセルできます。ダイアログが表示されない場合は、「オプション」ダイアログの「非表示のすべてのメッセージを表示」オプションを確認します（「[\[オプション\]ダイアログ](#)」の章を参照）。

コンバーターの呼び出しパラメータ

インポートコンバーターはコマンドラインを使用して操作できます（「[コンバーター](#)」の章を参照）。

QLSコンバーターのパラメータ

-input:<ファイルのパス>\<入力ファイル>

この属性が必須です

-output:<ファイルのパス>\<出力ファイル>

この属性は省略可能です

出力ファイルと入力ファイルが同じの場合、「出力ファイル」のファイル名に拡張子「.convert」が付きます。
何も指定しなかった場合、入力ファイルの名前が使用され、拡張子「.convert」が付きます。

-separator:<区切り文字>

省略可能ですが、1文字だけです

デフォルトはセミコロンです

空白文字（スペース）は使用できません

例外：TAB

-start:<開始行>

省略可能

インポートの最初の行です

デフォルト値は「1」です

-end:<最終行>

省略可能

インポートの最後の行です

デフォルト値は「0」（最後まで）です。

-concat:<連結>

省略可能

デフォルト値は「2」です

2未満することはできません

-ignore

省略可能

指定した場合、空白行は無視されます

-?

注意：このパラメータを指定した場合、他のすべてのパラメータが無視され、「Usage」が表示されます。

例

1."C:\qlsconverter.exe" -? -> すべてのパラメータをリストします

2."C:\qlsconverter.exe" -input:"C:\qls\testbasis_cmd.csv"

ファイル「C:\qls\testbasis_cmd.csv.convert」を生成します。

TNVコンバーターのパラメータ

-input:<ファイルのパス>\<入力ファイル>

この属性が必須です

-output:<ファイルのパス>\<出力ファイル>
この属性は省略可能です
出力ファイルと入力ファイルが同じの場合は、「出力ファイル」のファイル名に拡張子「.convert」が付きます。
何も指定しなかった場合、入力ファイルの名前が使用され、拡張子「.convert」が付きます。

-separator:<区切り文字>
省略可能ですが、1文字だけです
デフォルトはセミコロンです
空白文字（スペース）は使用できません

-start:<開始行>
省略可能
インポートの最初の行です
デフォルト値は「1」です

-end:<終了行>
省略可能
インポートの最後の行です
デフォルト値は「0」（最後まで）です。

-pair:<列1><区切り文字><列2>
省略可能
リンクされる最初の列ペアです
デフォルト：列1と列2がコロンでリンクされます
区切り文字が「|」（パイプ）の場合、列は区切り文字なしで連結されます。

すべてのパラメータのリストを表示するには、ファイル「TNVConverter.exe」をダブルクリックします。

例

1."C:\tnvconverter.exe" -input:"C:\tnv\testbasis_cmd.csv" -separator:，“ -pair:"2:5" –pair:"3:4"」

インポートは次のパラメータで実行されます。

- ソースファイルの区切り文字：コンマ
- 出力ファイルの区切り文字：コロン
- 連結される列ペア：列2と列5、列3と列4
- 出力ファイルの生成 "C:\tnv\testbasis_cmd.csv.convert"

ファイルのインポート

はじめに

この章では、その他の形式 (Microsoft® Excel®など) のファイルのインポートと、その内容をマーカータイプに挿入する方法について説明します。カタログのマーカータイプ、および自分で作成したテンプレートファイル (*.mpt) にインポートできます（[「テンプレート」の章を参照](#)）。

様々な方法でファイルをインポートできます。

1. 手動インポート（インポートのスクリプトファイルを作成するオプションあり）（[「手動インポート」の章を参照](#)）
2. 1つのスクリプトファイルを使用した自動インポート（[「自動インポート」の章を参照](#)）
3. 1つ以上のスクリプトファイルによる自動インポート（[「バッチインポート」の章を参照](#)）
4. コマンドラインを使用した、リモート制御のインポート（コマンドラインの起動）（[「コマンドラインの起動」の章を参照](#)）

現時点では次のファイル形式のインポートが可能です。

*.asc
*.CSV
*.mpx
*.txt
*.wbe
*.we?
*.xml
.xls、.xlsx
*.vk

手動インポート

手動インポートの場合、インポートウィザードにより、インポートパラメータの選択がサポートされます。

インポートウィザードで最後にこれらのパラメータ設定を保存しておけば、その設定を利用して自動インポートを実行できます（[「自動インポート」の章](#)を参照）。

インポートの開始

メニュー項目の「ファイル」>「インポート...」を選択して、インポートを開始します。
インポートウィザードの指示に従います。

ステップ1：開始ページ

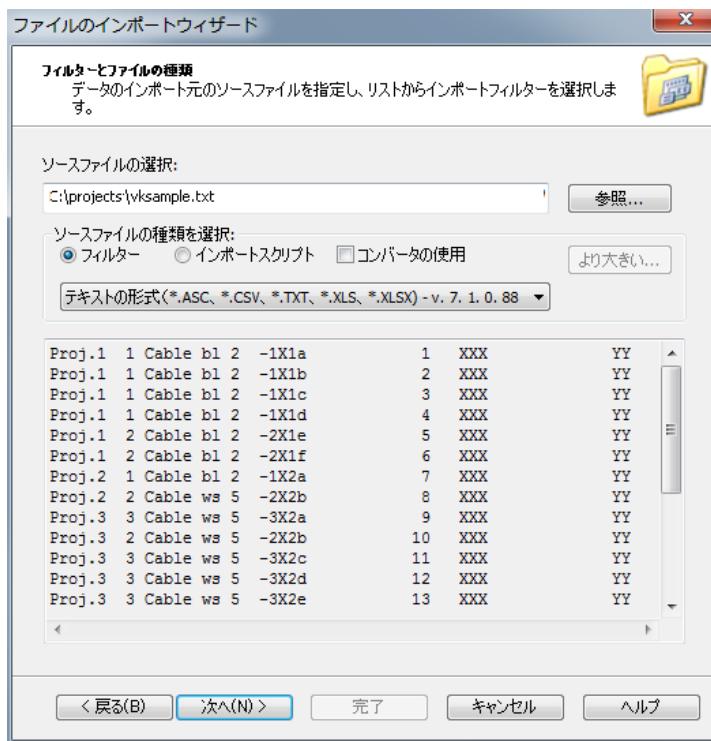


インポートウィザードの開始ページを非表示にすることができます。
次にウィザードを呼び出すときに、すぐにステップ1に進むようにするには、「次から表示しない」を選択します。

非表示にした開始ページは、「オプション」ダイアログを使用して再表示できます（[「オプション」ダイアログ](#)の章を参照）。

ステップ2: フィルターとインポート方法

ステップ2では、インポートするソースファイルを選択します。
また、フィルターの種類や保存されたインポートルーチンコンバーターを選択できます。



ソースファイルの選択

- 「検索..」ボタンをクリックします。インポートするファイルを選択できるウィンドウが開きます。
- インポートするファイルを選択し、「開く」ボタンをクリックします。

「ソースファイルの選択」フィールドに、インポートするファイルのパスが表示されます。

ソースファイルの種類

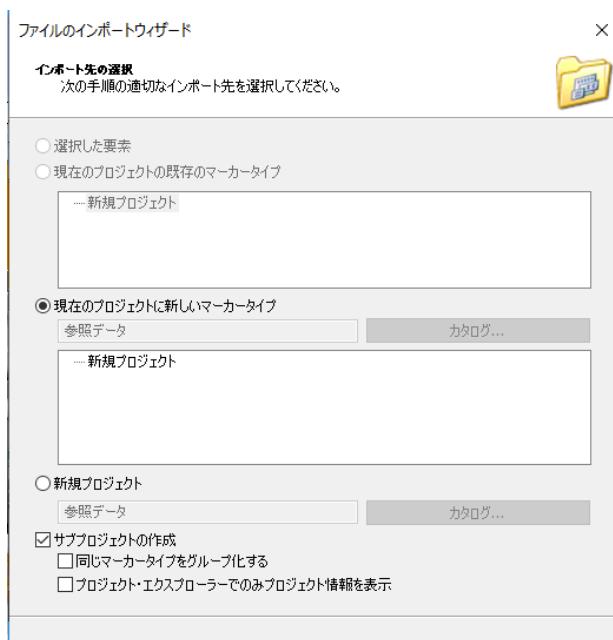
次に、インポート方法を選択します。

- フィルター：インポートはフィルターファイルを使用して手動で実行されます。
ドロップダウンフィールドでフィルタータイプ (*.txt, *.WEIなど) を選択します。
通常は、ソースファイルに合ったフィルターが自動的に表示されます。
- インポートスクリプト：インポートは保存されたスクリプトを使用して自動的に実行されます（「[自動インポート](#)」の章を参照）。
- コンバーター：ソースファイルをプレフィルター処理するためコンバーターを使用します（「[コンバーター](#)」の章を参照）。

ステップ3: プロジェクトとバリアントの選択

このステップではインポートの実行に使用されるプロジェクトやマーカータイプを選択します。初期状態に応じて、様々なオプションを選択できます。

- 選択した要素
- 現在のプロジェクトの既存のマーカータイプ
- 現在のプロジェクトの新しいマーカータイプ
- 新規プロジェクト



選択した要素

このオプションでは1つのマーカータイプが開いており、1つのマーカーが選択されている必要があります。

インポートは選択したマーカーから挿入されます。

どのマーカーも選択されていない場合、データは最初のマーカーから挿入されます。

現在のプロジェクトの既存のマーカータイプ

このオプションでは1つのマーカータイプが開いている必要があります。

インポートは選択したマーカータイプの最初のマーカーから実行されます。

現在のプロジェクトに新しいマーカータイプ

- 「カタログ...」をクリックして、カタログまたは保存されたテンプレート (*.mpt) からマーカータイプを選択します。インポートの際に、新しいマーカータイプが現在のプロジェクトに挿入されます。



参照ファイルを使用した場合

VKインポートを実行し、マーカータイプを参照ファイルによって割り当てます。したがって、カタログの選択は非アクティブになります。[「VKインポート」](#)を参照してください。

新規プロジェクト

- 「カタログ...」をクリックして、カタログまたは保存されたテンプレート (*.mpt) からマーカータイプを選択します。インポートは選択したマーカータイプを持つ新しいプロジェクトで実行されます。



まだ保存されていない他のプロジェクトやまだ保存されていない他のマーカータイプが開いている場合は、インポートの前に確認プロンプトが表示されます。

サブプロジェクトの作成

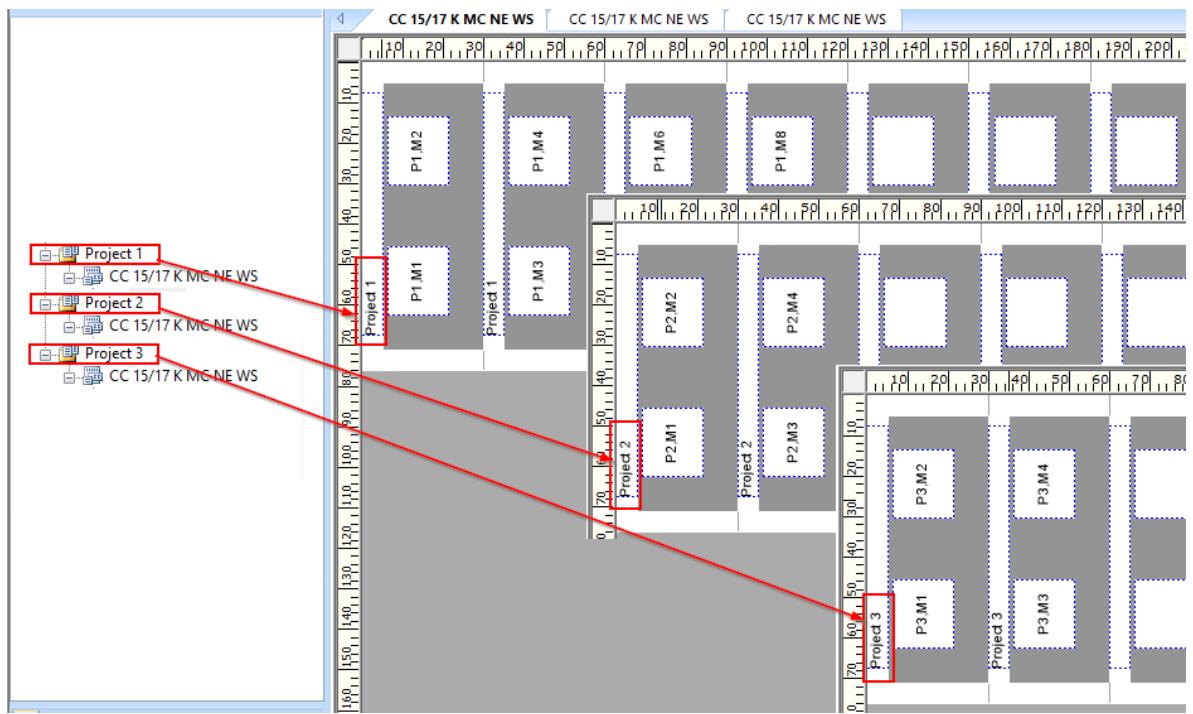
新しくキャプションを付けたプロジェクト（プロジェクトマーカー）ごとに、プロジェクトエクスプローラで新規のサブプロジェクトが作成されます。

例

The screenshot shows the 'Import File Wizard' interface. On the left, a preview window displays three projects: Project 1, Project 2, and Project 3, each with a list of markers. The 'Import Target Selection' step is selected. In the center, there are two radio button options: 'Create a new project' (selected) and 'Add to current project'. Below these are two checkboxes: 'Create sub-project' (checked) and 'Group same marker type together' (unchecked). On the right, the 'File Mapping' and 'Result' panes show the mapping between columns '列1' and '列2' and the resulting markers for each project. The 'PROJECT' and 'MARKER' dropdowns in the mapping pane are highlighted with red boxes.

列1	列2
Project 1	P1,M1 P1,M2 P1,M3 P1,M4 P1,M5 P1,M6 P1,M7 P1,M8
Project 2	P2,M1 P2,M2 P2,M3 P2,M4
Project 3	P3,M1 P3,M2 P3,M3 P3,M4

PROJECT	MARKER
列1	列2
Project 1	P1,M1 P1,M2 P1,M3 P1,M4 P1,M5 P1,M6 P1,M7 P1,M8
Project 2	P2,M1



同じマーカータイプをグループ化する
同じマーカータイプの内容は、インポート時に統合することができます。

この機能は、「サブプロジェクトの作成」チェックボックスがオフになっている場合のみ使用できます。

例

The screenshot shows the 'Import' dialog with the 'Create Sub-project' checkbox checked. Below it, the 'Group by same marker type' checkbox is checked. On the left is a table with data:

Project 1	P1,M1
	P1,M2
	P1,M3
Project 2	P2,M1
	P2,M2
	P2,M3
Project 3	P3,M1
	P3,M2
	P3,M3
Project 1	2-P1,M1
	2-P1,M2
	2-P1,M3
Project 2	2-P2,M1
	2-P2,M2
	2-P2,M3
Project 1	3-P1,M1
	3-P1,M2
	3-P1,M3

The right side shows the imported data in a Gantt chart view. The first three rows (Project 1, P1,M1, P1,M2, P1,M3) are grouped together under a single 'Project 1' node in the tree view, and their corresponding bars are stacked vertically. The next three rows (Project 2, P2,M1, P2,M2, P2,M3) are grouped under a single 'Project 2' node, and so on.

The screenshot shows the 'Import' dialog with the 'Create Sub-project' checkbox checked and the 'Group by same marker type' checkbox checked. On the left is a table with data, where the first three rows of each project (P1,M1, P1,M2, P1,M3) are highlighted in yellow:

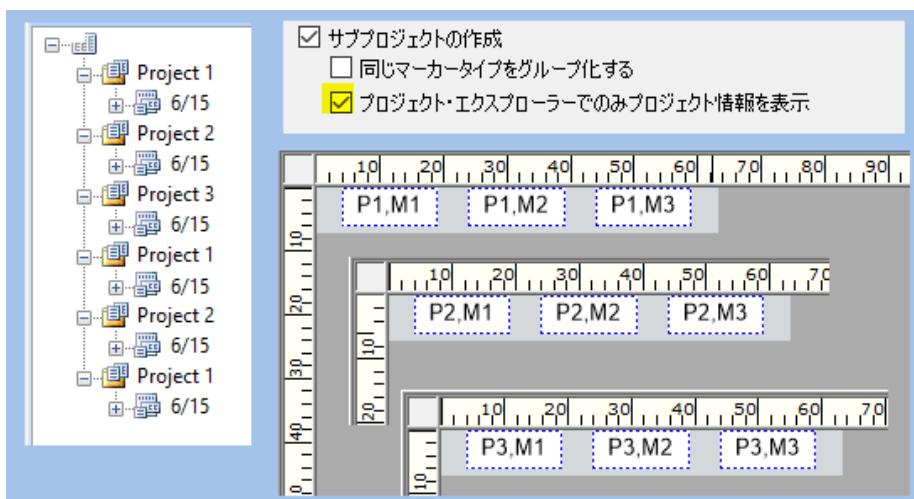
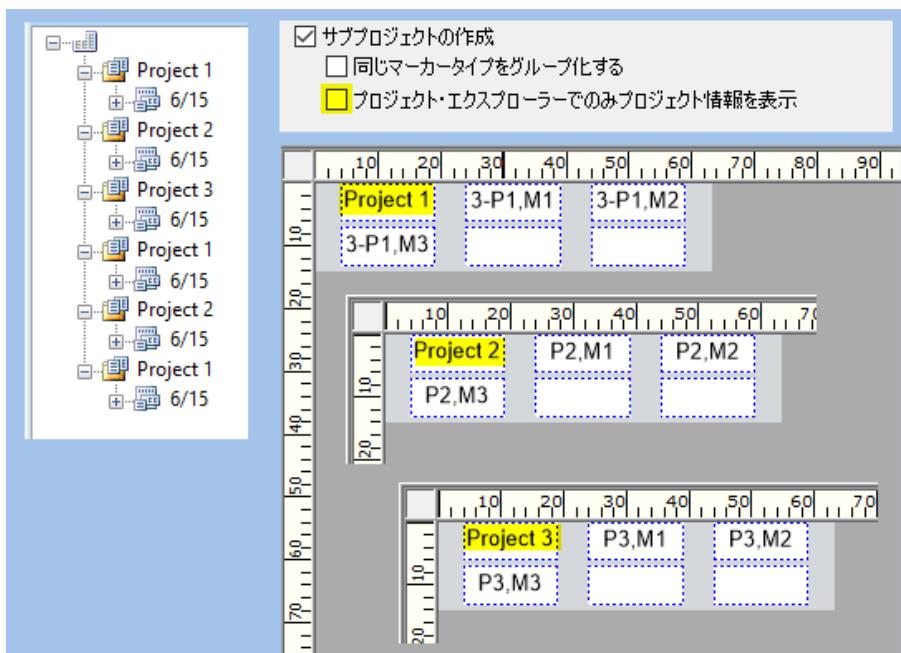
Project 1	P1,M1
	P1,M2
	P1,M3
Project 2	P2,M1
	P2,M2
	P2,M3
Project 3	P3,M1
	P3,M2
	P3,M3
Project 1	2-P1,M1
	2-P1,M2
	2-P1,M3
Project 2	2-P2,M1
	2-P2,M2
	2-P2,M3
Project 1	3-P1,M1
	3-P1,M2
	3-P1,M3

The right side shows the imported data in a Gantt chart view. The first three rows (Project 1, P1,M1, P1,M2, P1,M3) are grouped under a single 'Project 1' node in the tree view, and their corresponding bars are stacked vertically. The next three rows (Project 2, P2,M1, P2,M2, P2,M3) are grouped under a single 'Project 2' node, and so on. This indicates that the 'Group by same marker type' feature is being applied to the highlighted rows.

プロジェクト・エクスプローラーでのみプロジェクト情報を表示
このオプションはプロジェクトトレイヤーなしのマークで使用できます。

「プロジェクトの挿入」チェックボックスを使用する場合にのみ、この機能が使われます。
を参照してください。「プロジェクトの挿入」

例

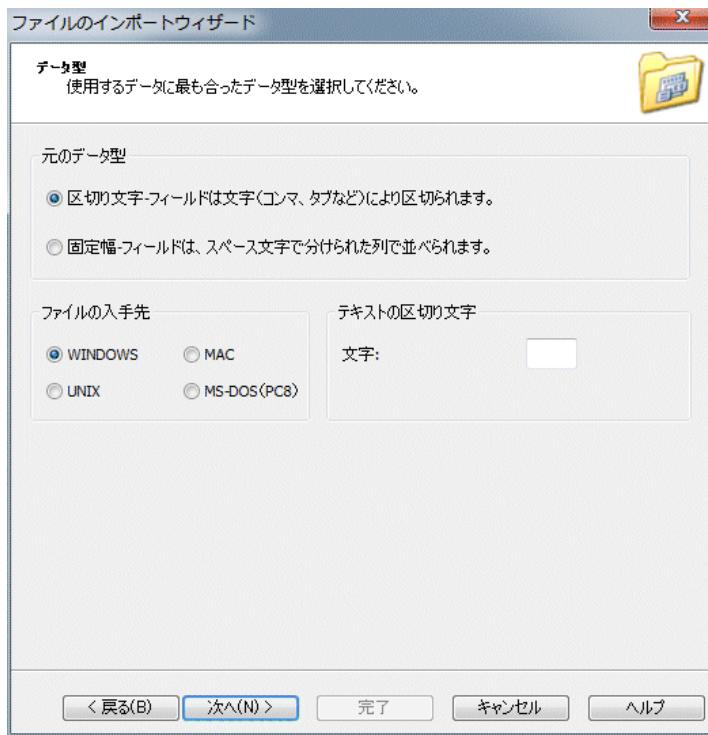


ステップ4/5: ファイル形式とフィールド区切り記号の選択

ソースファイルで列を区切り記号（セミコロン、Tabなど）を使用して指定するか、または固定した列幅で指定するかを選択します。[区切り記号の付いたインポートファイル](#) または [固定した列幅を持つインポートファイル](#) のセクションを参照。

さらに、次のものを選択できます。

- 元のファイル
ファイルの作成元のオペレーティングシステムを指定します。
- テキストの区切り文字
テキスト区切り文字とテキスト区切り文字の間の文字列は、テキストと解釈されます。これにより、区切り記号は無視（マスク）されます。



区切り記号の付いたインポートファイル

- ソースファイルが区切り記号（セミコロン、Tabなど）で区切られた列を持つファイルである場合は、オプション「区切り文字...」を選択します。

区切り記号の付いたファイルの例

Microsoft® Excel®で開いた場合

	A	B
1	=X1	1
2		2
3		3
4		4
5		5
6		6
7		7
8	=A1+1	L1
9		L1
10		L2
11		L2
12	=A1+2	M1:L1
13		M1:L2
14		M1:L3
15		I1.0
16		I1.1
17		I1.2
18		I1.3
19		I1.4
20		I1.5
21		I1.6
22		I1.7
23		I2.0
24		I2.1
25		I2.2
26		I2.3
27		I2.4
28		I2.5
29		I2.7
30		I3.0
31		I3.1
32		I3.2
33		I3.3

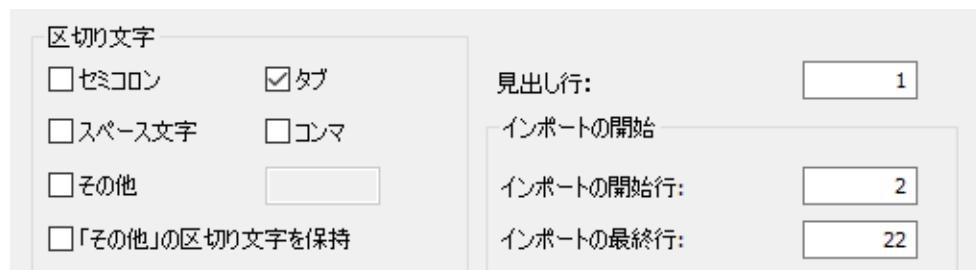
テキストエディターで開いた場合

```
=->1;1
;2
;3
;4
;5
;6
;7
=A1+01;L1
;L1
;L2
;L2
=A1+2;M1:L1
;M1:L2
;M1:L3
;I 1.0
;I 1.1
;I 1.2
;I 1.3
;I 1.4
;I 1.5
;I 1.6
;I 1.7
;I 2.0
;I 2.1
;I 2.2
;I 2.3
;I 2.4
;I 2.5
;I 2.7
;I 3.0
;I 3.1
;I 3.2
;I 3.3
```

上記の例は2列のExcel®ファイルと、区切り記号としてセミコロンを指定した列（右）を示しています。例えば、2行目はセミコロンの前に文字がなければ、列は空です。

右のファイルはExcel®からCSV形式（コンマ区切り形式）で保存されたものです。

- 「次へ」をクリックして次のステップに進みます。



- プログラムにより、列を区切る文字/記号の例が表示されます。それ以外の区切り記号を使用する場合は、該当するチェックボックスをクリックして選択します。
- 「その他」のチェックボックスをクリックすると、隣のフィールドで別の区切り文字/記号を選択できます。
- 様々な区切り記号を追加して使用するには、それらを「その他」のフィールドに入力し、オプション「「その他」の区切り文字を保持」を有効にします。
このオプションはステップ2でcsv フィルター、VK フィルター、またはWES フィルターを選択した場合にのみ選択できます。
- 新しい例は、区切り文字が置かれた場所から始まります。
- 見出し行を指定します。「[インポートファイルの見出しを表示する](#)」を参照してください。
- インポートする最初の行と最後の行を指定します。



セミコロン、タブ文字、スペース文字、コンマは、オプション「「その他」の区切り文字を保持」で保持されません。

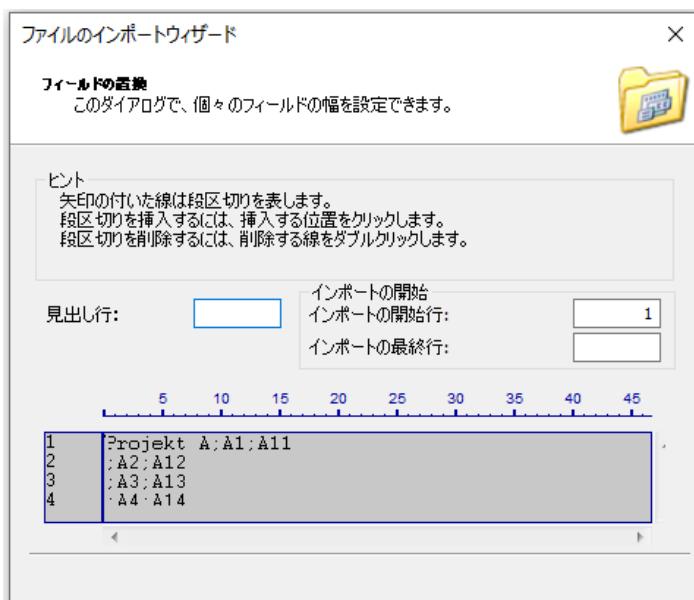
固定した列幅を持つインポートファイル

- ソースファイルの列の幅を固定している場合（例）が10文字、列2が1文字など）は、オプション「固定幅...」を選択します。

テキストエディターで開いた、固定した列幅を持つファイルの例

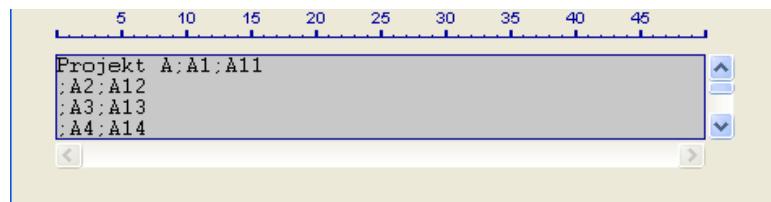
Projekt A	A1	A11
Projekt A		A12
Projekt A	A3	A13
Projekt A	A4	A14
Projekt A	A5	A15
Projekt A	A6	A16
Projekt A	A7	A16
Projekt A	A8	A18
Projekt B1	B1	B11
Projekt B1	B2	B12
Projekt B1	B3	B13
Projekt B1	B4	B14
Projekt B1	B5	B15
Projekt B1	B6	B16
Projekt B1	B7	B17
Projekt B1	B8	B18

- 「次へ」をクリックして次のステップに進みます。



列の幅を指定します。

- 列の幅を指定するには、新しい列が始まる位置でルーラーをクリックします。列は矢印で区切られます。



- 矢印をもう一度クリックすると、列の区切りが削除されます。

Excel®のインポート

Excel®ファイル (*.xls) のインポートでは、このステップでワークシートとインポート領域を選択できます。

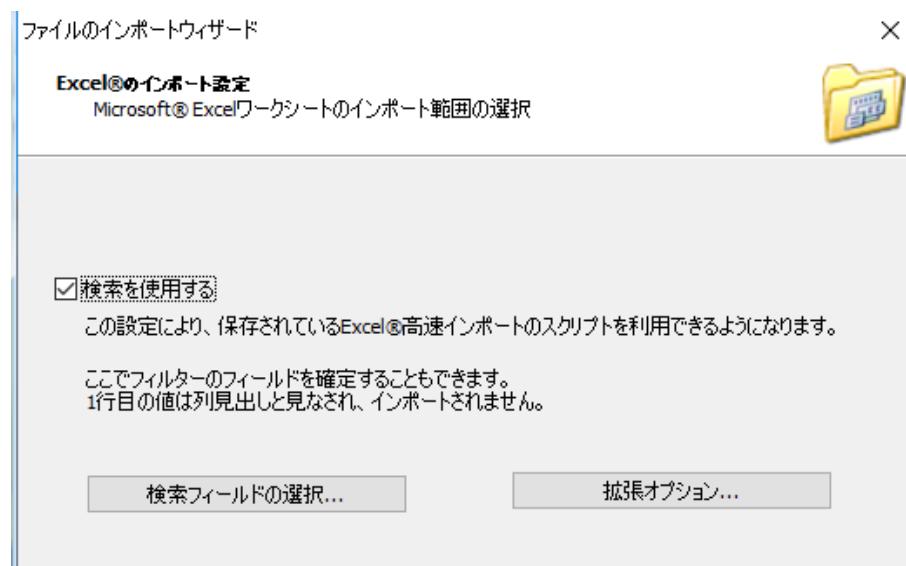


インポートはワークシートからのみ実行されます。
インポートされるのは内容だけで、書式はインポートされません。

Excel®高速インポート

Excel®を高速インポートするため、保存されたインポートスクリプトファイル(*.mis)をこのプログラムで開くことができます。

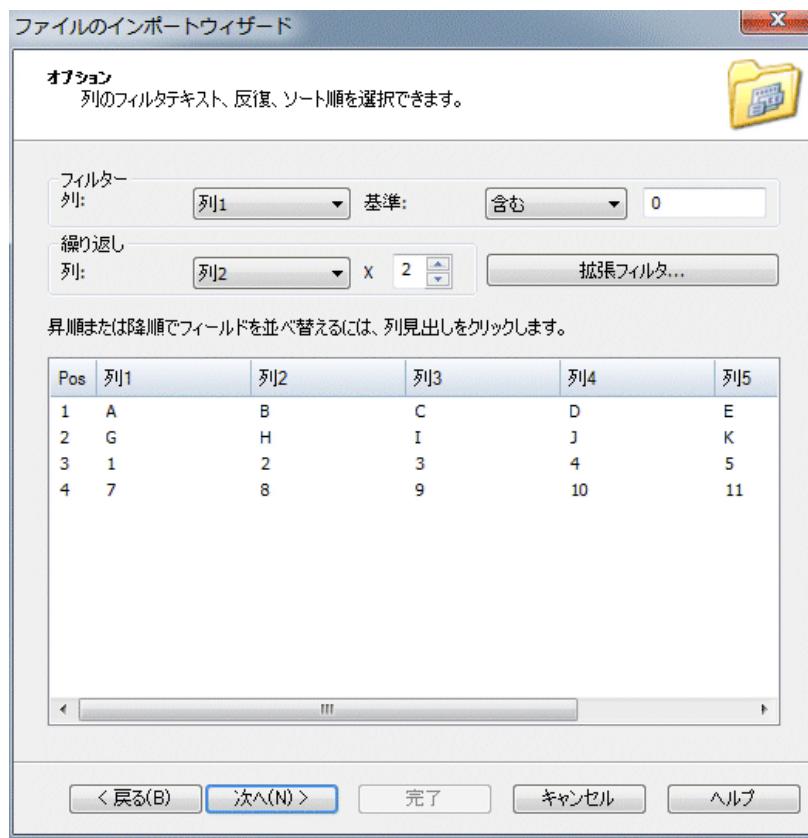
ここで検索フィールドを選択できます。『[Excel®高速インポート](#)』を参照してください。



ステップ6: オプション

その他のインポートオプションを設定します。

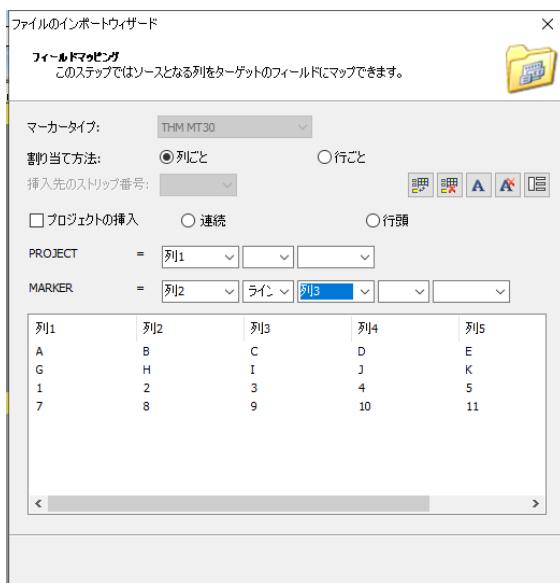
- フィルター: 簡単なフィルタルールを設定します
選択された列は指定した基準でフィルター処理されてインポートされます。
- 繰り返し: インポート行が複数回繰り返されます。行ごとに何回繰り返すかは、選択した列に乗じる数（記号の後に来る数字）から分かれます。
- 拡張フィルタ
複数の列に適用できる、より高度なフィルタルールを設定します。



ステップ7: フィールドマッピング

このステップではフィールドマッピングを指定します。

- マーカータイプ (vkインポート時のみ)
- 割り当て方法
- フィールドマッピング
- フィールドの書式設定



アイコンの説明:



拡張プロパティの設定

インポートファイルの内容について各種のフォント属性を設定するダイアログが開きます。

[「拡張プロパティの設定」を参照してください。](#)

注意: 書式設定ができるのはテキスト要素だけです。



拡張プロパティのリセット

すべてのデータフィールドの割り当てられた列を元に戻します。



書式を確定

フォントと文字間隔を調整するためのダイアログが開きます。 「[フィールドの書式設定](#)」を参照してください。



書式を規定リセット

すべてのデータフィールドの書式がデフォルトにリセットされます。



マーカーのプロパティを設定する

連続ストリップでは、マーカー長 (幅) をインポートファイルの列によって設定できます。 「[インポートファイルのマーカ長](#)」を参照してください。



プロジェクトレベルまたはマーカーレベルのプロジェクトテキストをインポートする
インポート時にプロジェクトレイヤー（プロジェクトマーカー）のテキストを、マーカー領域（マーカー）に自動的に挿入することができます。「[プロジェクトテキストをマーカーにインポート](#)」を参照してください。

マーカータイプ

インポート先のマーカータイプを表示します。

このフィールドは、複数のマーカータイプがインポートされる（[vkインポート](#)など）と有効になります。『[VKフィールドマッピング](#)』の章を参照。

割り当て方法

列ごと

列ごとはデータグリッドの列を指します。

特定の列（マーカー/要素）に内容を割り当てる場合には「**列ごと**」を選択します。

行ごと

行ごとはデータグリッドの行を指します。

PROJECT	MARKER	TEXTBOX1
1	2	3
	4	5
6	7	8

インポートした内容を行ごと（データグリッドに表示されているように）挿入する場合は「**行ごと**」を選択します。

フィールドマッピング

フィールドマッピングを使用して、データを既存の要素（マーカータイプ）にインポートできます。フィールド名（PROJECT、MARKER、TEXTBOX1など）は、要素のプロパティで指定します（『[要素の編集](#)』の章を参照）。

インポートする列は自由に組み合わせることができます。

連続ラベル（連続ストリップ）の場合、「挿入先」ドロップダウンフィールドで、インポート先のストリップ番号を選択できます（『[一般的な操作](#)』の章の「[連続ストリップ](#)」のセクションを参照）。

「プロジェクト」フィールドのない素材リストであれば、補助的なプロジェクト情報をマーカーフィールドに挿入できます。そのためには、「プロジェクトの挿入」のチェックボックスをクリックします。素材の種類に応じて「連続」または「行頭」の選択肢を使用して（該プロジェクト情報の）位置を選択できます。

ストリップ番号に挿入:

プロジェクトの挿入 連続 行頭

PROJECT	=	列1	列2	列3	列4	列5	列6
MARKER	=	列2	タブ	列3	列4	列5	列6
TEXTBOX1	=	列5	プラン	列6	列7	列8	列9

組み合わせの例によることができます。

- 改行
- 空白
- タブ文字
- 区切り記号なし（プラス）
- テキスト

- 次のフィールド

i 後で挿入したフィールド（テキスト、バーコード）を連続素材で使用可能となるようにさらに編集するには、フィールドのプロパティで「塗りつぶしの順序」プロパティを設定する必要があります（「インターフェイスについて」の章の[動作](#)のセクションを参照）。

フィールドの書式設定

インポートする列の内容を「インポートウィザード」を使用して書式設定することができます。

- 選択した列でドロップダウンフィールドを選択します。
- アイコン  をクリックして、書式設定ダイアログを開きます。「フォントサイズを調整する」を参照してください。
- データ形式を選択します。

既に書式設定されたデータはカラーの影付きで表示されます。



プロジェクトテキストをマーカーにインポート

インポート時にプロジェクトトレイヤー（プロジェクトマーカー）のテキストを、マーカー領域（マーカー）に自動的に挿入することができます。

- プロジェクトテキストをマーカーにインポートするには  ボタンをクリックします。
 - ボタンの表示が  に変わります。

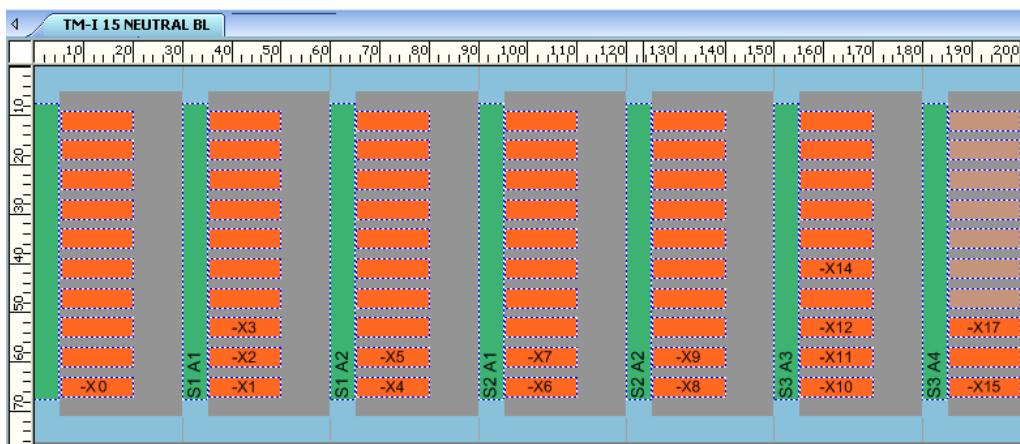
例

表示されているフィールドマッピングにより、次のテキストデータをインポートします。

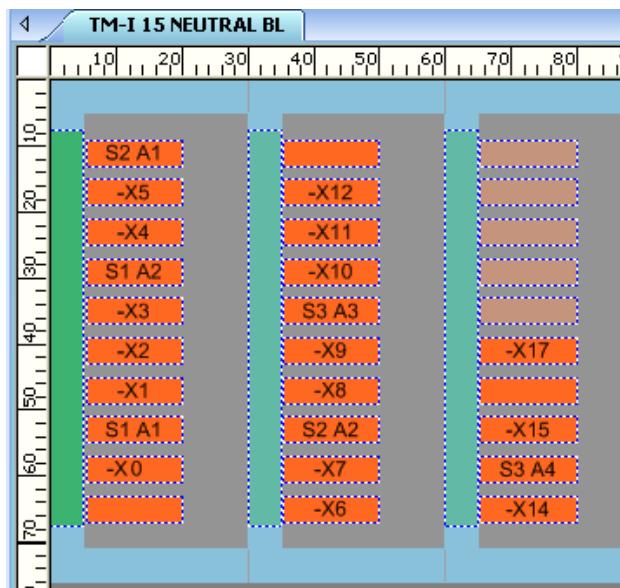
1	$\longrightarrow \cdot \cdot \cdot \longrightarrow -X_0$
2	$S_1 \rightarrow A_1 \rightarrow -X_1$
3	$S_1 \rightarrow A_1 \rightarrow -X_2$
4	$S_1 \rightarrow A_1 \rightarrow -X_3$
5	$S_1 \rightarrow A_2 \rightarrow -X_4$
6	$S_1 \rightarrow A_2 \rightarrow -X_5$
7	$S_2 \rightarrow A_1 \rightarrow -X_6$
8	$S_2 \rightarrow A_1 \rightarrow -X_7$
9	$S_2 \rightarrow A_2 \rightarrow -X_8$
10	$S_2 \rightarrow A_2 \rightarrow -X_9$
11	$S_3 \rightarrow A_3 \rightarrow -X_{10}$
12	$\longrightarrow \cdot \cdot \cdot \longrightarrow -X_{11}$
13	$S_3 \rightarrow A_3 \rightarrow -X_{12}$
14	$\longrightarrow \cdot \cdot \cdot \longrightarrow$
15	$S_3 \rightarrow A_3 \rightarrow -X_{14}$
16	$S_3 \rightarrow A_4 \rightarrow -X_{15}$
17	$S_3 \rightarrow A_4 \rightarrow$
18	$S_3 \rightarrow A_4 \rightarrow -X_{17}$
19	
20	



この機能を使用しないでインポートすると、次のような結果になります。



この機能を使用してインポートすると、次のような結果になります。



プロジェクトの挿入

このオプションはプロジェクトレイヤーなしのマーカーで使用できます。

インポート時にプロジェクトレイヤー（プロジェクトマーカー）のテキストを、マーカー領域（マーカー）に自動的に挿入することができます。

例

この機能を使用しないでインポートすると、次のような結果になります。

The screenshot shows the 'Import Wizard' dialog and a workspace view. On the left, there is a table with data from three projects. In the center, the 'Import Wizard' dialog has the 'File Mapping' tab selected. Under 'File Mapping', there is a checkbox labeled 'Project Insertion'. Below it, 'Project Info' is set to '列1' and 'Marker' is set to '列2'. At the bottom, there is a table showing the mapping between '列1' and '列2'. On the right, the workspace shows the imported data. The first three columns (10, 20, 30) contain data from Project 1, the next three columns (40, 50, 60) contain data from Project 2, and the last column (7) contains data from Project 3.

この機能を使用してインポートすると、次のような結果になります。

The screenshot shows the 'Import Wizard' dialog and a workspace view. The setup is identical to the previous example, but the 'Project Insertion' checkbox is checked. This results in the project names being inserted into the workspace. In the workspace, the first three columns (10, 20, 30) now contain 'Project 1' data, the next three columns (40, 50, 60) contain 'Project 2' data, and the last column (7) contains 'Project 3' data. The original data from the projects is still present within these project containers.

拡張プロパティの設定

次の拡張属性は インポート列で設定できます。

プロパティ:	値:
フォント:	Windowsのフォント名に従った表記 例 "Times New Roman", "Century Gothic"
サイズ:	フォントサイズ
太字:	1 = オン 0 = オフ (標準)
イタリック:	1 = オン 0 = オフ (標準)
下線:	1 = オン 0 = オフ (標準)
取り消し線:	1 = オン 0 = オフ (標準)
テキストの色:	#RRGGBB = 16進数カラーコード
文字幅と間隔	数値%)。を参照してください。「フォントサイズを調整する」 例 80 = 80% 100 = 100% 120 = 120%
上付き文字/下付き文字	数値%)。を参照してください。「フォントサイズを調整する」 例 0 = Standard -5 = 5% subscript 3 = 3% superscript
水平方向の整列:	1 = 中央揃え 2 = 右揃え 0 (およびその他のすべての値) = 左揃え
垂直方向の整列:	1 = 中央揃え 2 = 上揃え 0 (およびその他のすべての値) = 下揃え
テキストの整列:	0, 90, 180, 270
枠線	0=なし 1=左 2=上記 4=右 8=ボトム 例1 : 5=左/右 例2 : 15=左/右/上/下
線の幅	例: 0.01 または 0,01
寸法の単位	選択用ドロップダウン・フィールド

線の種類	0 = 実線 1 = 破線/パターン 2 = 点 3 = 一点鎖線 4 = 二点鎖線 5 = なし
線の色	#RRGGBB = 16進数カラーコード
塗りつぶしの色	#RRGGBB = 16進数カラーコード
行の高さ:	数値(%). を参照してください。 「フォントサイズを調整する」 例 80 = 80% 100 = 100% 120 = 120%

例

インポートファイル:

Project	Marker	Font	FontSize	Bold	Italic	Underline	Strikethrough	FontColor	HorizAlign	VertAlign	Orientation
P1	Arial	Arial	12	x	x	x	x				
	Century	Century Gothic	7								
	Times	Times New Roman	8								
	unknown	xxx	10								
P2	Bold			1	0	0	0		1	1	
	Italic			0	1	0	0	#000000	1	1	
	Underline			0	0	1	0	#000000	1	1	
	Strikethrough			0	0	0	1	#000000	1	1	
P3	Hor cent							#000000	1	1	
	Hor right							#000000	2	1	
	Hor left							#000000	0	1	
	Hor xxx							#000000	xxx	1	
P4	Vert middle							#000000	1	1	
	Vert top							#000000	1	2	
	Vert bottom							#000000	1	0	
	Vert xxx							#000000	1	xxx	
P5	0°							#000000	1	0	0
	90°							#000000	1	0	90
	180°							#000000	1	0	180
	270°							#000000	1	0	270
P6	Black							#000000			
	Red							#FF0000			
	Green							#00FF00			
	Blue							#0000FF			

フィールドマッピング:

ファイルのインポートワizard

ファイルマッピング
このステップではソースとなる列をターゲットのフィールドにマップできます。

割り当て方法: 列ごと 行ごと [マッピング]

挿入先のストリップ番号: [ドロップダウン]

PROJECT	=	列1	列2	列3	列4	列5	列6	列7	列8	列9	列10
MARKER	=	列2									

列2 列3 列4 列5 列6 列7 列8

Arial	Arial	12	x	x	x	x
Century	Century Gothic	7				
Times	Times New R...	8				
unknown	xxx	10				
Bold			1	0	0	0
Italic			0	1	0	0
Underline			0	0	1	0
Strikethr...			0	0	0	1
Hor cent						
Hor right						

拡張プロパティの設定 (MARKER)

書式プロパティがある列を選択してください。

テキストのプロパティ

プロパティ:	列:
フォント:	列3
サイズ:	列4
太字:	列5
イタリック:	列6
下線:	列7
取り消し線:	列8
テキストの色:	列9

フィールドプロパティ

プロパティ:	列:
水平方向の配置	列10
垂直方向の配置	列11
テキストの方向:	列12

インポート結果:

P1					
P1	unknown	Strikethrough	Hor xxx	Vert xxx	270°
P2	Times	<u>Underline</u>	Hor left	Vert bottom	180°
P3	Century	<i>Italic</i>	Hor right	Vert top	90°
P4	Arial	Bold	Hor zent	Vert middle	0°
P5					
P6					

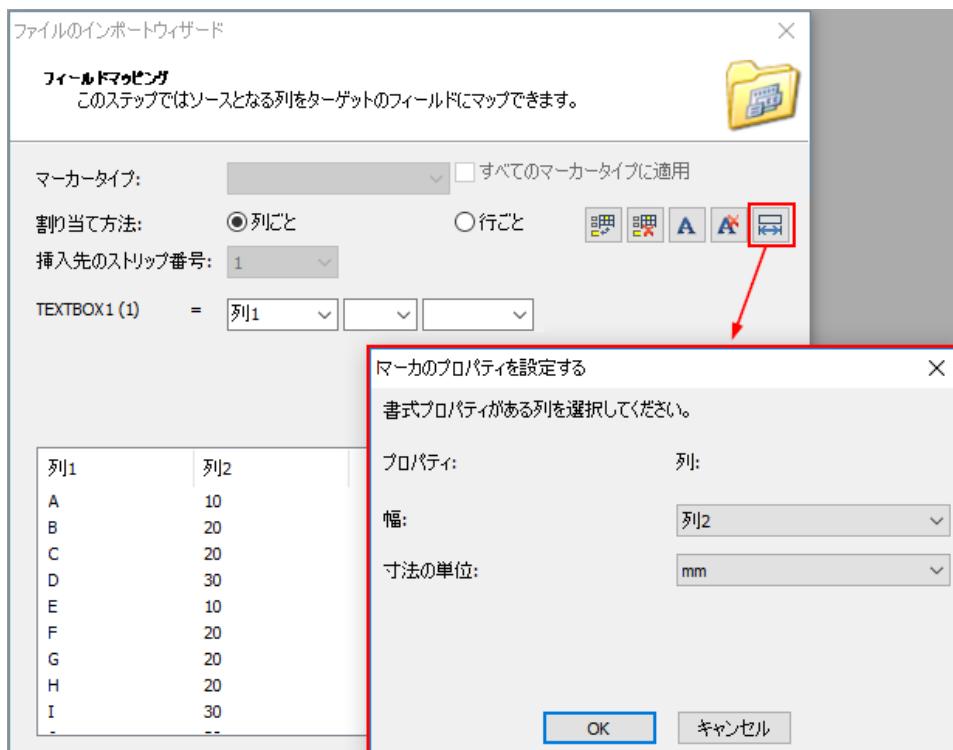
インポートファイルのマーカ長

連続ストリップでは、マーカー長(幅)をインポートファイルの列によって設定できます。

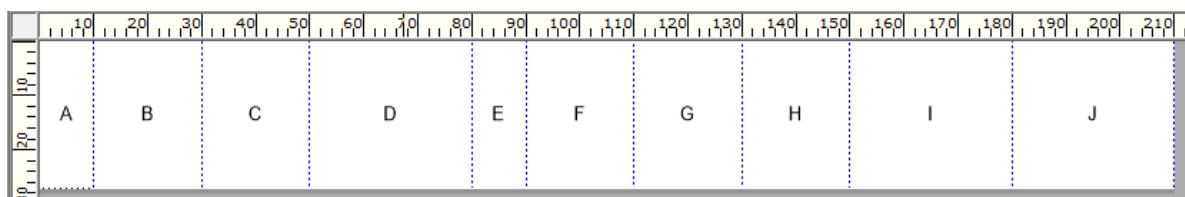
この機能は次の素材で使用できます：連続ストリップ

例

フィールドマッピング：



インポート結果：



拡張マーカープロパティの設定 LPC

LPC-Tool用印刷ファイルを作成するために、インポートアシスタントで拡張マーカープロパティを設定できます。

この機能は次の素材で使用できます。LPC素材

この追加データはLPC-Toolの「情報フィールド」に表示されます。

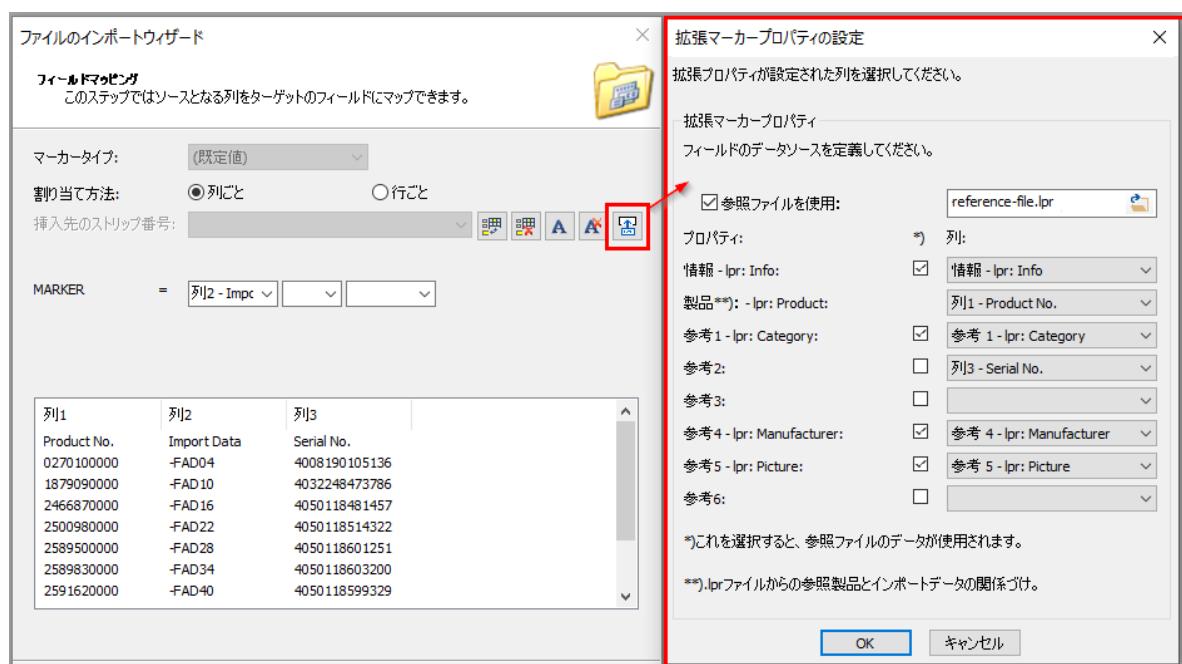
LPC-Toolのハンドブックを参照してください。

フィールドマッピングは以下のソースから取り込むことができます。

- インポートデータから直接
- 1つの参照ファイル(*.lpr)から。を参照してください。[「lprファイル」](#)
「製品」列は、インポート時にインポート列の割り当て先を参照するのに使われます。

例

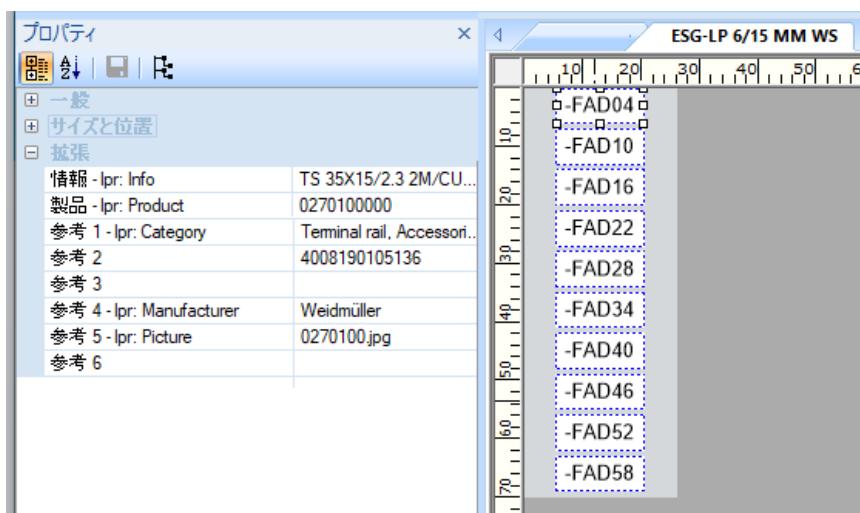
フィールドマッピング：



参照ファイル：

lpc-tool-reference-file.lpr					
	Ipr: Info	Ipr: Product	Ipr: Category	Ipr: Manufacturer	Ipr: Picture
0001	TS 35X15/2.3 2M/CU/BK	0270100000	Terminal rail, Accessor	Weidmüller	0270100.jpg
0002	TS 35X7.5/5X18 2M/ST/SZ	1879090000	Terminal rail, Accessor.	Weidmüller	0514500.jpg
0003	PRO TOP1 120W 24V 5A	2466870000	Power supply, switch-i	Weidmüller	2466870.jpg
0004	SCS 24VDC P1SIL3DS I	2500980000	SAFE SERIES, Safety rela	Weidmüller	2500980.jpg
0005	CD-BO 100X120 4/6 GY	2589500000	Cable duct, 100 mm x	Weidmüller	2500980.jpg

インポート結果：

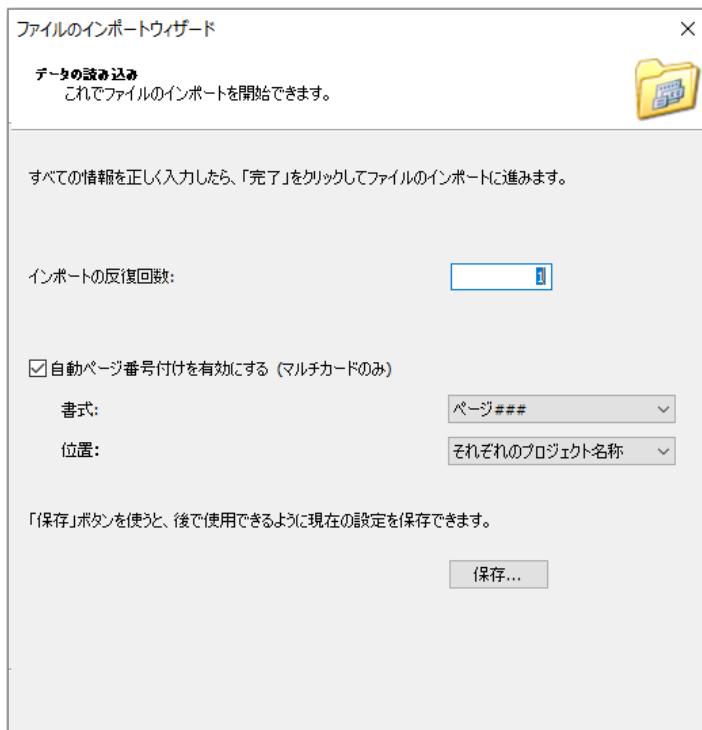


i マーカーを「Ctrl+左クリック」すると、プロジェクトファイルでLPC-Tool用拡張マーカープロパティが表示されます。

ステップ8: 保存と終了

最後のステップではインポートを完了します。次のオプションを使用できます。

- インポートの反復回数
- 保存
定義したインポート手順がスクリプトファイルとして保存されます（「[自動インポート](#)」または「[バッチインポート](#)」の章を参照）。
- 終了
指定した設定を使用してソースファイルをインポートします。
- 自動ページ番号付けを有効にする（マルチカードのみ）
インポートの際には、フリーレイヤーにページ番号が挿入されます。これはマルチカードの場合のみです。 「[フィールド](#)」を参照してください。



エラーなしでファイルがインポートされた場合は、メッセージと共にインポートされたレコード数が表示されます。

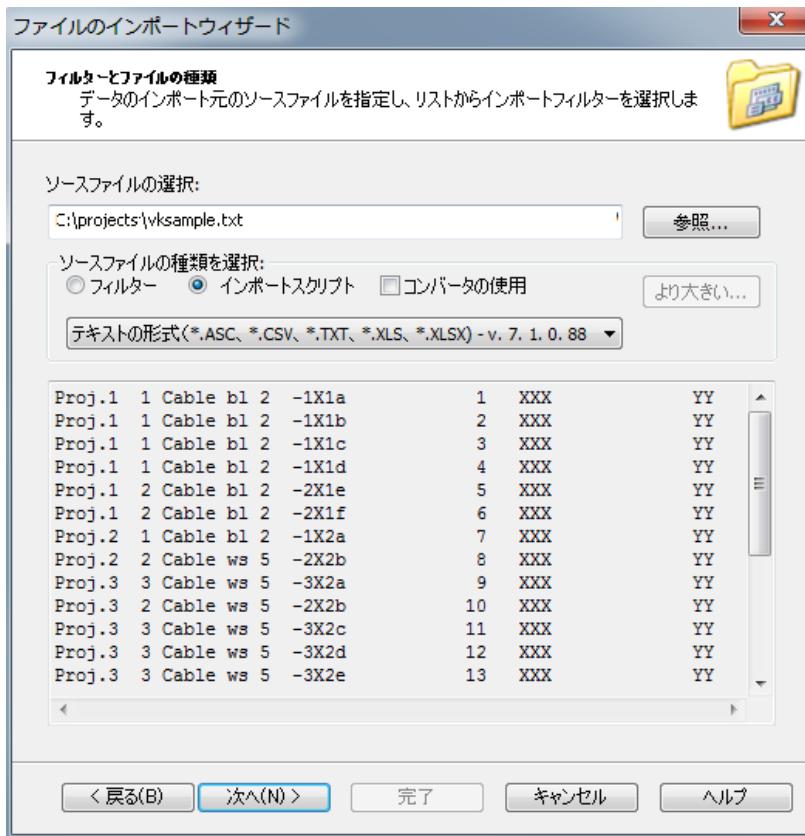
インポート時に文字を「検索」、「置換」することにより、自動的に変換できます（「「オプション」ダイアログ」の章の「[インポート](#)」および）。

- i** インポート後にワースペースに赤い三角形が表示された場合は、インポートしたテキストがこのフィールドに収まらないことを示しています。
この場合、一部のテキストが表示されなかったり印刷されなくなります。
その場合はテキストを短くするか、またはフォントサイズを小さくする必要があります。（「[フォントサイズの調整](#)」も参照）

自動インポート

既にインポートを実行しており、そのインポートルーチンを保存してある場合（「[ステップ8: 保存と終了](#)」のセクションを参照）、このルーチンを再利用できます。

- 「[インポートの開始](#)」の章の説明ご従ってインポートを開始します。



ソースファイルの選択

- 「検索..」ボタンをクリックします。インポートするファイルを選択できるウィンドウが開きます。
- インポートするファイルを選択し、「開く」ボタンをクリックします。

「ソースファイルの選択」フィールドに、インポートするファイルのパスが表示されます。

インポートスクリプトの選択

- ソースファイルの種類として「インポートスクリプト」を選択し、「検索...」をクリックします。
- スクリプトファイル (*.mis) を開きます。
- 「終了」ボタンをクリックするか、または何か変更する場合は「次へ」ボタンをクリックします。

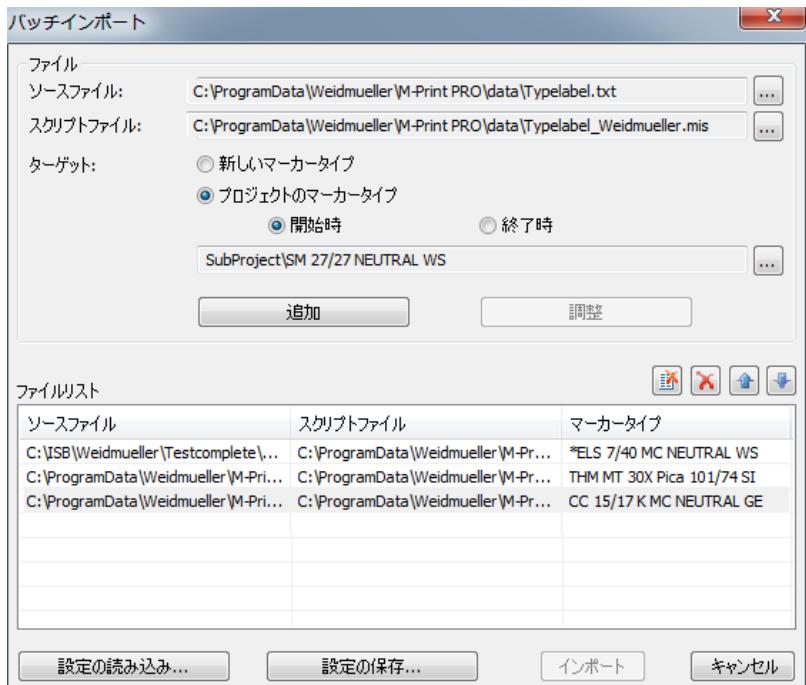
インポートルーチンが開始され、データがマーカータイプに挿入されます。

パッチインポート

パッチインポートは自動インポートの一種です。
次のオプションがあります。

- 1つ以上の様々なソースファイルをインポートします。
- 各ソースファイルを固有のインポートスクリプトでインポートすることができます（「[ステップ8: 保存と終了](#)」を参照）。
- カタログまたはテンプレート (*.mpt) からマーカータイプにインポートできます。
- 開いているプロジェクトのマーカータイプにインポートできます。
- コンパイルしたバッチを保存し、いつでもまた読み込むことができます。
- 保存したパッチインポートファイル (*.bis) は、コマンドラインを起動して開くこともできます。

メニューから「ファイル」>「パッチインポート...」を選択して、インポートを開始します。



i リスト項目の「マーカータイプ」列にアスタリスクが付いているものは、インポート先がテンプレート (*.mpt) であることを示しています（「[テンプレート](#)」の章を参照）。

バッチの作成/追加

- バッチに新しいインポートプロセスを追加するには、「ソースファイル」、「スクリプトファイル」、および「ターゲット」の各フィールドに入力する必要があります。
 入力するには、それぞれのフィールドで ボタンを選択します。
- 「ターゲット」ではさらに、新しいマーカータイプにインポートするか、既に開いているプロジェクトのマーカータイプにインポートするかを選択できます。後者の場合は、インポートするデータをそれぞれのマーカータイプの先頭に挿入するか、最後に挿入するかを追加で指定できます。
- 選択したインポートオプションの組み合わせをバッチに追加するには、**[追加]** ボタンをクリックします。

バッチの変更

インポートオプションの組み合わせを変更する

- リスト内の変更するバッチ項目をクリックします。
- ボタンまたは「ターゲット」の選択肢を使用して、インポートオプションの組み合わせを変更します。
- **[変更]** をクリックして、バッチ項目を変更します。

バッチ項目を移動する

- バッチ処理の順番を変更するには、矢印ボタンを使用します。

バッチ項目を削除する

 選択したリスト項目を削除します。

 すべてのリスト項目を削除します。

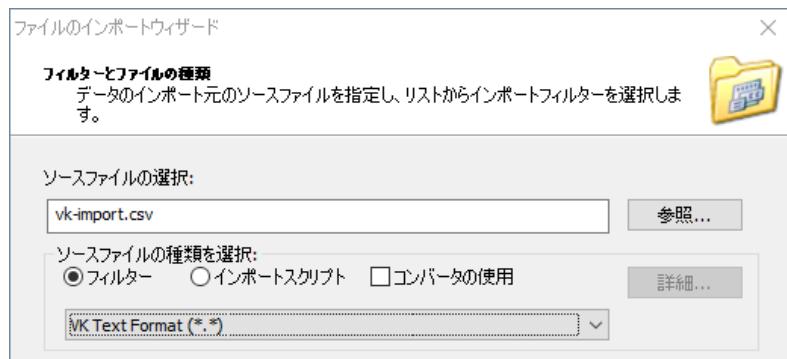
 この削除は確定プロンプトの表示なしで実行されます。

VKインポート

vk フィルターでは個々のインポート行にインポート素材の情報を含めることができます。その素材にインポートされます。

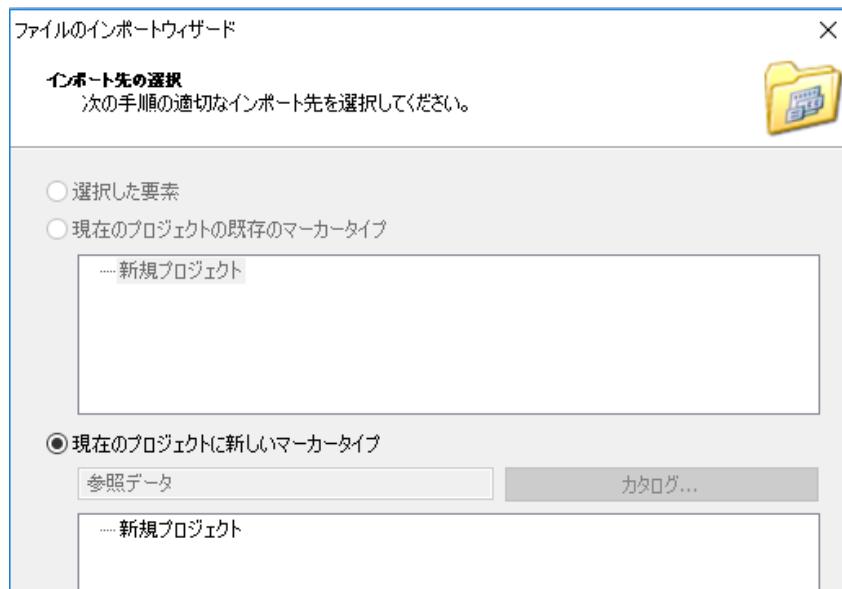
VKインポートフィルター

- インポートフィルターで次のフィルターを選択します：「VK Text Format」



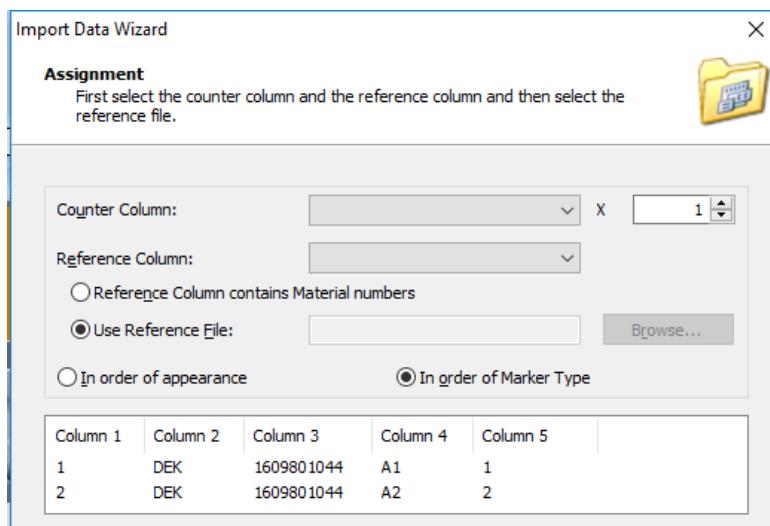
VKインポート先

インポート先の選択では、マーカタイプに適合する参照ファイルのみインポートできます。「[参照列](#)」を参照してください。



VK割り当て

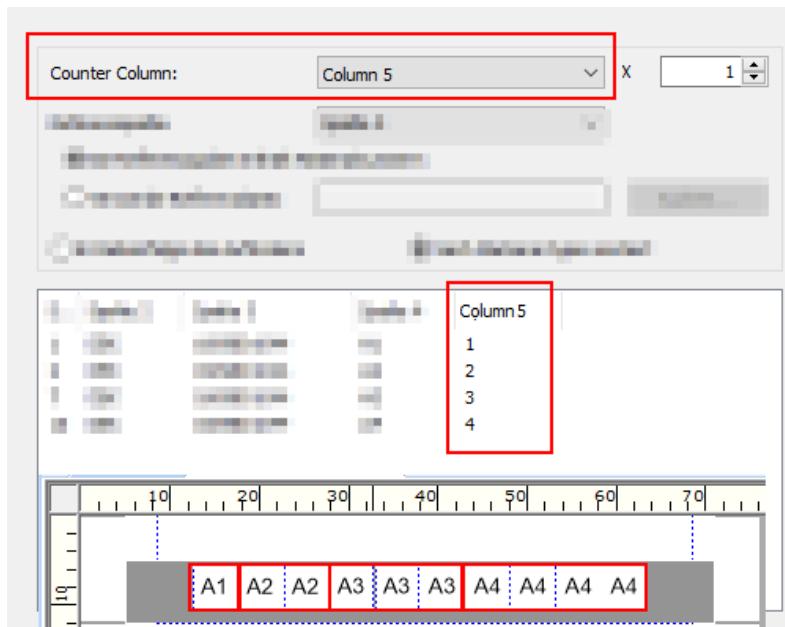
割り当てには様々な組み合わせが可能です。



数値割り当て

選択した列には、該当する列をインポートする頻度を指定する数値が含まれます。この列の値に、さらに係数を乗じることができます。

例



参照列

参照列によってインポート先が決定されます。
それぞれのインポート行ごとにマーカータイプでインポートされるかの情報含まれます。

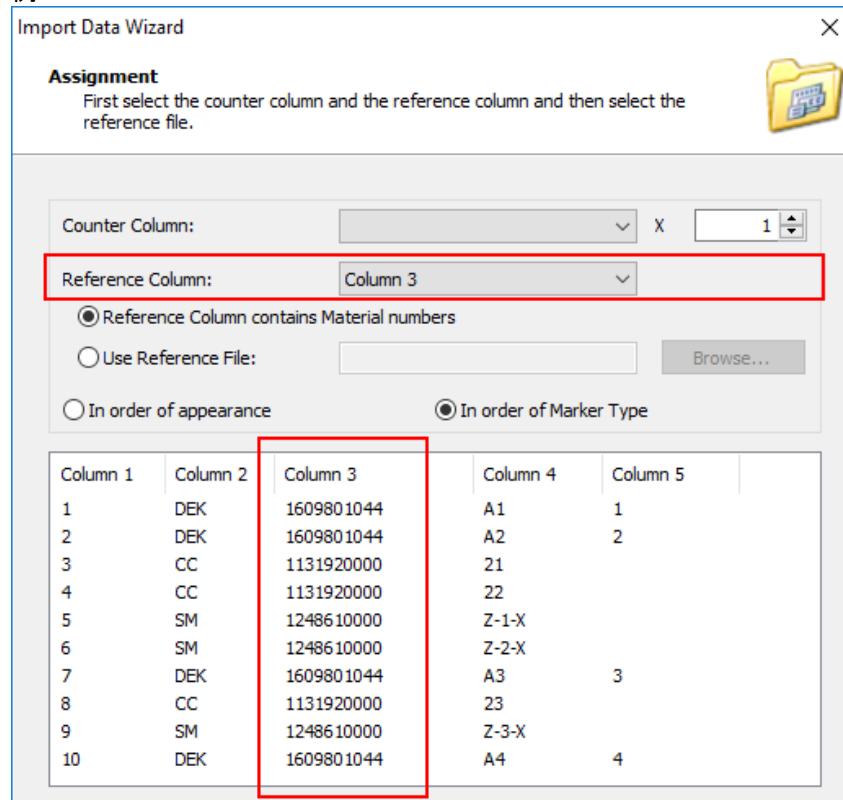
2つの参照オプションから選択できます：

- 参照列に素材番号を含める
- 参照ファイルを使用する

参照列に素材番号を含める

インポートファイルの参照列にはインポートされる素材番号が含まれます。

例



参照ファイルを使用する

インポートファイルの参照列ごとに 参照ファイルで検索され、ある素材にマップされるエイリアスが含まれます。

- まず最初にインポートファイルから参照列を選択します
- その後に参照ファイル (*.mpr) を選択します。 [「参照データファイル」](#)を参照してください。

例

参照ファイル:

	Alias	Material No.	バリエント名
0001	DEK	1609801044	DEK 5/5 MC NEWS
0002	CC	1131920000	CC 15/17 K MC NE GE
0003	SM	1248610000	SM 18/9.5 K MC NE GR

マッピング:

Import Data Wizard

Assignment
First select the counter column and the reference column and then select the reference file.

Counter Column: X

Reference Column: X

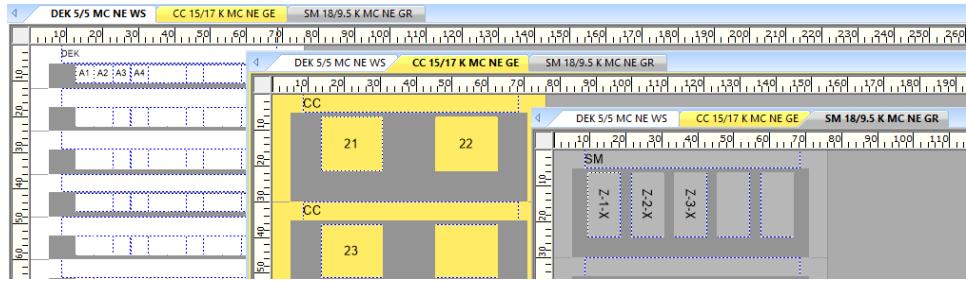
Reference Column contains Material numbers

Use Reference File:

In order of appearance In order of Marker Type

Column 1	Column 2	Column 3	Column 4	Column 5
1	DEK	1609801044	A1	1
2	DEK	1609801044	A2	2
3	CC	1131920000	21	
4	CC	1131920000	22	
5	SM	1248610000	Z-1-X	
6	SM	1248610000	Z-2-X	
7	DEK	1609801044	A3	3
8	CC	1131920000	23	
9	SM	1248610000	Z-3-X	
10	DEK	1609801044	A4	4

結果：



空の参照列

参照列の内容が空の場合、前の列の参照が自動的に使用されます。不明な場合は警告メッセージが表示され、インポート時の割り当てはカタログによって行うことができます。

参照が見つからない場合

不明な場合は警告メッセージが表示され、インポート時の割り当てはカタログによって行うことができます。

発生順

参照列のインポート行のマーカータイプが入れ替わる場合、そのたびに新しいマーカータイプが開かれ、インポートされます。

例

Import Data Wizard

Assignment
First select the counter column and the reference column and then select the reference file.

Counter Column: 1
Reference Column: Column 2

Reference Column contains Material numbers
 Use Reference File: vk-reference.mpr

In order of appearance In order of Marker Type

Column 1	Column 2	Column 4
1	DEK	A1
2	DEK	A2
3	CC	21
4	CC	22
5	SM	Z-1-X
6	SM	Z-2-X
7	DEK	A3
8	CC	23
9	SM	Z-3-X

DEK 5/5 MC NE WS CC 15/17 K MC NE GE SM 18/9.5 K MC NE GR DEK 5/5 MC NE WS CC 15/17 K MC NE GE SM 18/9.5 K MC NE GR

マーカータイプ順

インポート行は参照列のマーカータイプで並べ替えられ、グループ分けされてから、該当するマーカータイプにインポートされます。

例

Import Data Wizard

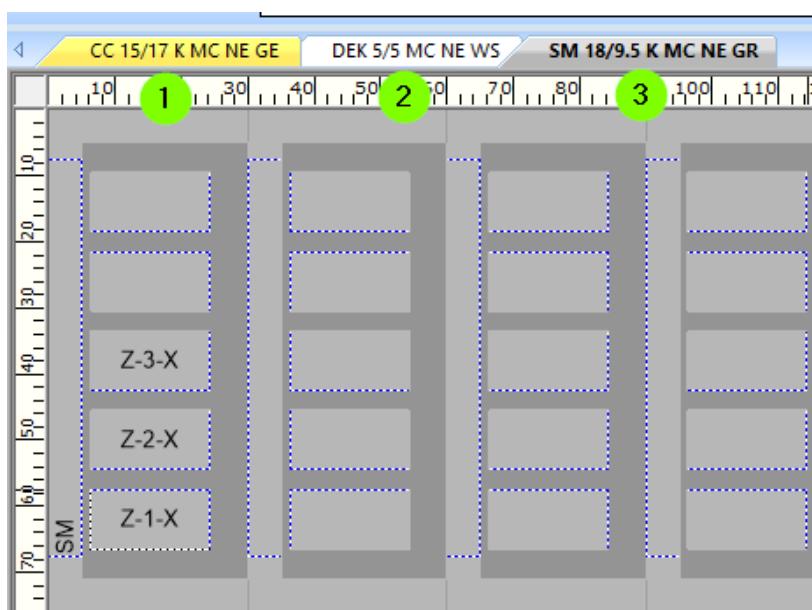
Assignment
First select the counter column and the reference column and then select the reference file.

Counter Column: X 1
Reference Column: Column 2

Reference Column contains Material numbers
 Use Reference File: vk-reference.mpr
 In order of appearance In order of Marker Type

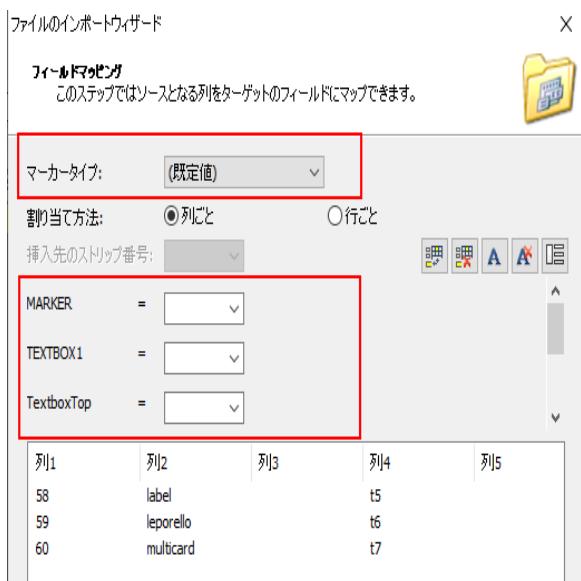
Column 1	Column 2	Column 4
1	DEK	A1
2	DEK	A2
4	CC	21
5	CC	22
6	SM	Z-1-X
6	SM	Z-2-X
3	DEK	A3
9	CC	23
	SM	Z-3-X

CC 15/17 K MC NE GE DEK 5/5 MC NE WS SM 18/9.5 K MC NE GR



VKフィールドマッピング

一般的なフィールドマッピング（第ステップ7: フィールドマッピング章を参照）に加えて、様々なマーカータイプのフィールドマッピングを実行できます。



(既定値)

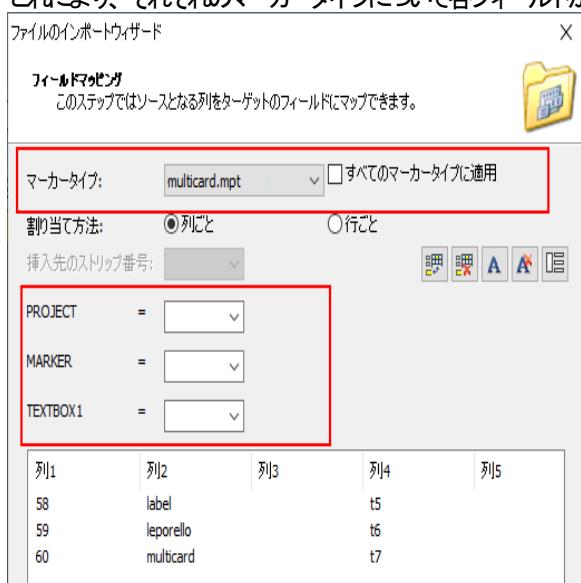
標準出力では、インポート先に指定できるすべてのマーカータイプの使用可能な要素すべてが表示されます。

前回のインポートロジック（プログラムバージョン8.4まで）が適用されます。

選択されたマーカータイプ

選択フィールドでマーカータイプが選択されると、その要素だけが表示されます。

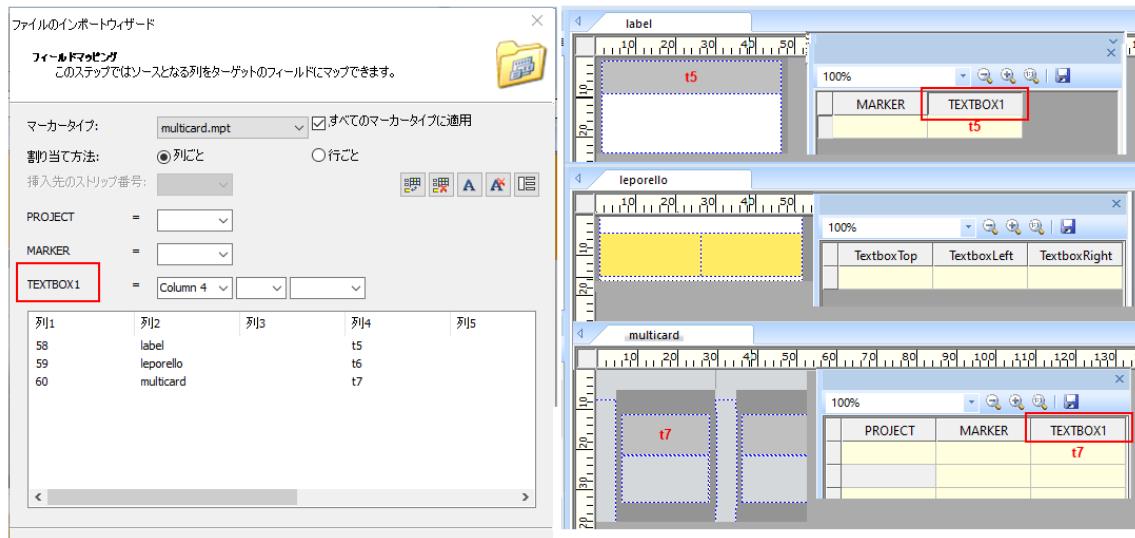
これにより、それぞれのマーカータイプについて各フィールドが個別にマッピングされます。



すべてのマーカータイプに適用

このオプションが有効になっている場合、ページがスクロールされたときに、他のすべてのマーカータイプの同じ名前のフィールドに、選択されたマーカータイプのフィールドマッピングが適用されます。

例



テンプレートでのVKインポート

VKフィルターによるインポートはテンプレートでも実行できます。「テンプレート」の章を参照してください。[「テンプレート」を参照してください。](#)

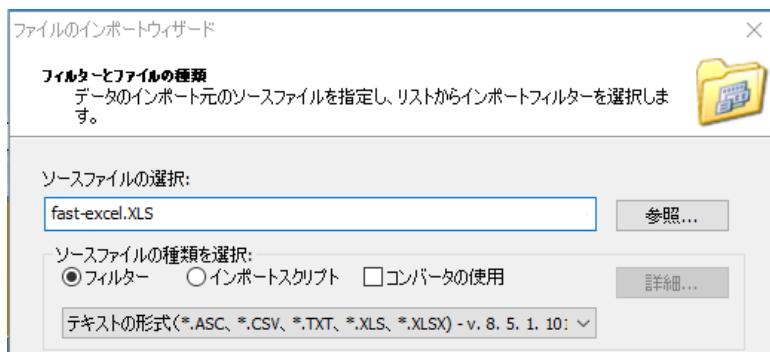
Excel®高速インポート

Excel®高速インポートを使用すると、Excel®シートのフィルターをかけた値を、予め作成されたインポートスクリプトによってインポート(つまり印刷)できます。

Excel®高速インポートの準備

インポートの基本データを組み込み、保管するために、ファイルのインポートを実行します。

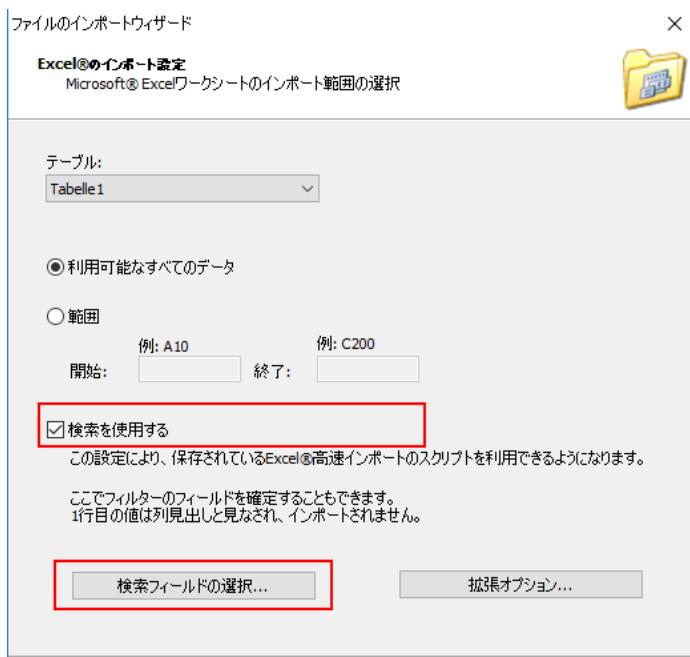
- ソースファイルとしてExcel®ファイルを選択します。



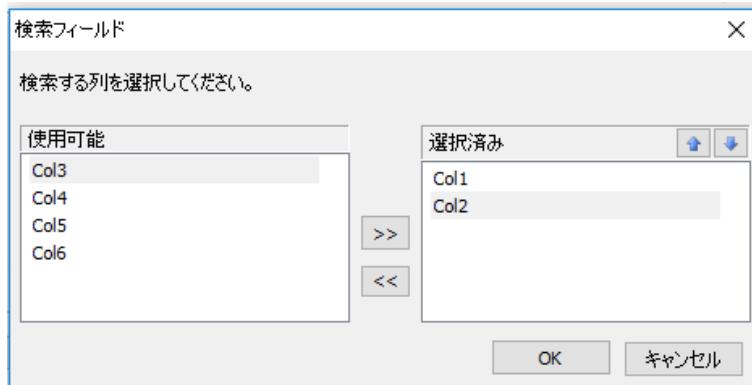
例では以下のインポートファイルが使用されます。

	A	B	C	D	E	F
1	Col1	Col2	Col3	Col4	Col5	Col6
2	Dev1	PL-01	20081	KW44	ABC	
3	Dev1	PL-02	19528	KW44	BCD	
4	Dev1	PL-03	11180	KW44	CDE	
5	Dev1	PL-04	13562	KW44	DEF	
6	Dev1	PL-05	14523	KW44	EFG	
7	Dev1	PL-06	17492	KW44	FGH	
8	Dev1	PL-07	18120	KW44	GHI	
9	Dev1	PL-08	12466	KW44	HIJ	
10	Dev1	PL-09	20192	KW44	IJK	
11	Dev2	PL-01	12685	KW44	JKL	
12	Dev2	PL-02	19590	KW44	KLM	
13	Dev2	PL-03	14666	KW45	LMN	
14	Dev3	PL-01	15372	KW45	MNO	
15	Dev3	PL-02	18695	KW45	OPQ	
16	Dev3	PL-03	18318	KW45	PQR	
17	Dev4	PL-01	11311	KW45	QRS	
18	Dev4	PL-02	13573	KW45	RST	

- 次のオプションを選択します：「検索を使用する」
- ボタン「検索フィールドの選択」をクリックします。

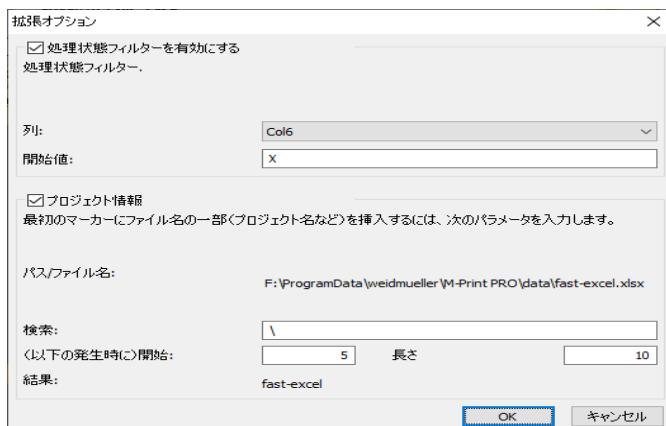
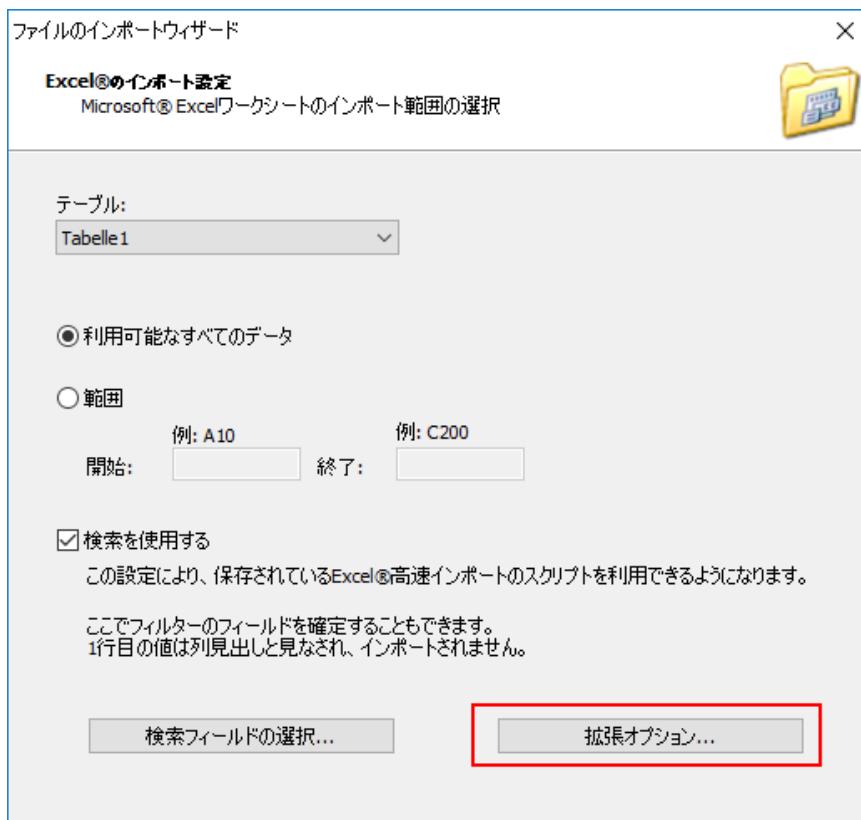


- ダイアログで、後で検索フィールドとして選択できるExcel® ファイルの列を選択します。



i 1行目は列ヘッダーと解釈されるため、インポートは2行目から自動的に開始されます。

- ボタン「拡張オプション」をクリックします。これらの入力は任意です。



処理状態フィルターを有効にする

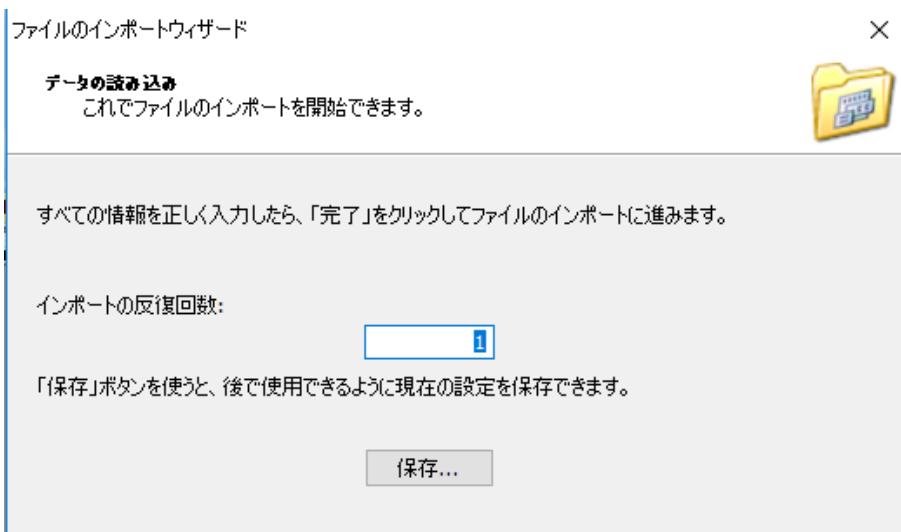
Excel®ファイルにインポート機能を保存する場合は (Excel®高速インポート後)、ダイアログで既存の空の列を選択します。状態の値は インポート後にその列に保存されます。

プロジェクト情報

最初のマーカーにファイル名の一部 (プロジェクト名など) を挿入するには、次のパラメータを入力します。

- 設定した手順をスクリプトファイル (*.mis) として保存します。

このスクリプトファイルを使用してExcel®高速インポートを実行できます



このインポート設定を実行した場合、インポートファイル全体ではなく、20件のレコードが1回でインポートされます。

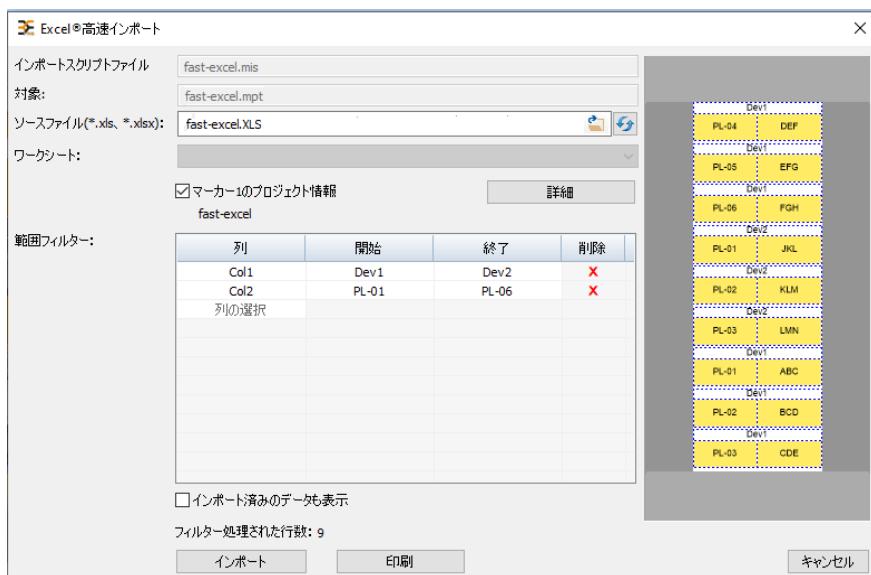
Excel®高速インポートの実行

Excel®高速インポートを実行するには プログラムでスクリプトファイル (*.mis) が開いている必要があります。

- メニュー項目の「ファイル」>「開く」を選択します。
- Excel®高速インポートのために用意したスクリプトファイル (*.mis) を選択します。

i スクリプトファイルはステップ1の設定を使用して作成する必要があります。
[「Excel®高速インポートの準備」を参照してください。](#)

Excel®高速インポートのダイアログが開きます。



ソースファイル:
インポートしたいExcel®ファイル。

i ファイルの列ヘッダーはスクリプトファイルに対応している必要があります。

マーカー1のプロジェクト情報

最初のマーカーにファイル名の一部（プロジェクト名など）を挿入するには 次のパラメータを入力します。

範囲フィルター:
ここには、検索フィールドとしてステップ1で選択した列が表示されます。
各種のアクションが実施されるなかで、テキストフィールドは自動的に入力されます。

i 範囲フィルターでどの値も選択しなかった場合、ソースファイルのすべての行がインポートされます。

例

列	開始	終了					
Col1	Dev1	Dev2					
Col2	PL-01	PL-06					
Col1	Dev1	Dev2					
Dev1	PL-04	PL-05					
Dev1	PL-06	PL-07					
Dev1	PL-08	PL-09					
Dev2	PL-01	PL-02					
Dev2	PL-03	PL-04					
Dev3	PL-01	PL-02					
Dev3	PL-03	PL-04					
Dev1	PL-01	PL-02					
Dev1	PL-03	PL-04					
Dev4	PL-01	PL-02					

インポート済みのデータも表示:

このチェックボックスを選択した場合、前の実行時に序されたレコードも表示されます。

プレビュー:

画像領域でクリックすると、プレビューウィンドウが開きます。

例

Excel®高速インポートご従って、この章のソースファイルは次のようにインポートされ、更新されました。

	A	B	C	D	E	F
1	Col1	Col2	Col3	Col4	Col5	Col6
2	Dev1	PL-04	13562	KW44	DEF	X
3	Dev1	PL-05	14523	KW44	EFG	X
4	Dev1	PL-06	17492	KW44	FGH	X
5	Dev1	PL-07	18120	KW44	GHI	
6	Dev1	PL-08	12466	KW44	HIJ	
7	Dev1	PL-09	20192	KW44	IJK	
8	Dev2	PL-01	12685	KW44	JKL	X
9	Dev2	PL-02	19590	KW44	KLM	X
10	Dev2	PL-03	14666	KW45	LMN	X
11	Dev3	PL-01	15372	KW45	MNO	
12	Dev3	PL-02	18695	KW45	OPQ	
13	Dev3	PL-03	18318	KW45	PQR	
14	Dev1	PL-01	20081	KW44	ABC	X
15	Dev1	PL-02	19528	KW44	BCD	X
16	Dev1	PL-03	11180	KW44	CDE	X
17	Dev4	PL-01	11311	KW45	QRS	
18	Dev4	PL-02	13573	KW45	RST	

コンバーター

コンバーターによってソースファイルのプレフィルター処理ができます。コンバーターはインポートウィザード（「[インポート](#) [ウィザードの設定](#)」を参照）またはコマンドライン（「[コンバーターの呼び出しパラメータ](#)」の章を参照）を使用して実行できます。

QLSコンバーター

QLSコンバーターを使用すると、指定した行数が1行になります。

インポートダイアログ（「[手動インポート](#)」

」の章を参照）でコンバーター「QLSConverter.exe」を選択すると、インポートファイルが自動的にプレフィルター処理されます（QLSインポートの例を参照）。

「QLSConverter.exe」ファイルのデフォルト設定は次のとおりです。

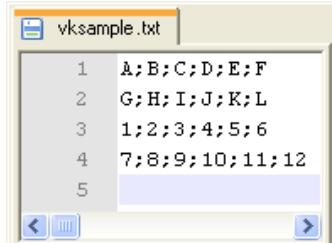
区切り文字: セミコロン
連結する行の数: 2

設定できるパラメータについては、「[コンバーターの呼び出しパラメータ](#)」の章を参照してください。

QLSインポートの例

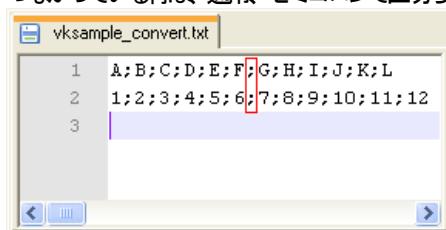
顧客がソースファイルの2行のデータを1行にしてプログラムにインポートする場合を想定しています。

ソースファイル:
このファイルはインポートの前に変換されます。



```
vkssample.txt
1 A;B;C;D;E;F
2 G;H;I;J;K;L
3 1;2;3;4;5;6
4 7;8;9;10;11;12
5
```

出力ファイル:
このファイルがインポートされます。
つながっている行は、通常、セミコロンで区切られます（図を参照）。



```
vkssample_convert.txt
1 A;B;C;D;E;F;G;H;I;J;K;L
2 1;2;3;4;5;6;7;8;9;10;11;12
3
```

TNVコンバーター

TNVコンバーターを使用する場合、1行にある2つの列ペアを2列に分け、それぞれを新しい区切り文字で区切れます。

インポートダイアログ（「[手動インポート](#)」の章を参照）でコンバーター「TNVConverter.exe」を選択すると、インポートファイルが自動的にプレフィルター処理されます（TNVインポートの例を参照）。

「TNVConverter.exe」ファイルのデフォルト設定は次のとおりです。

ソースファイルの区切り文字:	セミコロン
出力ファイルの区切り文字:	コロン
連結される列ペア:	列Aと列1、列Bと列4

設定できるパラメータについては、「[コンバーターの呼び出しパラメータ](#)」の章を参照してください。

出力ファイルの区切り文字はパラメータ「pair1」から自動的に抽出されます。

出力ファイルの区切り文字にパイプ記号「|」を使用すると、区切り文字のない列が連結されます。パイプ記号は「区切り文字なし」を示します。

 列は数字でのみ表示されます。ソースファイルの第1列よりです。

 空の列や内容が空の列ペアはインポートされません。

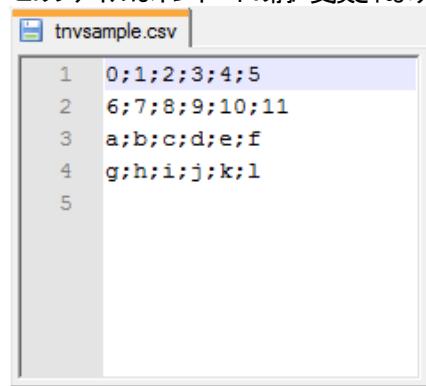
TNVインポートの例 :

顧客があるソースファイルの各行から2つの列を結合し、新しい行としてプログラムにインポートする場合を想定しています。

他のパラメーターは選択されていません。

ソースファイル:

このファイルはインポートの前に変換されます。



tnvsample.csv

```
1 0;1;2;3;4;5
2 6;7;8;9;10;11
3 a;b;c;d;e;f
4 g;h;i;j;k;l
5
```

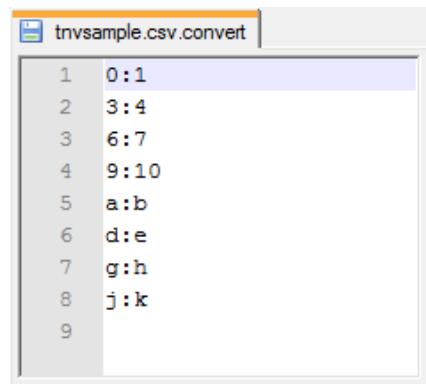
出力ファイル:

このファイルはTNVコンバーターにより変換されており、その後にインポートできます。

[図を参照](#)

インポートはデフォルトパラメータを使用して実行されます。

- ソースファイルの区切り文字: セミコロン
- 出力ファイルの区切り文字: コロン
- 連結される列ペア: 列1と列2、列3と列4



tnvsample.csv.convert

```
1 0:1
2 3:4
3 6:7
4 9:10
5 a:b
6 d:e
7 g:h
8 j:k
9
```

TNVインポートの例 :

インポートは次のパラメータを使用して実行されます。 -separator:，“ -pair1:"2|5" –pair2:"3|4"

- ソースファイルの区切り文字 : コンマ
- 出力ファイルの区切り文字 : 区切り文字なし
- 連結される列ペア : 列2と列5、列3と列4

ソースファイル:

このファイルはインポートの前に変換されます。

tnvsample.csv

1	0,1,2,3,4,5
2	6,7,8,9,10,11
3	a,b,c,d,e,f
4	g,h,i,j,k,l
5	

出力ファイル:

このファイルはTNVコンバーターにより変換されており、その後にインポートできます。

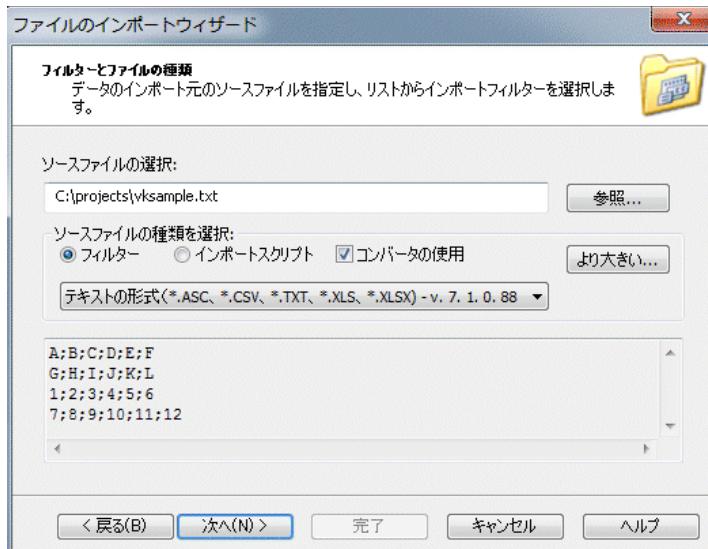
(図を参照)

tnvsample.csv.convert

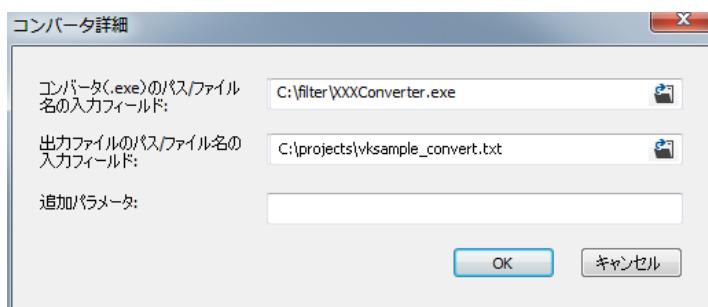
1	25
2	34
3	811
4	910
5	cf
6	de
7	il
8	jk
9	

インポートウィザードの設定

- 出力ファイル「vksample.txt」を選択します。
- 「コンバータの使用」にチェックマークを付け、「詳細...」をクリックします。



コンバーターの詳細を設定するためのダイアログが開きます。



- それぞれの選択ボタンをクリックして、コンバーターファイル「XXXConverter.exe」と出力ファイルを選択します。
- 出力ファイルのフィールドを空のままにした場合は入力ファイルのパスが使用され、入力ファイル名の後に拡張子「convert」が付きます。
- 「追加パラメータ」フィールドで区切り文字と列ペアを指定できます。
- 「OK」を選択してインポートウィザードに戻ります。

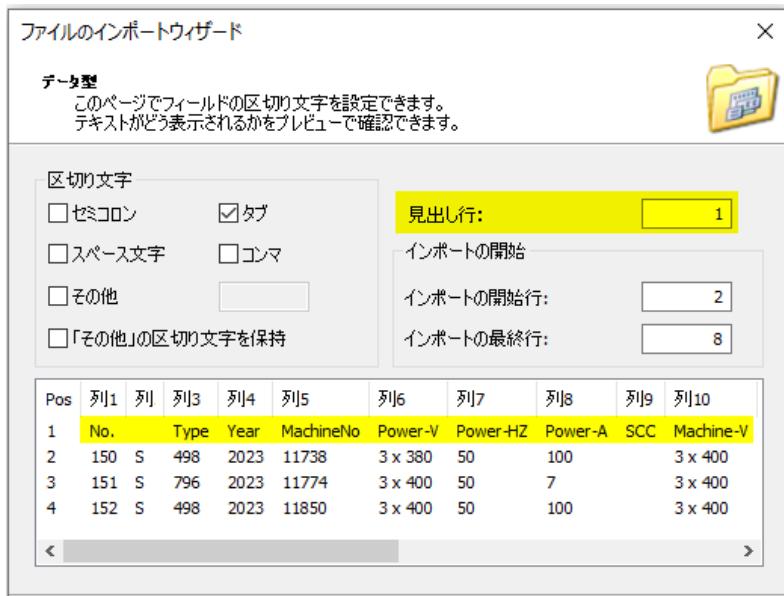
インポートプロセスの残りの部分は出力ファイルで実行されます。

- i** コンバーターファイル「XXXConverter.exe」に他のパラメータを設定して実行するには、コマンドラインを使用して操作する必要があります（「[コンバーターの呼び出しパラメータ](#)」の章を参照）。

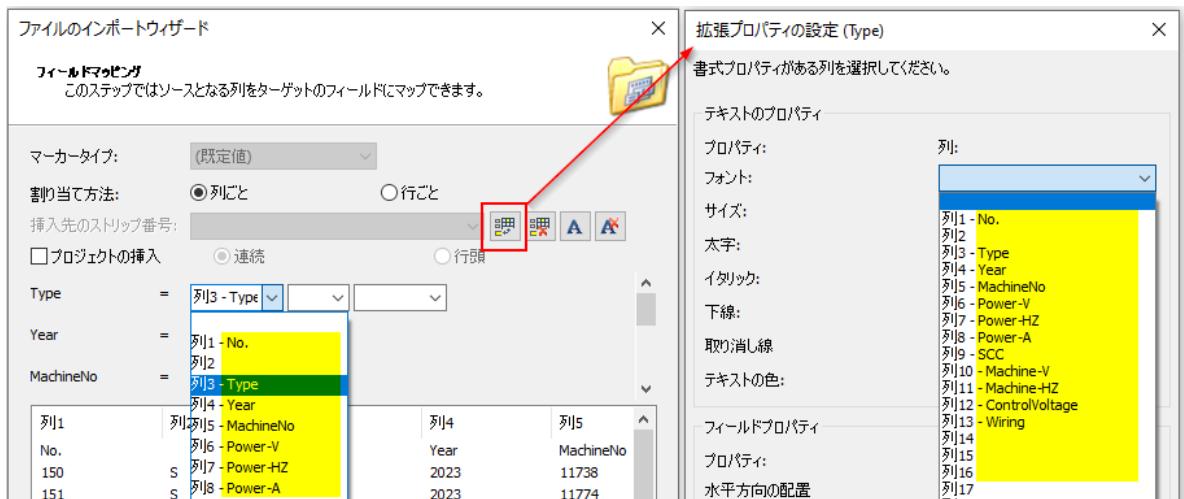
インポートファイルの見出しを表示する

多数の列があるインポートファイルで列を割り当てる場合、列の見出しを表示するとわかりやすいです。

それには、「見出し行」フィールドで、インポートファイルの見出し行を指定します。任意の行を選択できます。「[ステップ4/5: ファイル形式とフィールド区切り記号の選択](#)」を参照してください。



インポート列の選択時に、その見出しが接尾辞として表示されます。



印刷

はじめに

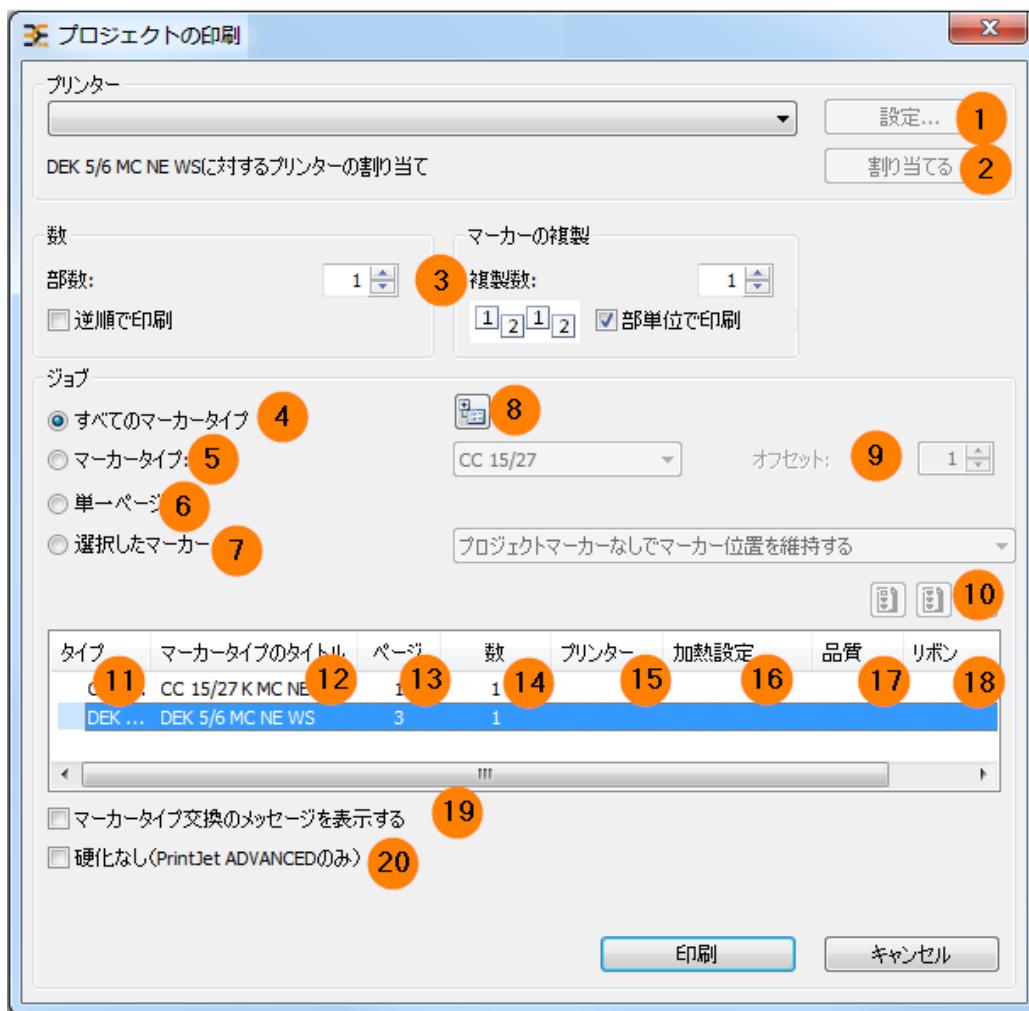
この章ではプリンターのセットアップと校正、およびキャプションを付けるマルチカード用紙、ラベルなどへの割り当てと、2種類の印刷方法について説明します。

1. 標準的な印刷ダイアログを使用する（「[印刷メニューの呼び出し](#)」セクションを参照）。
2. 高速印刷モードを使用する（「[高速印刷](#) セクションを参照」）。

印刷メニューの呼び出し

- メニュー項目の「ファイル」>「印刷..」を選択します。

印刷ダイアログが開きます。ここで印刷を実行したり、すべてのプリンター設定を定義することができます。



1 設定

印刷設定ダイアログがある場合は、それが表示されます。

PrintJet PROは「オプション」メニューからのみ、設定できます（「[PrintJet PRO](#)」の章を参照）。プリンターを選択した後でボタンがアクティブにならない場合は、「オプション」ダイアログを使用してアクティビティにします（「「オプション」ダイアログ」の章の「環境」セクションと「[表示](#)」セクションを参照）。

2 割り当てる

選択したマーカータイプにプリンターを割り当てます。選択した割り当ては保存されます。変更するには「[マーカータイプへのプリンターの割り当て](#)」を参照してください。

3 部数

印刷ジョブを実行する回数。

印刷はマーカー（複製）に応じて分割することもできます（「[印刷ジョブの設定](#)」の章を参照）。「逆順で印刷」にチェックを入れた場合は、プログラムが開いている限り、その設定が適用されます。逆順印刷は連續素材でのみ利用できます。

- 4 **すべてのマーカータイプ**
リストのすべてのマーカータイプが印刷されます。
- 5 **マーカータイプ**
選択したマーカータイプのみ印刷されます。
- 6 **単一ページ**
様々なマーカータイプの特定のページを印刷するためを選択します。
- 7 **選択したマーカー**
プロジェクトマーカーも印刷するかどうか、マーカーの位置を保持するか連結するかを選択します。
- 8 **サブプロジェクトを印刷する**
サブプロジェクトのマーカーを印刷します。次の章を参照してください。[「サブプロジェクトを印刷する」](#)
- 9 **オフセット**
印刷に1つのマーカータイプのみを選択すると、印刷ダイアログの「オフセット」フィールドがアクティブになります。
オフセットにより、印刷の開始点が最初のマーカーとは別の場所に移動します。
例えば オフセットを「8」に設定すると、8番目のマーカーから印刷が始まり、最初の7つのマーカーは空白のままでになります。デフォルト設定は「1」です。
- 10 **ユーザー定義のページ選択**
「単一ページ」(7を参照)を選択した場合、3つのボタンで次の選択を行うことができます。
 - ユーザーが定義したページ (ページの手動選択)
 - すべてのページを選択
 - すべて選択解除 (どのページも選択しない)
- 11 **タイプ**
現在のプロジェクトの印刷可能なすべてのマーカータイプ。
- 12 **マーカータイプのタイトル/バリアント名**
マーカータイプのタイトルです。列ヘッダーをクリックすると、バリアント名に切り替わります（[「製品名の変更」](#)の章を参照）
- 13 **ページ**
マーカータイプの印刷可能なページ数。
- 14 **数**
リストのマーカータイプを印刷する回数。
このフィールドをクリックして、部数を入力します。
「数」は「倍数」で計算されます。
- 15 **プリンター**
マーカータイプに割り当てられたプリンターです。変更するには [「マーカータイプへのプリンタの一割り当て」](#)を参照してください。

- 16 **加熱設定**
そのマーカータイプに必要な加熱設定です（選択したプリンターにより異なります）。
- 17 **品質**
PrintJet ADVANCEDに設定した印刷品質が表示されます。
- 18 **リボン**
リボンが使用可能な場合は、プリンターのリボンに関する情報が表示されます。
- 19 **マーカータイプ交換のメッセージを表示する**
印刷プロセスに複数のマーカータイプがある場合、あるマーカータイプから別のマーカータイプに変更する前にダイアログが表示され、これを使用して例えばプリンターのマガジンやプロッターの位置決めフレームを交換できます。
この選択フィールドの値が保存され、印刷ダイアログを次呼び出したときにまた利用されます。高速印刷（「高速印刷」の章を参照）の場合、このフィールドは考慮されません。
- 20 **硬化なし（PrintJet ADVANCEDのみ）**
PrintJet
ADVANCEDでの印刷では加熱のスイッチが入りません。インクは硬化しないので、例えば冷水によって除去することができます。

マーカータイプへのプリンターの割り当て

デフォルトでは、プリンターはどのマーカータイプにも割り当てられていません。

1つまたはすべてのマーカータイプの印刷時にどのプリンターも割り当てられていない場合、表示されるメッセージをクリックで確認することにより、通常使うプリンターで印刷が実行されます。

- メニュー項目の「ファイル」>「印刷..」を選択して、印刷ダイアログを開きます。
- 選択フィールドで、プリンターを割り当てるマーカータイプを選択します。
- 「プリンター」領域でプリンターを選択し、「割り当てる」ボタンをクリックします。
- 次の選択ダイアログで、選択したプリンターがプリンターであるかプロッターであるかを指定します。
- 次のダイアログで製品のすべてのバリエントに出力デバイスを割り当てるかどうかを指定できます。選択したバリエントにのみ割り当てる場合は、「いいえ」を選択します。

新しい印刷ジョブを実行するたびに、選択したプリンターがこのマーカータイプに自動的に割り当てられます。

1台のプリンターではなく、プリンターグループに割り当てもできます。[\[PJC プリンターグループ\]](#)、[\[PJA プリンターグループ\]](#) の章を参照してください。

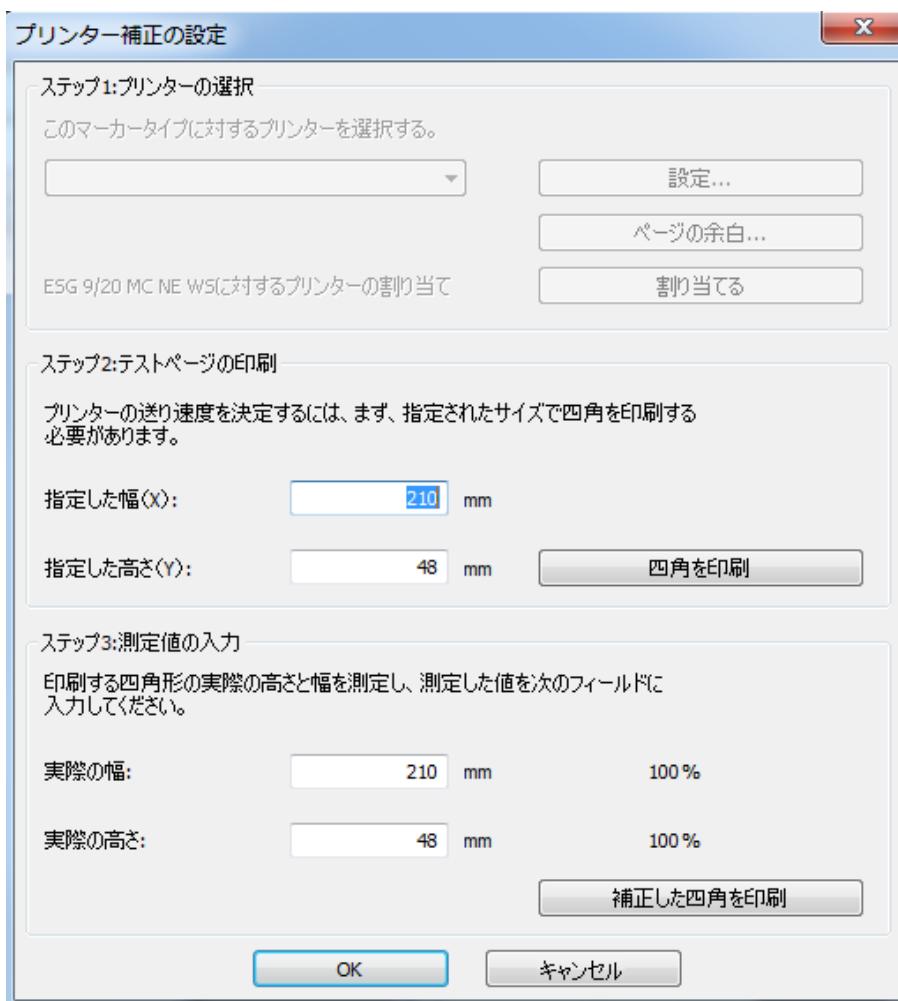
- i** マーカータイプに別のプリンターを割り当てるには、インストールされているプリンターから該当するプリンターを選択するか、割り当てダイアログを開きます（「オプション」ダイアログの章の「[プロッター](#)」の「一般」セクションを参照）。
- i** 割り当ては、プリンターまたはプロッターで出力できるマーカータイプでのみ必要です。連續ラベルはプリンターでのみ出力できます。
- i** リストにプリンターが表示されない場合、使用可能な出力デバイスのリストを確認してください。「オプション」ダイアログの章の「[割り当てる](#)」および

プリンター補正

プリンターは製造元要件や環境条件により、水平垂直方向の標準校正と異なる場合があります。

- プリンター補正を行うには、メニューから「その他」>「プリンターの設定」>「プリンター補正の適用...」を選択します。

次のウィンドウが開きます。



サイズを指定する必要がある四角形のあるテストページを印刷します。

- フィールド「**指定した幅 (X)**」および「**指定した高さ (Y)**」に四角形のサイズを入力し、「**四角を印刷**」ボタンをクリックします。
- 印刷された四角の幅と高さを測定し、その値が指定した値と異なっている場合は、それをフィールド「**実際の幅 (X)**」や「**実際の高さ (Y)**」に入力します。
- 「**OK**」をクリックしてウィンドウを閉じます。

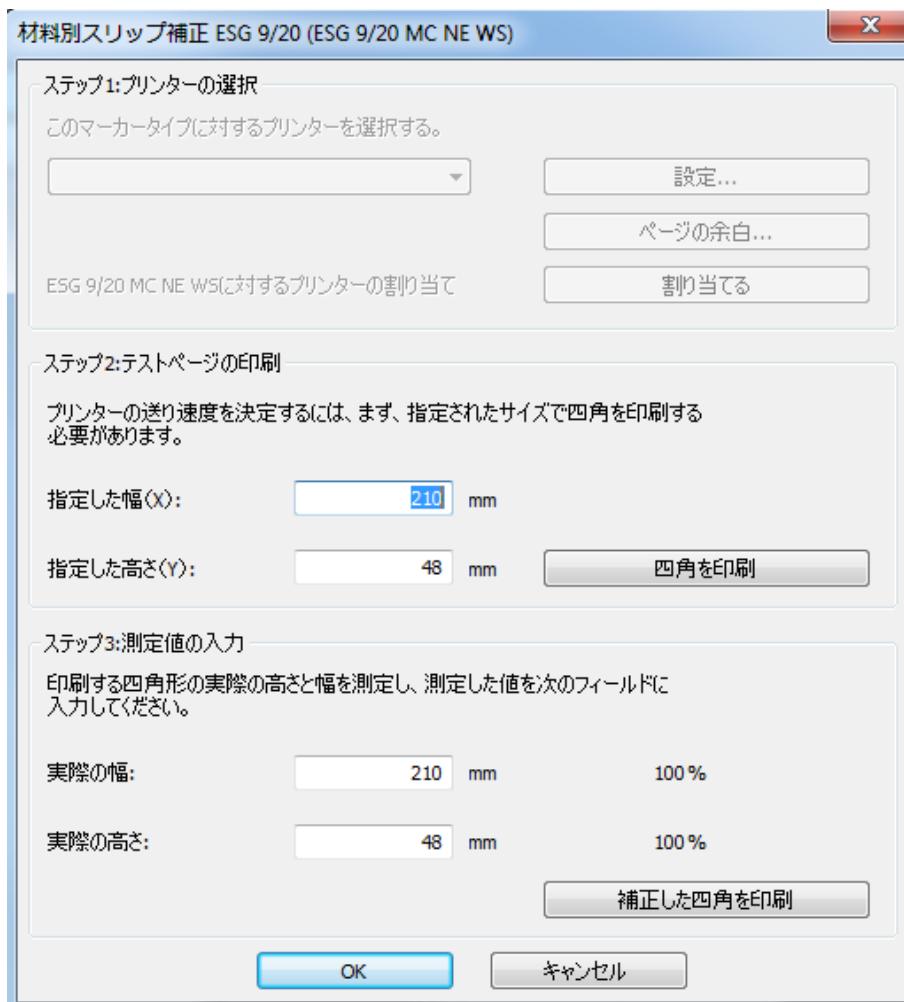
i プロッターではプリンター補正できません。
プロッターとして指定されたすべてのプリンター（「[プロッター](#)」を参照）は、プリンターの選択フィールドに表示されません。

i プリンター補正はプリンターごとに一度だけ実行する必要があります。マーカーには保存しません。

i この機能は硬いを行わない PrintJet ADVANCED で、かつ、印刷品質「高速」/「標準(300 dpi)」で実行されます。
さらに PrintJet CONNECT では自動調整がすぐに行われります。

材料別スリップの補正

マルチカードの余白と送りを設定するには、メニュー項目の「その他」>「印刷設定」>「材料別スリップの補正...」を選択します。



サイズを指定する必要がある四角形のあるテストページを印刷します。

- フィールド「**指定した幅 (X)**」および「**指定した高さ (Y)**」に四角形のサイズを入力し、「**四角を印刷**」ボタンをクリックします。
- 印刷された四角の幅と高さを測定し、その値が指定した値と異なっている場合は、それをフィールド「**実際の幅 (X)**」や「**実際の高さ (Y)**」に入力します。
- 「**OK**」をクリックしてウィンドウを閉じます。



この機能は現在 PrintJet

ADVANCED/CONNECTで、かつ、印刷品質「高速」 / 「標準(300 dpi)」で実行されます。
さらに、PrintJet CONNECTでは自動調整がすぐコボになります。

マーカータイプにプリンターを設定する

印刷媒体（マルチカード用紙、ラベルなど）への印刷位置が誤っている場合は、それぞれの媒体に合わせてプリンターを調整することができます。

この調整はプリンター側で印刷媒体を選択する（「[印刷媒体にプリンターを設定する](#)」

」のセクションを参照）か、または、プログラム側で余白や送りなどを設定する（「[プリンタオフセットの調整](#)」

」セクションを参照）ことにより、行います。

次のプリンターでは、連続素材で印刷位置を変更できます。THM MMP、THM Plus M。「[印刷位置の設定](#)」の章を参照してください。

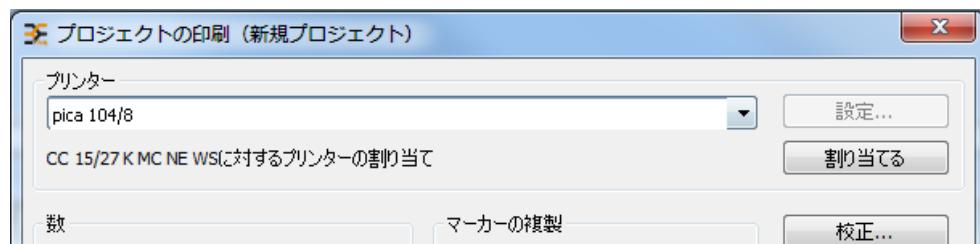
印刷媒体にプリンターを設定する

ラベルを印刷する際には、プリンターを正しい印刷媒体に設定する必要があります。

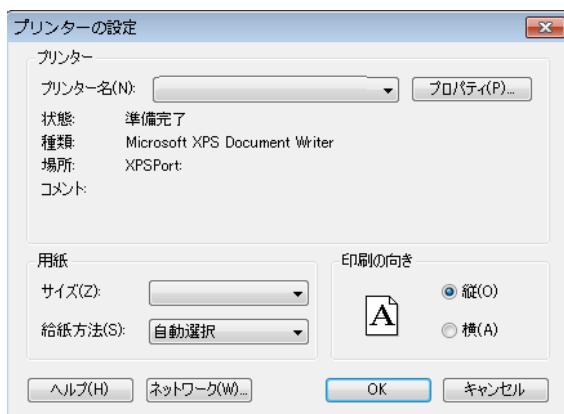
- メニュー項目の「ファイル」>「印刷..」を選択して、印刷ダイアログを開きます。

印刷ダイアログが開きます。

- 設定するプリンターを選択し、「設定..」ボタンをクリックします。



「プリンターの設定」ウィンドウが開きます。



- 「用紙」ペインで、適切な印刷媒体を選択し、「OK」をクリックします。

適切な用紙を選択できない場合は、プリンターの「プロパティ...」ボタンをクリックして、該当する設定を行います。

プログラムを再起動した後もこの設定を使用できるようにするには、プリンターのプロパティを直接、プリンタードライバーに設定します（詳細については、プリンターのマニュアル／クイックスタートガイドを参照してください）。

- Windowsの「スタート」ボタンをクリックし、「コントロールパネル」>「プリンター」を選択します。
- 該当するプリンターを右マウスクリックし、コンテキストメニューから「プロパティ」を選択します。
- 適切な用紙を設定します。

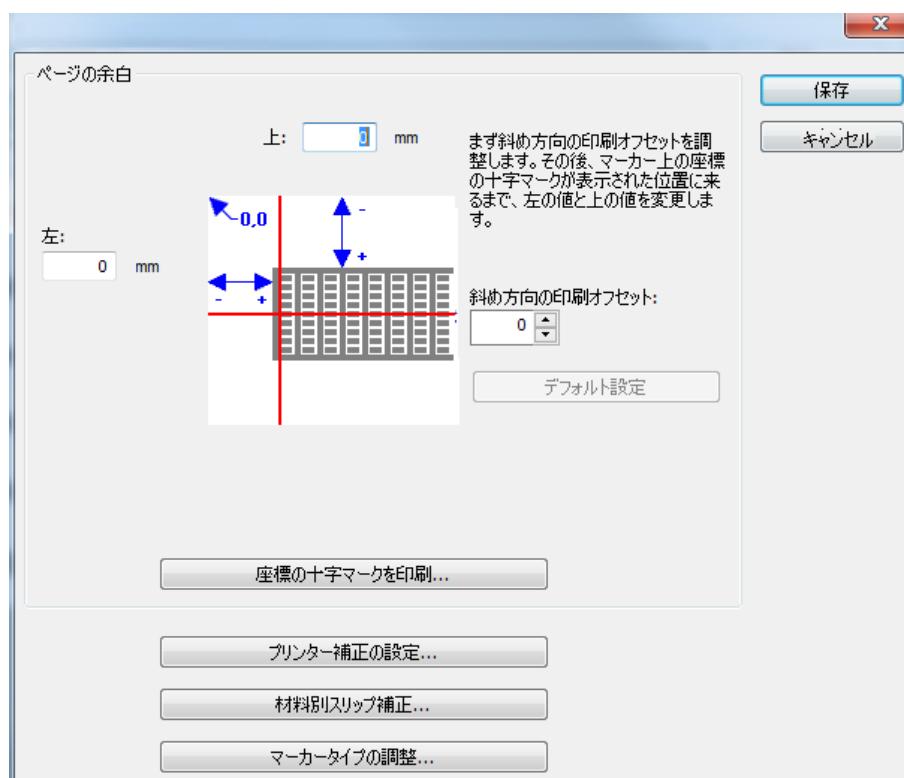
プリンタオフセットの調整

割り当てたプリンターの校正を行うには、メニュー項目「ツール」>「プリンターの管理」>「校正...」を選択してください。



プリンターの選択で「PJAファイル出力」が選択されている場合、校正はできません。この場合は、それを示すメッセージが表示されます。

次のウィンドウが表示されます。
(表示される画像は、マーカータイプにより異なります)

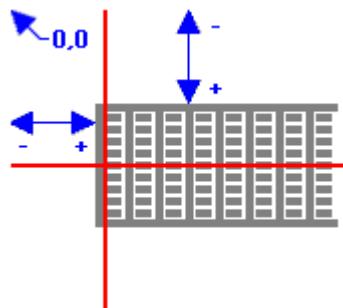


左余白と上余白の設定

マーカーの設定

マルチカード用紙の左余白と上余白を設定するには、座標の十字マークをマルチカード用紙に印刷し、その位置を測定する必要があります。

座標の十字マークは次の場所にある必要があります。



この機能は現在 PrintJet

ADVANCED/CONNECT で、かつ、印刷品質「高速」 / 「標準(300 dpi)」で実行されます。

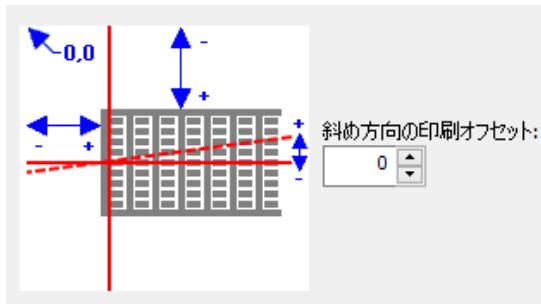
さらに、PrintJet CONNECT では自動調整がすぐにオフになります。

- テスト用の座標の十字マークを印刷するには、「[座標の十字マークを印刷...](#)」をクリックします。

回転角度の設定

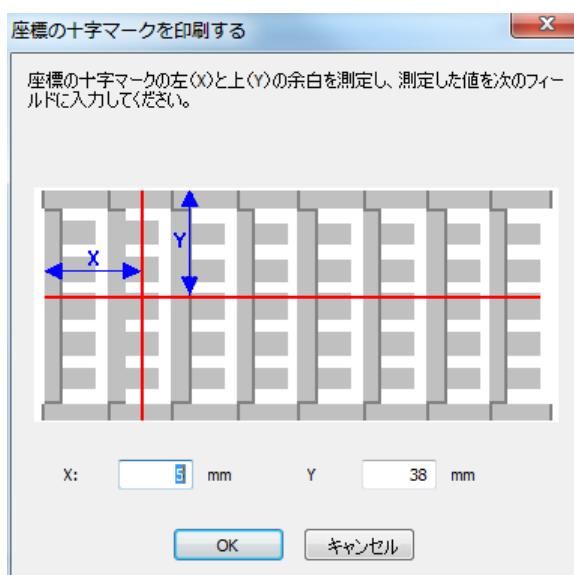
素材が斜めに（直角でない）装置に送られる場合、印刷画像の回転角度を斜め方向の印刷オフセットにより調整できます。

次のプリンターが対応しています。PrintJet CONNECT, PrintJet MINI



- i** まず斜め方向の印刷オフセットを調整します。その後、マーカー上の座標の十字マークが表示された位置に来るまで、左の値と上の値を変更します。

印刷と同時に「座標の十字マークを印刷する」ウィンドウが開きます。



- 図に従って、印刷された座標の十字マークの左余白と上余白を測定し、その値をそれぞれのフィールドに入力して「OK」を押すと、ウィンドウが閉じます。

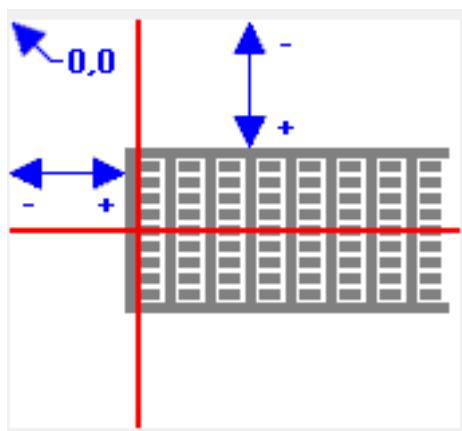
必要に応じてこの手順をもう一度実行し、座標の十字マークの位置を確認します。

ラベルの設定

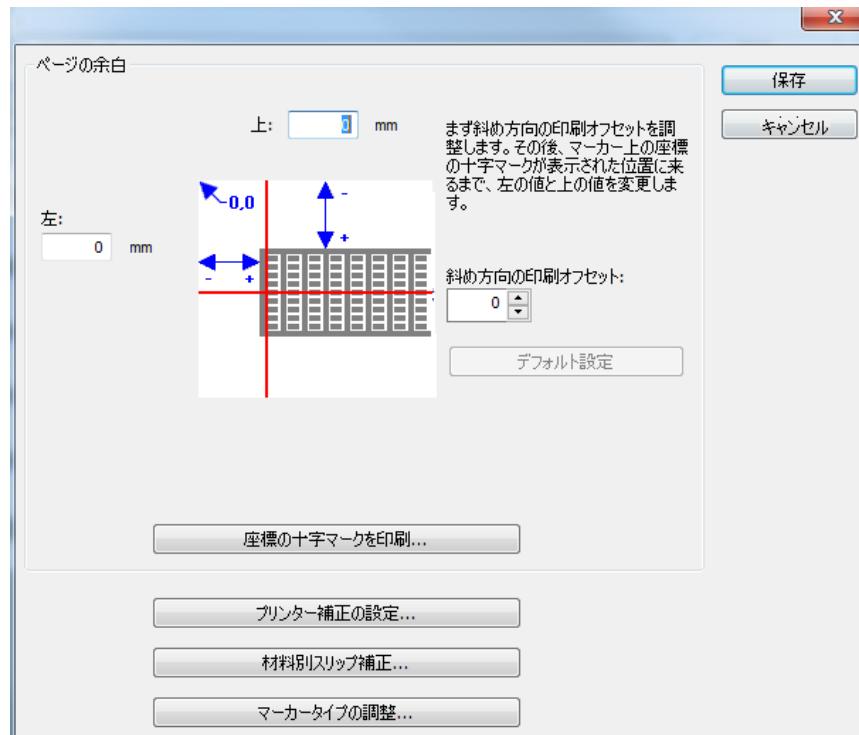
ラベルの左余白と上余白を設定するには、ラベルを印刷し（ラベルサイズの塗りつぶした四角形が便利です）、位置を測定します。

プリンターで適切な用紙設定されていることが重要です（[「印刷媒体にプリンターを設定する」](#)を参照）。

ラベルは次の場所にある必要があります。



- 図ご従って、印刷されたラベルの左余白と上余白を測定し、その値をそれぞれのフィールドに入力して「保存」を押すと、ウィンドウが閉じます。



必要に応じてこの手順をもう一度実行し、ラベルの位置を確認します。

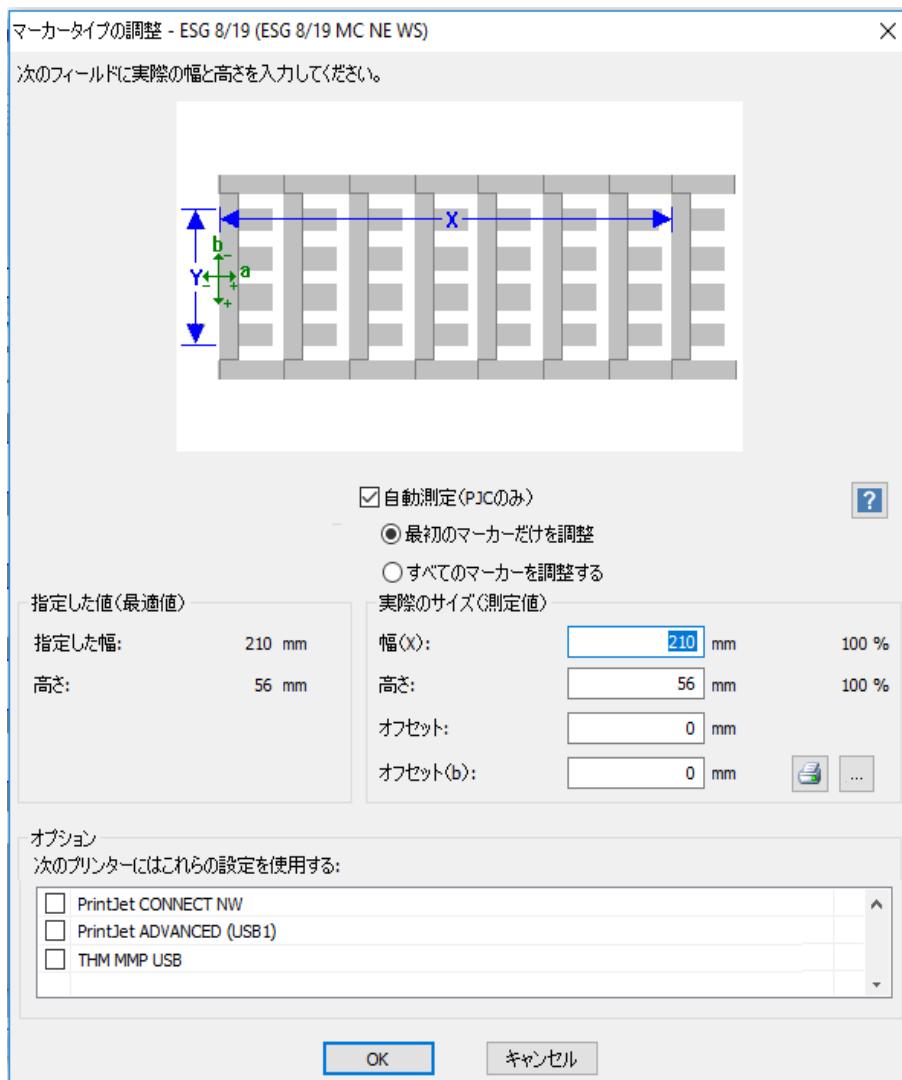
i 余白の設定はプリンターごとに1度だけ実行する必要があります。プリンターのオフセットはマーカーに依存しません。

マーカータイプのサイズの設定

一部のマーカータイプでは、例えば周囲温度の条件により、通常のサイズとは異なる場合があります。

- 「マーカータイプの調整..」ボタンをクリックするか、メニューから「ファイル」>「マーカータイプの調整..」を選択します。

次のウィンドウが開きます。



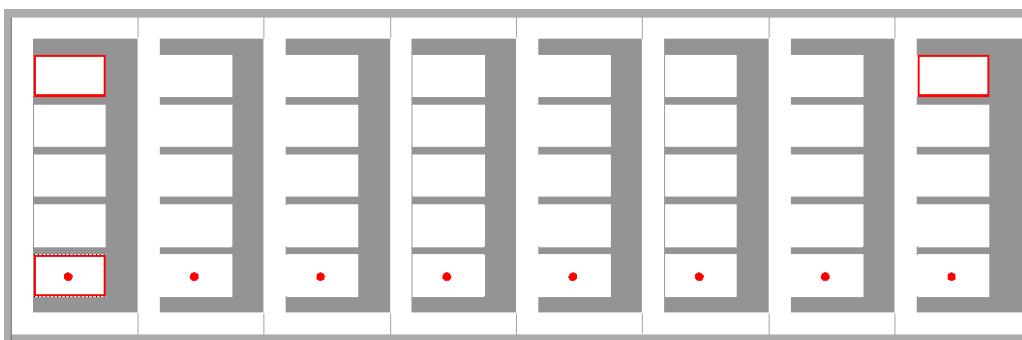
- 「オプション」ペインで、プロパティを保存するプリンターを選択します。
- 図に示すように、実際のマーカータイプの幅と高さを測定し、その値を「幅(X)」と「高さ(Y)」フィールドに入力します。
- 「OK」ボタンをクリックしてウィンドウを閉じます。

調整アシスタント

調整アシスタントを使用してテスト印刷を作成することができます。
調整アシスタントを使用すると、マーカーサイズの四角形とその中央の点が印刷されます。

- 「オプション」ペインで、調整アシスタントを印刷するプリンターを選択します。
 -  ボタンをクリックします。
-  PrintJet ADVANCED/CONNECTでテストページを印刷するには、次のボタンも使用できます。
- 調整アシスタントがプリンターに出力されます。

例



- i** プロッターでは調整アシスタントを使用できません。
- i** この機能は複数の PrintJet ADVANCED/CONNECT で、かつ、印刷品質「高速」/「標準(300 dpi)」で実行されます。
- i** 「自動調整(PJCのみ)」のラジオボタンが選択されない場合にのみ、PrintJet CONNECT で調整アシスタントを印刷することができます。

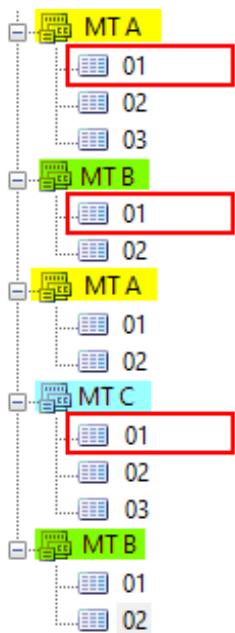
自動測定 (PJCのみ)

PrintJet CONNECTはマーカーを自動調整します。

最初のマーカーだけを調整

一つの印刷ジョブに含まれた、新しいマーカータイプの最初のページだけをそれぞれ調整します。

例



すべてのマーカーを調整する:

印刷ジョブ内のすべてのページをPJCで調整します。

印刷位置の設定

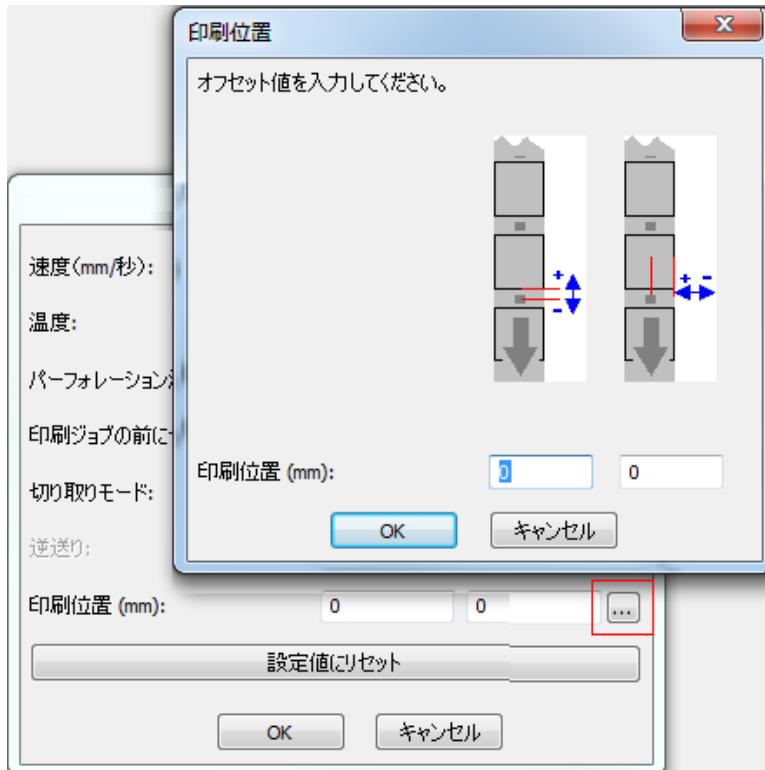
次のプリンターでは、連続素材で印刷位置を変更できます。THM MMP, THM MULTIMARK, THM MULTIMARK PLUS, THM Plus M

- 連続素材にプリンターを割り当てます。「[マーカータイプへのプリンターの割り当て](#)」を参照してください。
- 情報ページで変更します。「[情報ページ](#)」の章を参照してください。



- 「編集...」ボタンを選択します。

印刷位置オフセット値で調整できます。



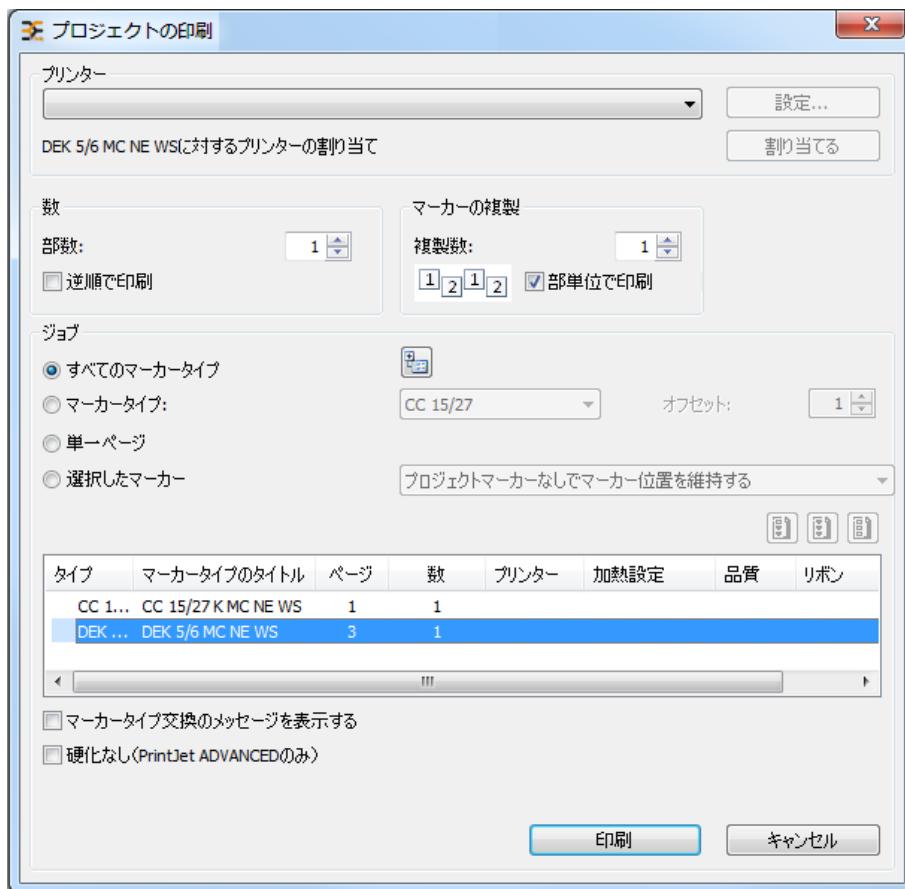
i マーカータイプとプリンターの組み合わせに対するオフセット値が保存されます。

i 印刷位置の変更後は、次の印刷実行の際 5 cm 以上の校正送りが自動的に行われます。

印刷ジョブの設定

- メニューバーからメニュー項目「ファイル」>「印刷..」を選択します。

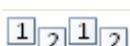
印刷ジョブを選択できる印刷ウィンドウが開きます。



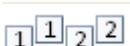
1つまたはすべてのマーカータイプの印刷時にどのプリンターも割り当てられていない場合、表示されるメッセージをクリックで確認することにより、通常使うプリンターで印刷が実行されます。

印刷時に、各マーカーを任意の回数、複数できます。

次のように設定を行います。



印刷は、マーカーがマーカータイプに配置された順序で実行されます。



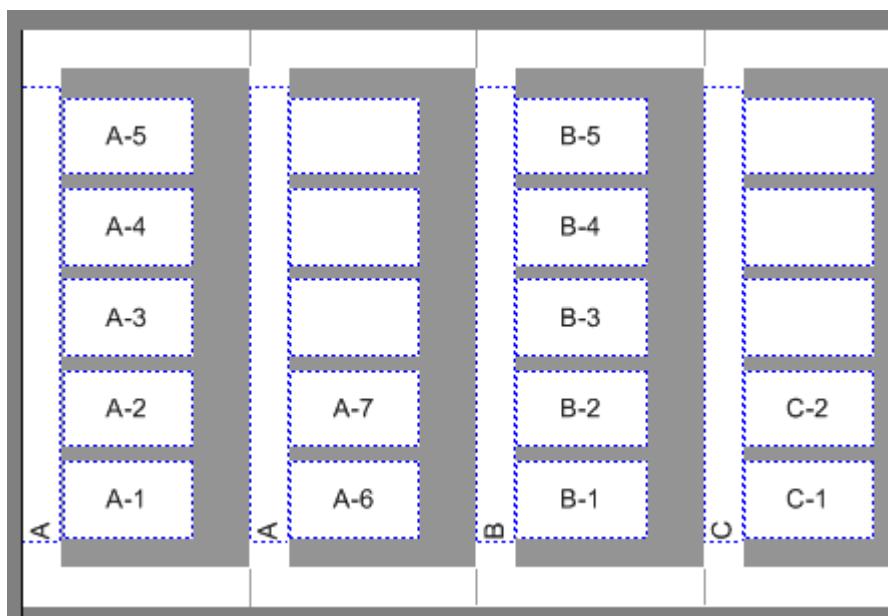
印刷は設定された複数で、個々のマーカーごとに実行されます。



既存のプロジェクトは複製時に保持されます。

例

入力されているマーカータイプ：



2つの複製を部単位で印刷:



A-5	B-5	A-5	B-5
A-4	B-4	A-4	B-4
A-3	B-3	A-3	B-3
A-2	A-7	B-2	C-2
A A-1	A A-6	B B-1	C C-1

2つの複製をマーク単位で印刷:



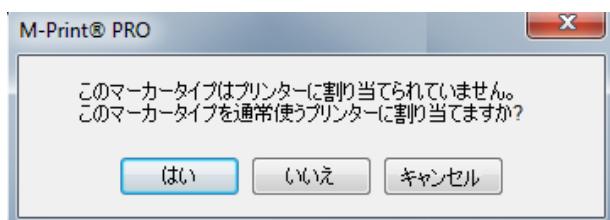
A-3	A-5	A-7	B-3	B-5	C-2
A-2	A-5	A-7	B-2	B-5	C-2
A-2	A-4	A-7	B-2	B-4	C-2
A-1	A-4	A-6	B-1	B-4	C-1
A A-1	A A-3	A A-6	B B-1	B B-3	C C-1

高速印刷

- アクティブなページのみを印刷するには、ツールバーの次のアイコンをクリックします。



印刷するマーカータイプにどのプリンターも割り当てられていない場合は、確認メッセージが表示されます。

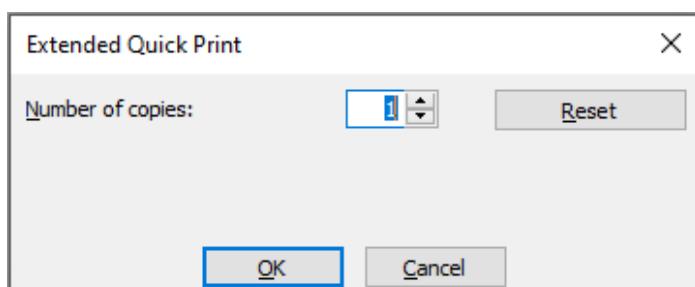


「はい」をクリックすると、ページは通常使うプリンターで出力されます。 「いいえ」をクリックすると、プリンターを割り当てるための印刷メニューが開きます（「マーカータイプへのプリンターの割り当て」セクションを参照）。

拡張クイック印刷

オプションで拡張クイック印刷をオンにできます（「「オプション」ダイアログ」の章の「環境」および「一般」セクションを参照）。

機能を有効にすると、クイック印刷でコピー部数を選択するための追加ダイアログボックスが表示されます。



直接印刷

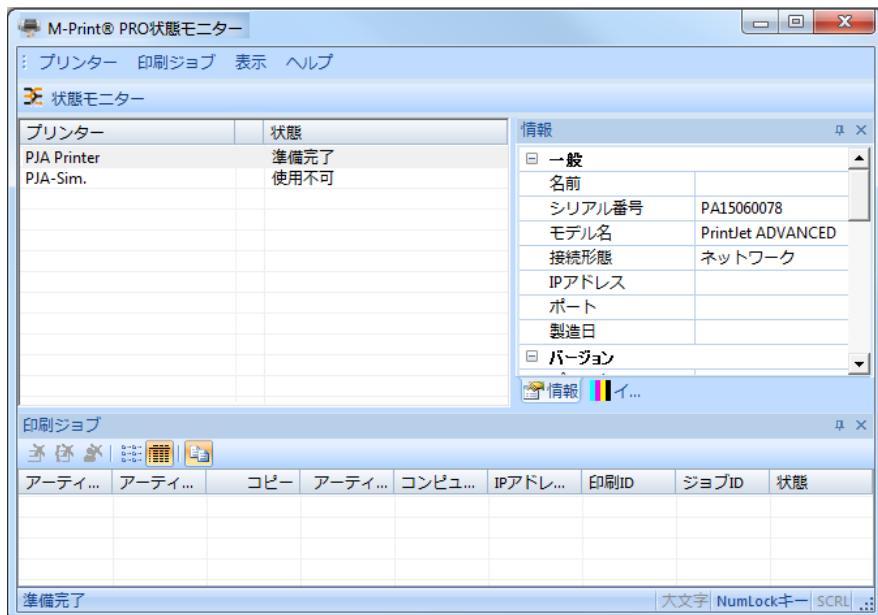
プログラムでサポートされているすべてのファイル形式は、コマンドラインを使用して直接、印刷できます。

構文： "c:\program\MPrintPRO.exe" -p "myprint.rde"

状態モニター

状態モニターは印刷の際に、接続されたプリンターのそれぞれの状態に関するレポートを提供します。

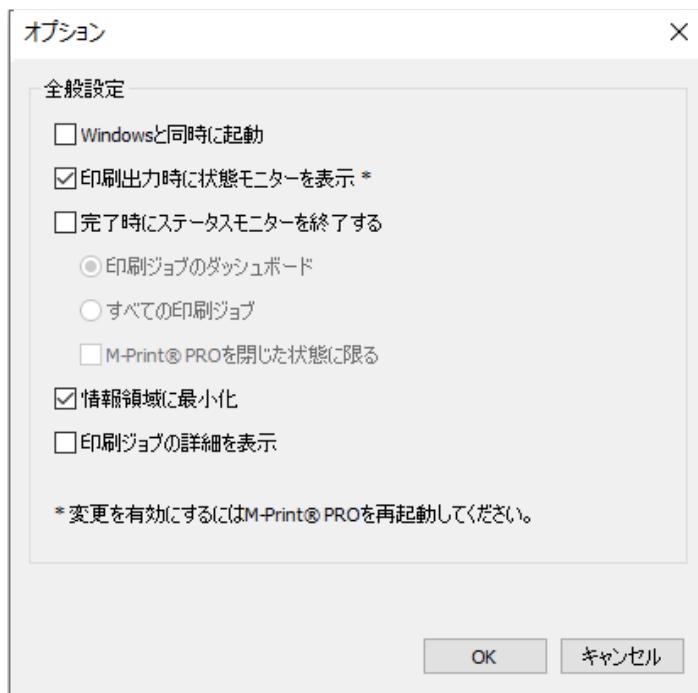
次のプリンターが対応しています。プリンターエクスプローラー内のすべてのプリンター



接続されているプリンターがリストに表示されていない場合は、プリンターの設定を確認してください（[「プリンターエクスプローラ」を参照](#)）。

状態モニターの設定

メニュー項目の「プリンター」>「オプション...」では、様々な設定を行うことができますが、特に状態モニターの次の設定を行なうことができます。



Windowsと同時に起動

状態モニターはWindowsの起動時に起動されます。

印刷出力時に状態モニターを表示

新規印刷ジョブの実行時に、状態モニターウィンドウが最前面に表示されます。

完了時にステータスモニターを終了する

ご自身で設定した、またはお使いの印刷ジョブがなくなったら、状態モニターを終了します。

情報領域に最小化

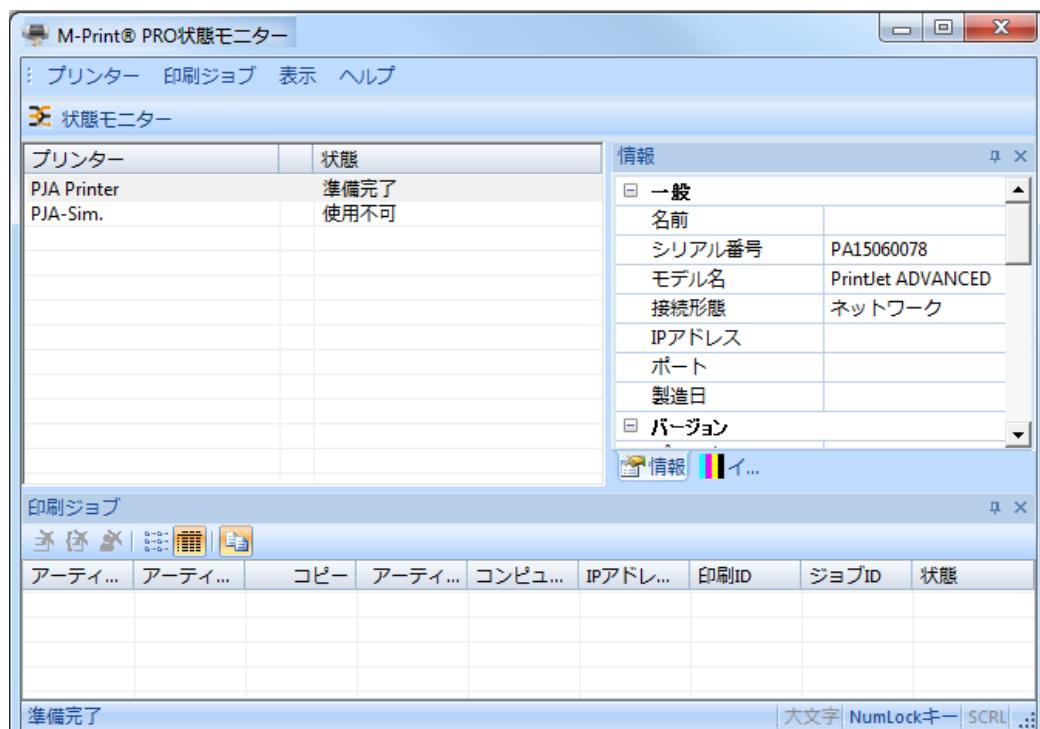
ウィンドウを縮小表示する際に、状態モニターがタスクバーではなく、情報領域に表示されます。

印刷ジョブの詳細を表示

「印刷ジョブ」タブ（「[状態モニターの印刷ジョブ](#)」を参照）に、より多くの情報が表示されます。

状態モニターの印刷ジョブ

「印刷ジョブ」タブで印刷ジョブのリストを確認できます。



既存の印刷ジョブを削除するには、状態モニターの「印刷ジョブ」メニューのオプションを選択します。

表示する情報の列数を変更する方法については、「[状態モニターの設定](#)」セクションを参照してください。

印刷情報を開く

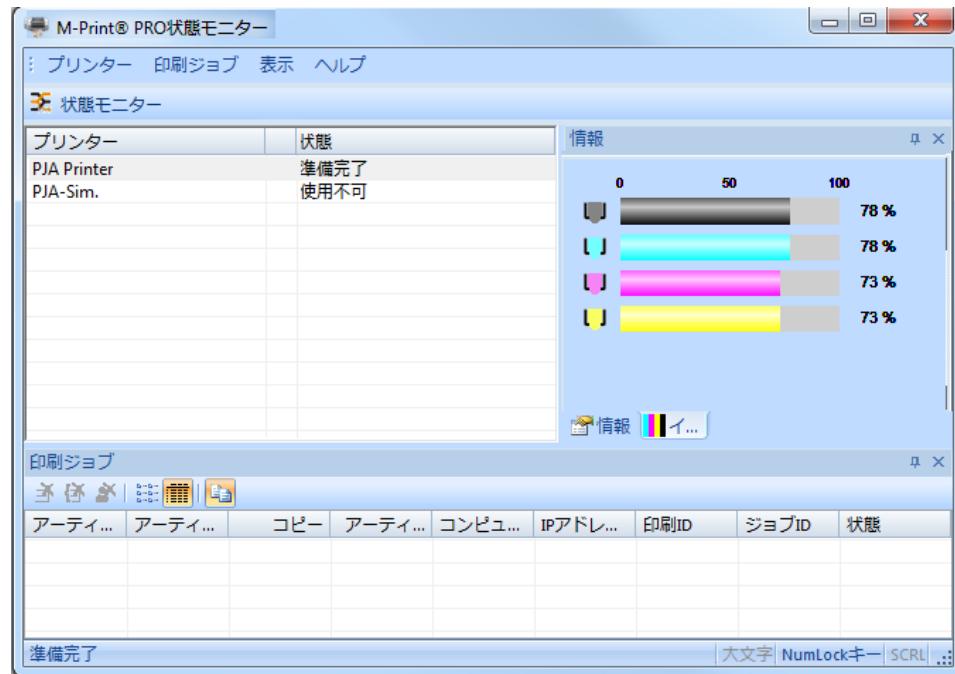
メニュー項目「印刷ジョブ」>「印刷情報を開く...」を選択すると、最新の印刷情報が表示されます。

追加のログ情報を有効にします。「[印刷情報を保存する](#)」を参照してください。

情報

「情報」ウィンドウにはプリンターの情報を表示されます。

例えば（プリンターごとに）各インクカートリッジの残量と使用期限などが表示されます。

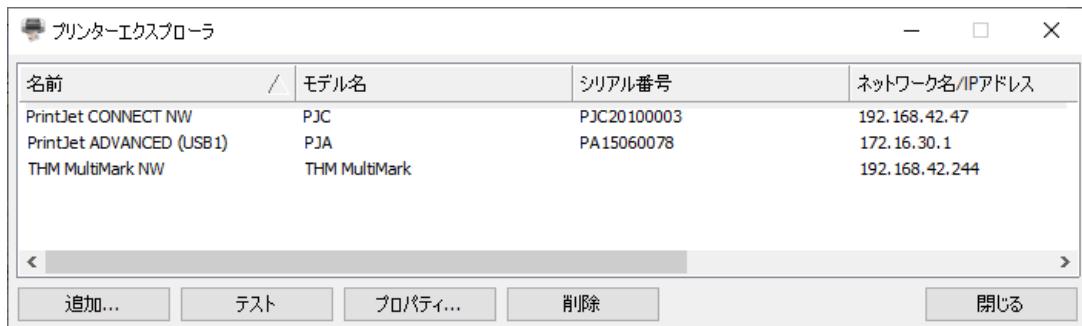


プリンターエクスプローラ

プリンターエクスプローラを使用して、次のプリンターを追加したり削除したりすることができます。PrintJet ADVANCED, PrintJet CONNECT, PrintJet MINI, THM MMP, THM MultiMark, THM MultiMark Plus, THM MultiMark LPC, THM MultiMark Twin

従来のプリンターとは異なり、これらのプリンターはネットワークプリンターではありませんため、ドライバーのインストールが不要です。

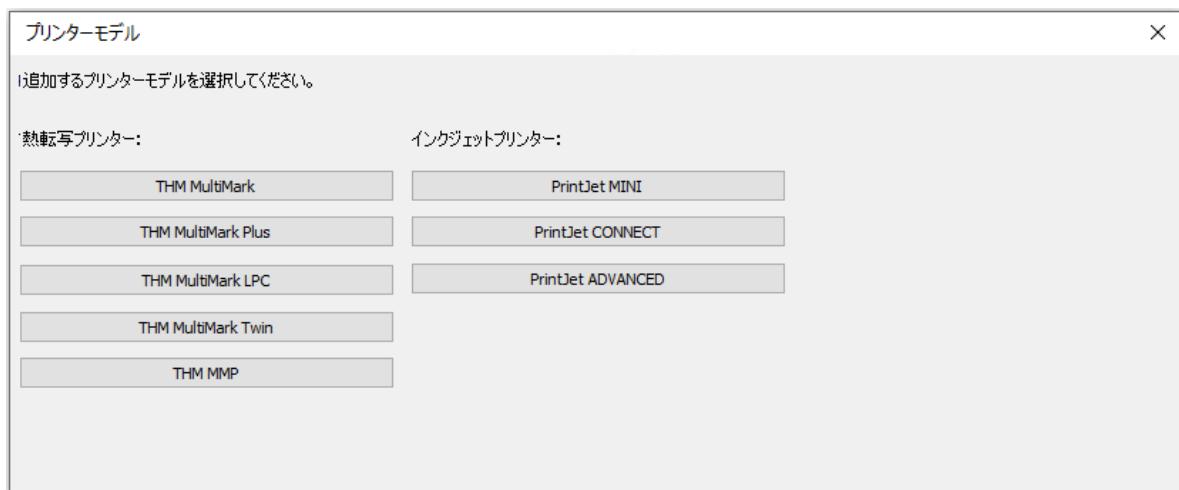
プリンターエクスプローラはWindowsの「スタート」メニューから起動します（フォルダー『Weidmueller』）。



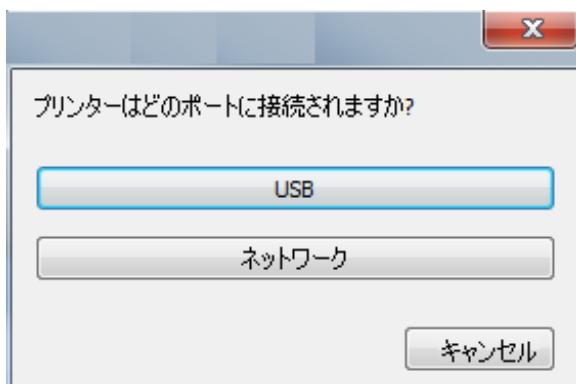
プリンターの追加

プリンターを追加するには、プリンターエクスプローラを開き、「[追加...]」ボタンをクリックします。

- プリンターモデルを選択します。

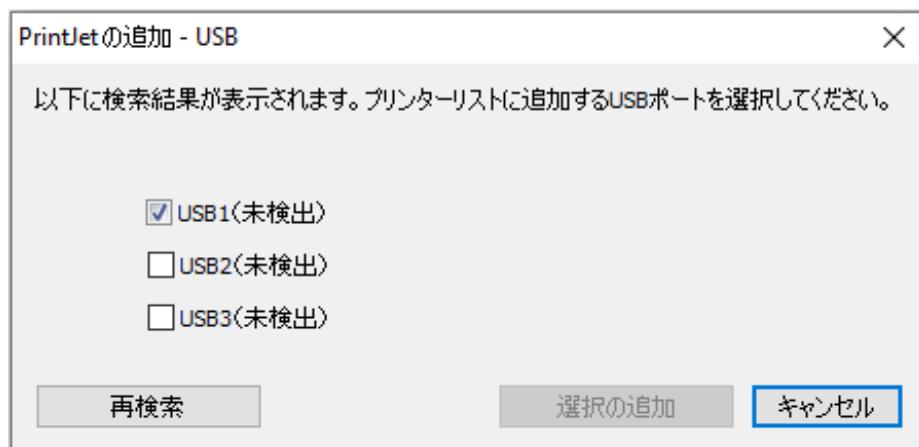


- プリンターの接続方法を選択します。

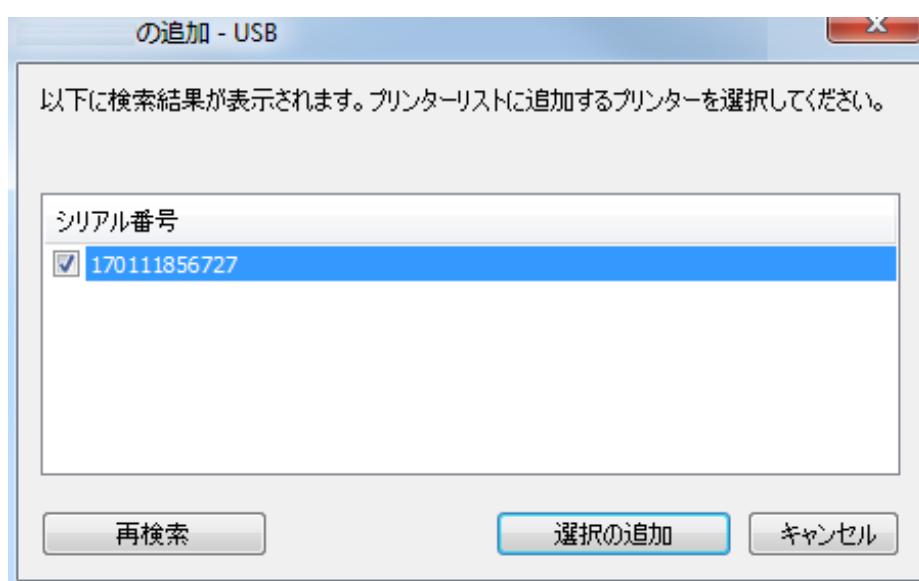


USB接続

- 「USB」ボタンをクリックします。
- 接続されているプリンターが自動的に検出されます。



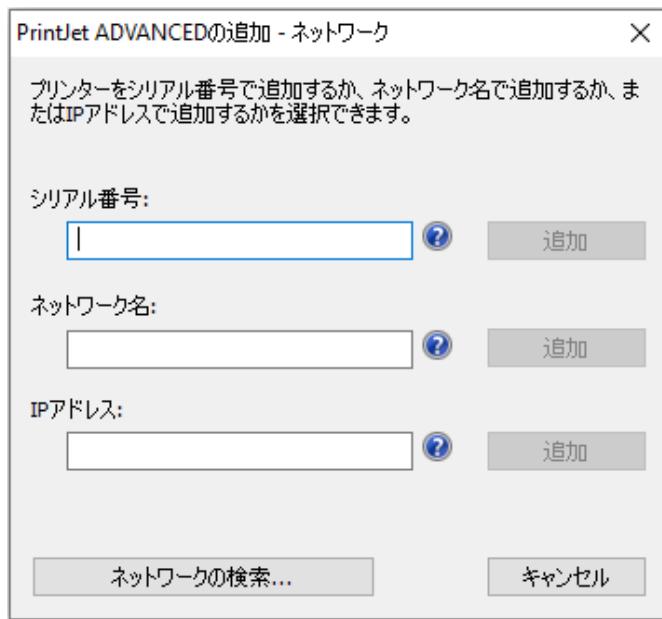
または



- 選択するUSBポートまたはプリンターを選択します。
- 「選択の追加」ボタンをクリックします。

ネットワーク接続

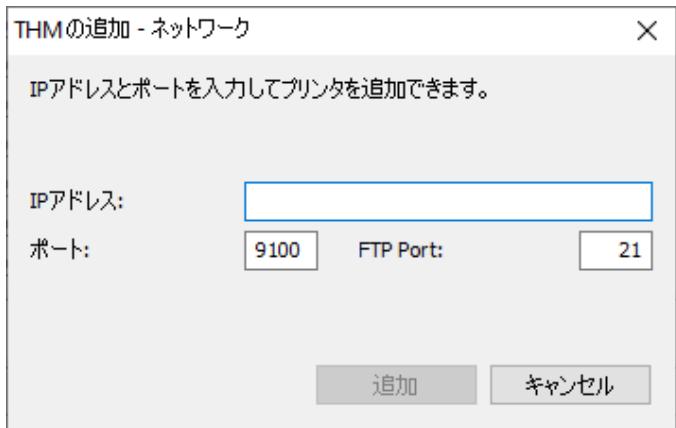
- 「ネットワーク」ボタンをクリックします。
- ダイアログでネットワークのプリンター設定を入力し、「追加」ボタンをクリックします。または
- 「ネットワークの検索...」ボタンをクリックしてから、検索ダイアログで「選択したプリンターの追加」ボタンをクリックします。



または



または



ダイアログでネットワークのプリンター設定を入力し、「追加」ボタンをクリックします。

設定をテストするには、テスト機能を選択します（「[プリンターのテスト](#)」を参照）。

プリンターのテスト

接続されているプリンターへアクセスできるかテストするには、プリンターエクスプローラを起動し、リストからプリンターを選択してから「テスト」ボタンをクリックします。

接続テストが正常に終了しなかった場合は、プリンターの設定を確認してください（「[プリンターのプロパティ](#)」を参照）。

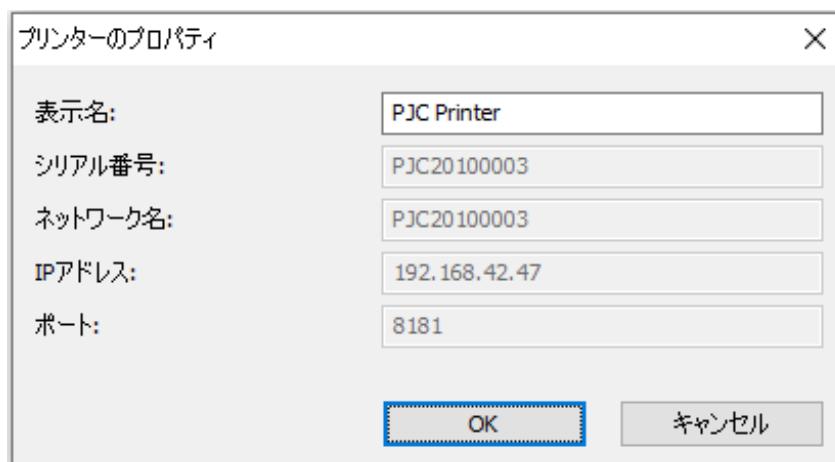
次のプリンターが対応しています。PrintJet ADVANCED, PrintJet CONNECT, PrintJet MINI, THM MMP, THM MultiMark, THM MultiMark Plus, THM MultiMark LPC, THM MultiMark Twin

プリンターのプロパティ

接続されているプリンターのプロパティを表示し、調整するには、プリンターエクスプローラを起動し、リストからプリンターを選択してから「プロパティ...」ボタンをクリックします。

ダイアログが開き、プリンターの名前やポートを設定できます。

次のプリンターが対応しています。PrintJet ADVANCED, PrintJet CONNECT, PrintJet MINI, THM MMP, THM MultiMark, THM MultiMark Plus, THM MultiMark LPC, THM MultiMark Twin



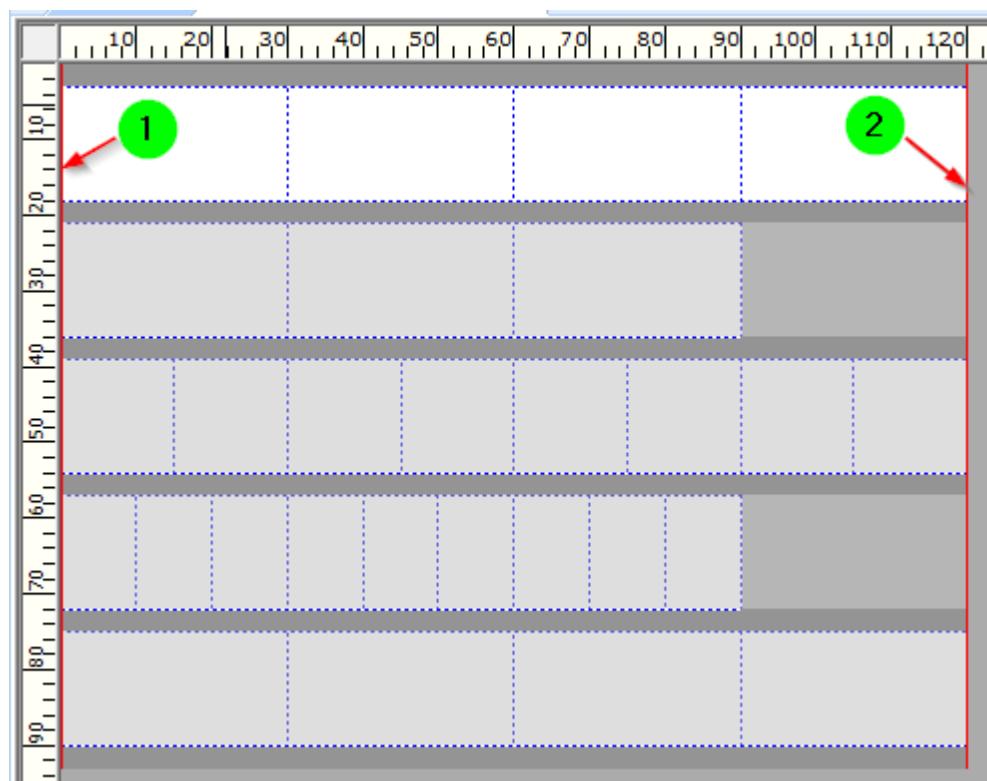
切り取りマークの配置

連続素材にプリンターで印刷する場合は、切り取りマークを手動で配置、削除することができます（「インターフェイスについて」の章の「[THM MMP](#)」セクションを参照）。

また、プリンターが印刷対象に割り当てられている場合は、切り取りコマンドを直接、そのプリンターに送信することもできます。

次のプリンターが対応しています。THM MMP, THM MULTIMARK, THM MULTIMARK PLUS, THM Plus M

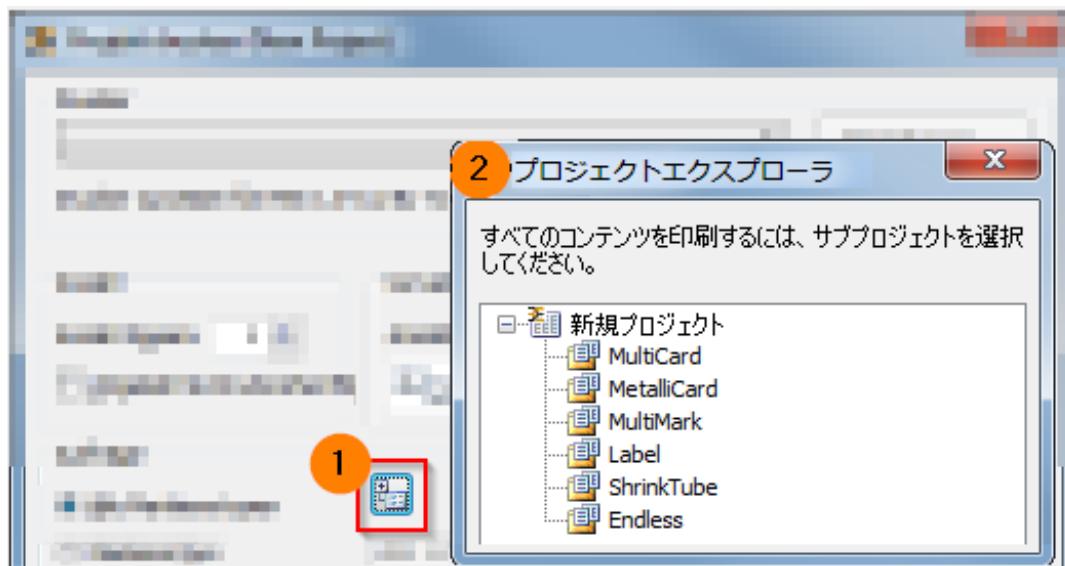
例 切り取りマーク前 (1) および切り取りマーク後ろ (2)



サブプロジェクトを印刷する

この印刷ダイアログで、サブプロジェクトの印刷対象とその内容を選択します。次の章を参照してください。「[印刷メニュー
一の呼び出し](#)」。

1. 印刷ダイアログのプロジェクトエクスプローラのアイコンをクリックします。
2. 印刷するサブプロジェクトをプロジェクトエクスプローラで選択します。



印刷モード

以下のビューの切り替えが可能:

- 正常
- プロットモード

プリントモード- 正常

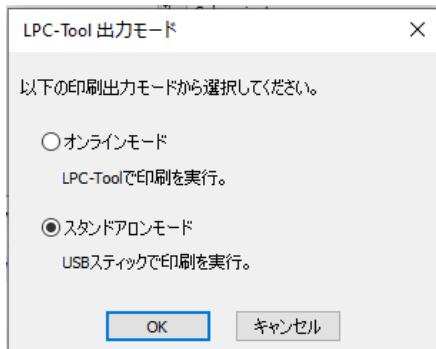
すべての要素が表示されます。

プリントモード- プロットモード

プロットモードでは、プロッターで使用できる機能と要素などがユーザーインターフェイスに表示されます。「[プロットモード](#)」を参照してください。

LPC印刷

LPC印刷ファイルを作成するため以下のプリンターから選択: THM MultiMark LPC-Toolファイル出力
印刷時に出力モードを選択する必要があります。

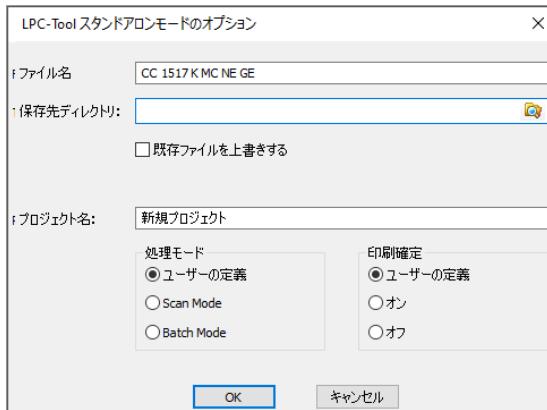


LPC: オンラインモード

LPC-Toolで印刷を実行。
*.lpc形式の印刷ファイルが作成されます。

LPC: スタンドアロンモード

USBスティックで印刷を実行。



Scan Mode

プリンターは印刷ファイルの識別データをスキャンして、マークを選択します。



プリンターのスキャナーを終了する必要があります。

Batch Mode

マークは、印刷ファイルの順番に従って印刷されます。

プロッターの操作

はじめに

この章ではプロッターのセットアップと操作、およびキャプションを付けるマルチカード用紙、ラベルなどへの割り当てと、プロットのオプションについて説明します。

プロッターはパラレル（セントロニクス）ポートまたはUSBポートを介して操作します。

一般的な印刷機能については、「[印刷](#)」の章を参照してください。

プロットモード

プロットモードでは、プロッターで使用できる機能と要素がユーザーインターフェイスに表示されます。

プロットモードでは次の要素を使用できます。

5. 画像（ただし、プロッターシンボル (*.mps) であること）
6. プロッターフォントの文字が入ったテキストフィールド
7. 線

すべての要素は白黒で表示されます。

プロットモードに切り替える際には、すべてのレイヤーにプロットできない要素がないか、検査されます。プロットできない要素があった場合はメッセージが表示されます。

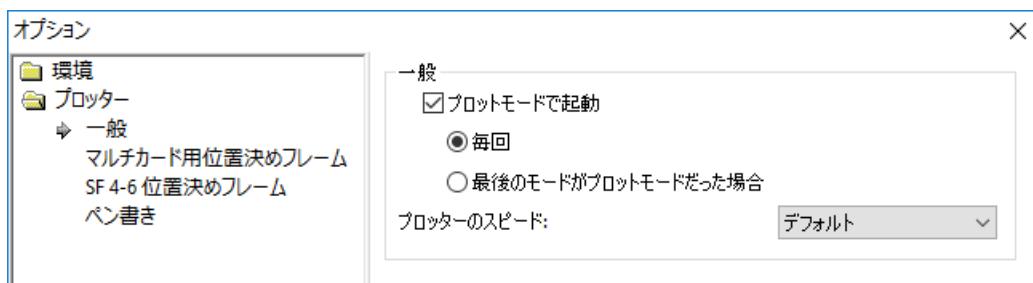
こうした要素（バーコードなど）は隠れ、表示されませんが、内部に存在しています。プロットモードを終了すると、すべての要素が再び表示されます。

- プロットモードに切り替えるには、メニュー項目の「プリントモードを切り替える>プロッター」を選択するか、次のアイコンをクリックします。
 > 
- バージョン番号の隣に「プロットモード」と表示され、アイコンバーに押下した次のアイコンが表示されている場合はプロットモードになっています。
 > 

- i** プロットモードに切り替える際には、ロックレイヤーのすべての要素が表示されたままになります。これにより、プロッターペンを損傷する可能性のある破壊が表示されます。
ただし、ロックされたレイヤーはプロットモードでは認識されません。

プロットモードの起動オプション

プロットモードの表示オプション（メニュー「その他」>「オプション」）で設定できます。



M-Print® Pro を再起動するとき、保存されている M-Print® Pro ファイルを開くとき、または新規プロジェクトの作成時にプロットモードで起動する場合は、「プロットモードで起動」にチェックマークを付けます。

印刷プロット

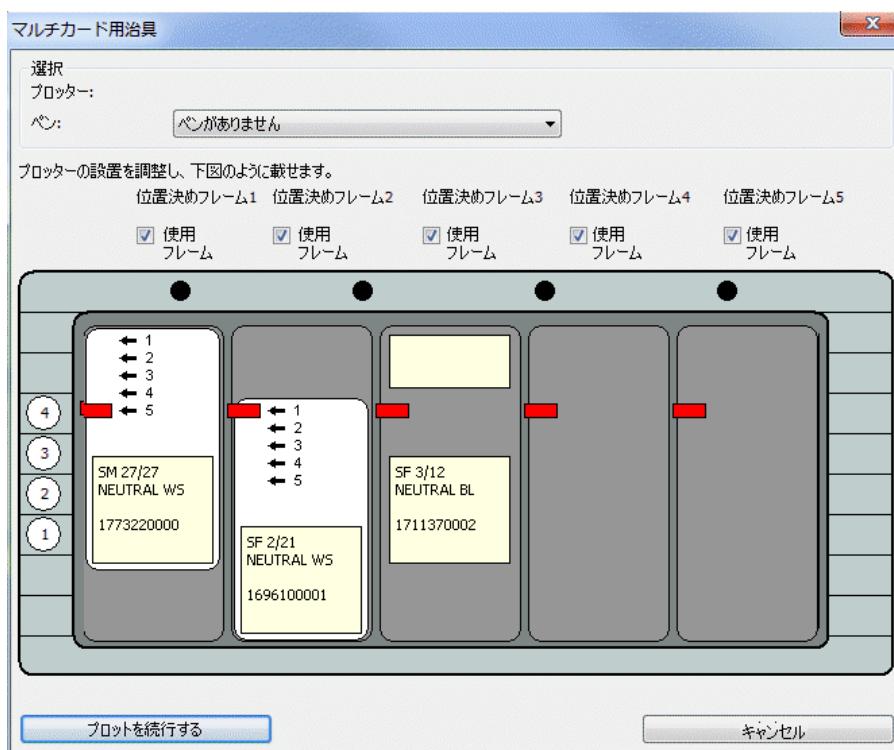
プロットは印刷と同じ方法で実行されます（「[印刷](#)」を参照）。

プロットの前に、プロッターをマーカータイプに割り当てておく必要があります（「[マーカータイプへのプロッターの割り当て](#)」を参照）。

その後でマーカータイプを調整し（「[マーカータイプにプリンターを設定する](#)」を参照）、プロッターを校正できます（「[プロッターに合わせてマーカータイプを調整する](#)」を参照）。

ペンとインレーの選択

プロットを開始する前に、選択したマーカータイプの設定を行うダイアログが表示されます。



ペンの選択

プロッターで使用するペンを選択します。ペンのデフォルト設定は「校正」ダイアログで定義します（「[「校正」ダイアログ](#)」を参照）。

「ペンがありません」を設定すると、ペンホルダーに戻されない外部ペンを使用できます。

インレーのステップ設定

マルチカードの印刷時によく、インレーのステップ設定が表示されます。

表示されるステップ(1から5)にインレーを配置します。一部のマルチカードではインレーが不要ですのでご注意ください。

マーカータイプの変更

1つのプロジェクトで複数のページやマーカータイプを印刷する際には、どの位置決めフレームをどのマーカータイプで次に印刷するかを示すダイアログが表示されます。

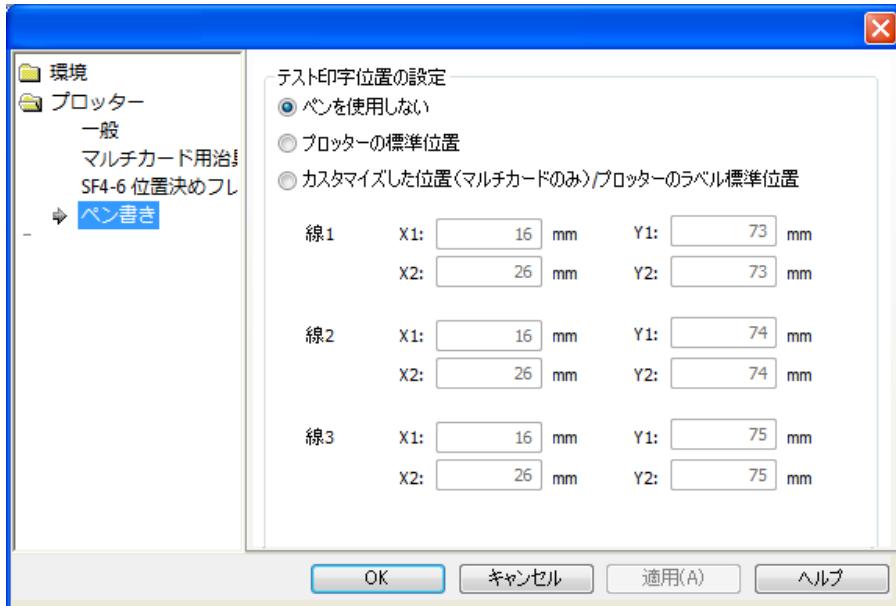


- 「プロットを続行する」ボタンをクリックすると、表示されている設定がプロッターに送信されます。
複数のページやマーカータイプがある場合は、次の設定が表示されます。
プロットが実行された後、プロッターはユーザーが次にボタンをクリックするまで待機します。
- 表示された設定を印刷しない場合は「スキップ」を選択します。
プロジェクトにさらにページやマーカータイプがある場合は次の設定が表示されます。ない場合は印刷が終了します。
- 「中止」をクリックすると、すべての印刷が中止されます。

印字位置の調整

プロッターのデフォルトの印字位置はペンホルダーの2 ブロック横で、そのため、すぐご活用れます。
印字位置を調整するには、メニューバーでメニュー項目「その他」>「オプション...」を選択します。

「ペン書き」ページでプロッターの印字位置を設定できます。



調整した位置はマルチカードにのみ適用されます。ラベルの場合は、位置を調整してもプロッターの標準位置が使用されます。

調整された印字位置では、用紙補正のパラメータであるオフセットXとオフセットYが考慮されます。



不適切な印字位置を選択した場合はペンが破損することがあるので、注意が必要です。行った設定は、まずペンを使わずに必ずテストしてください。

マーカータイプへのプロッターの割り当て

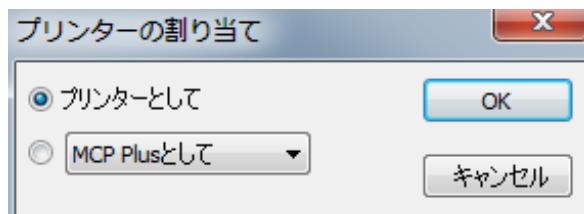
通常、プリンターやプロッターはそれぞれマーカータイプに割り当てる必要があります。

1つまたはすべてのマーカータイプの印刷時にどのプリンターも割り当てられていない場合、表示されるメッセージをクリックで確認することにより、通常使うプリンターで印刷が実行されます。

- メニュー項目の「ファイル」>「印刷...」を選択して、印刷ダイアログを開きます。
- プリンターを割り当てるマーカータイプを下部の選択フィールドで選択し、「プリンター」ペインでプリンターを選択してから「割り当てる」ボタンをクリックします。

新しい印刷ジョブを実行するたびに、選択したプリンターがこのマーカータイプに自動的に割り当てられます。

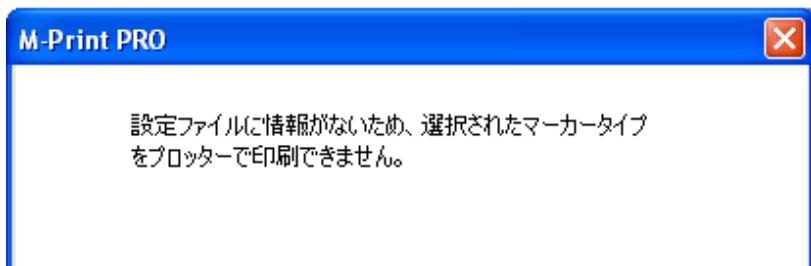
- 開いたダイアログで、選択したプリンター/プロッターをプリンターとして割り当てるか、プロッターとして割り当てるかを選択します。



「MCP Plusとして...」を選択すると、プロットモードの限定機能で印刷が行われます。

この指定は「オプション」ダイアログでいつでも取り消すことができます（「割り当てる」を参照）。

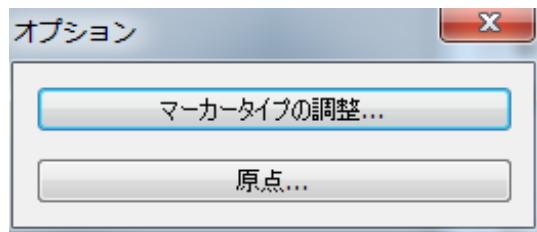
プロッターを割り当てることができないマーカータイプを選択した場合は（連続ラベルなど）、次のメッセージが表示されます。



プロッターに合わせてマーカータイプを調整する

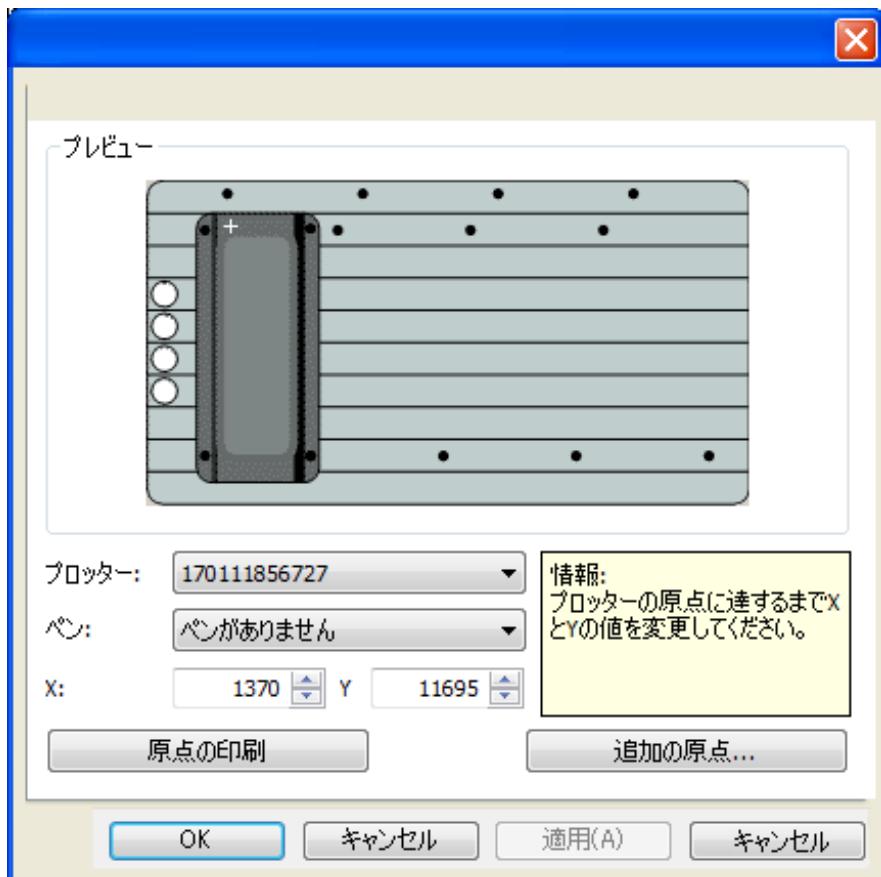
割り当てたプロッターの校正を行うには、メニュー項目「ツール」>「プリンターの管理」>「校正...」を選択してください。

表示されるウィンドウで、そのマーカータイプを校正するか（[「マーカータイプにプリンターを設定する」](#)を参照）、または、プロッターの原点を校正するかを指定します。



原点の設定

次のウィンドウが表示されます。
(表示される画像は マーカータイプにより異なります)



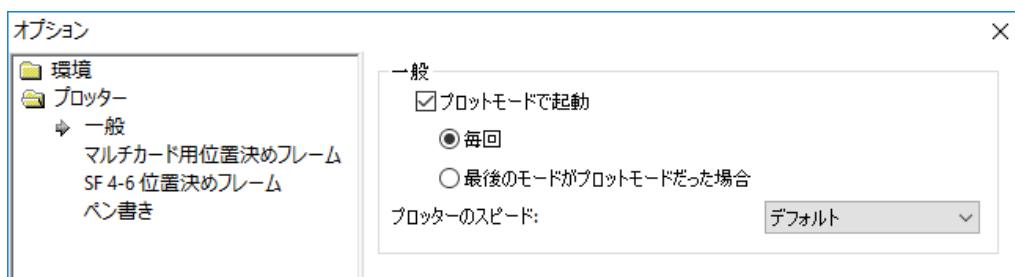
- プロットに使用するペンを選択します（「[ペンとインレーの選択](#)」を参照）。
- 原点を校正するには、「X」フィールドと「Y」フィールドに座標を入力し、「原点の印刷」をクリックします。
- 微調整するには、カーソルで「X」フィールドか「Y」フィールドをクリックしたまま、キーボードの キーと キー (X座標の場合) または キーと キー (Y座標の場合) で位置を動かします。
- 既存の原点をさらに設定するには、「追加の原点...」ボタンを選択します。

これらの設定は「オプション」ダイアログで事前に設定することもできます（「[「校正」ダイアログ](#)」を参照）。

割り当てたプリンターの調整

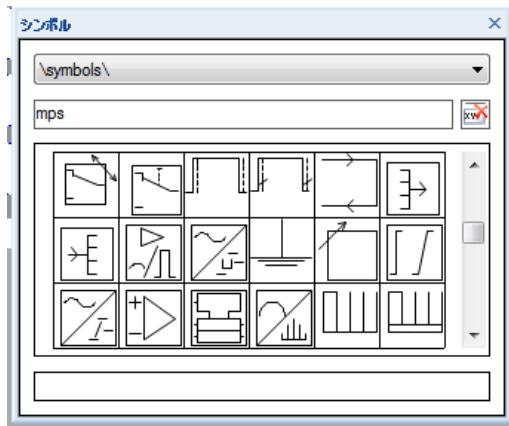
メニューバーでメニュー項目の「その他」>「オプション...」を選択します。

プロッターの「一般」ページにプリンターの現在の割り当てが表示されます。
「「オプション」ダイアログ」の章の「割り当て」および



シンボルエクスプローラ/プロッターシンボルエディタ

シンボルエクスプローラに、プロッターシンボル (*.mps) およびシンボルサブディレクトリの選択フィールドが追加されました。



シンボルエクスプローラに関する詳しくは、「一般的な操作」の章の「[シンボルの挿入](#)」セクションを参照してください。

プロッターシンボルの編集/新規作成

プロッターシンボルの新規作成

- シンボルエクスプローラの空のシンボルフィールドで右マウスクリックし、「プロッターシンボルエディタ...」を選択します。

プロッターシンボルの編集

- 任意のプロッターシンボルを右マウスクリックし、「プロッターシンボルエディタで編集...」を選択します。

「校正」ダイアログ

プロッターで使用できる位置決めフレームは、選択したマーカータイプに応じて3種類あります。
これらの位置決めフレームは「校正」ダイアログで設定できます（原点、ペンなど）。

- メニューバーでメニュー項目の「その他」>「オプション...」を選択します。
「オプション」ダイアログが開きます。

校正の手順については、付属のファイル「plottersetup.pdf」を参照してください。

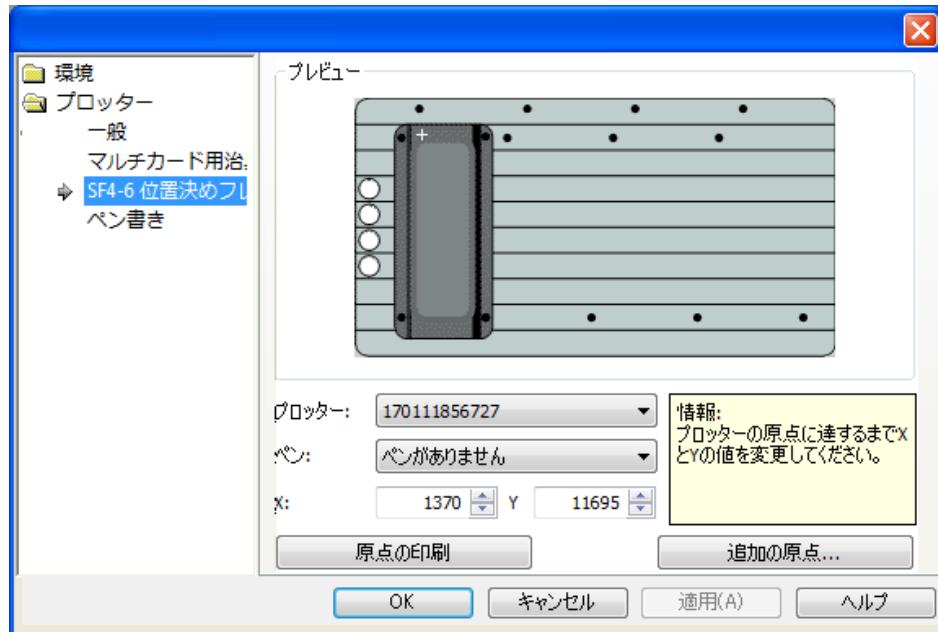
マルチカード用位置決めフレーム

- 「オプション」ダイアログで「マルチカード用位置決めフレーム」を選択します。



SF4-6 位置決めフレーム

- 「オプション」ダイアログで「SF4-6 位置決めフレーム」を選択します。



ネットワーク版

はじめに



このインストールは専門技術者が行う必要があります。インストールプロセスには管理者権限が必要です

。

M-Print®

PROのネットワーク版は、多くのユーザーがネットワーク上で作業する必要がある場合に使用されます。各コンピューターにM-Print®

PROソフトウェアを個別にインストールする代わりに、ネットワーク版中央にインストール (Setup.exeをサーバーまたは中央コンピューターで実行) する必要があります。クライアントコンピューター（ユーザー）は共有のネットワークパスを介してM-Print® PROソフトウェアにアクセスします。



ネットワーク版では、接続されているプリンターがネットワークケーブルでネットワークに接続されている場合にのみ、印刷できます（USB接続不可）。

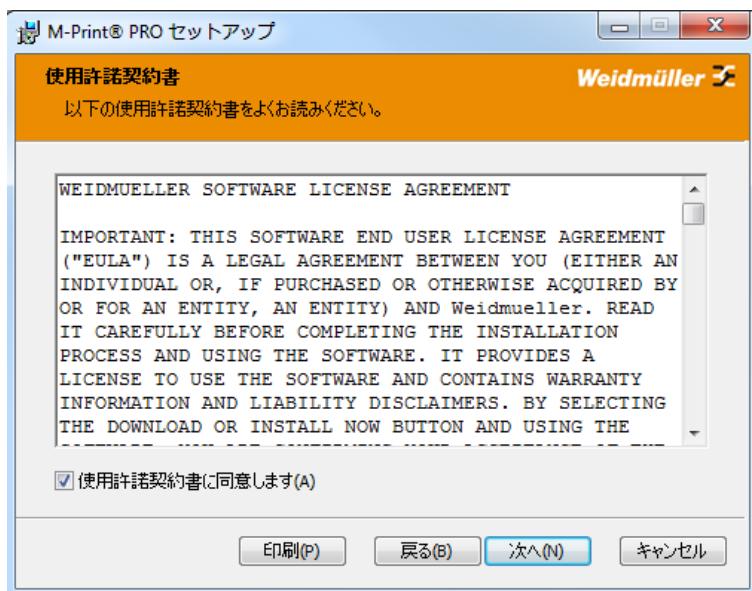
Setup

- セットアッププログラムを実行します。

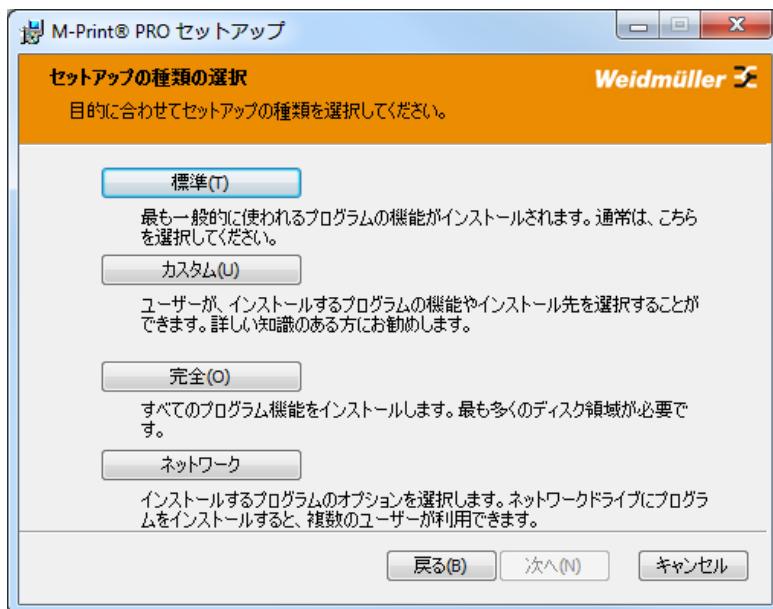
インストールが自動的に開始され、セットアップウィザードが画面に開きます。



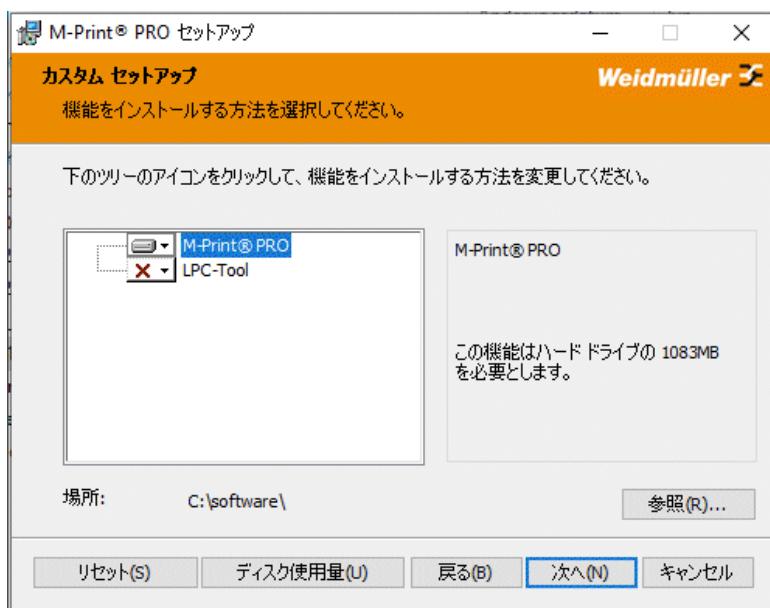
- 「次へ」ボタンをクリックします。



- 使用許諾契約書の条件に同意し、「次へ」ボタンをクリックします。
- 次のウィンドウでインストール方法を選択します。



- 「ネットワーク」ボタンをクリックします。

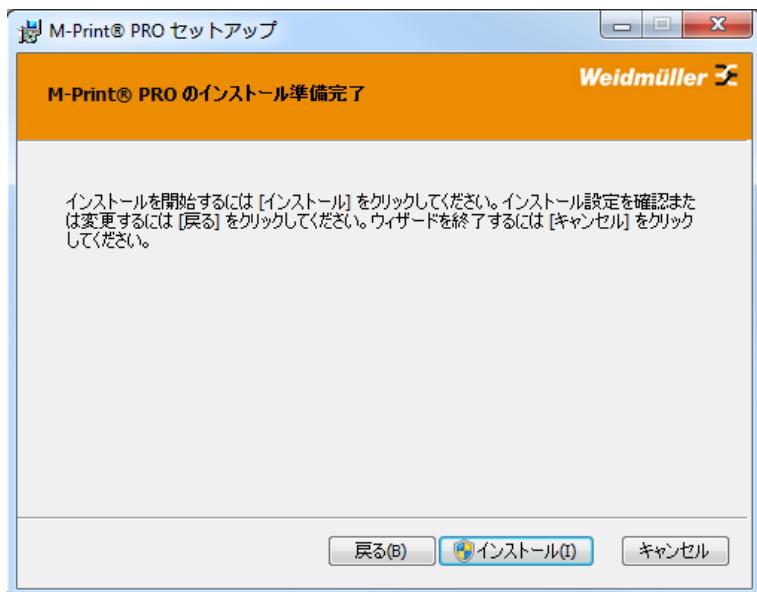


「ディスク使用量」ボタンをクリックすると、使用可能なドライブのメモリの空き容量を確認できます。

- 「参照..」ボタンをクリックします。
 - ターゲットディレクトリを選択します (C:\software\など)
- i** クライアントコンピューターのユーザーには、このターゲットディレクトリに対する読み取り権限と書き込み権限が必要です。
- 「次へ」ボタンをクリックします。



- 個々のコンポーネント (例えはカタログ) [について、...] ボタンを使用して別のディレクトリを選択できます (C:\daten\katalogなど)。
- i** ターゲットディレクトリはサーバーのローカルドライブゴミ箱ではありません。
- クライアントコンピューターのユーザーは、上記にリストされたすべてのフォルダーに、ネットワークを介してアクセスできなければなりません。一部のフォルダーに対しては書き込み権限が必要です（「[フォルダーの共有](#)」セクションを参照）。
- [起動オプション](#) を参照してください。
- 「次へ」ボタンをクリックします。

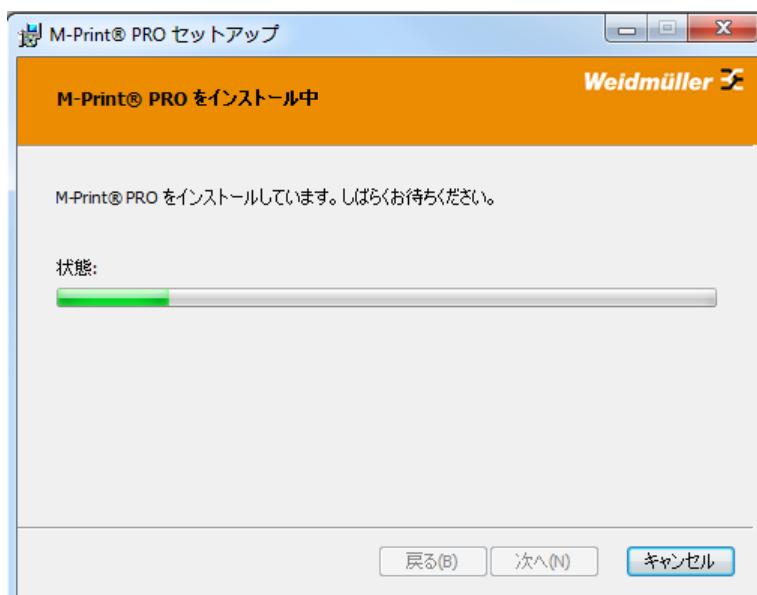


- 「インストール」ボタンをクリックします。

Microsoft Windows® ユーザーアカウント制御 (UAC) が表示される場合があります。

- 表示された場合は Windowsへの変更を許可することを確認します。

確認すると、ターゲットディレクトリが作成され、各ファイルが該当するフォルダーにコピー、または作成されます。

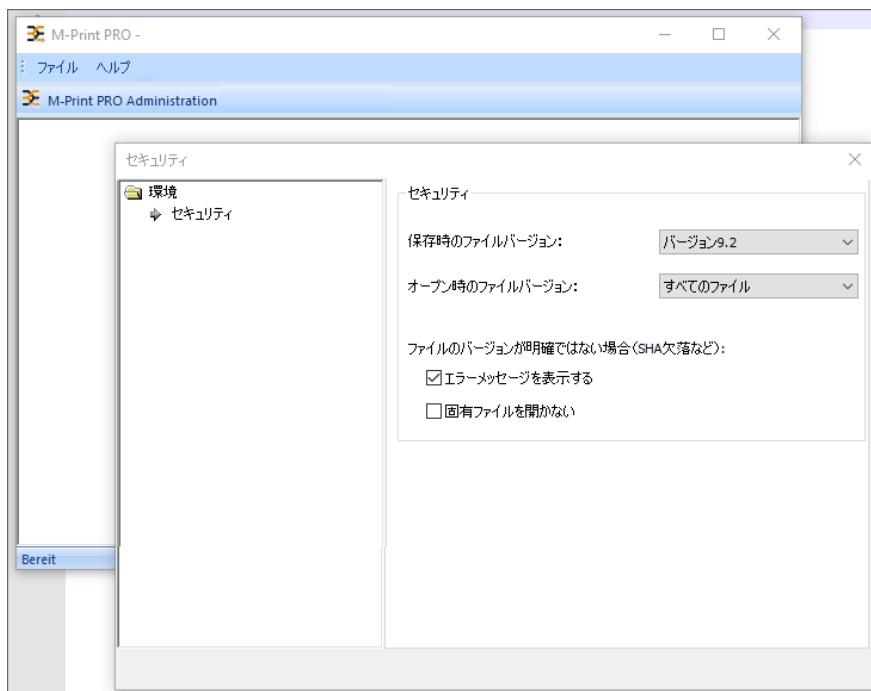


進行状況がバーで表示されます。



- インストールが正常に終了したら、「完了」ボタンをクリックします。

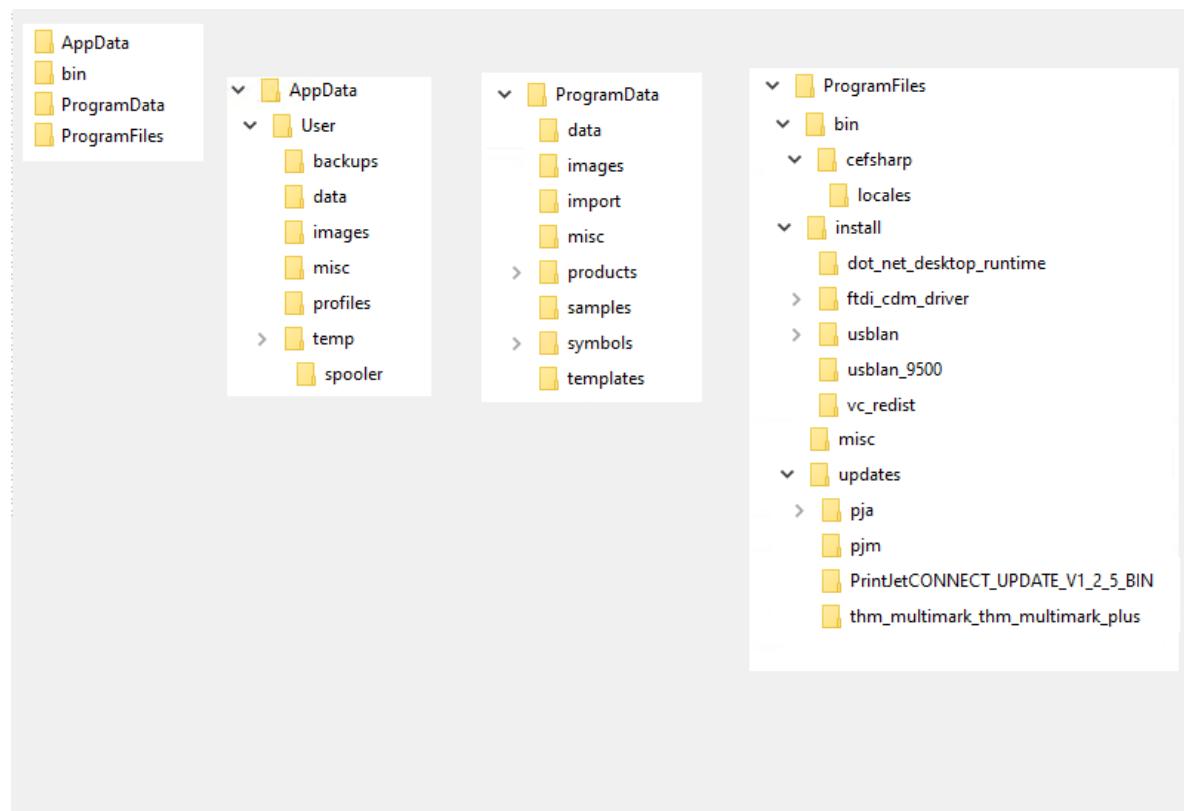
セットアップ ウィザードを閉じると、セキュリティ設定を調整するためのウィンドウが開きます。 「[セキュリティ](#)」を参照してください。



フォルダーの共有

M-Print®

PROでは次のフォルダーを使用します。フォルダー構造はセットアッププロセスで指定した内容により異なります。



フォルダーの意味は次のとおりです。

フォルダー	コンテンツ	書き込み権限が必要
AppData/User	ユーザー固有の変更可能なプログラムファイル	X
backups	バックアップファイル (デフォルトディレクトリ) 例 ユーザープロファイルのバックアップ	X
data	M-Print® PRO ファイル (オプション、ProgramData を参照)	X
images	画像 (オプション、ProgramData を参照)	X
misc	変更可能なプログラムファイル (オプション、ProgramData を参照)	X
profiles	ユーザープロファイル (デフォルトディレクトリ) 例: 「その他」>「オプション」で設定されるユーザー固有の設定、プリンターマッピングなど。 設定はプログラムの実行時に読み取られ、書き込まれます。	X
temp	一時ファイル (デフォルトディレクトリ) 例: 印刷用のスプールファイル	X
ProgramData	一般的な変更可能なプログラムファイル	X
data	すべてのユーザーのM-Print® PRO ファイル (デフォルトディレクトリ) 例: M-Print® PRO ファイルを保存または開く	X
images	画像 (デフォルトディレクトリ) 例 画像の挿入	
import	インポートファイル (デフォルトディレクトリ) 例: 標準的なインポートスクリプト	X
misc	変更可能なプログラムファイル (デフォルトディレクトリ) 例: ライセンス、追加したプリンター	X
products	製品カタログ (デフォルトディレクトリ)	X
samples	インポート用サンプルファイル	
symbols	プログラムの記号 (デフォルトディレクトリ) 例: 接続記号	
templates	テンプレートファイル (テンプレート) (デフォルトディレクトリ) /例 「テンプレート」を参照してください。	X
ProgramFiles	実行可能プログラムファイル	-
bin	実行可能プログラムファイル 例: プログラム設定、印刷 パラメーター	-
documents	マニュアル、ヘルプファイル	-
importmodules	インポート用フィルターファイル 例: csv フィルター、xml フィルター	-
install	プリンターを制御するためのモジュール 例: USB 通信	-
misc	変更不能なプログラムファイル 例: ライセンス、追加したプリンター	-
updates	更新レーチンの保存フォルダー 例: pja 更新、thm 更新	-

クライアント側で行われる作業

クライアントコンピューターのセットアップ

クライアント側で必要なセットアップ作業はありません。

ユーザーは「bin」フォルダーから「start.exe」ファイルを実行する必要があります。「start.exe」ファイルの保存ディレクトリは、セットアップ（ディレクトリ）での指定によって異なります。このダイアログでは、必要な機動が提供されます。

これらの機動ごとWindowsの管理者権限が必要ありません。



このウインドウでは次のボタンを使用できます。

M-Print® PRO 開く...

このボタンをクリックするとM-Print® PROが起動します。

デスクトップリンクの作成

このボタンをクリックすると、M-Print® PROのショートカットアイコンがデスクトップに作成されます。

スタートメニューリンクの作成

このボタンをクリックすると、M-Print® PROをスタートメニューに追加できます。

ファイルをM-Print® PRO と関連付ける

このボタンを使ってファイルをM-Print® PROに関連付け、ファイルをダブルクリックしたときに直接、M-Print® PROで開くようにできます。

閉じる

このボタンをクリックすると、起動画面が閉じます。

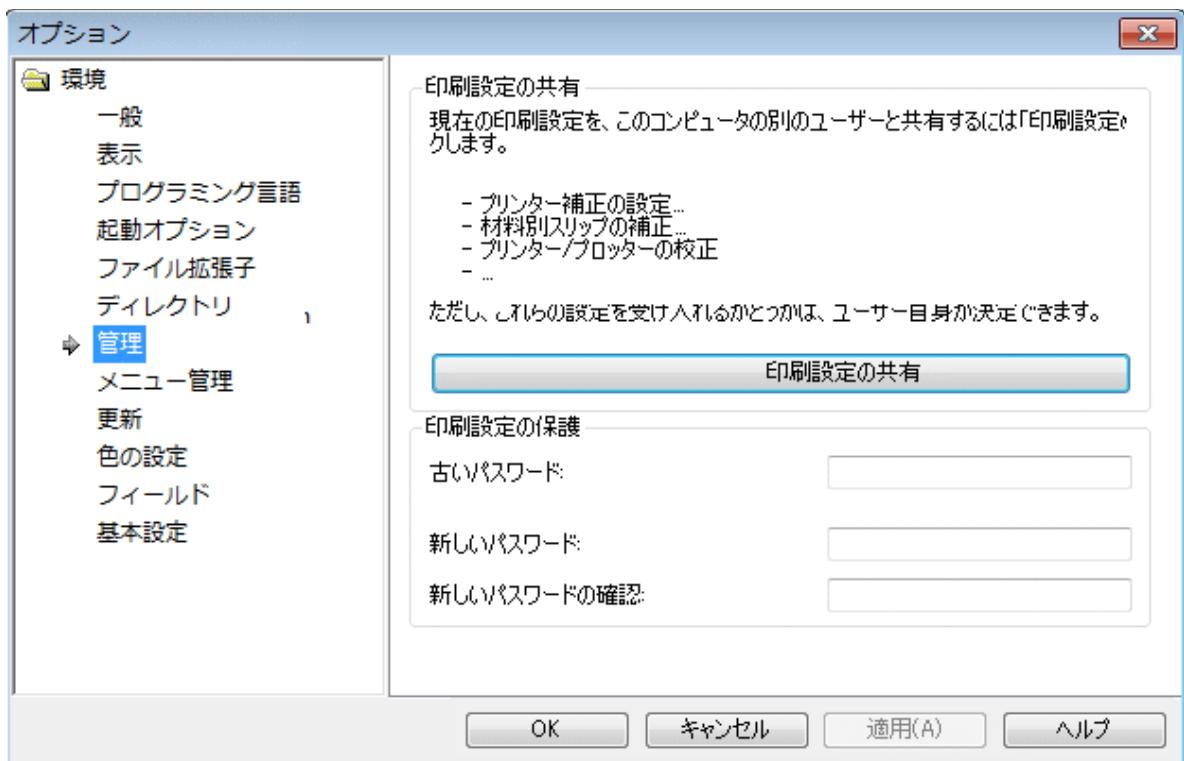
設定をクライアントに送信する

ネットワーク版ソフトウェアの現在の印刷設定を、ネットワーク版の別のユーザーが使えるようにできます。

これらの設定は次の機能を使用して別のクライアントコンピューターに自動的に転送できます。

- M-Print® PROを起動します。
- M-Print® PROでメニュー項目の「その他 > 「オプション」を選択します。

次のウィンドウが表示されます。



- 「印刷設定の共有」ボタンをクリックします。

ユーザーが次回コンピューターを起動したときに、設定が変更されたことが通知され、この設定を適用するかどうかを決定することができます。

「
 「プロパティ」ウィンドウ 9, 10, 87
 「校正」ダイアログ 337

E

Excel®のインポート 241
 Excel®高速インポート 241, 272
 Excelファイル 221

P

PLC 35

Q

QLSコンバーター 279

T

TNVコンバーター 280

V

VKインポート 263

イ

インストールの注意 2
 インポートスクリプトの選択 259
 インレー 329

オ

オーバーフローフィルター 51
 オーバーフローフィルターの適用 75

グ

グループ化 26

コ

コネクタ 64
 コマンドプロンプト 225
 コンテンツの同期 48
 コンバーター 279

サイズと位置 54
 サブプロジェクトを印刷する 323

シ

シーケンスの挿入 35
 シンボルエクスプローラ 336
 シンボルの挿入 12

ス

スケール 56
 スケールの挿入 14, 56
 ステータスバー 87

タ

タブ 87
 タブ順序 125

ツ

ツールバー 87, 106

デ

ディレクトリ 12
 データグリッド 87

テ

テキストの整列 27
 テキストの書式設定 27, 109
 テキストフィールドの追加 7

ネ

ネットワーク版 341

バ

バーコードの挿入 10
 バージョン番号 87
 バッヂインポート 261

フ

ファームウェア 216
 ファイルから画像を抽出する 25
 ファイルのインポート 229

ファイルの種類 5
フィルター機能 50
フリーレイヤーの追加 31

プ

プリンターエクスプローラ 316
プリンターソフトウェアの更新 216
プログラムの終了 3
プログラムの起動 3
プロジェクトエクスプローラ 87, 116
プロジェクトモード 174
プロジェクトレイヤー 87
プロッター 198
プロッターシンボルエディタ 336
プロットモード 327
プロパティ 119

ペ

ページをコピーする 85
ページを挿入する 85
ペン書き 200

マ

マーカー 2
マーカータイプ 2
マーカータイプの挿入 132
マーカー長の調整 76
マーカー領域 87

メ

メニューバー 87, 90

ユ

ユーザーインターフェイス 4, 87

よ

よく使用される機能 6

ル

ルーラー 87

レ

レイヤー 133
レイヤーのロック 32

レイヤープロパティ 132, 135

ロ

ロック 125

ワ

ワークスペース 87

事

事前定義されたテキストシーケンス 33

他

他のファイルタイプを開く 221

個

個々のドキュメントフィールド 127

円

円/橢円を描く 8

切

切り取りマークの配置 322

動

動作 12

単

単一フィールド 127

印

印刷可 125
印刷品質 139, 201, 203, 208

原

原点の設定 333

同

同じドキュメントフィールド 127

四

四角形/正方形の作成 8

図

図形の挿入 8

基

基準点 59

多

多層レベル端末 55, 91

対

対称性 23

情

情報ページ 138, 174

挿

挿入 11

接

接尾辞 35

接頭辞 35

改

改行の挿入 53, 91

文

文字列 35

文書の保護 72, 102

文書の保護の設定 72

新

新しいページの挿入 132

新規サブプロジェクトの挿入 117

新規スケールの作成 14

新規マーカータイプの挿入 117

昇

昇順 44

更

更新 185

注

注文 49

注文ウィザード 49

特

特殊文字の入力 11

状

状態モニター 312

画

画像の挿入 9

画像をファイルに保存 25

線

線を描く 8

自

自動番号付け 35

色

色の設定 47, 186

表

表記について 2

製

製品カタログ 157

要

要素 87

要素のコピーと貼り付け 20

要素のロック 22

要素の削除 21

要素の回転 19

要素の移動 18

要素の編集 6

要素の複製 21

角

角丸四角形 8

言

言語設定 178

読

読み取り専用 125

赤

赤の三角 14

連

連続ストリップ 64

降

降順の番号付け 44

高

高速印刷 311